

大学教育の現状と将来
— 全国大学教員調査 —

報 告 書

2010年6月

東京大学大学院教育学研究科

大学経営・政策研究センター

目 次

序章 調査の概要	1
第Ⅰ章 担当する専門分野とコマ数について	
1. 専門分野	5
2. コマ数	7
第Ⅱ章 担当する代表的な授業について	
3. 代表的な授業	13
(1)対象	13
(2)内容	15
(3)学生数	17
4. 授業の力点	19
5. 授業の方法と効果	25
6. 出席学生の意欲	43
7. 出席学生の学力	46
8. 授業の阻害要因に対する考え	52
9. 想定する学習時間	56
10. 授業への出席率	58
11. 学生の理解度	60
12. 成績の配分	64
第Ⅲ章 大学教育の現在と改善の方向について	
13. より良い授業にするための条件	66
14. 学部・学科として実施していること	73
15. カリキュラム上で実施していること	81
16. 大学教育改善をサポートするための方策	93
17. 大学教育改善の方向と将来の重要度	97
18. 大学院の教育に対する考え	109
第Ⅳ章 所属大学と回答者自身について	
19. FDとして経験していること	115
20. 大学として実施していること	123
21. 所属大学に対する評価	135
22. 所属大学の課題	139
23. 所属大学の設置形態	147
24. 大学運営に対する考え	148
25. 学期中の時間配分	152
26. 回答者のプロフィール	154
(1)年齢	154

(2)性別	156
(3)出身地	157
27. 大学教員になるまでの経緯	158
(1)大学教員になった年齢	158
(2)大学以外での勤務経験	160
(3)教員になる前の留学経験	162
28. 大学教育に対する考え	163

付 調査票

序章 調査の概要

1. 調査目的

全国の大学教員に、自身の大学教育とのかかわり方や、大学教育についての考え方などについて聞き、今後の大学教育のあり方を考える基礎とすることを目的とする。

2. 調査対象

全国の国立大学、公立大学、私立大学の各学部の教員(講師以上)

この調査では、調査対象となる大学教員を各大学・学部より、いかにランダムに抽出するかを重視し、一部の大学(教員名の匿名)を除き、全国すべての大学の学部を対象とすることにより、抽出する大学・学部による偏りを排除した。また、対象教員が退官、転属などで当該大学に在籍していない場合には、その教員の後任教員を対象とすることで、退官、転属の多い部署(学部)による偏りをできるだけ少なくした。

3. サンプル数と回収数

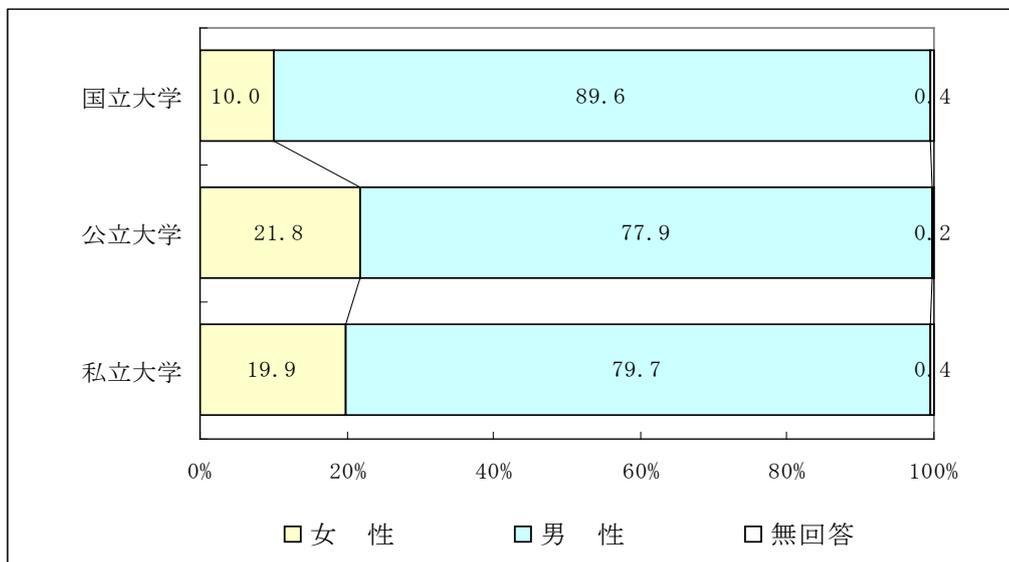
対象者(教員)の抽出・選定は、「全国大学職員名簿・2006版」より、母集団(全教員数)の約10分の1の16,991名を系統抽出により無作為抽出をおこなった。

回収率は、いずれも目標の3割を超え、平均回収率は31.3%であった。

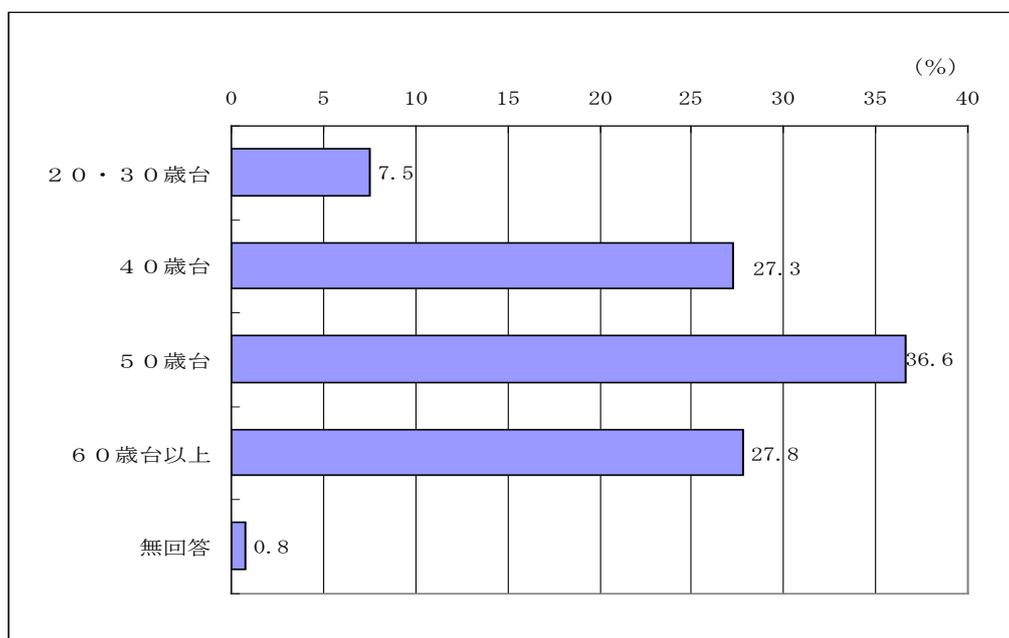
	合計	国立	公立	私立
教員数	16,991	6,102	1,207	9,682
回収数(率)	(31.3) 5,311	(30.7) 1,876	(36.8) 444	(30.6) 2,965

回答者の属性は次の通りである。

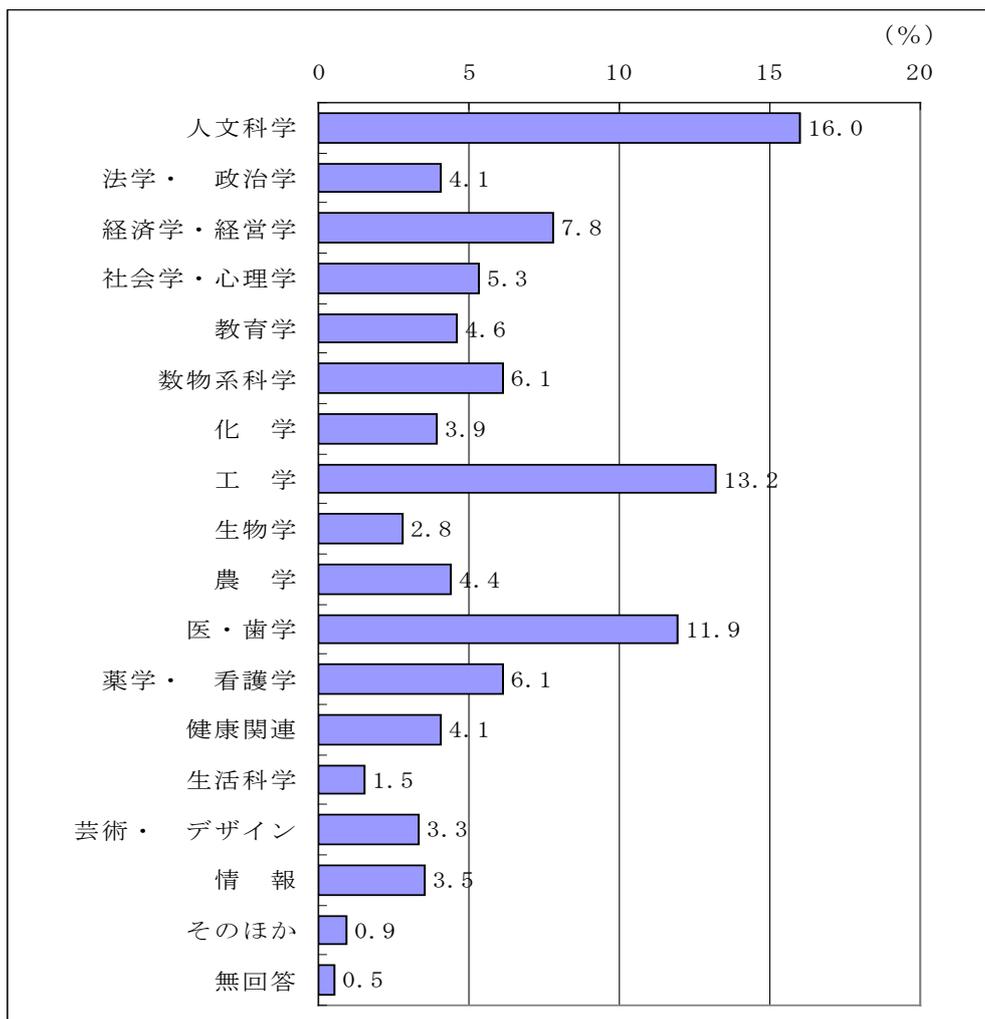
回答者の性別（設置形態別）



回答者の年齢（全体）



回答者の専門分野（全体）



4. 調査方法

郵送法により実施（郵送留置、郵送回収）。

調査票、依頼状、返信用封筒の3点を1セットとしてA4判封筒（角2）に入れ、大学・学部名、教員名を書いた宛名ラベルを貼付して送付した。

5. 質問量

A4判8頁・28問（180から程度）

<下記4つの大項目について実施>

- I. 専門分野と担当授業について
- II. 大学教育の現在と改善の方向について
- III. 所属大学と自身について
- IV. 大学教育全般について

6. 督促

- ・はがき督促 1 回
- ・電話督促 1 回

アンケート票発送の約 1 週間後に「はがき督促」を実施。さらに 5 日後から「電話督促」を実施した。特に教員の場合は授業などで不在がちのため、電話督促については複数回電話をして、できるだけ教員本人と接触するように心がけた。

7. 調査日程

2010 年 2 月 12 日～3 月 15 日

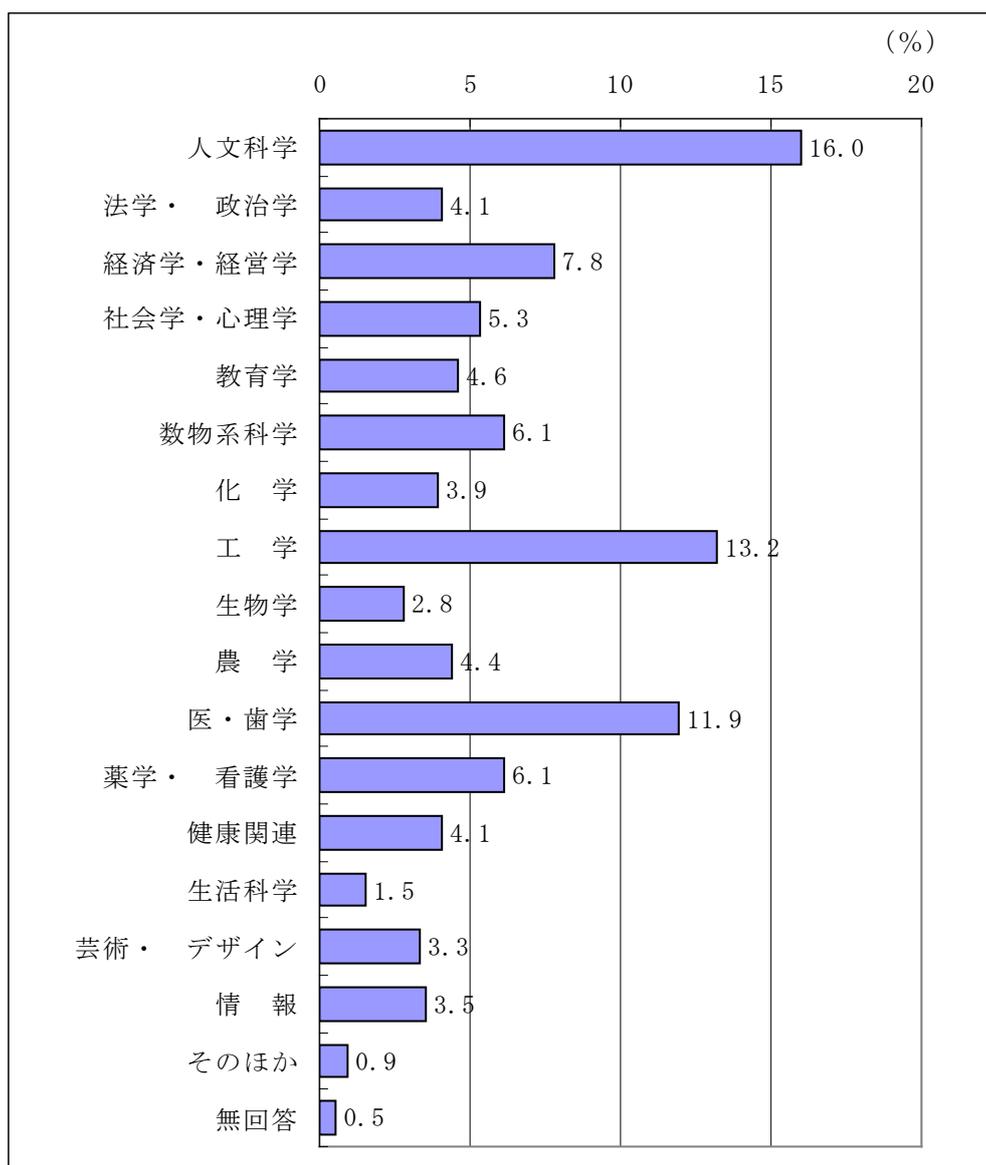
第 1 次返信締め切りを 2 月下旬に設定していたが、対象教員の不在や年度末で多忙ということもあり目標回収数の 6 割程度であった。そのため調査期間をさらに 2 週間程度延長して目標回収数を確保した。

第 I 章 担当する専門分野とコマ数について

1. 専門分野

担当している専門分野についてみると、「人文科学」が 16.0%で最も多く、次いで「工学」が 13.2%、「医・歯学」が 11.9%、「経済学・経営学」が 7.8%で続いている。(図表 1-1)

図表 1-1 専門分野



これを設置形態別にみると、「人文科学」は私立大学(19.3%)に、「工学」は国立大学(17.9%)に、「薬学・看護学」は公立大学(14.6%)に、「経済学・経営学」は私立大学(9.9%)と公立大学(8.8%)に、「数物系科学」は国立大学(10.2%)に、「薬学・看護学」は公立大学(14.6%)にそれぞれ多くなっている。(図表1-2)

図表1-2 専門分野(設置形態別)

	人文科学	経済学・経営学	社会学・心理学	教育学	数物系科学
国立大学	11.7	4.1	3.5	6.0	10.2
公立大学	11.5	8.8	5.0	1.6	3.2
私立大学	19.3	9.9	6.4	4.2	3.9

	化学	生物学	農学	医・歯学	薬学・看護学
国立大学	6.3	4.5	8.2	12.2	3.4
公立大学	4.1	2.9	5.0	11.3	14.6
私立大学	2.3	1.8	2.0	11.8	6.5

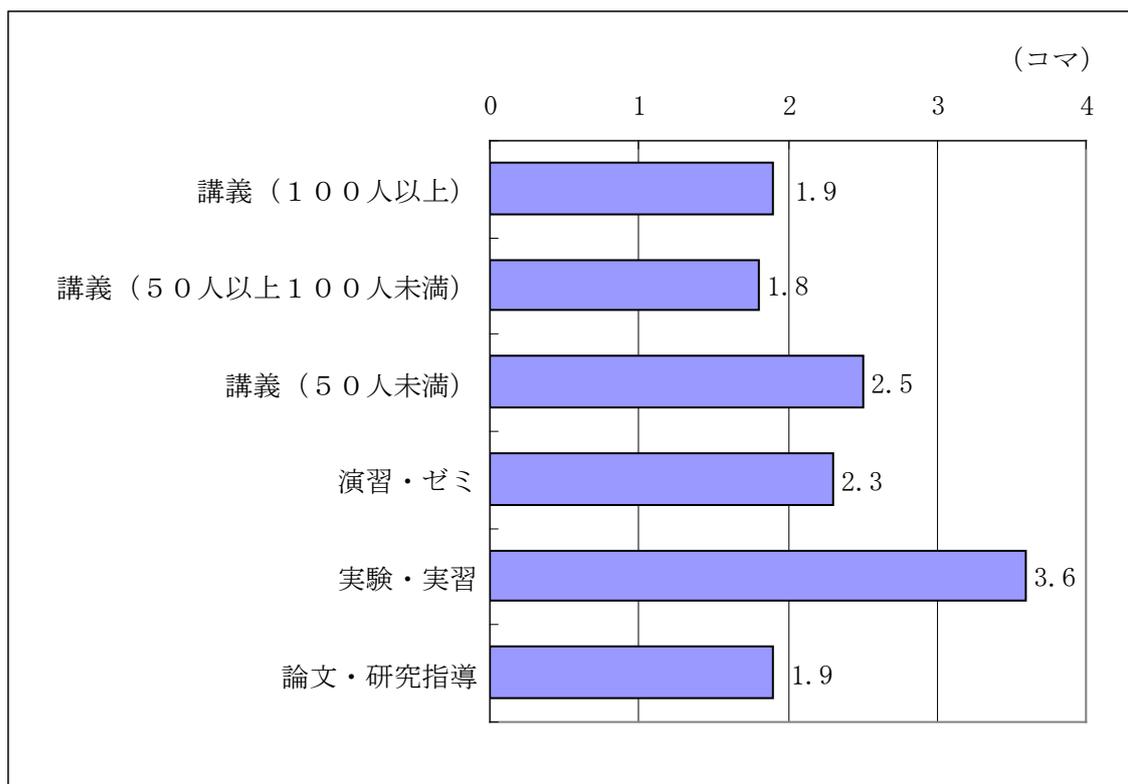
	健康関連	芸術・デザイン	情報	そのほか	無回答
国立大学	1.9	1.7	2.5	0.7	0.7
公立大学	6.1	4.1	4.3	1.8	0.5
私立大学	5.2	4.2	4.1	0.9	0.4

2. コマ数

(1) 一般教育科目

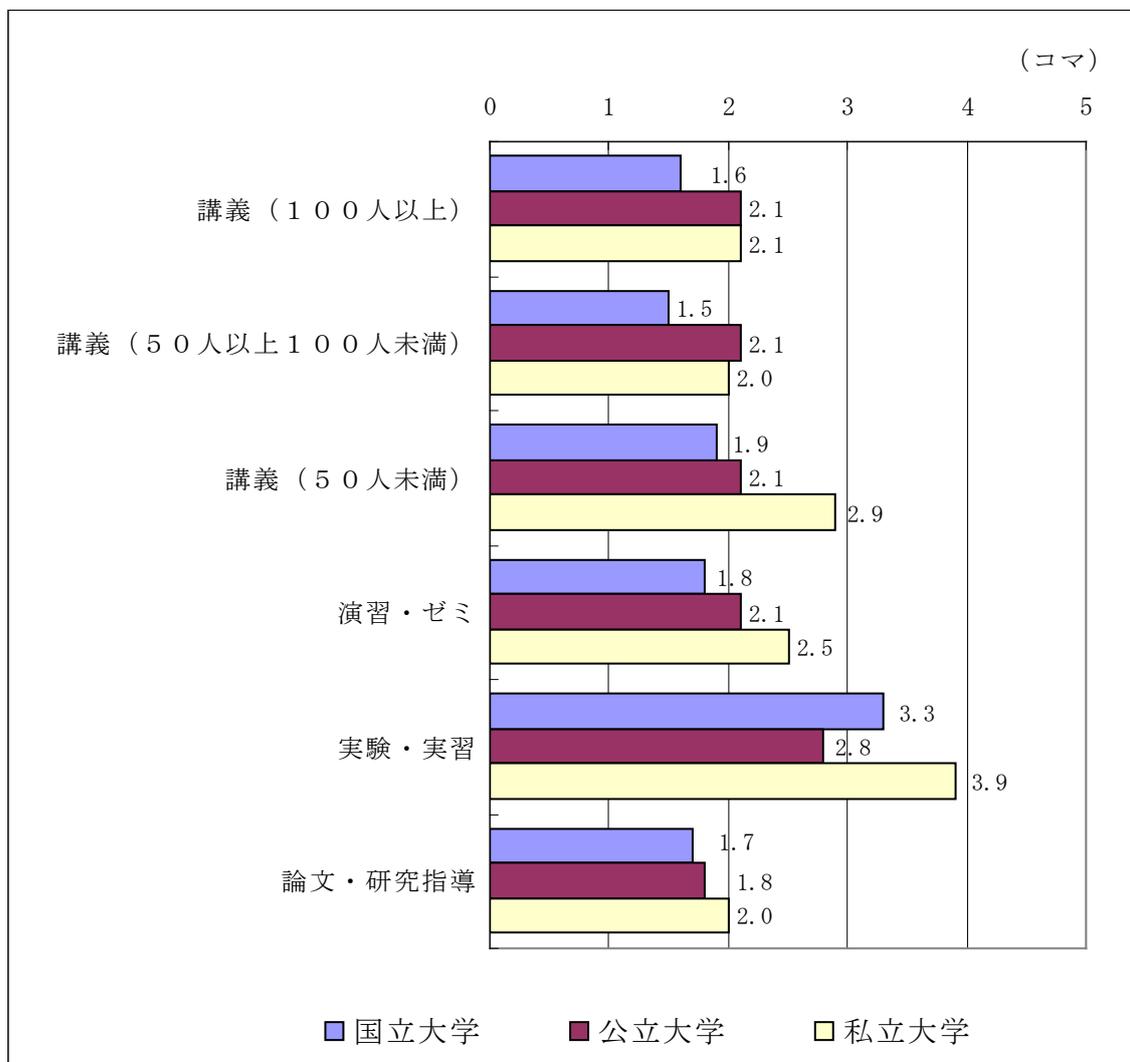
一学期に担当するコマ数を一般教育科目について平均でみると、「実験・実習」が 3.6 コマで最も多く、次いで「講義（50人未満）」が 2.5 コマ、「演習・ゼミ」が 2.3 コマの順で多くなっている。（図 2-1）

図表 2-1 コマ数【一般教育科目】



一般教育科目の平均コマ数について設置形態別にみると、「実験・実習」(3.9コマ)、「講義(50人未満)」(2.9コマ)、「演習・ゼミ」(2.5コマ)のいずれについても私立大学に多くなっている。(図表2-2)

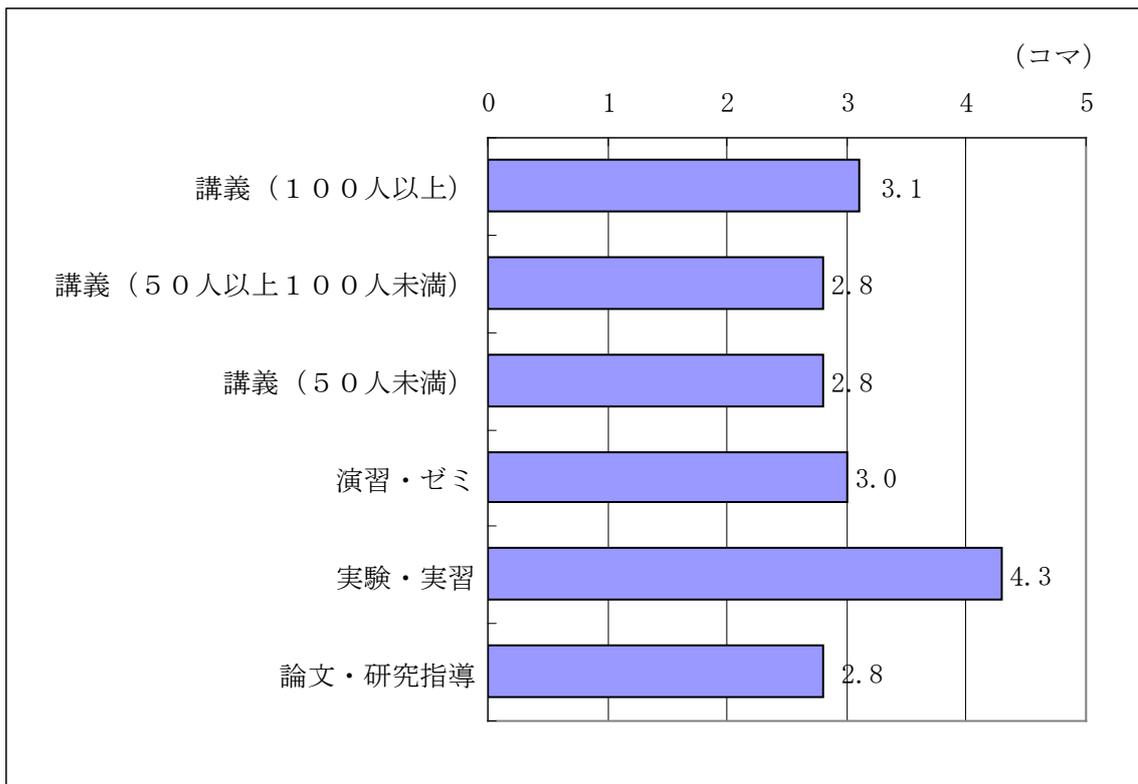
図表2-2 コマ数【一般教育科目】(設置形態別)



(2) 専門科目

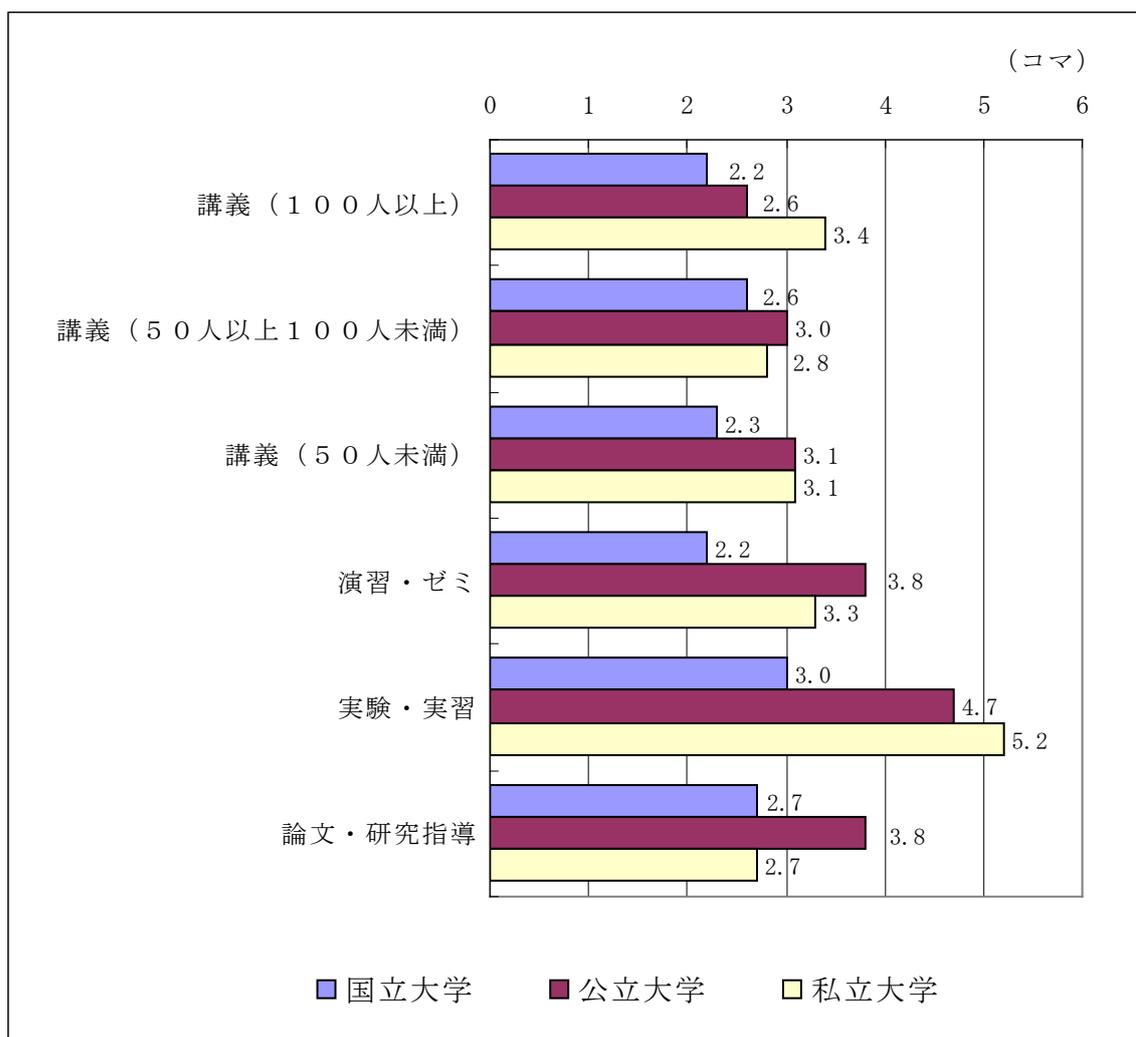
一学期に担当するコマ数を専門科目について平均で見ると、「実験・実習」が4.3コマで最も多く、次いで「講義（100人以上）」が3.1コマ、「演習・ゼミ」が3.0コマ、「講義（50人以上100人未満）」、「講義（50人未満）」、「論文・研究指導」が2.8コマの順である。（図2-3）

図表2-3 コマ数【専門科目】



専門科目の平均コマ数について設置形態別にみると、「実験・実習」については、国立大学（3.0コマ）に比べて公立大学（4.7コマ）、私立大学（5.2コマ）に多く、「講義（100人以上）」については、国立大学（2.2コマ）、公立大学（2.6コマ）に比べて私立大学（3.4コマ）に多くなっている。また、「演習・ゼミ」「講義（50人未満）」については、国立大学よりも公立大学、私立大学に、「論文・研究指導」については、国立大学、私立大学よりも公立大学に多くなっており、全体的に国立大学でのコマ数は少ない傾向にある。（図表2-4）

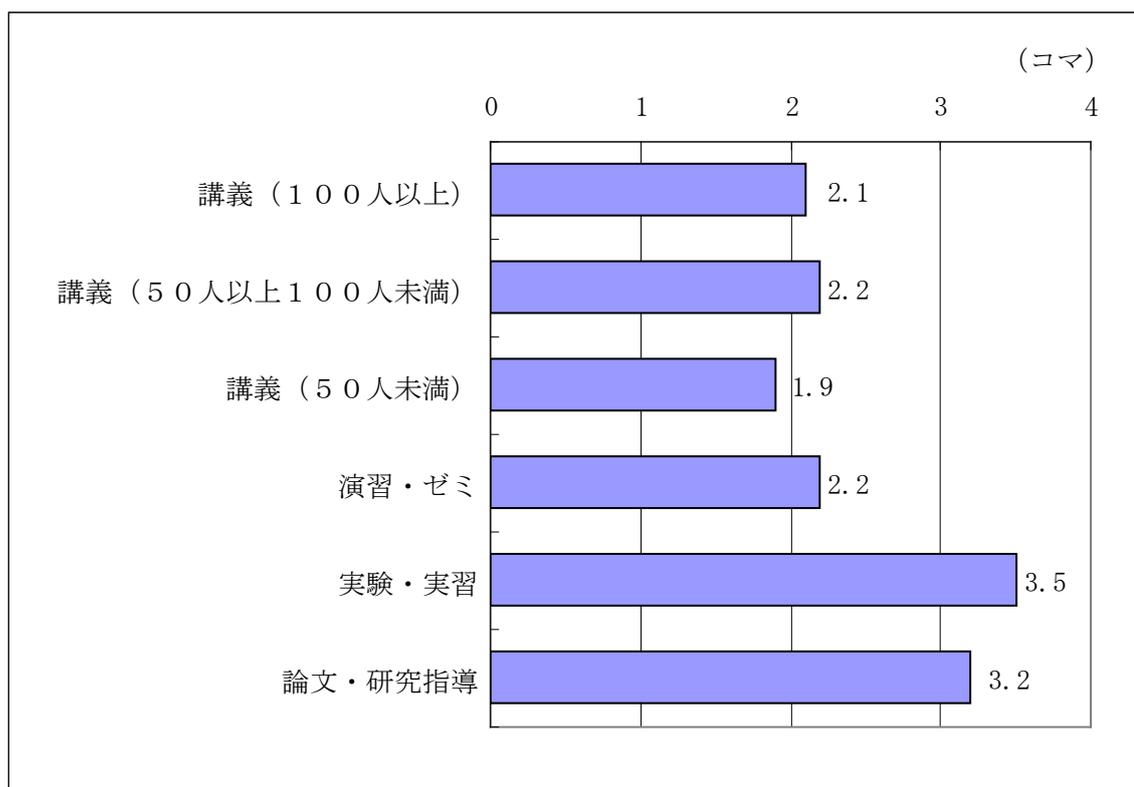
図表2-4 コマ数【専門科目】（設置形態別）



(3) 大学院

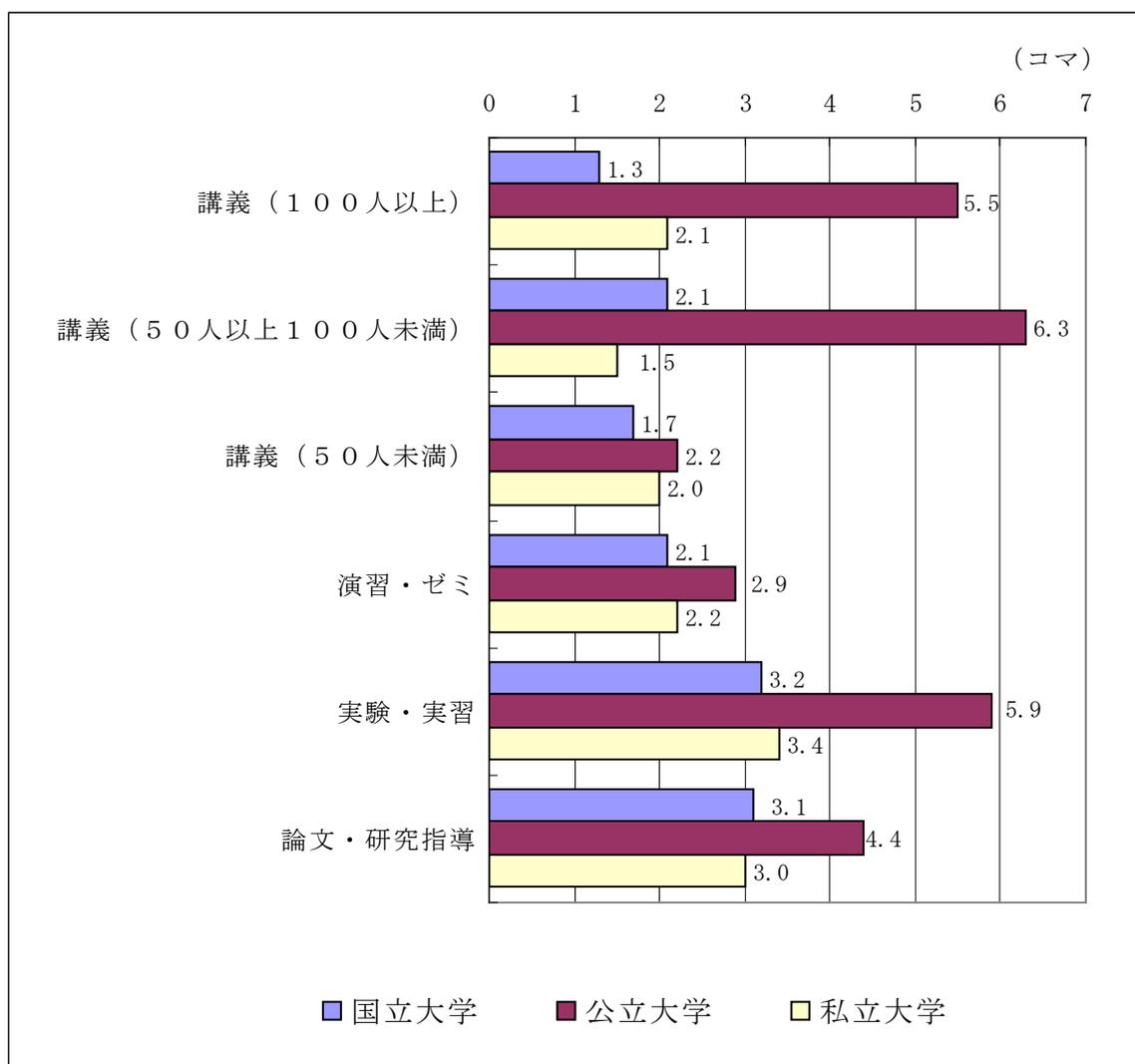
一学期に担当するコマ数を大学院について平均で見ると、「実験・実習」、「論文・研究指導」がそれぞれ3.5コマ、3.2コマで多く、次いで「講義（50人以上100人未満）」と「演習・ゼミ」が2.2コマ、「講義（100人以上）」が2.1コマの順が多い。（図2-5）

図表2-5 コマ数【大学院】



大学院の平均コマ数について設置形態別にみると、すべての項目において公立大学でのコマ数が国立大学、私立大学に比べて多くなっているが、特に「講義（100人以上）」、「講義（50人以上100人未満）」、「実験・実習」において差が顕著である。（図表2-6）

図表2-6 コマ数【大学院】（設置形態別）



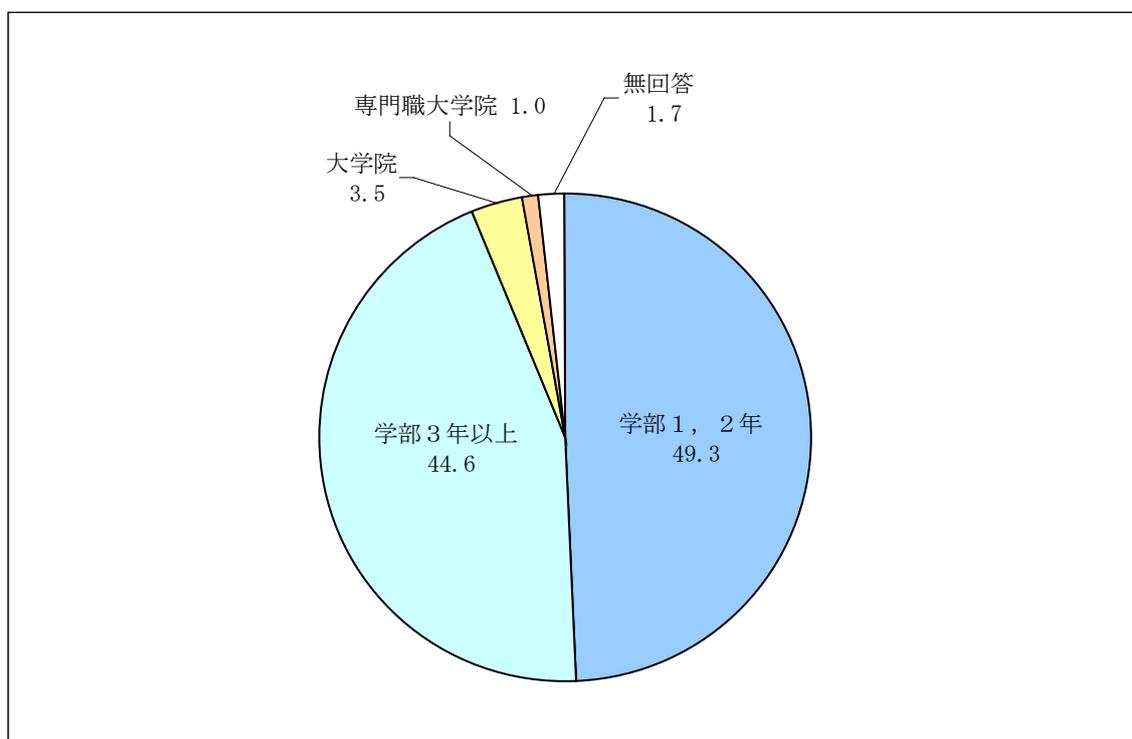
第Ⅱ章 担当する代表的な授業について

3. 代表的な授業

(1) 対象

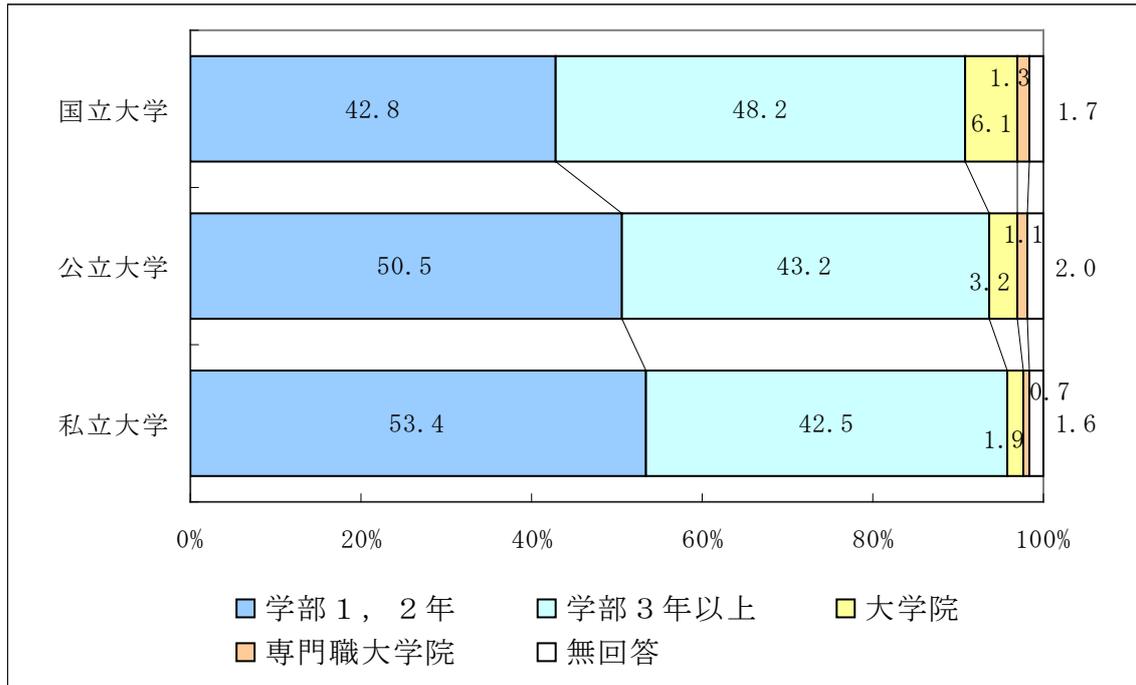
回答者が担当している代表的な授業の対象については、「学部1，2年」が49.3%、「学部3年以上」が44.6%で、9割強が学部の学生を対象とした授業である。「大学院」は3.5%、「専門職大学院」は1.7%である。（図表3-1）

図表3-1 代表的な授業の対象



代表的な授業の対象について設置形態別にみると、「学部1, 2年」は国立大学(42.8%)に比べ公立大学(50.5%)、私立大学(53.4%)に、「学部3年以上」は公立大学(43.2%)、私立大学(42.5%)に比べ国立大学(48.2%)にそれぞれ多くなっている。また「大学院」は国立大学(6.1%)にやや多い。(図表3-2)

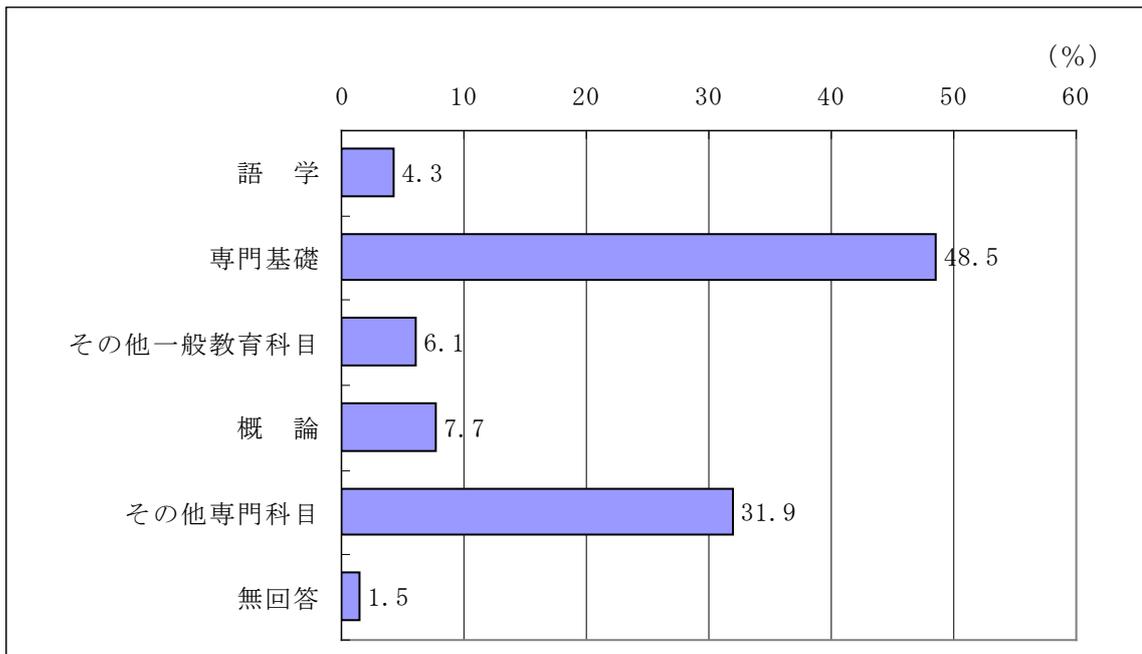
図表3-2 代表的な授業の対象(設置形態別)



(2) 内容

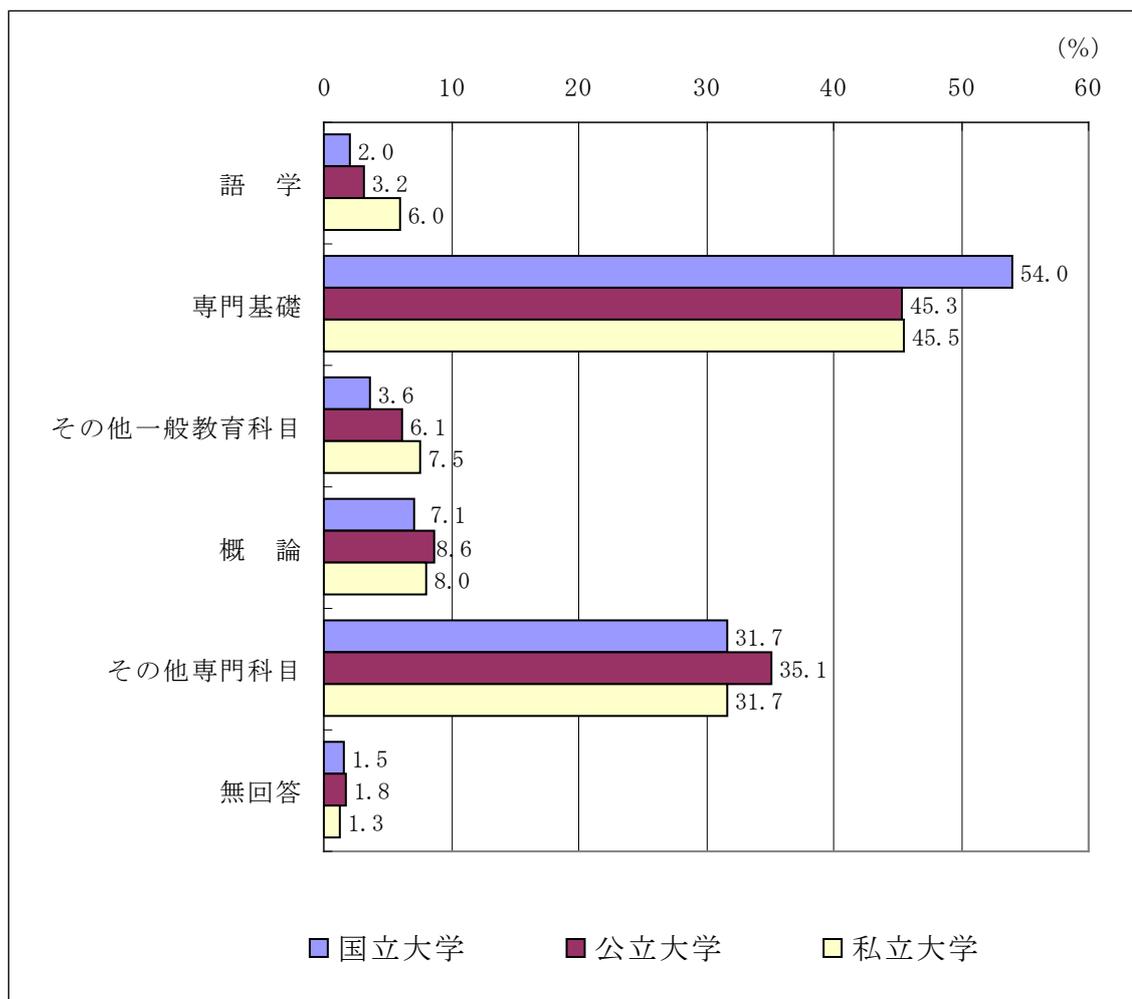
回答者が担当している代表的な授業の内容については、「専門基礎」が48.5%で最も多く、全体のほぼ半数を占めている。次いで「その他専門科目」が31.9%で続き、以下は極めて少数である。(図表3-3)

図表3-3 代表的な授業の内容



代表的な授業の内容について設置形態別にみると、「専門基礎」については公立大学（45.3%）、私立大学（45.5%）に比べ国立大学（54.0%）に、「その他専門科目」については国立大学（31.7%）、私立大学（31.7%）に比べ公立大学（35.1%）にそれぞれ多くなっている。（図表3-4）

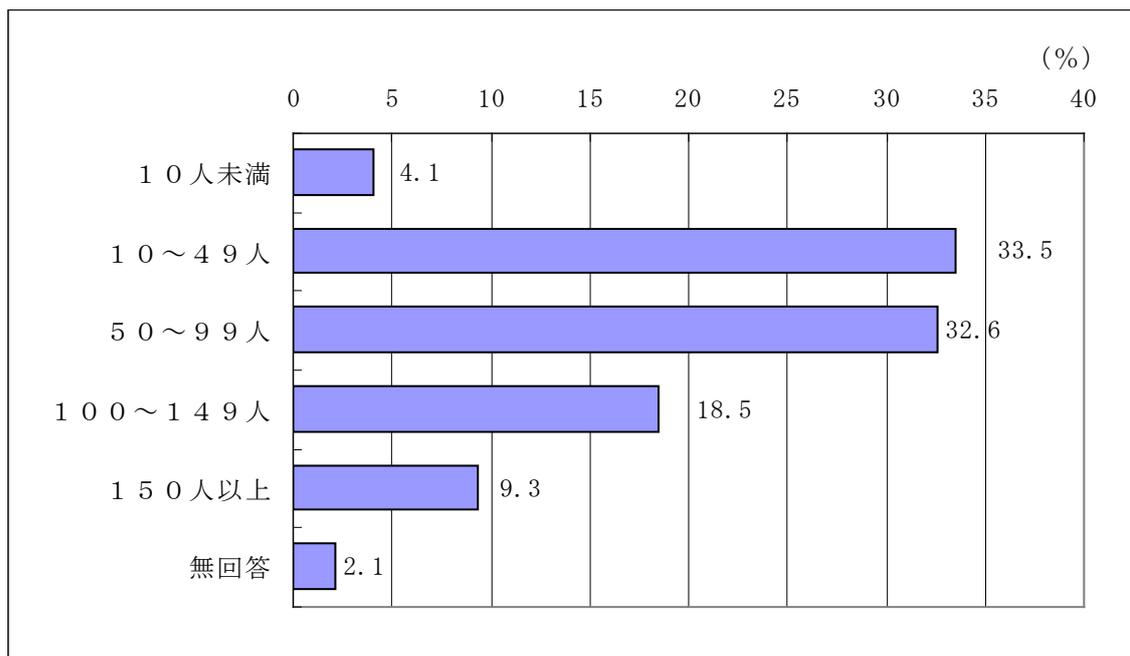
図表3-4 代表的な授業の内容（設置形態別）



(3) 学生数

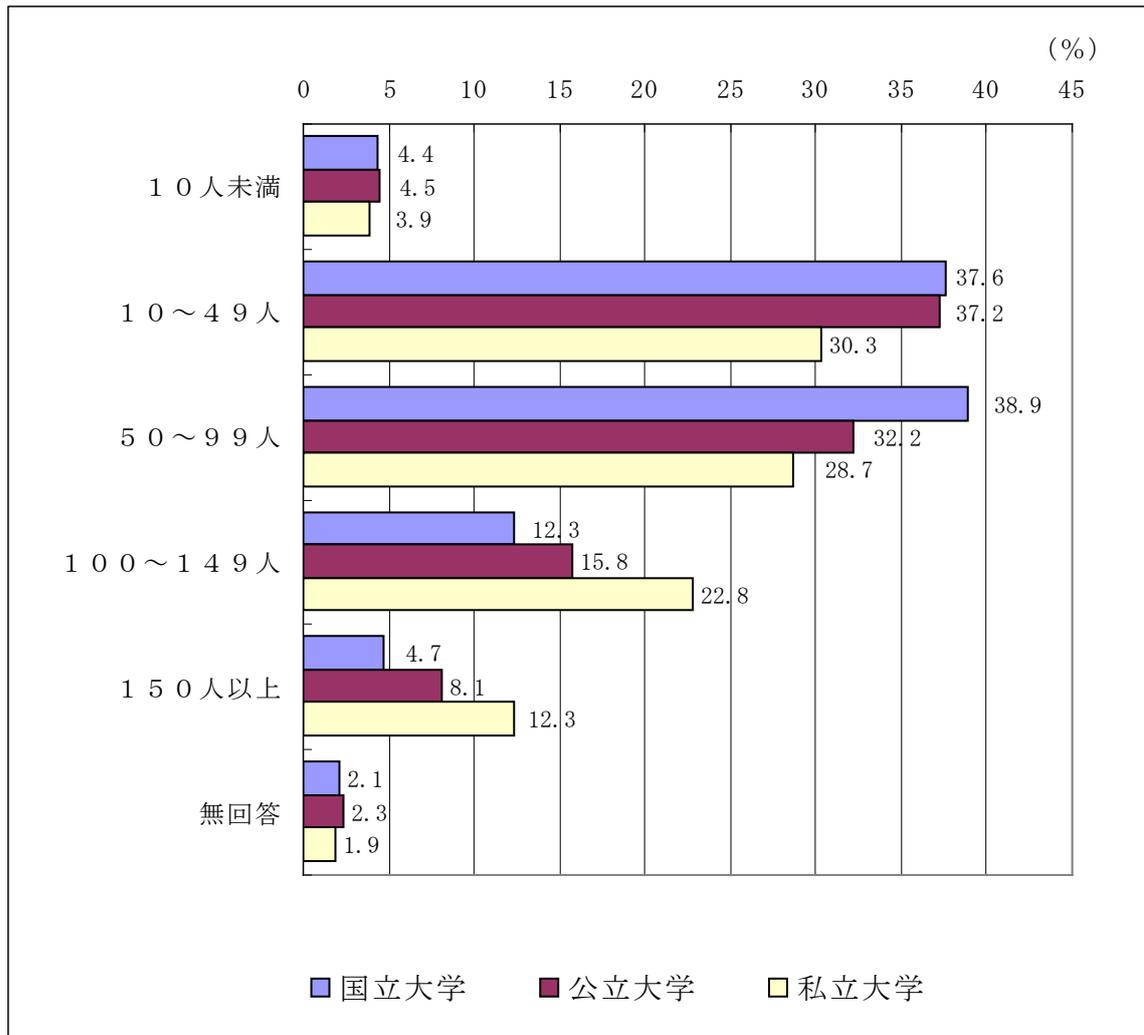
代表的な授業の学生数については、「10～49人」、「50～99人」がそれぞれ33.5%、32.6%で多く、「10人未満」4.1%を加えると、学生数「99人以下」の授業が全体の7割を占めている。(図表3-5)

図表3-5 代表的な授業の学生数



代表的な授業の学生数について設置形態別にみると、「10～49人」については、私立大学（30.3%）に比べ国立大学（37.6%）、公立大学（37.2%）に、「50～99人」については、公立大学（32.2%）、私立大学（28.7%）に比べ国立大学（38.9%）にそれぞれ多くなっている。また、私立大学は「100～149人」（22.8%）や「150人以上」（12.3%）の多人数の授業に多い。（図表3-6）

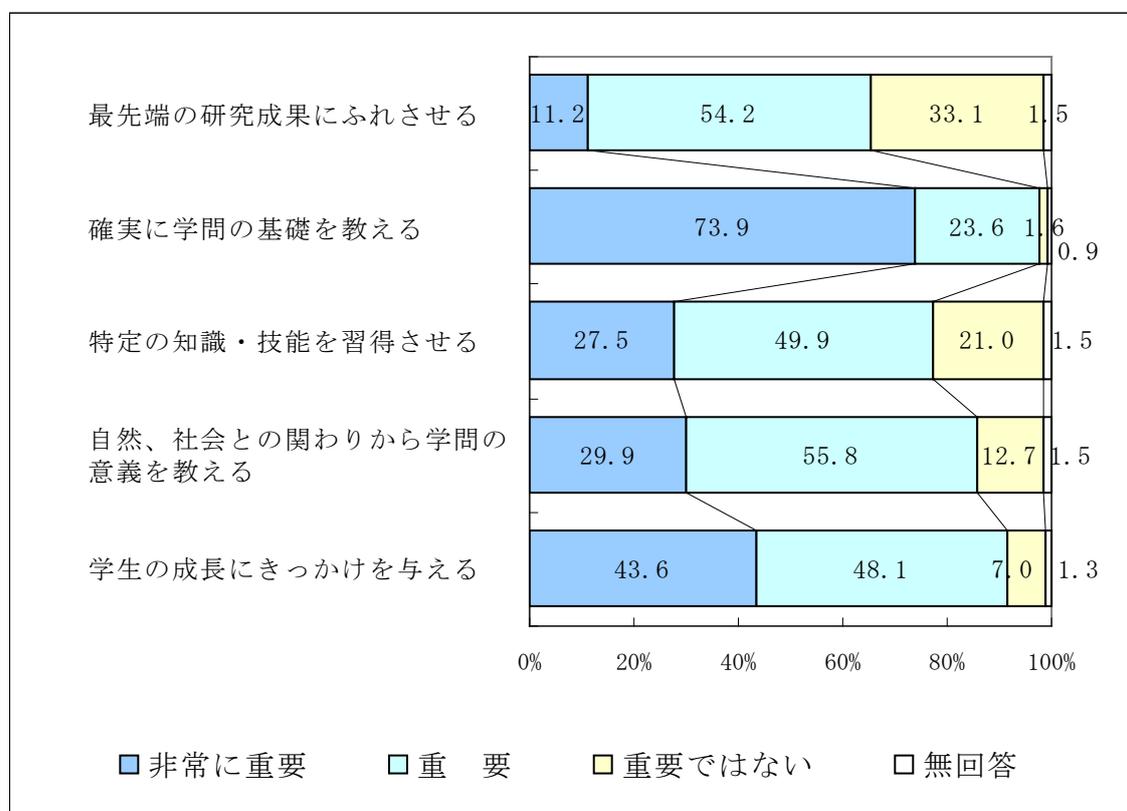
図表3-6 代表的な授業の学生数（設置形態別）



4. 授業の力点

授業の力点をどのような点に置いているかを5つの項目について尋ねた。その結果、『確実に学問の基礎を教える』については、「非常に重要」と考えている教員が73.9%と多く、これに「重要」(23.6%)を合わせるとほぼ全員がこの項目に重きを置いている。以下「非常に重要」と「重要」とを合わせた率でみると、『学生の成長にきっかけを与える』(91.7%)については9割強の教員が、『自然、社会との関わりから学問の意義を教える』(85.8%)については8割以上の教員が、また、『特定の知識・技能を習得させる』(77.4%)については8割弱の教員が重視している。一方、『最先端の研究成果にふれさせる』について重視している教員は65.4%で5つの項目の中で最も低い率となっている。(図表4-1)

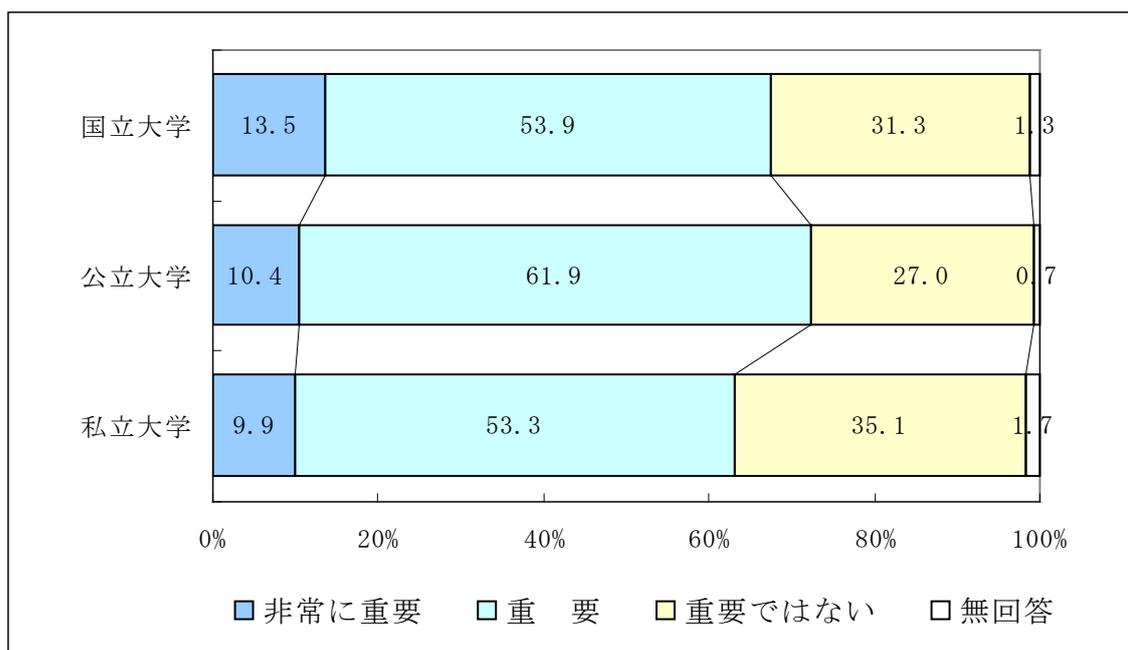
図表4-1 授業の力点



(1)最先端の研究成果にふれさせる

授業の力点に関する項目のうち、『最先端の研究成果にふれさせる』について設置形態別にみると、「非常に重要」と「重要」とを合わせた率では、公立大学（72.3%）、国立大学（67.4%）、私立大学（63.2%）の順でこの項目を重視している教員が多くなっている。（図表4-2）

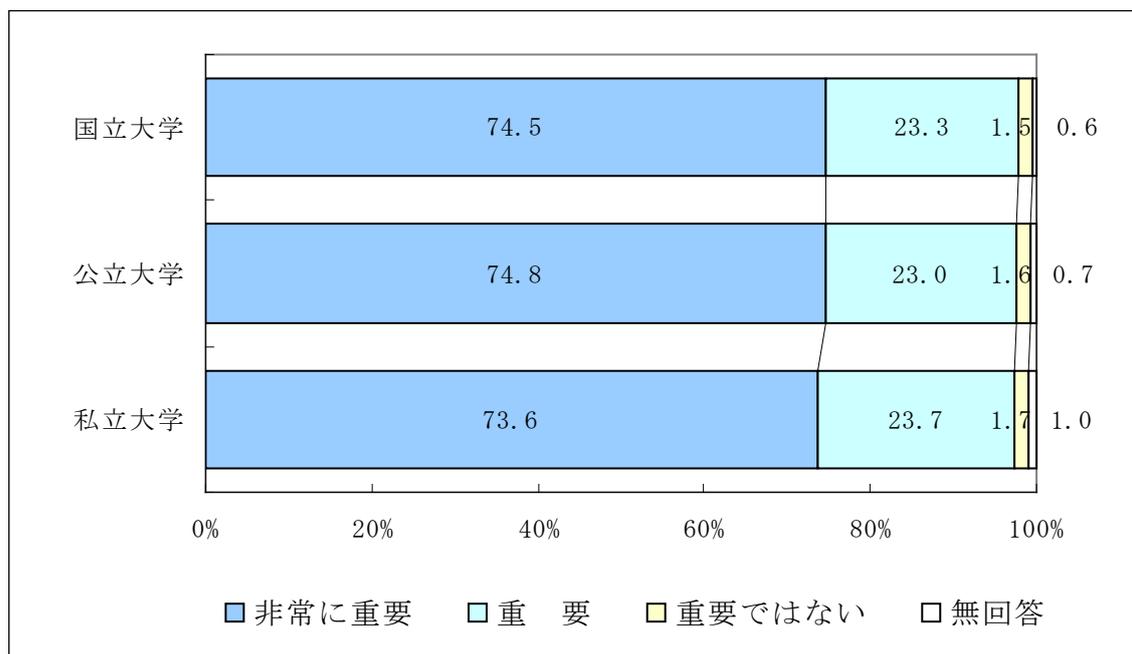
図表4-2 授業の力点（設置形態別）
【最先端の研究成果にふれさせる】



(2) 確実に学問の基礎を教える

授業の力点に関する項目のうち、『確実に学問の基礎を教える』について設置形態別にみると、いずれの設置形態に於いても「非常に重要」と考えている教員が全体の4分の3を占めて多くなっている。これに「重要」を合わせた率では、国立大学（97.8%）、公立大学（97.8%）、私立大学（97.3%）のいずれにおいても、ほぼ全員がこの項目を重視している点で一致しており、設置形態による差はみられない。（図表4-3）

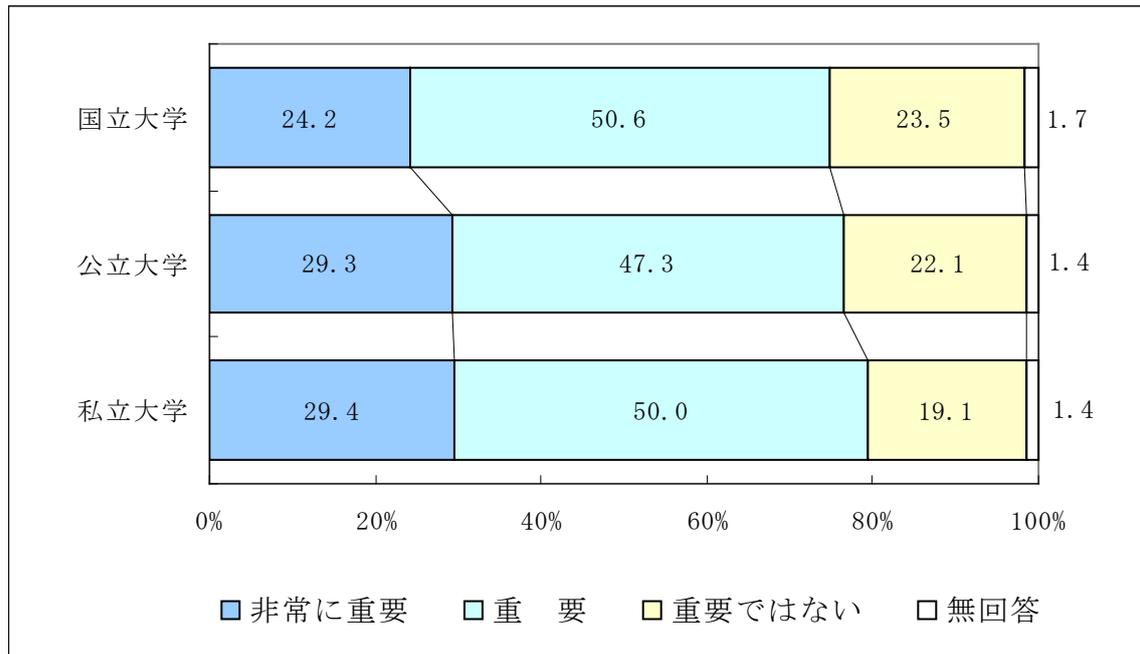
図表4-3 授業の力点（設置形態別）
【確実に学問の基礎を教える】



(3) 特定の知識・技能を習得させる

授業の力点に関する項目のうち、『特定の知識・技能を習得させる』について設置形態別にみると、「非常に重要」と「重要」とを合わせた率では、国立大学（74.8%）、公立大学（76.6%）に比べて私立大学（79.4%）にこの項目を重視する教員がやや多くなっている。（図表4-4）

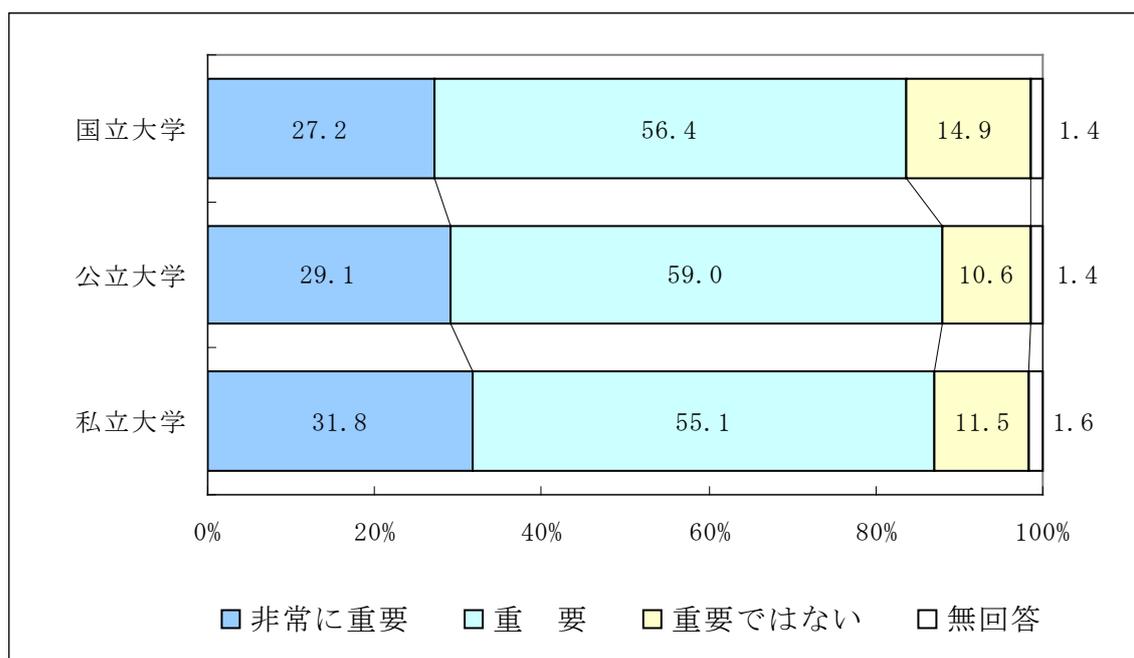
図表4-4 授業の力点（設置形態別）
【特定の知識・技能を習得させる】



(4) 自然、社会との関わりから学問の意義を教える

授業の力点に関する項目のうち、『自然、社会との関わりから学問の意義を教える』について設置形態別にみると、「非常に重要」と「重要」とを合わせた率では、公立大学(88.1%)、私立大学(86.9%)、国立大学(83.6%)の順でこの項目を重視している教員が多くなっている。(図表4-5)

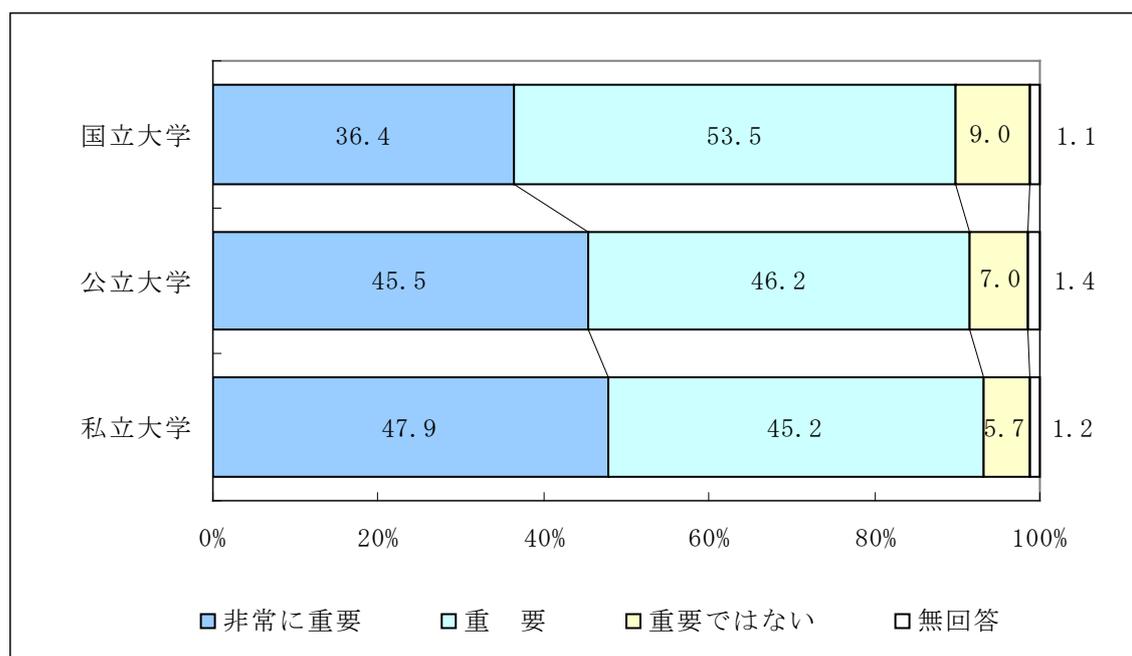
図表4-5 授業の力点(設置形態別)
【自然、社会との関わりから学問の意義を教える】



(5) 学生の成長にきっかけを与える

授業の力点に関する項目のうち、『学生の成長にきっかけを与える』について設置形態別にみると、「非常に重要」と「重要」とを合わせた率では、国立大学が89.9%、公立大学が91.7%、私立大学が93.1%で、いずれの大学でも90%前後の教員がこの項目を重視しており、設置形態による差はほとんどみられない。(図表4-6)

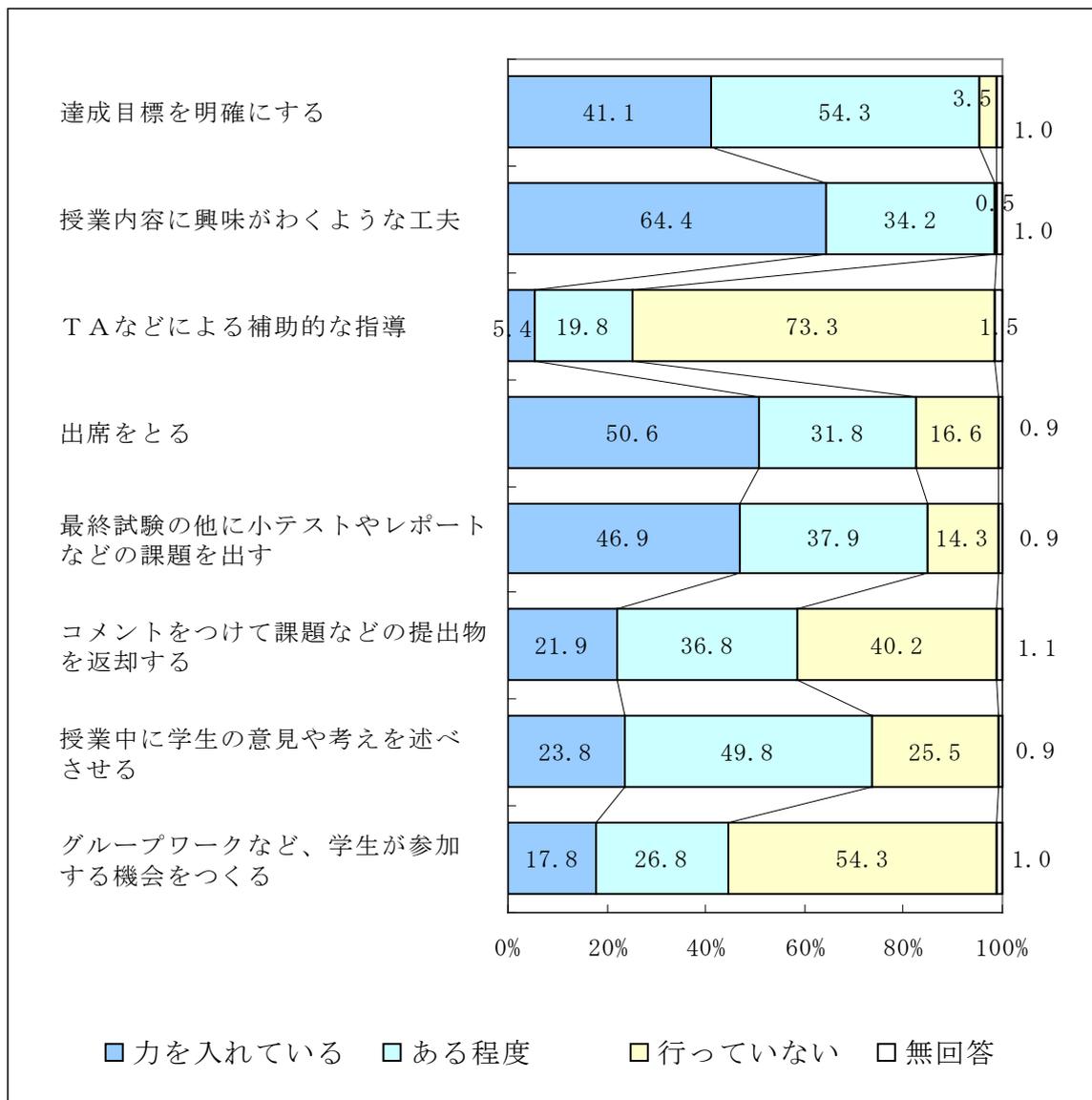
図表4-6 授業の力点 (設置形態別)
【学生の成長にきっかけを与える】



5. 授業の方法と効果

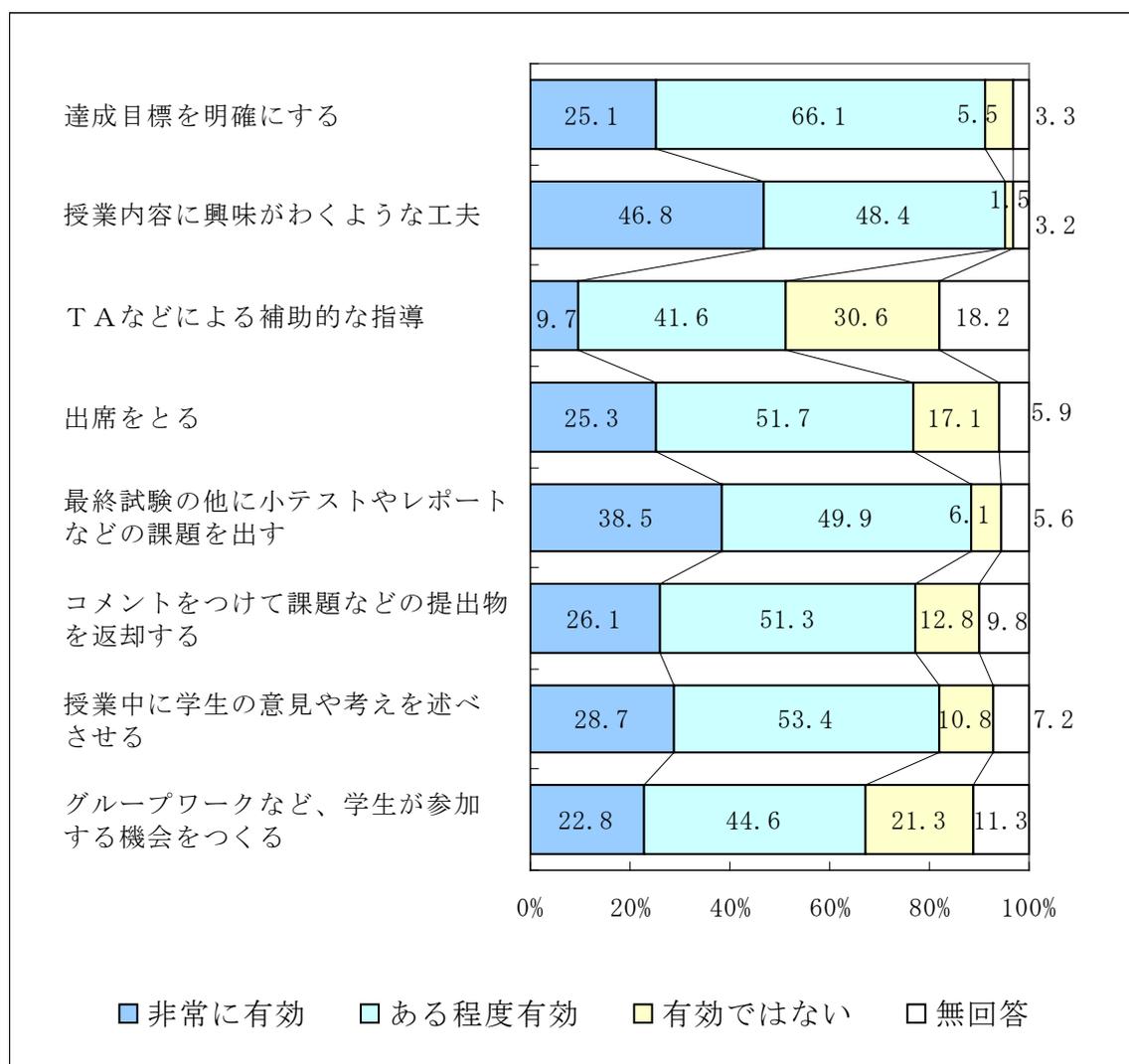
授業の方法として8つの項目を示し、実施の有無とその効果について尋ねた。実施の有無について、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた実施率でみると、『授業内容に興味をわくような工夫』(98.6%)、『達成目標を明確にする』(95.4%)の実施率が他の実施内容に比べ極めて高い。特に、『授業内容に興味をわくような工夫』については、「力を入れている」が64.4%とほぼ全体の3分の2を占めている。次いで実施率が高いのは、『最終試験の他に小テストやレポートなどの課題を出す』(84.8%)、『出席をとる』(82.4%)、『授業中に学生の意見や考えを述べさせる』(73.6%)、『コメントをつけて課題などの提出物を返却する』(58.7%)の順である。一方、『グループワークなど、学生が参加する機会をつくる』(44.6%)、『TAなどによる補助的な指導』(25.2%)の実施率は低くなっている。(図表5-1)

図表5-1 授業の方法



授業方法の効果についてみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、『授業内容に興味がわくような工夫』（95.2%）、『達成目標を明確にする』（91.2%）についての評価が高い。次いで『最終試験の他に小テストやレポートなどの課題を出す』（88.4%）、『授業中に学生の意見や考えを述べさせる』（82.1%）、『コメントをつけて課題などの提出物を返却する』（77.4%）、『出席をとる』（77.0%）の順で評価が高くなっているが、『グループワークなど、学生が参加する機会をつくる』（67.4%）、『T Aなどによる補助的な指導』（51.3%）については、実施率とともに効果についても低い評価となっている。（図表5-2）。

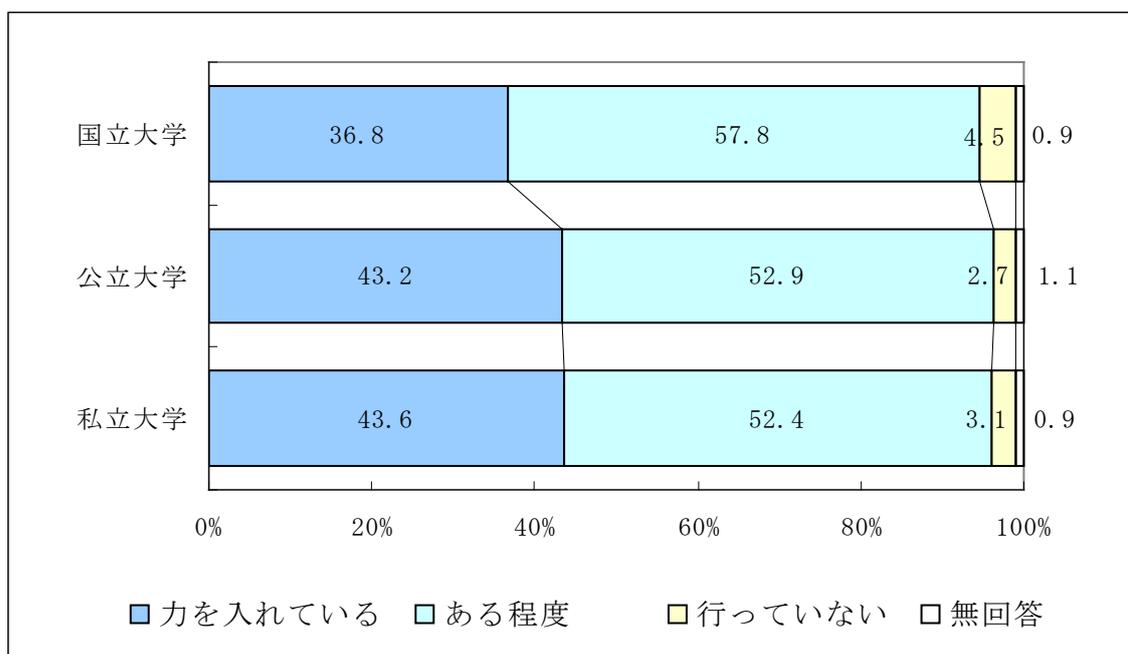
図表5-2 授業方法に対する効果



(1)達成目標を明確にする

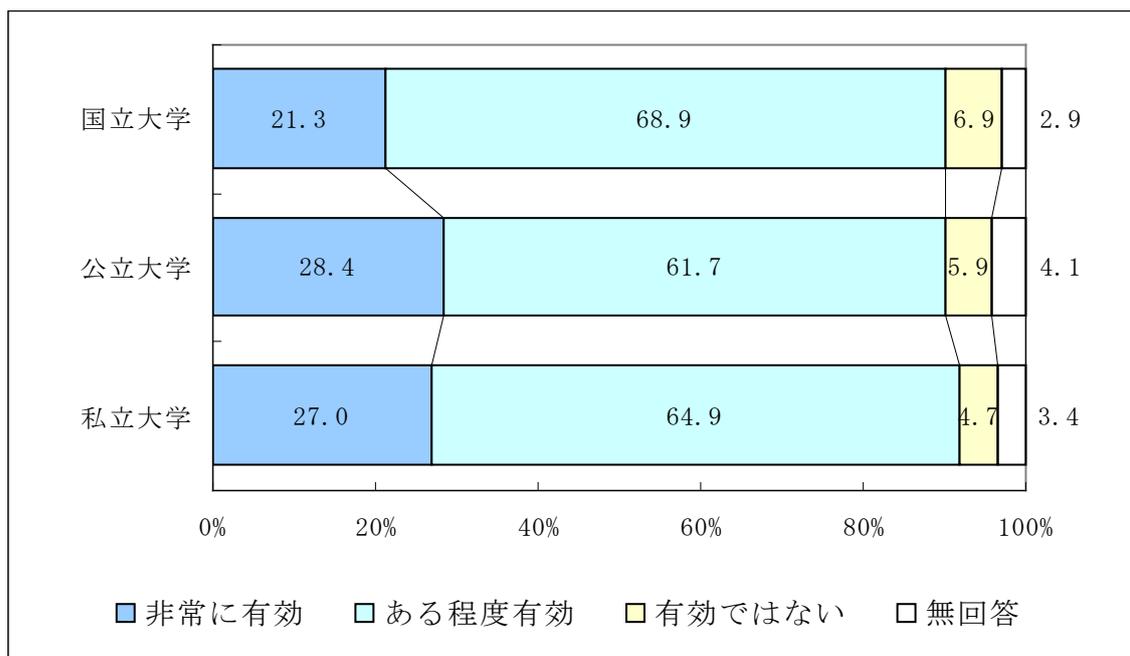
授業方法としての項目のうち、『達成目標を明確にする』という授業実施の有無について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた実施率は、国立大学が94.6%、公立大学が96.1%、私立大学が96.0%となっており、設置形態による差はほとんどみられず、いずれも高い実施率を示している。(図表5-3)

図表5-3 授業の方法（設置形態別）
【達成目標を明確にする】



次に、『達成目標を明確にする』という授業の実施効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学が90.2%、公立大学が90.1%、私立大学が91.9%となっており、実施率と同様に、効果についても設置形態による差はほとんどみられず、いずれも高い評価を得ている。(図表5-4)

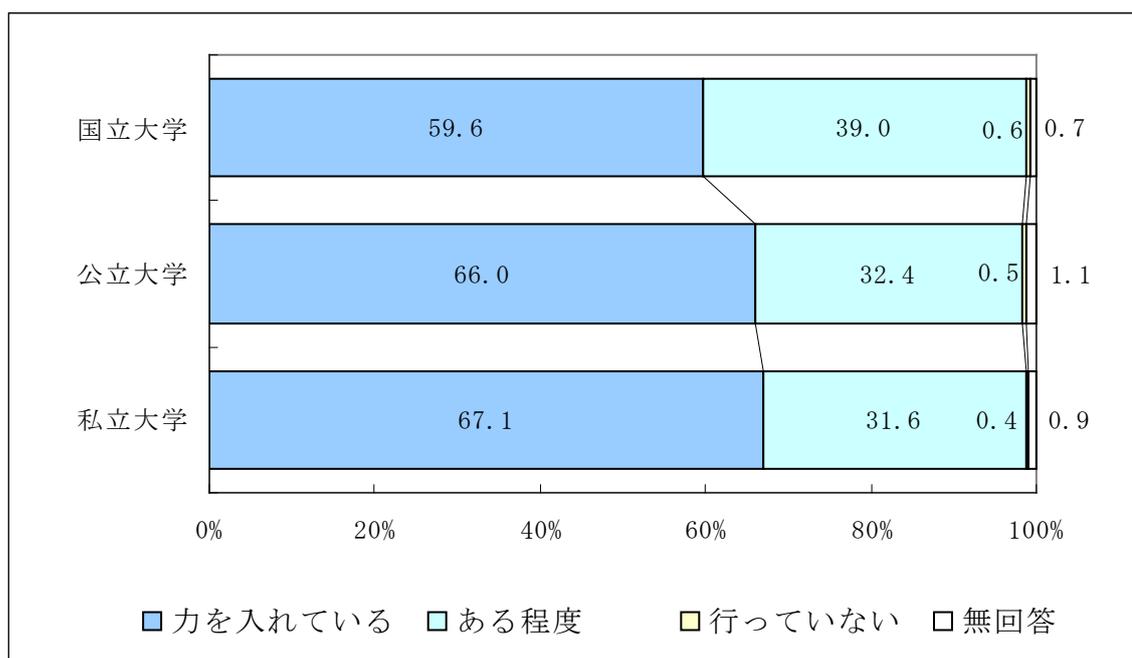
図表5-4 授業方法に対する効果（設置形態別）
【達成目標を明確にする】



(2) 授業内容に興味がわくような工夫

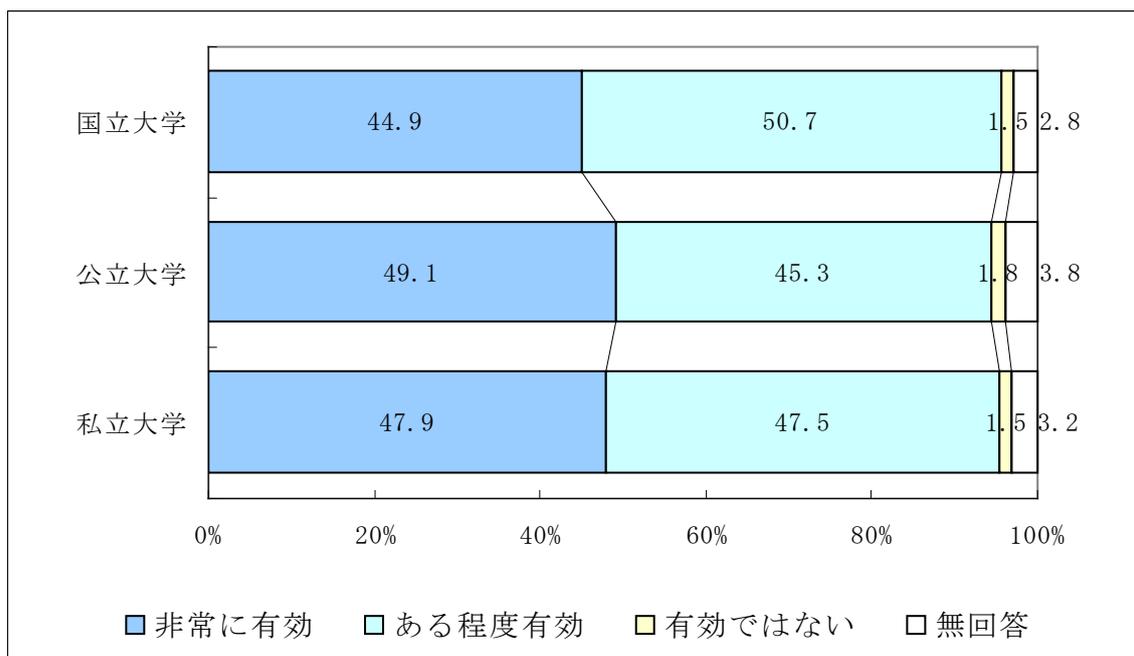
授業方法としての項目のうち、『授業内容に興味がわくような工夫』という授業実施の有無について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた実施率は、国立大学が98.6%、公立大学が98.4%、私立大学が98.7%となっており、設置形態による差はみられず、いずれの大学でもほぼ全員が実施している。(図表5-5)

図表5-5 授業の方法（設置形態別）
【授業内容に興味がわくような工夫】



次に、『授業内容に興味がわくような工夫』という授業の実施効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学が 95.6%、公立大学が 94.4%、私立大学が 95.4%となっており、実施率ともに効果についても設置形態による差はほとんどみられず、いずれも高い評価を得ている。(図表 5-6)

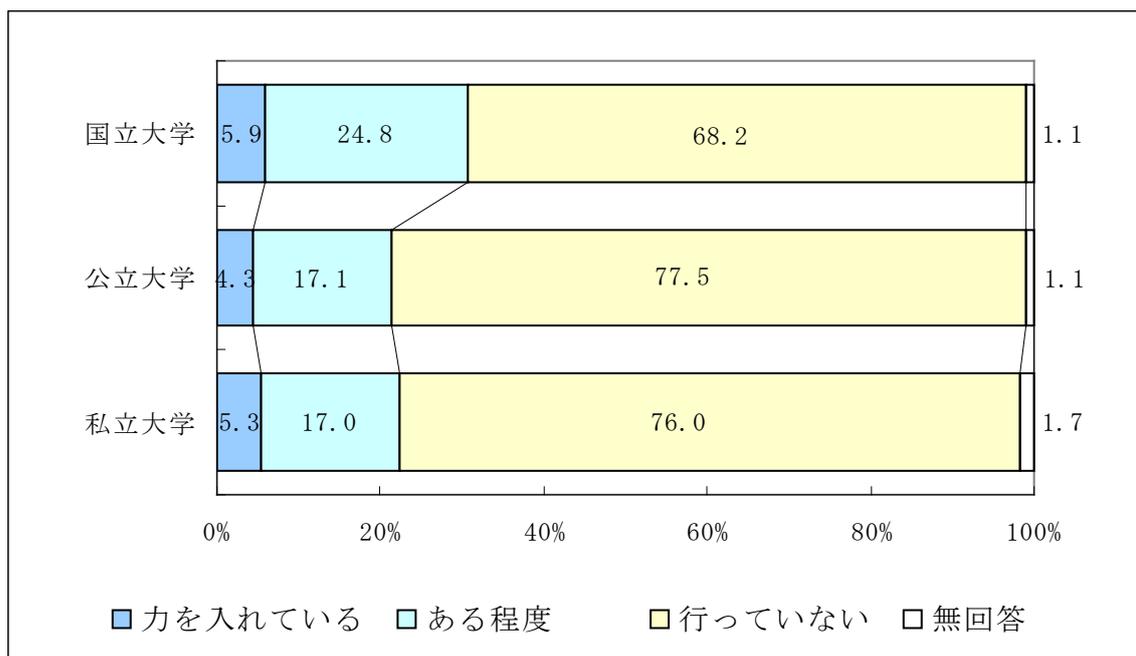
図表 5-6 授業方法に対する効果 (設置形態別)
【授業内容に興味がわくような工夫】



(3) TAなどによる補助的な指導

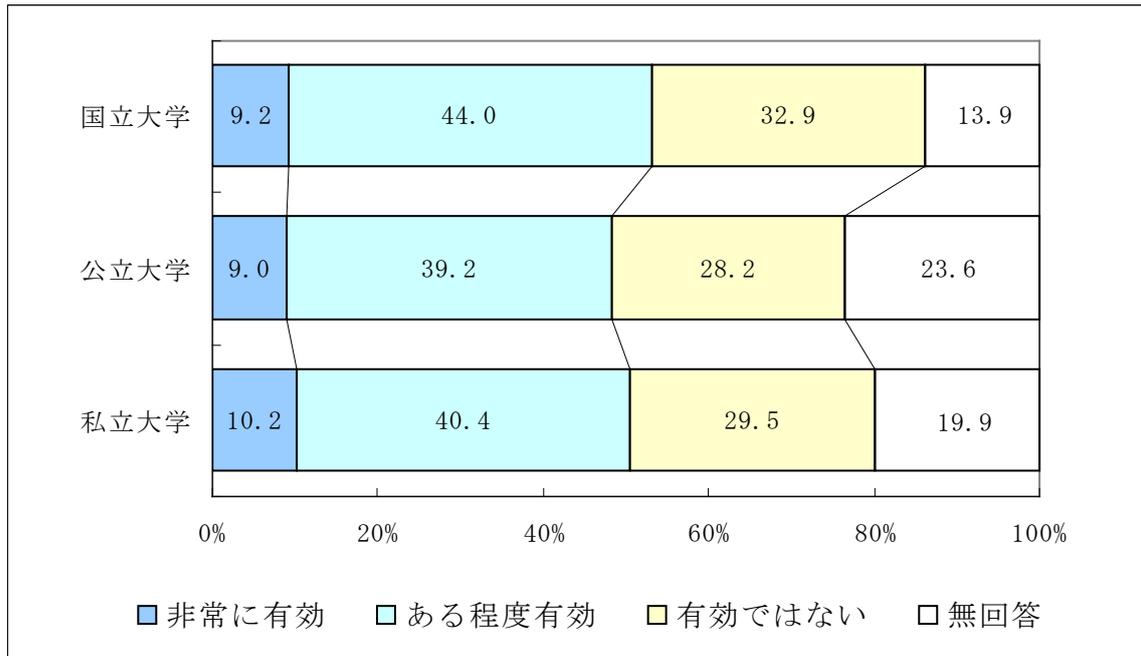
授業方法としての項目のうち、『TAなどによる補助的な指導』という授業実施の有無について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた実施率は、公立大学（21.4%）、私立大学（22.3%）に比べて国立大学（30.7%）で高くなっている。（図表5-7）

図表5-7 授業の方法（設置形態別）
【TAなどによる補助的な指導】



次に、『T Aなどによる補助的な指導』という授業の実施効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学が 53.2%、公立大学が 48.2%、私立大学が 50.6%となっており、設置形態による差は大きくなく、この授業の効果としては 50%前後の評価を得ている。(図表 5 - 8)

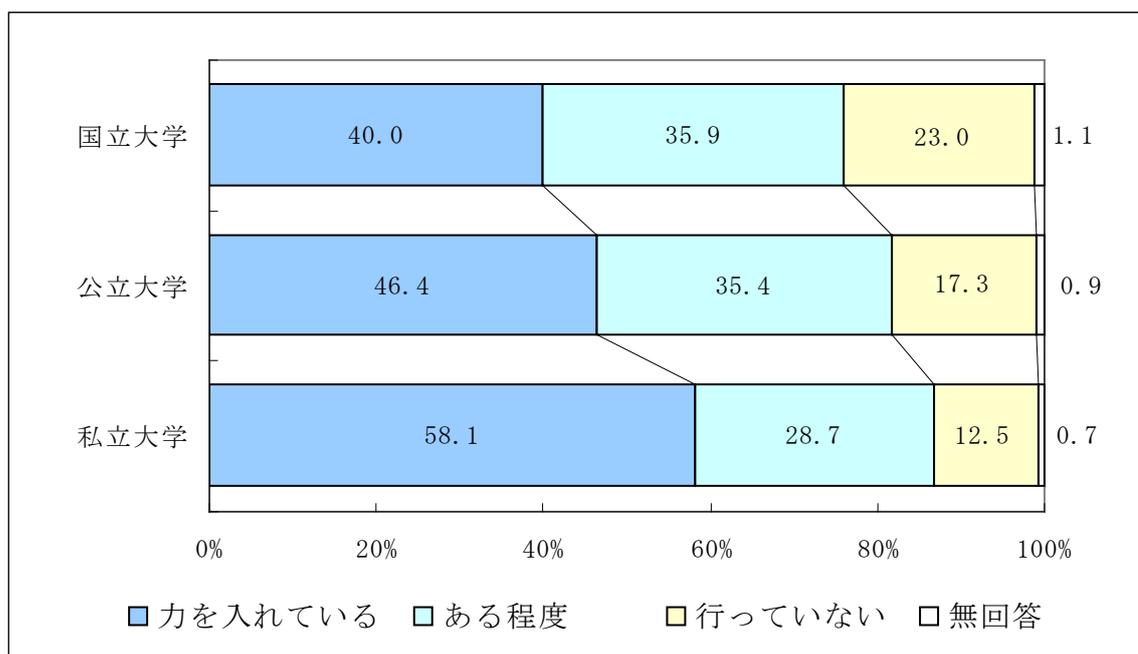
図表 5 - 8 授業方法に対する効果 (設置形態別)
【T Aなどによる補助的な指導】



(4) 出席をとる

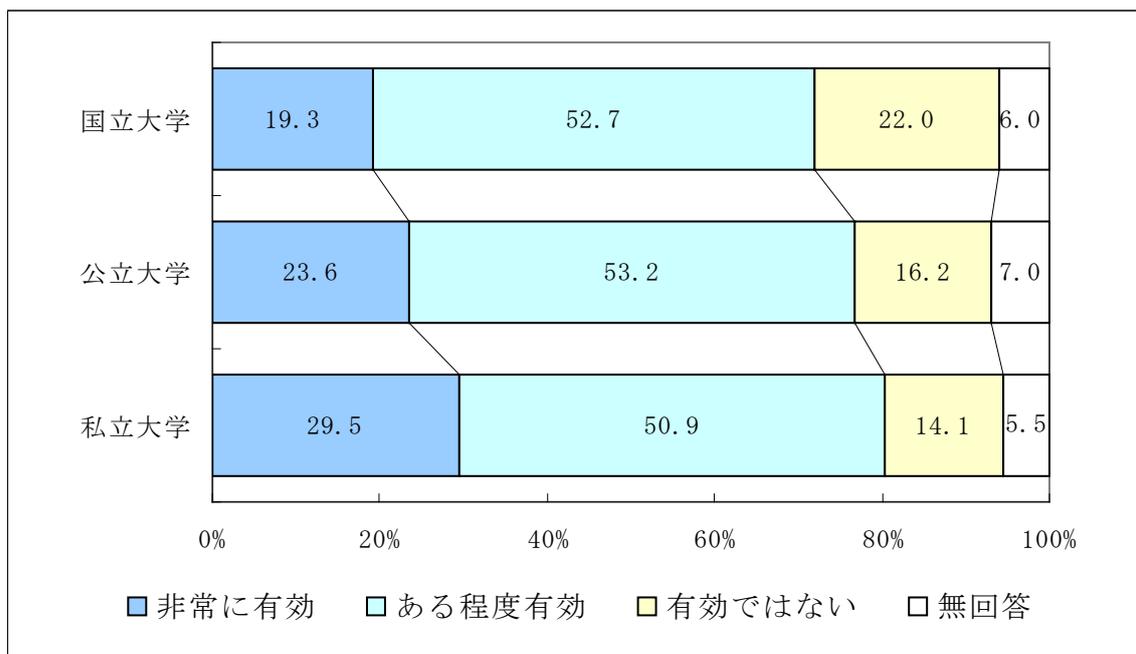
授業方法としての項目のうち、『出席をとる』という授業実施の有無について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた実施率は、私立大学（86.8%）に最も多く、次いで公立大学（81.8%）、国立大学（75.9%）の順で評価が高くなっている。（図表 5－9）

図表 5－9 授業の方法（設置形態別）
【出席をとる】



次に、『出席をとる』という授業の実施効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、私立大学（80.4%）に最も多く、次いで、公立大学（76.8%）、国立大学（72.0%）の順で評価が高くなっている。（図表5-10）

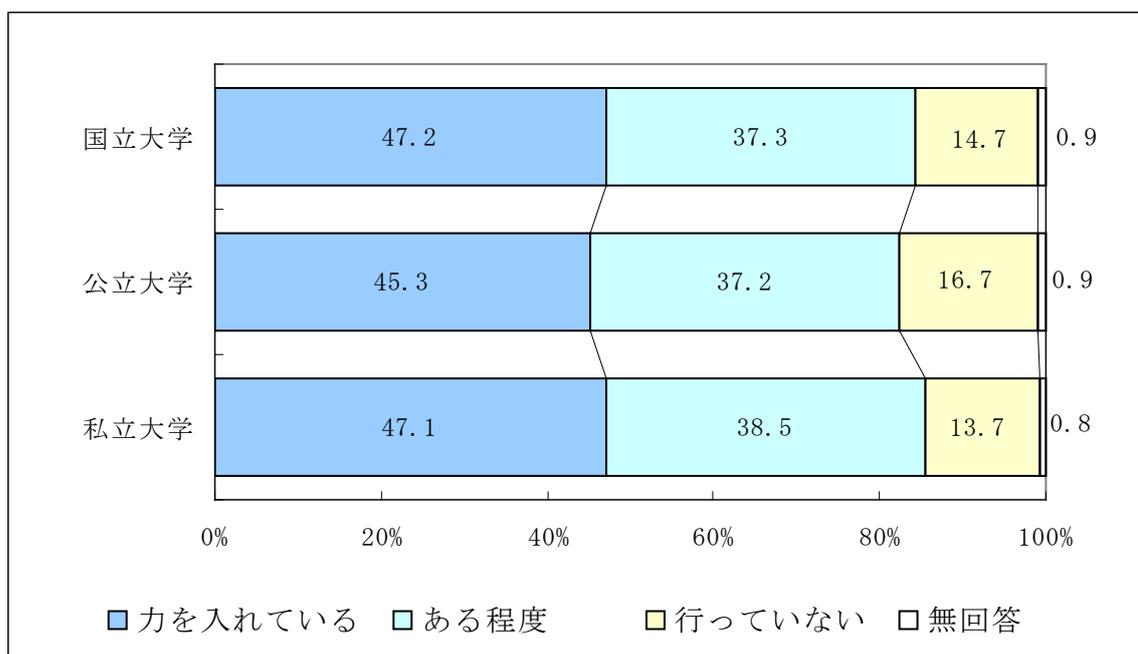
図表5-10 授業方法に対する効果（設置形態別）
【出席をとる】



(5) 最終試験の他に小テストやレポートなどの課題を出す

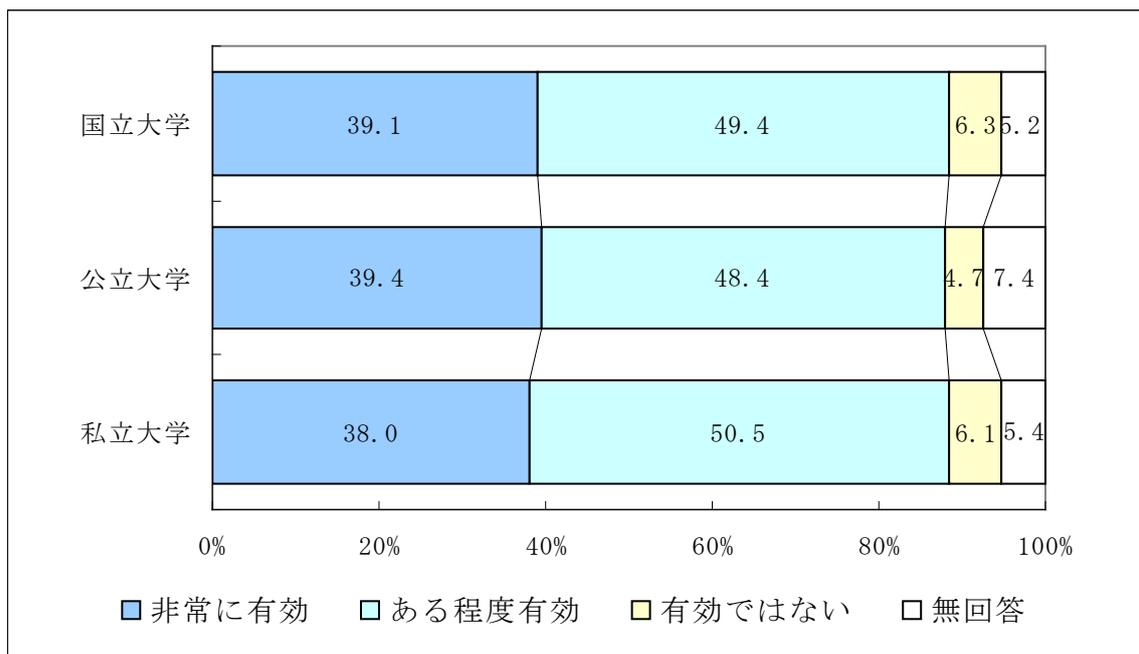
授業方法としての項目のうち、『最終試験の他に小テストやレポートなどの課題を出す』という授業実施の有無について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた実施率は、国立大学が84.5%、公立大学が82.5%、私立大学が85.6%いずれも8割以上となっており、設置形態による差はほとんどみられない。(図表5-11)

図表5-11 授業の方法（設置形態別）
【最終試験の他に小テストやレポートなどの課題を出す】



次に、『最終試験の他に小テストやレポートなどの課題を出す』という授業の実施効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学が88.5%、公立大学が87.8%、私立大学が88.5%となっており、設置形態による差はほとんどみられず、いずれも9割近くが有効であると評価している。(図表5-12)

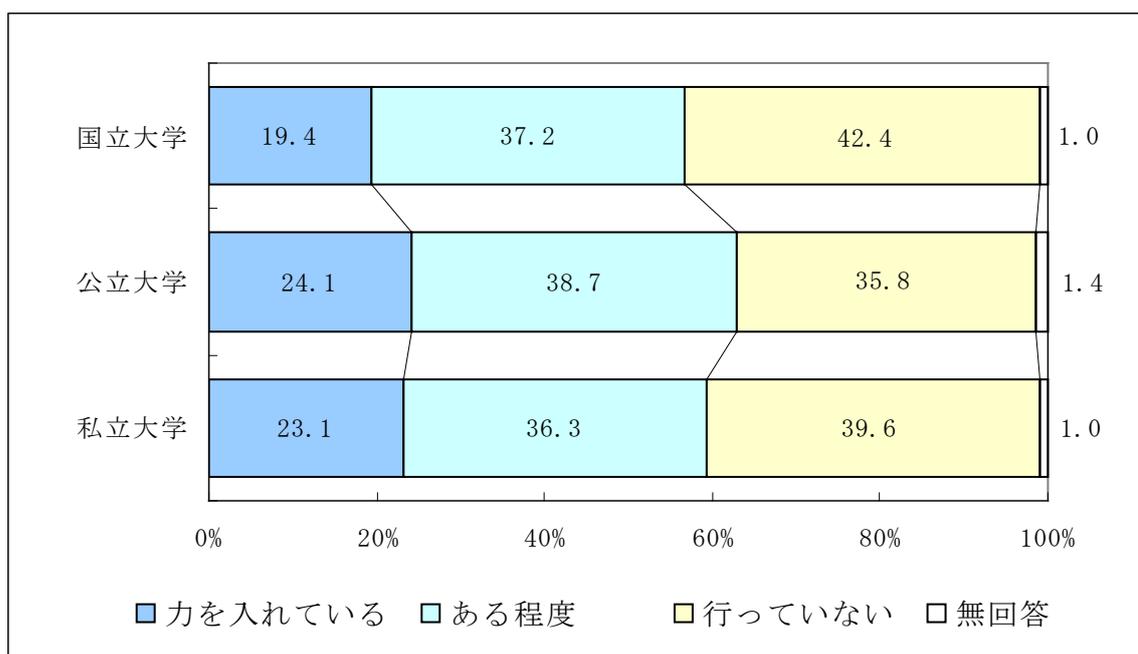
図表5-12 授業方法に対する効果（設置形態別）
【最終試験の他に小テストやレポートなどの課題を出す】



(6) コメントをつけて課題などの提出物を返却する

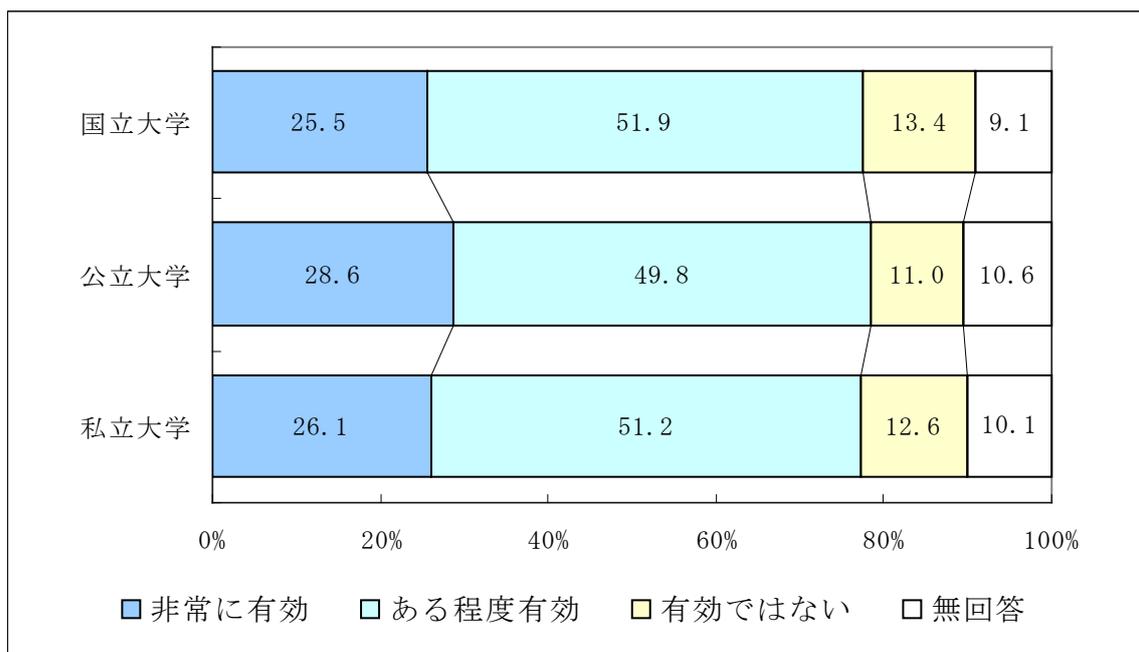
授業方法としての項目のうち、『コメントをつけて課題などの提出物を返却する』という授業実施の有無について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた実施率は、国立大学（56.6%）、私立大学（59.4%）に比べて公立大学（62.8%）で高くなっている。（図表5-13）

図表5-13 授業の方法（設置形態別）
【コメントをつけて課題などの提出物を返却する】



次に、『コメントをつけて課題などの提出物を返却する』という授業の実施効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学が77.4%、公立大学が78.4%、私立大学が77.3%となっており、設置形態による差はほとんどみられず、いずれもほぼ8割の教員が効果的と考えている。(図表5-14)

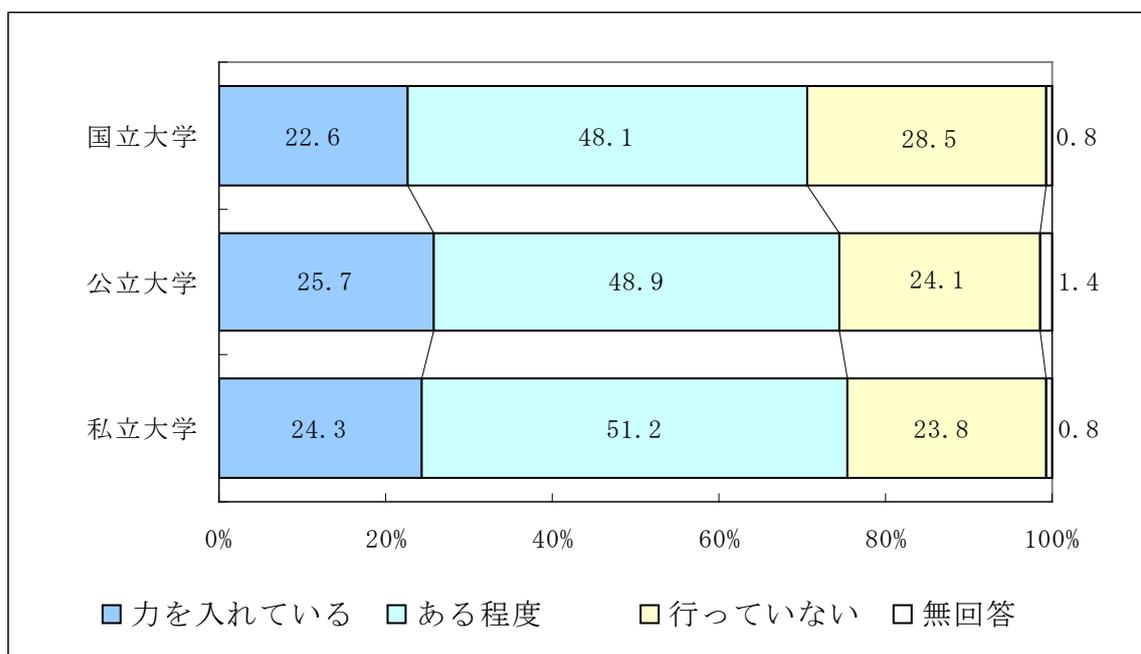
図表5-14 授業方法に対する効果（設置形態別）
【コメントをつけて課題などの提出物を返却する】



(7)授業中に学生の意見や考えを述べさせる

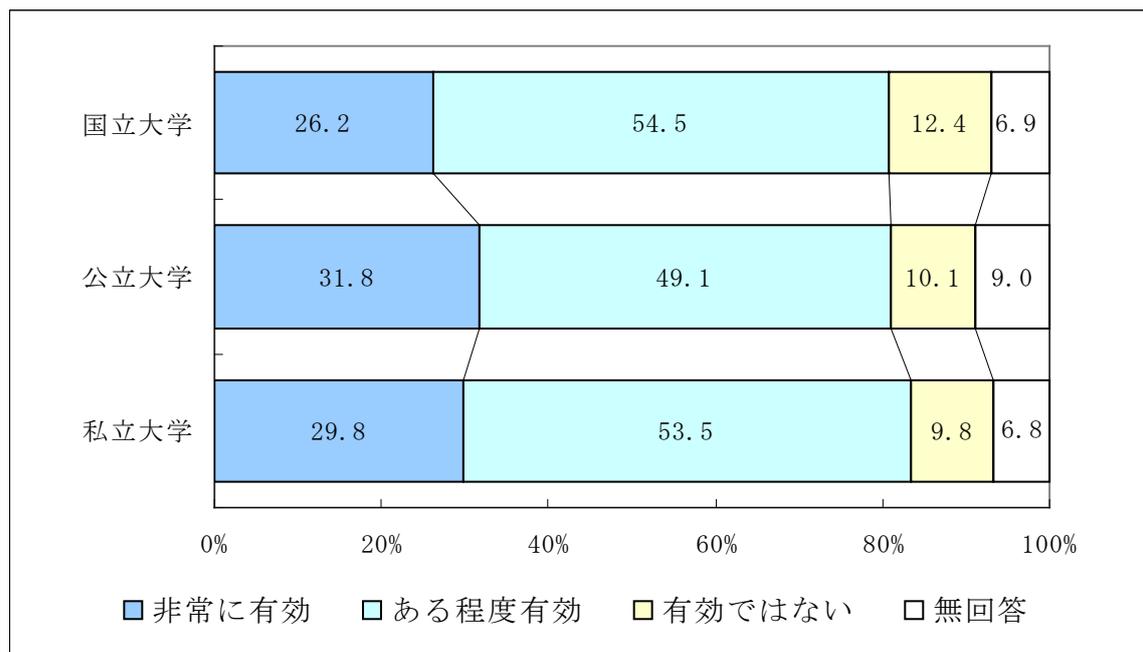
授業方法としての項目のうち、『授業中に学生の意見や考えを述べさせる』という授業実施の有無について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた実施率は、国立大学（70.7％）に比べて公立大学（74.6％）、私立大学（75.5％）でやや高くなっている。（図表5－15）

図表5－15 授業の方法（設置形態別）
【授業中に学生の意見や考えを述べさせる】



次に、『授業中に学生の意見や考えを述べさせる』という授業の実施効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学が80.7%、公立大学が80.9%、私立大学が83.3%となっており、設置形態による差はほとんどみられず、いずれも8割強の教員が有効であると考えている。(図表5-16)

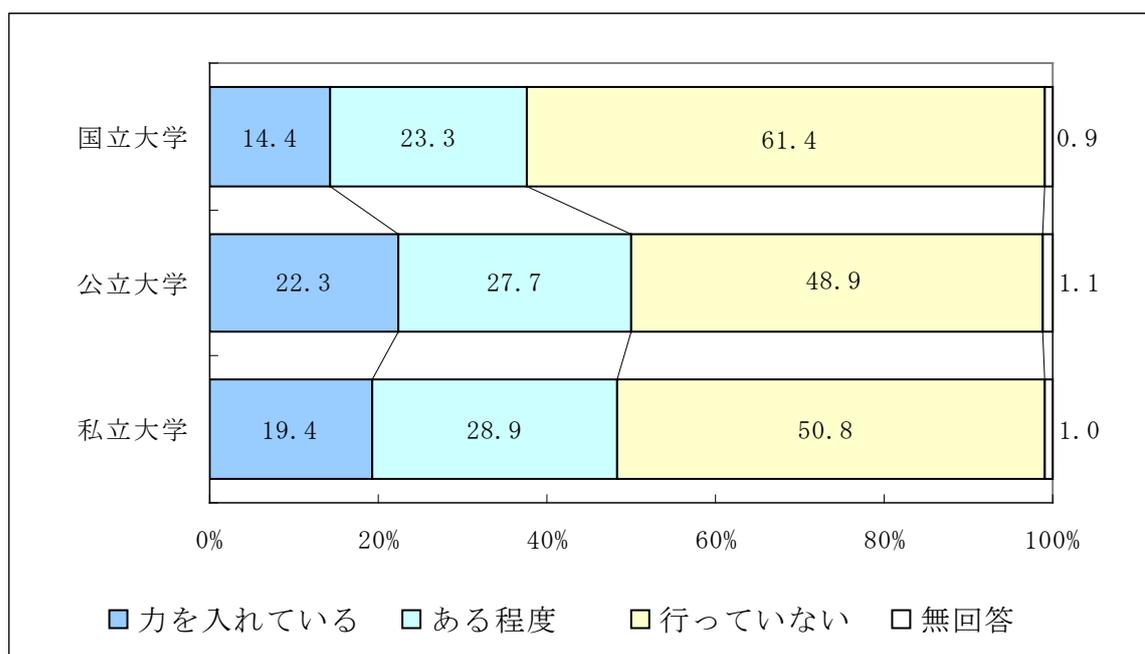
図表5-16 授業方法に対する効果（設置形態別）
【授業中に学生の意見や考えを述べさせる】



(8) グループワークなど、学生が参加する機会をつくる

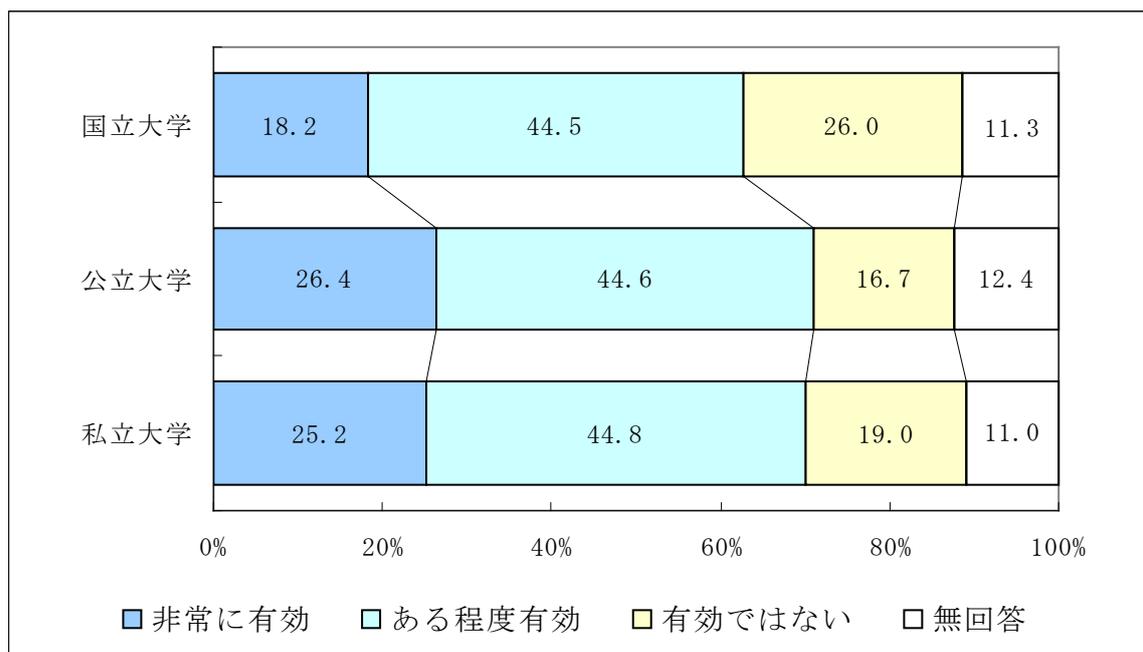
授業方法としての項目のうち、『グループワークなど、学生が参加する機会をつくる』という授業実施の有無について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた実施率は、国立大学（37.7％）に比べて公立大学（50.0％）、私立大学（48.3％）で高くなっている。（図表5-17）

図表5-17 授業の方法（設置形態別）
【グループワークなど、学生が参加する機会をつくる】



次に、『グループワークなど、学生が参加する機会をつくる』という授業の実施効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学（62.7％）に比べて公立大学（71.0％）、私立大学（70.0％）で評価が高くなっている。（図表5-18）

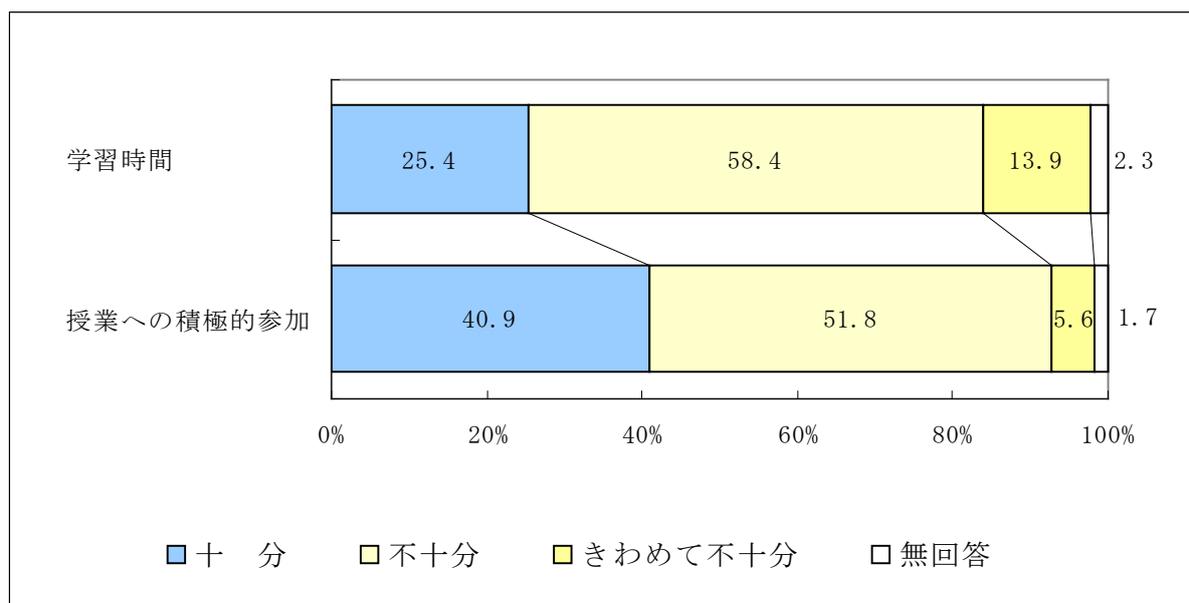
図表5-18 授業方法に対する効果（設置形態別）
【グループワークなど、学生が参加する機会をつくる】



6. 出席学生の意欲

授業に出席している学生の意欲についてみると、『学習時間』については「十分」が25.4%と少なく、全体の4分の1程度である。『授業への積極的参加』について「十分」という回答は、『学習時間』よりは多いものの、40.9%にとどまっている。(図表6-1)

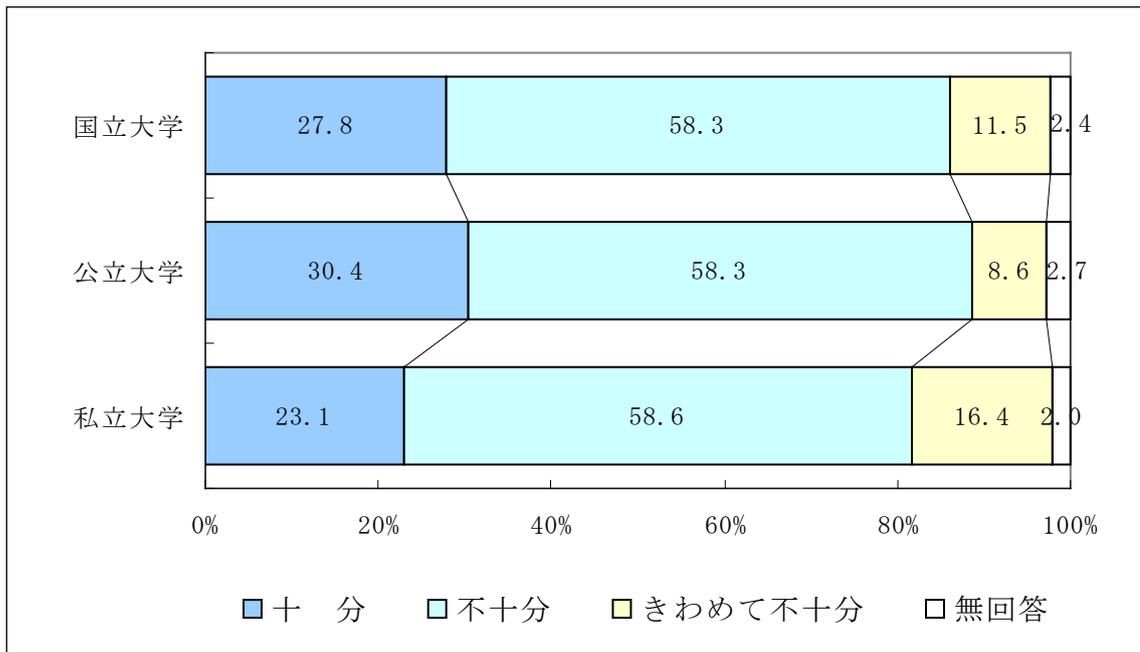
図表6-1 出席学生の意欲



(1) 学習時間

授業に出席している学生の『学習時間』について設置形態別にみると、「十分」という回答は、私立大学（23.1%）に比べて国立大学（27.8%）、公立大学（30.4%）に多くなっている。（図表6-2）

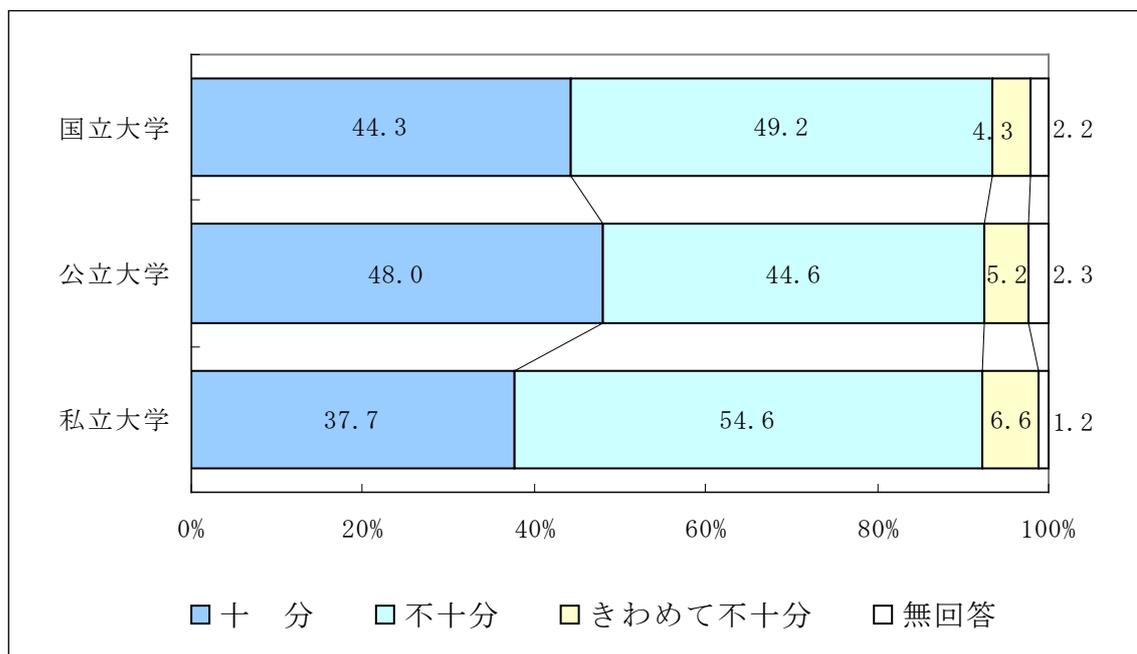
図表6-2 出席学生の意欲（設置形態別）
【学習時間】



(2) 授業への積極的参加

授業に出席している学生の『授業への積極的参加』の程度について設置形態別にみると、先の『学習時間』と同様に、「十分」という回答は、私立大学（37.7％）に比べて国立大学（44.3％）、公立大学（48.0％）に多くなっている。また、公立大学では、「不十分」と「きわめて不十分」を合わせると49.8％で、「十分」という意見と「不十分」という意見とに評価が分かれている。（図表6－3）

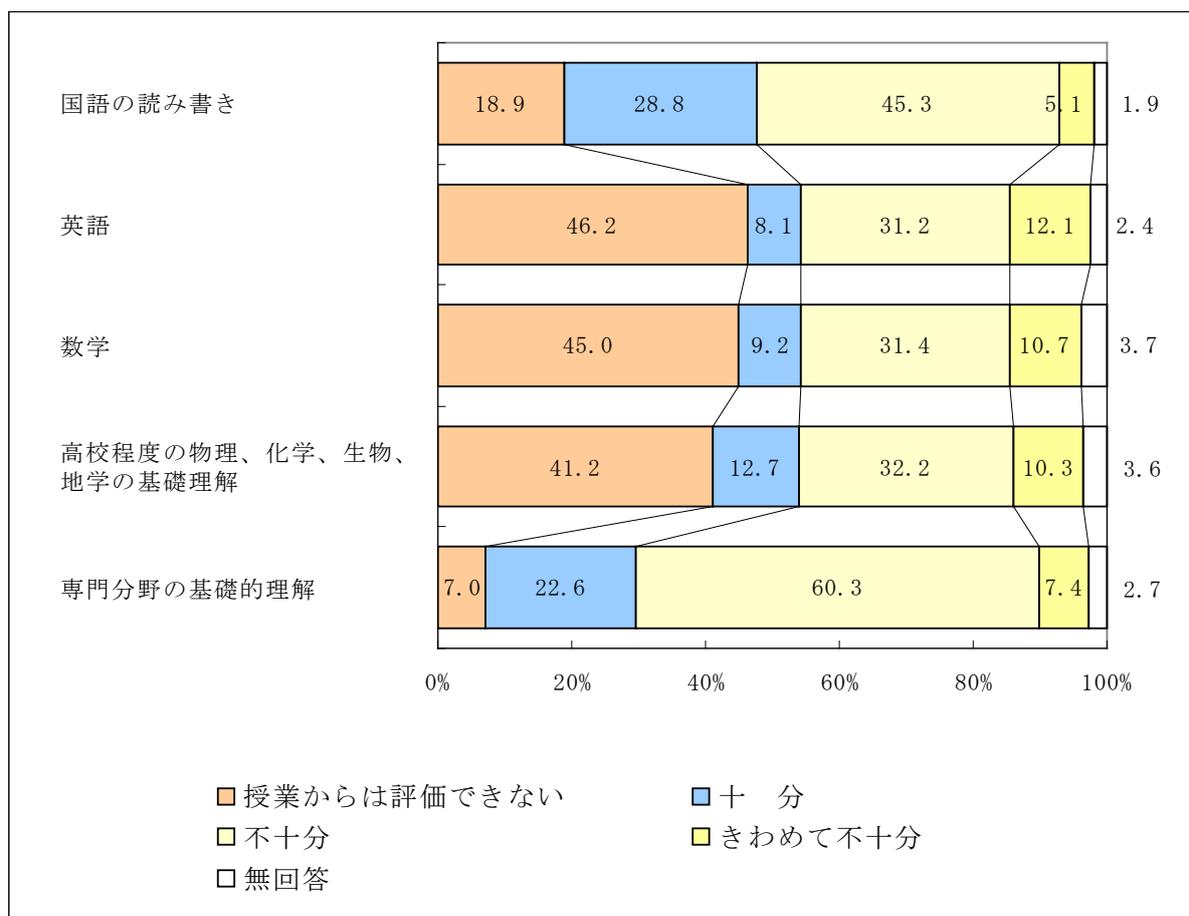
図表6－3 出席学生の意欲の程度（設置形態別）
【授業への積極的参加】



7. 出席学生の学力

授業に出席している学生の学力について5つの面からみると、『英語』、『数学』、『高校程度の物理、化学、生物、地学の基礎理解』については、「授業からは評価できない」が40%台と多いものの、「十分」という意見はそれぞれ8.1%、9.2%、12.7%と少なくなっている。一方、『国語の読み書き』、『専門分野の基礎的理解』については、「十分」がそれぞれ28.8%、22.6%と、この5項目の中では比較的多い。(図表7-1)

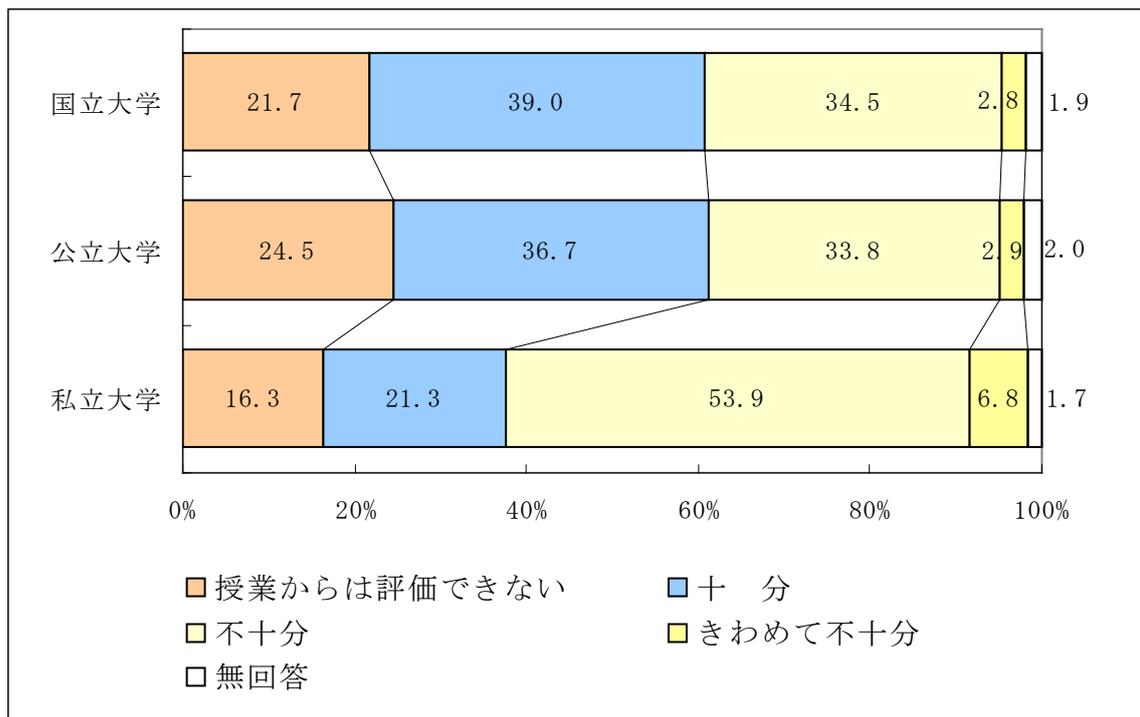
図表7-1 出席学生の学力



(1) 国語の読み書き

学生の学力のうち、『国語の読み書き』について設置形態別にみると、「十分」という意見は、私立大学（21.3％）に比べて国立大学（39.0％）、公立大学（36.7％）に多くなっている。また、国立大学、公立大学では、「十分」と「不十分」（「不十分」＋「きわめて不十分」）とに評価が分かれている。（図表7－2）

図表7－2 出席学生の学力（設置形態別）
【国語の読み書き】

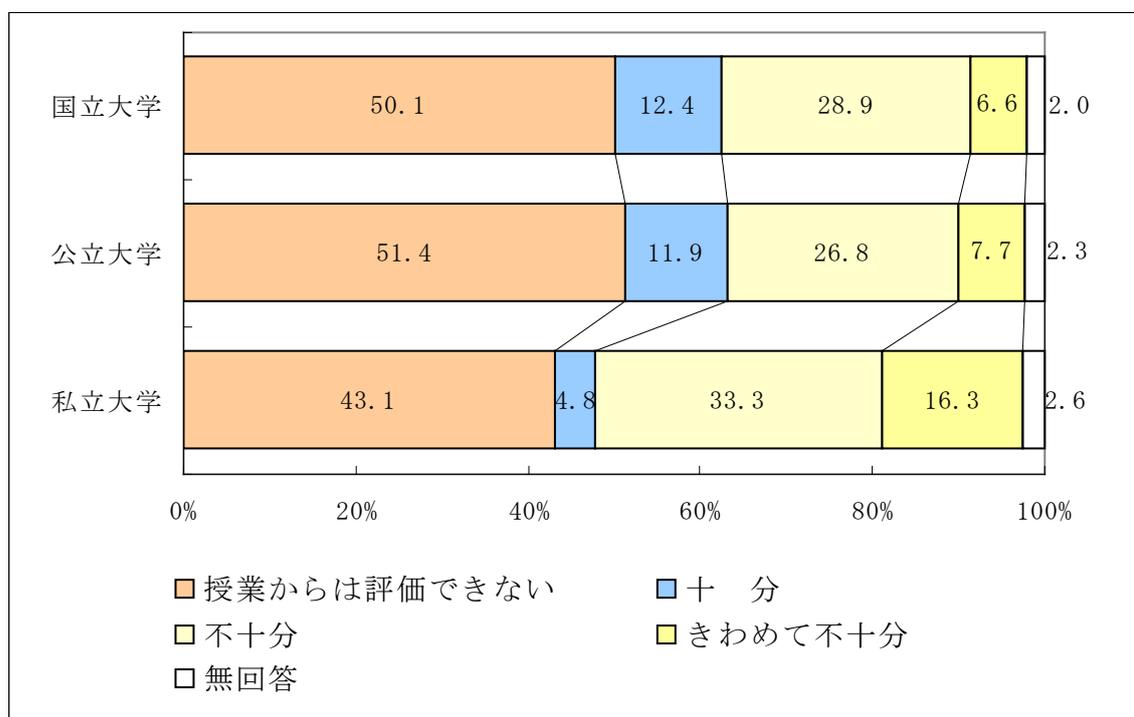


(2) 英語

学生の学力のうち、『英語』について設置形態別にみると、国立大学、公立大学では私立大学に比べて「授業からは評価できない」が半数を占めて多いものの、「十分」が私立大学（4.8%）よりも国立大学（12.4%）、公立大学（11.9%）に多くなっている。また、私立大学では、「不十分」と「きわめて不十分」とを合わせて半数近くを占めている。（図表7-3）

図表7-3 出席学生の学力（設置形態別）

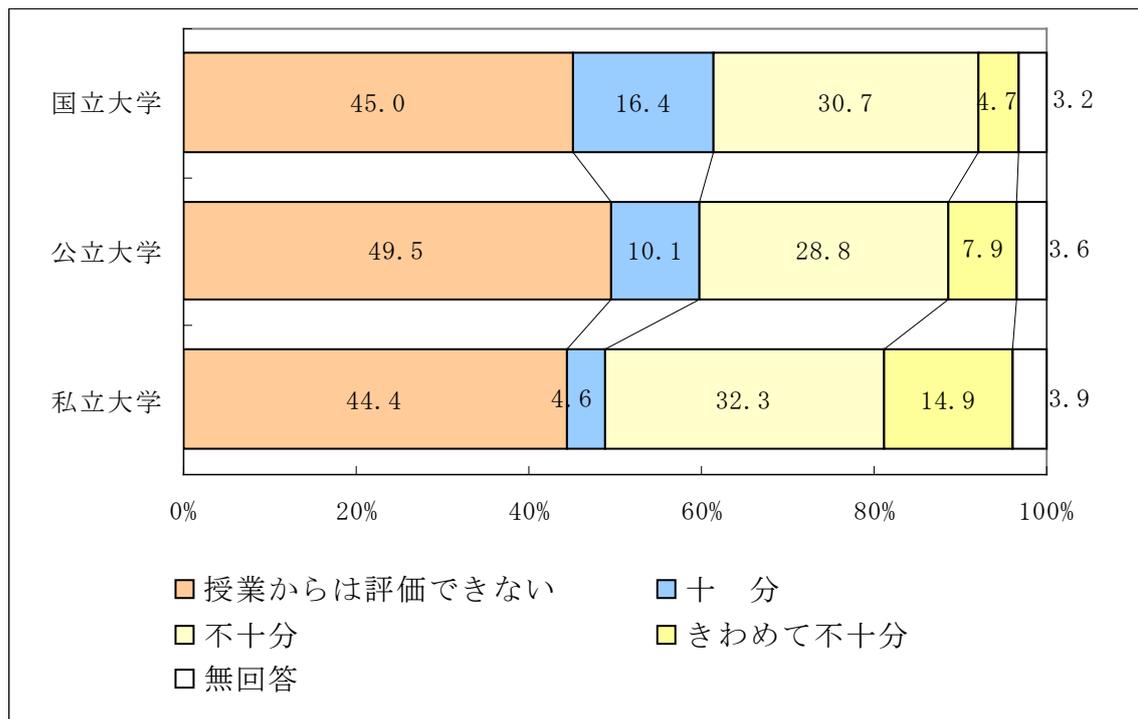
【英語】



(3) 数学

学生の学力のうち、『数学』について設置形態別にみると、「十分」は私立大学（4.6%）よりも国立大学（16.4%）、公立大学（10.1%）に多く、私立大学では「不十分」と「きわめて不十分」とを合わせて半数近くを占めている。（図表7-4）

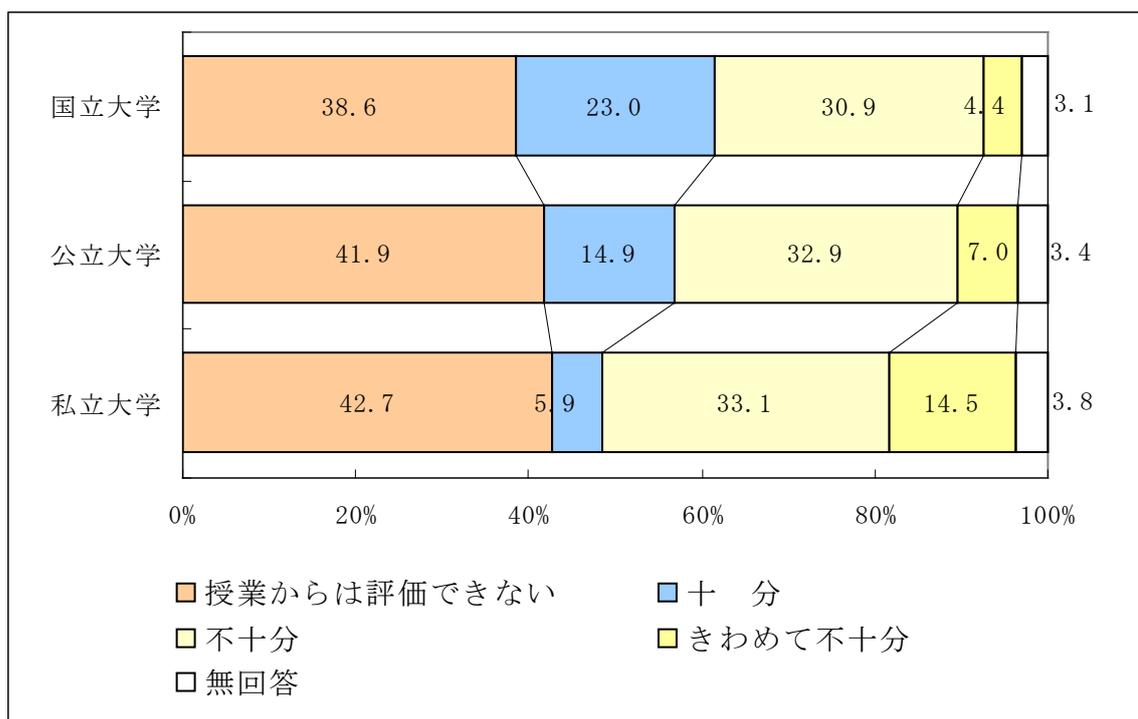
図表7-4 出席学生の学力の程度（設置形態別）
【数学】



(4) 高校程度の物理、化学、生物、地学の基礎理解

学生の学力のうち、『高校程度の物理、化学、生物、地学の基礎理解』について設置形態別にみると、「十分」は私立大学（5.9%）に比べて国立大学（23.0%）、公立大学（14.9%）に多く、私立大学では、「不十分」と「きわめて不十分」とを合わせてほぼ半数を占めている。（図表7-5）

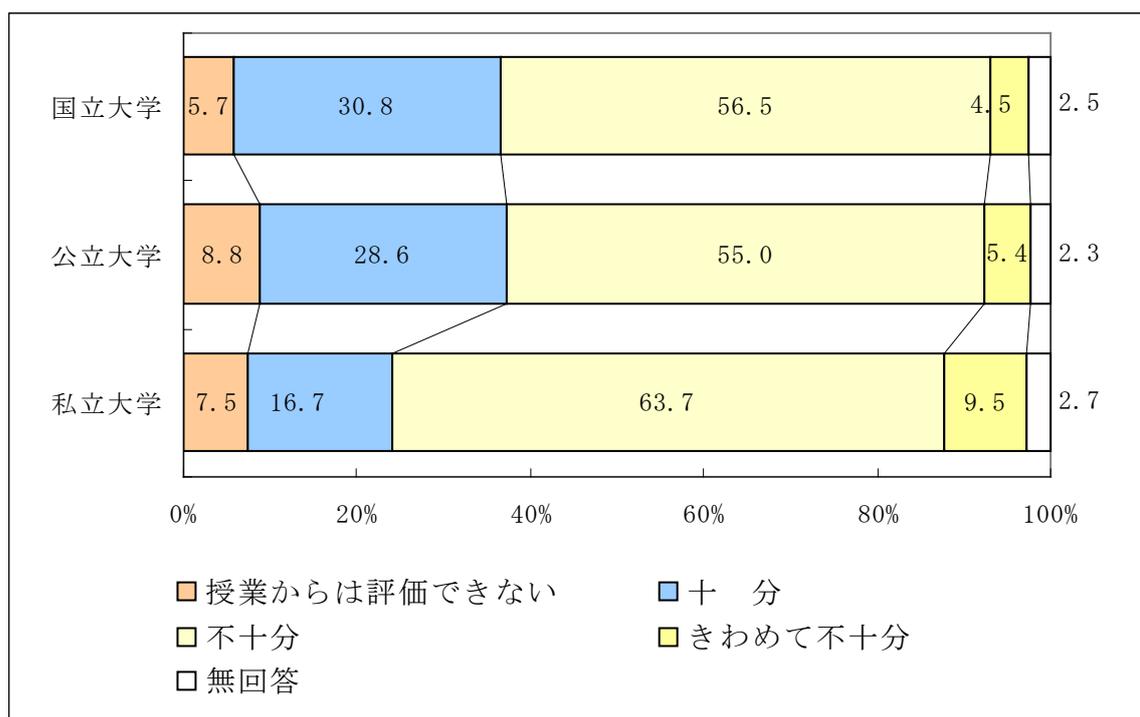
図表7-5 出席学生の学力の程度（設置形態別）
【高校程度の物理、化学、生物、地学の基礎理解】



(5) 専門分野の基礎的理解

学生の学力のうち、『高校程度の物理、化学、生物、地学の基礎理解』について設置形態別にみると、「十分」は私立大学（16.7％）に比べて国立大学（30.8％）、公立大学（28.6％）に多く、私立大学では、「不十分」と「きわめて不十分」とを合わせて7割強を占めて多くになっている。（図表7－6）

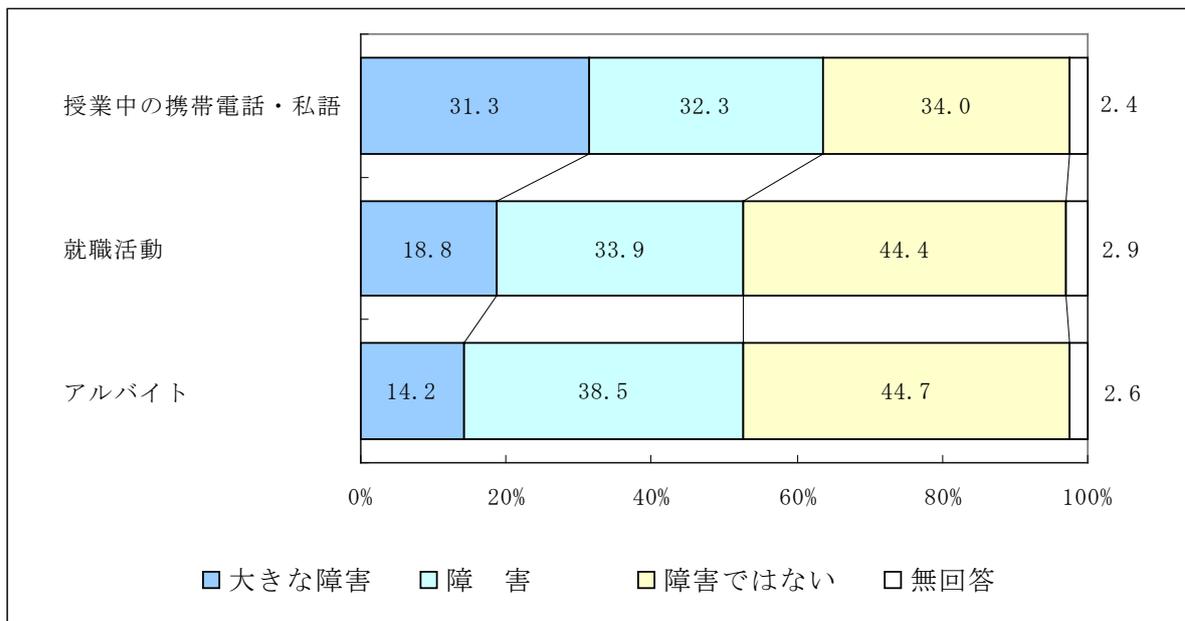
図表7－6 出席学生の学力の程度（設置形態別）
【専門分野の基礎的理解】



8. 授業の阻害要因に対する考え

授業の阻害要因として考えられる3つの項目についてみると、『授業中の携帯電話・私語』については、「大きな障害」が31.3%と最も多く、これに「障害」(32.3%)を合わせると、6割強がこの項目を授業の阻害要因と考えている。『就職活動』、『アルバイト』については、「大きな障害」と「障害」とを合わせると、ともに52.7%と半数程度である。(図8-1)

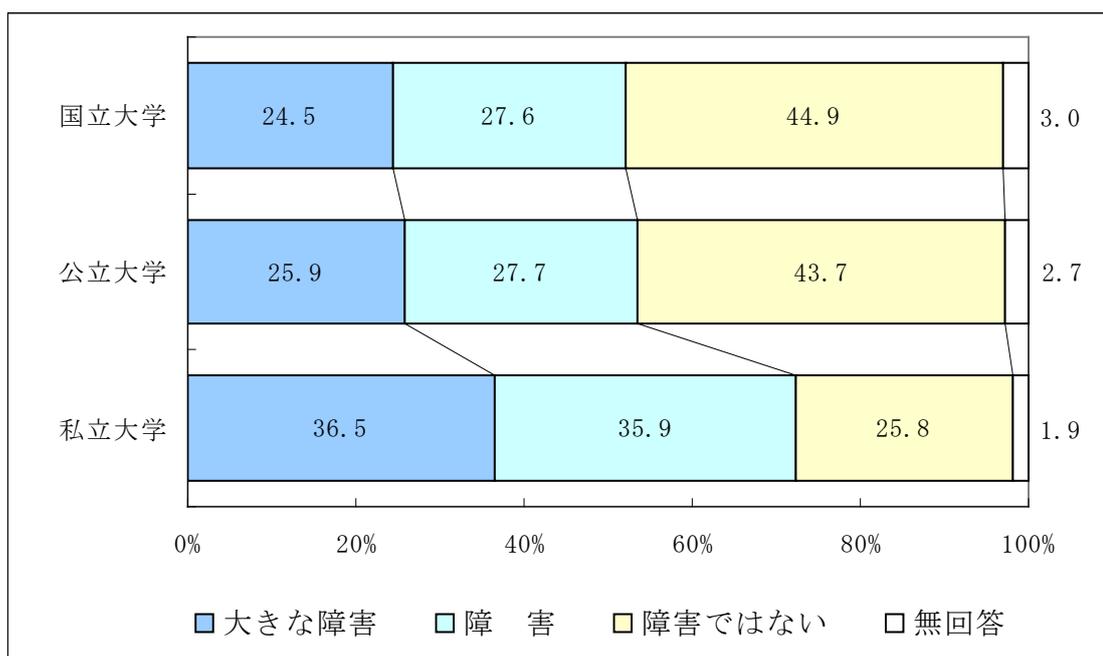
図8-1 授業の阻害要因



(1)授業中の携帯電話・私語

授業の阻害要因と考えられる項目のうち、『授業中の携帯電話・私語』について設置形態別にみると、「大きな障害」は私立大学に36.5%と最も多く、「大きな障害」と「障害」とを合わせた率でも、国立大学(52.1%)、公立大学(53.6%)に比べて私立大学(72.4%)に極めて多くなっている。(図表8-2)

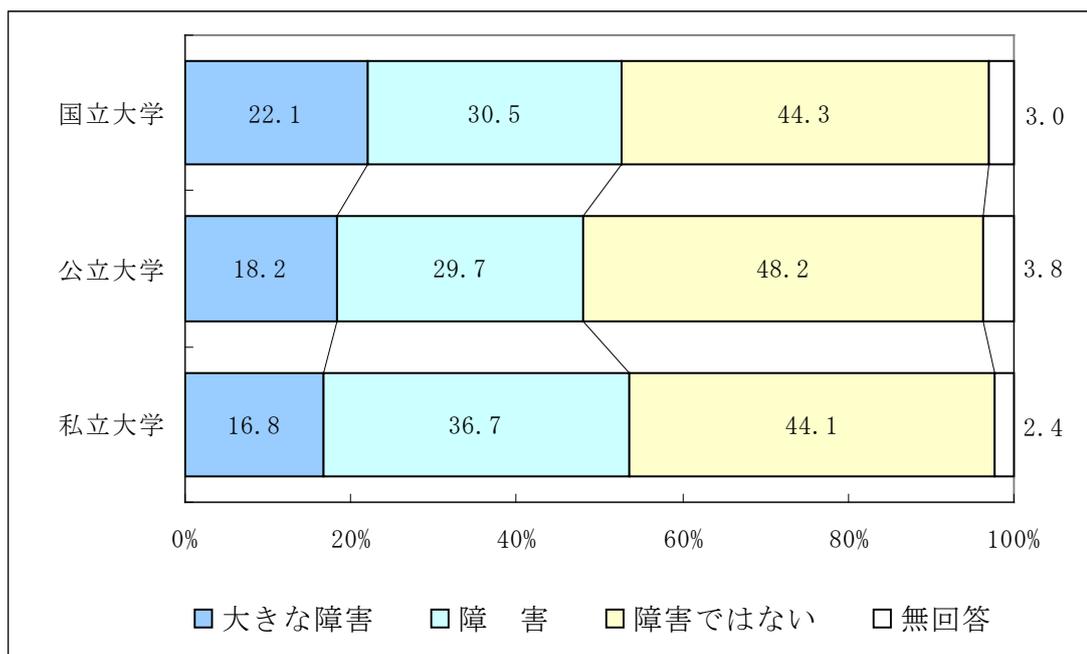
図8-2 授業の阻害要因(設置形態別)
【授業中の携帯電話・私語】



(2) 就職活動

授業の阻害要因と考えられる項目のうち、『就職活動』について設置形態別にみると、「大きな障害」と「障害」とを合わせた率では、公立大学（47.9％）に比べて国立大学（52.6％）、私立大学（53.5％）に多くなっている。（図表 8－3）

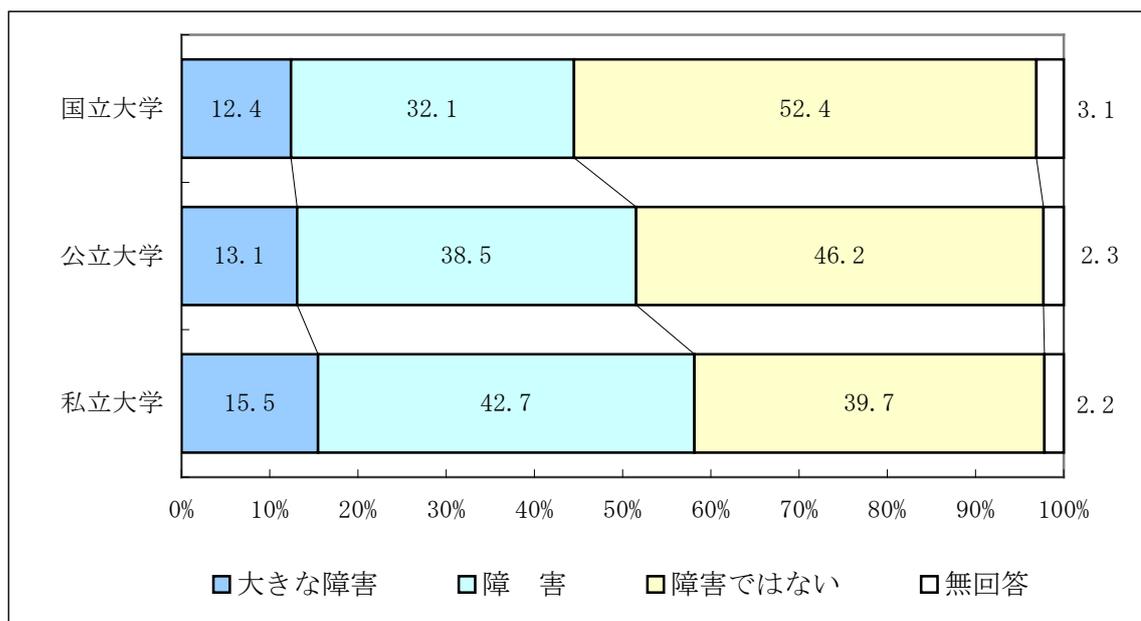
図 8－3 授業の阻害要因（設置形態別）
【就職活動】



(3) アルバイト

授業の阻害要因と考えられる項目のうち、『アルバイト』について設置形態別にみると、「大きな障害」と「障害」とを合わせた率では、私立大学に58.2%と最も多く、ほぼ6割を占めている。次いで公立大学が51.6%、国立大学が44.5%の順である。(図表8-4)

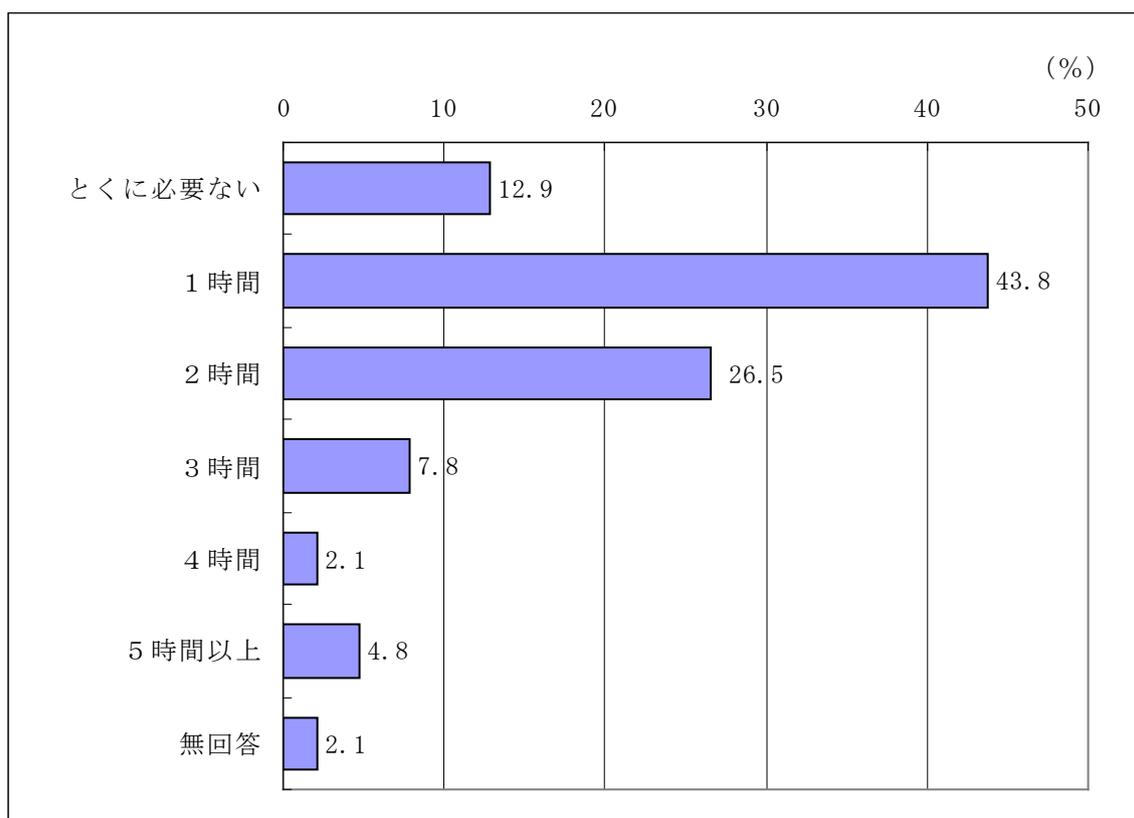
図8-4 授業の阻害要因（設置形態別）
【アルバイト】



9. 想定する学習時間

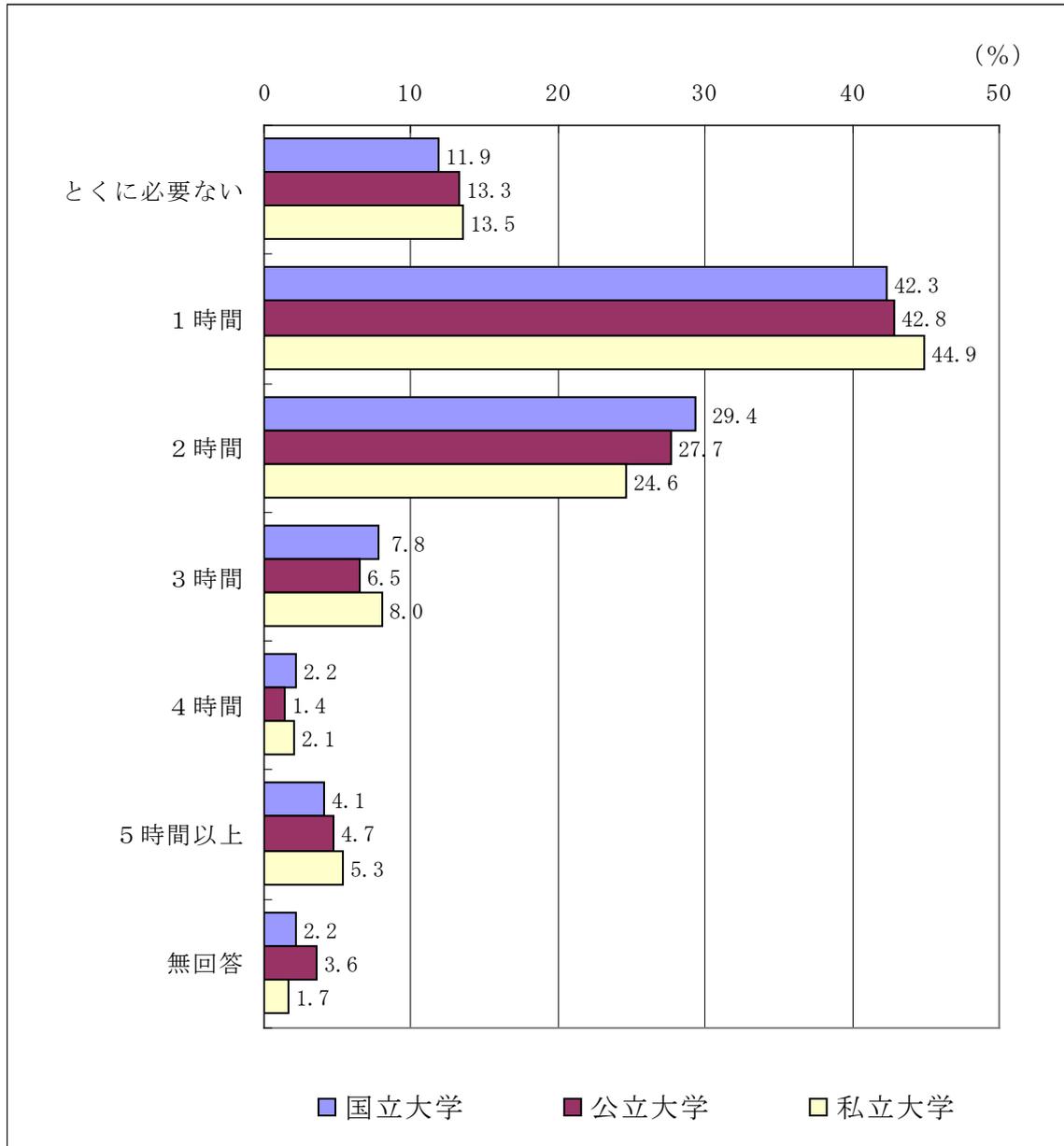
授業の準備・復習として、想定する学生の学習時間についてみると、「1時間」が43.8%で最も多く、次いで「2時間」が26.5%で続き、「1～2時間」が全体の7割を占めている。また、授業の準備・復習のための学習時間は「とくに必要ない」という回答が12.9%である。（図9-1）

図9-1 想定する学習時間



想定する学習時間について設置形態別にみると、「1時間」については国立大学が42.3%、公立大学が42.8%、私立大学が44.9%で、設置形態による差はほとんどみられない。「2時間」については、私立大学(24.6%)に比べて国立大学(29.4%)、公立大学(27.7%)にやや多くなっている。(図9-2)

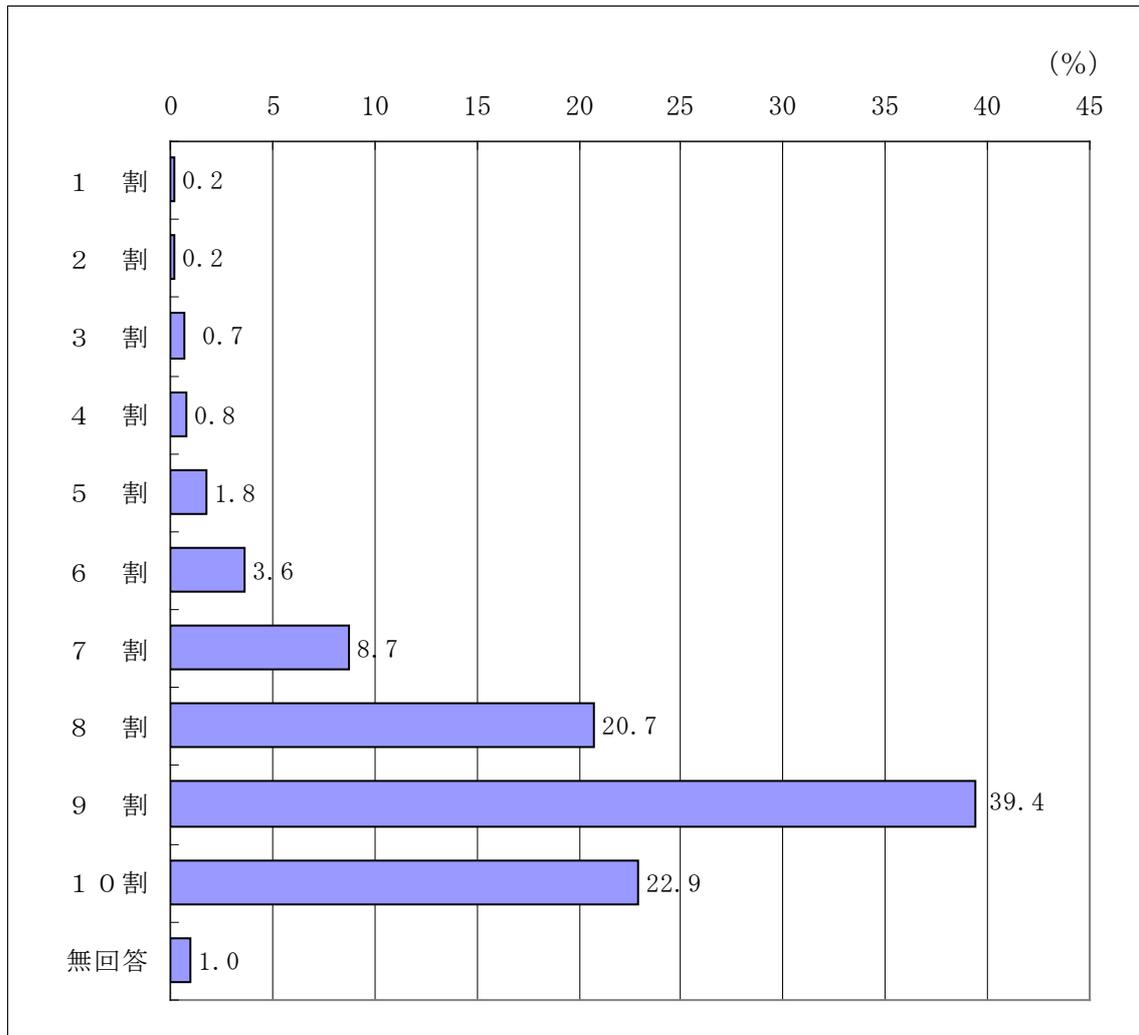
図9-2 想定する学習時間(設置形態別)



10. 授業への出席率

最終的に試験を受ける学生の授業への出席率についてみると、「9割」が39.4%で最も多く、次いで「10割」が22.9%、「8割」が20.7%で、平均では8.6割である。(図10-1)

図10-1 授業への出席率



※<平均出席率=8.6割>

最終的に試験を受ける学生の授業への出席率について設置形態別にみると、「10割」が国立大学（22.4%）、私立大学（22.0%）に比べて公立大学（31.1%）に多くなっている。平均出席率では、設置形態による差はみられない。（図表10-2）

図表10-2 授業への出席率（設置形態別）

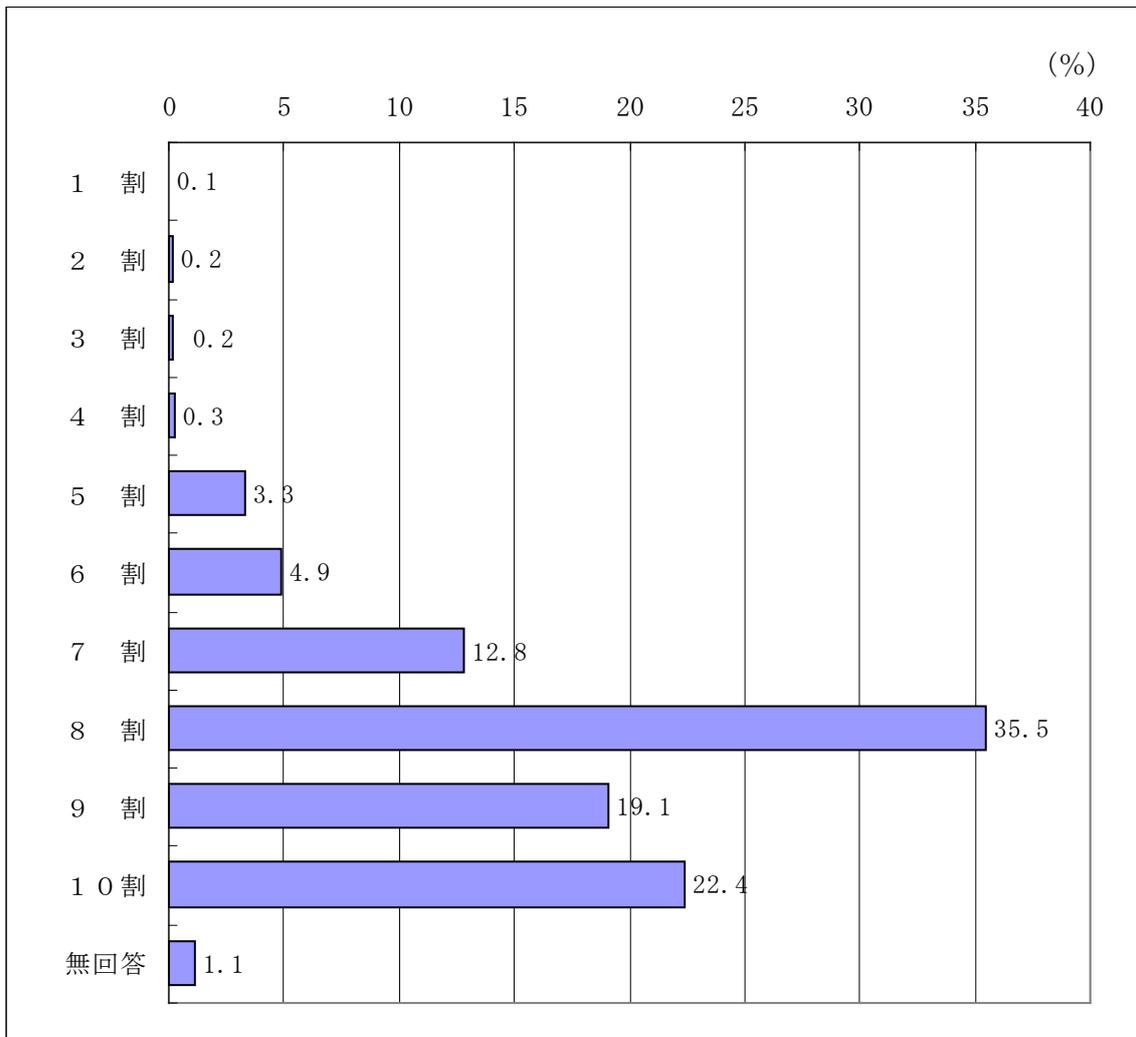
	1割	2割	3割	4割	5割	6割
国立大学	0.2	0.3	0.4	0.6	1.1	3.6
公立大学	0.2	0.0	0.5	0.7	1.4	2.3
私立大学	0.1	0.1	0.9	1.0	2.2	3.9

	7割	8割	9割	10割	無回答	平均出席率
国立大学	8.1	20.8	41.5	22.4	1.0	8.6
公立大学	8.3	16.9	37.4	31.1	1.4	8.8
私立大学	9.1	21.2	38.6	22.0	0.7	8.5

11. 学生の理解度

授業に出ている学生の理解度の目標についてみると、「8割」が35.5%で最も多く、次いで「10割」(22.4%)、「9割」(19.1%)、「7割」(12.8%)の順で、平均は8.3割である。(図表11-1)

図表11-1 学生の理解度(目標)



※<平均理解度(目標) = 8.3割>

学生の理解度の目標について設置形態別にみると、「8割」は国立大学(37.0%)、「10割」は国立大学(24.0%)、公立大学(24.5%)に多くなっている。平均では、国立大学が8.3割、公立大学が8.3割、私立大学が8.2割で、差はみられない。(図表11-2)

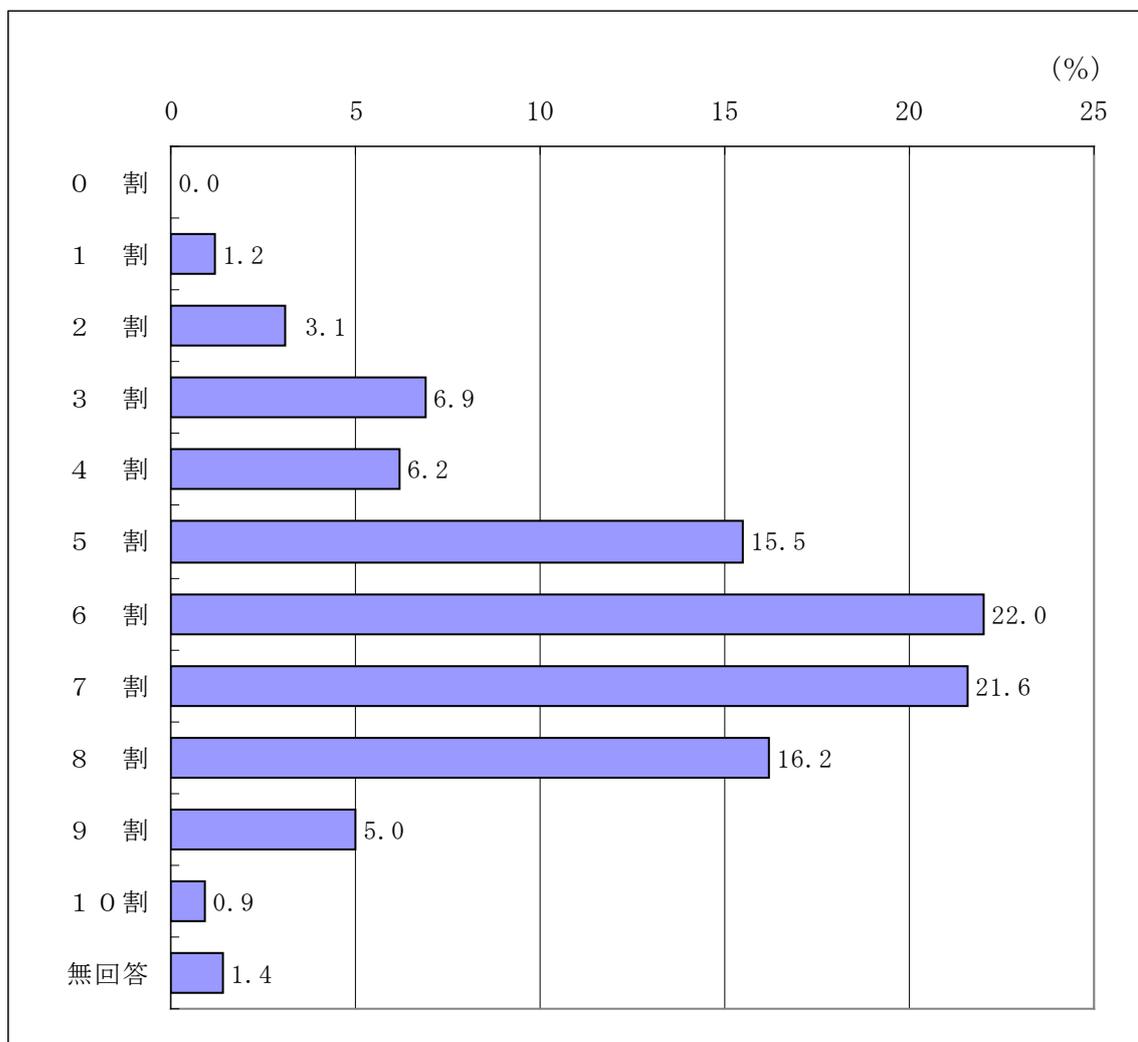
図表 11-2 学生の理解度(目標)(設置形態別)

	1割	2割	3割	4割	5割	6割
国立大学	0.1	0.3	0.3	0.4	2.6	4.7
公立大学	0.0	0.0	0.2	0.2	3.8	5.4
私立大学	0.1	0.1	0.2	0.3	3.6	4.9

	7割	8割	9割	10割	無回答	平均理解度(目標)
国立大学	11.5	37.0	18.0	24.0	1.3	8.3
公立大学	12.4	33.6	18.5	24.5	1.4	8.3
私立大学	13.7	35.1	20.0	21.1	0.8	8.2

授業に出ている学生の実際の理解度については、「6割」が22.0%、「7割」が21.6%で多く、次いで「8割」(16.2%)、「5割」(15.5%)の順で多く、平均は6.1割である。(図表11-3)

図表 11-3 学生の理解度 (実際)



※<平均理解度 (実際) =6.1 割>

学生の理解度の実際について設置形態別にみると、「6割」は公立大学（18.5%）に比べて国立大学（22.3%）、私立大学（22.4%）に多く、「8割」は私立大学（14.2%）に比べて国立大学（18.8%）、公立大学（19.6%）に多い。また、「5割」は国立大学（13.5%）、公立大学（12.8%）に比べて私立大学（17.1%）に多く、平均では、私立大学（5.9割）に比べて国立大学（6.3割）、公立大学（6.3割）に多い。（図表11-4）

図表 11-4 学生の理解度（実際）（設置形態別）

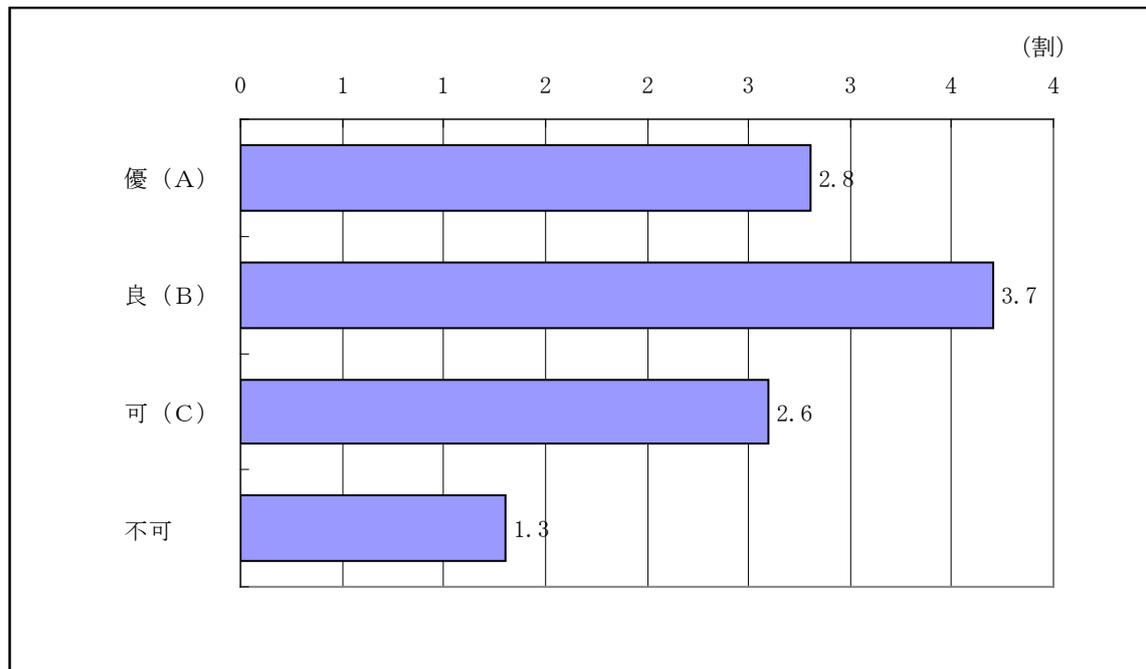
	0 割	1 割	2 割	3 割	4 割	5 割	6 割
国立大学	0.0	0.7	2.4	5.6	5.8	13.5	22.3
公立大学	0.0	0.2	2.7	6.1	6.5	12.8	18.5
私立大学	0.1	1.7	3.5	7.9	6.3	17.1	22.4

	7 割	8 割	9 割	10割	無回答	平均理解度（実際）
国立大学	22.1	18.8	6.0	1.3	1.4	6.3
公立大学	23.2	19.6	7.0	2.0	1.4	6.3
私立大学	21.2	14.2	4.0	0.6	1.2	5.9

12. 成績の配分

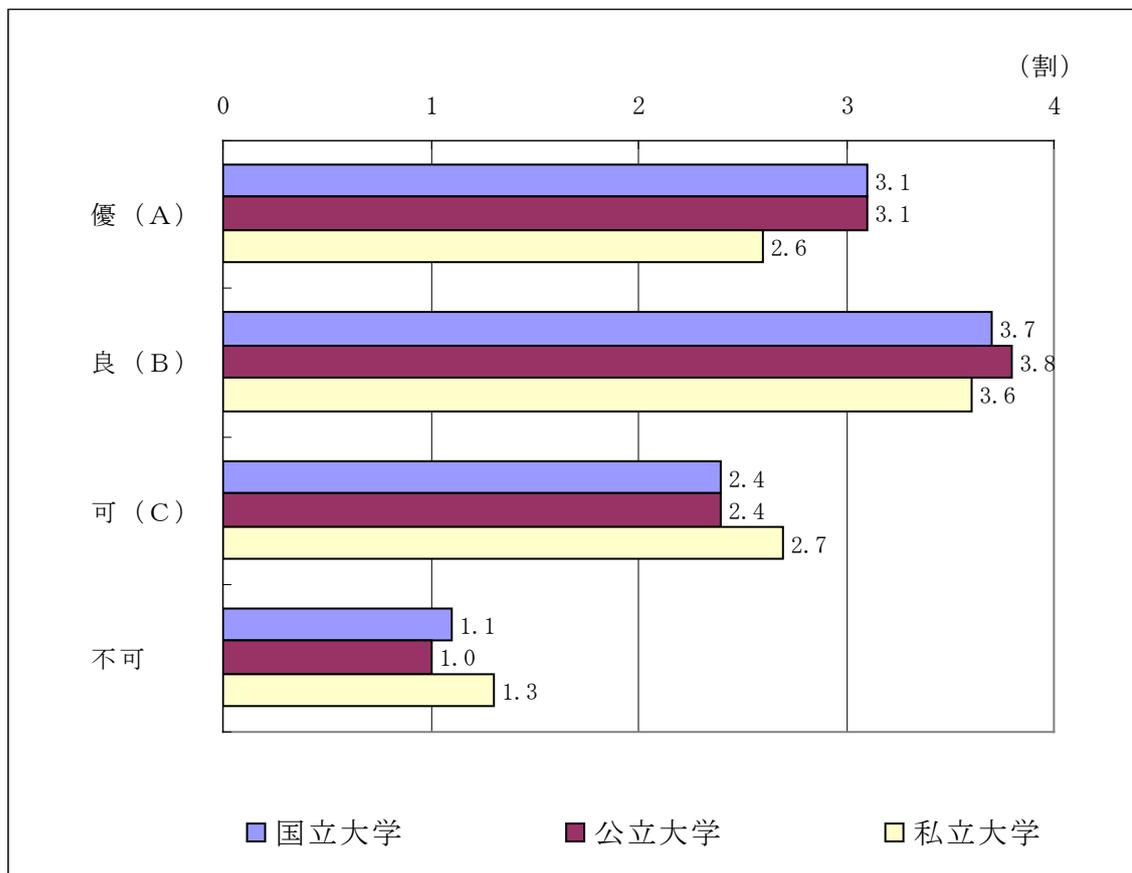
成績の配分についてみると、平均では「優（A）」が2.3割、「良（B）」が3.7割、「可（C）」が2.6割、「不可」が1.3割であり、「良（B）」が最も配分で多くなっている。（図表12-1）

図表12-1 成績の配分（平均）



成績の配分について設置形態別にみると、平均では「優（A）」は私立大学（2.6割）に比べて国立大学（3.1割）、公立大学（3.1割）に多く、「可（C）」は国立大学（2.4割）、公立大学（2.4割）に比べて私立大学（2.7割）に多い。（図表 12-2）

図表 12-2 成績の配分（平均）（設置形態別）



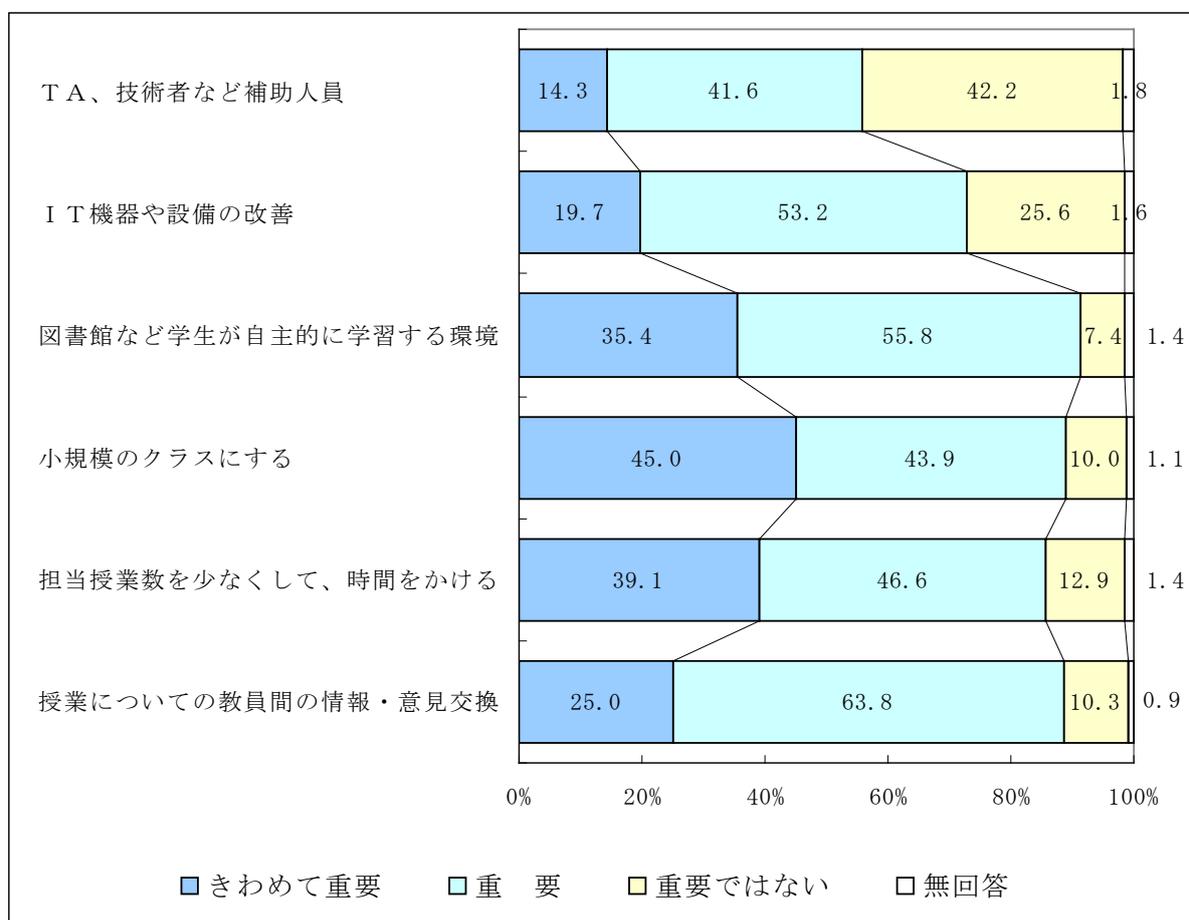
	優 (A)	良 (B)	可 (C)	不可
国立大学	3.1	3.7	2.4	1.1
公立大学	3.1	3.8	2.4	1.0
私立大学	2.6	3.6	2.7	1.3

第Ⅲ章 大学教育の現在と改善の方向について

13. より良い授業にするための条件

より良い授業にするための条件についてみると、「きわめて重要」と「重要」とを合わせた率では、『図書館など学生が自主的に学習する環境』(91.2%)、『小規模のクラスにする』(88.9%)、『授業についての教員間の情報・意見交換』(88.8%)、『担当授業数を少なくして、時間をかける』(85.7%)の4項目については、8割以上がより良い授業にするための条件として重要視している。次いで『IT機器や設備の改善』(72.9%)であり、『TA、技術者など補助人員』(55.9%)については5割程度しか重要視されていない。(図表13-1)

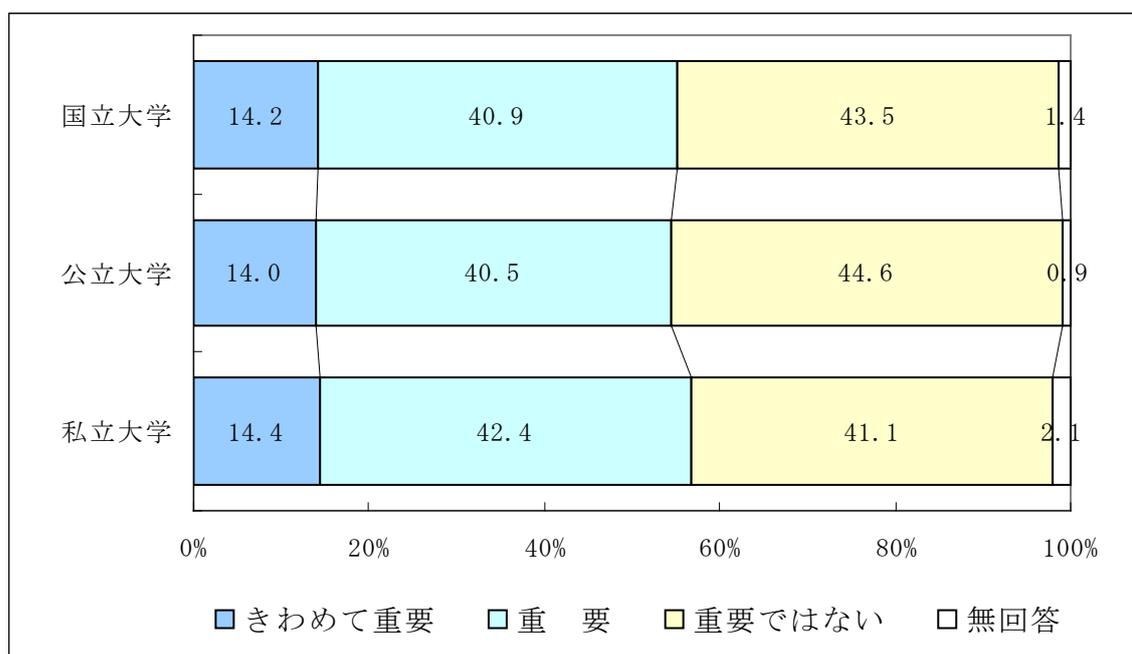
図表13-1 より良い授業にするための条件



(1) T A、技術者など補助人員

より良い授業にするための条件のうち、『T A、技術者など補助人員』について設置形態別にみると、「きわめて重要」と「重要」とを合わせた率では、国立大学で55.1%、公立大学で54.5%、私立大学で56.8%となっており、設置形態による差はほとんどみられない。
(図表 13-2)

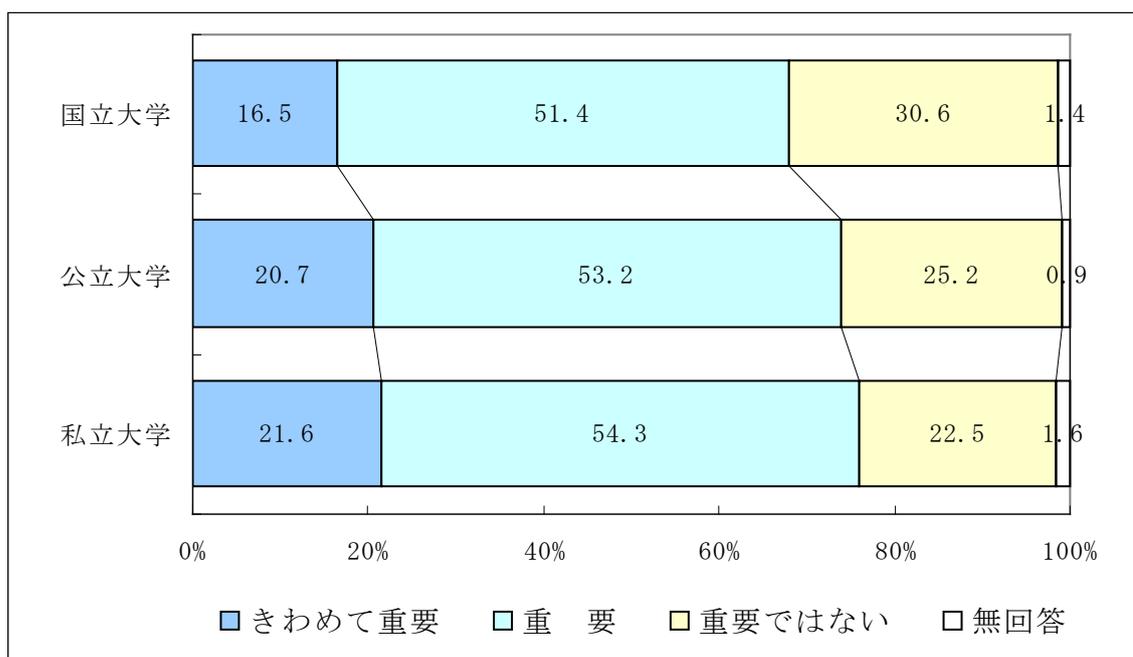
図表 13-2 より良い授業にするための条件（設置形態別）
【T A、技術者など補助人員】



(2) I T機器や設備の改善

より良い授業にするための条件のうち、『I T機器や設備の改善』について設置形態別にみると、「きわめて重要」と「重要」とを合わせた率では、国立大学（67.9%）に比べて公立大学（73.9%）、私立大学（75.9%）で重要度が高くなっている。（図表 13－3）

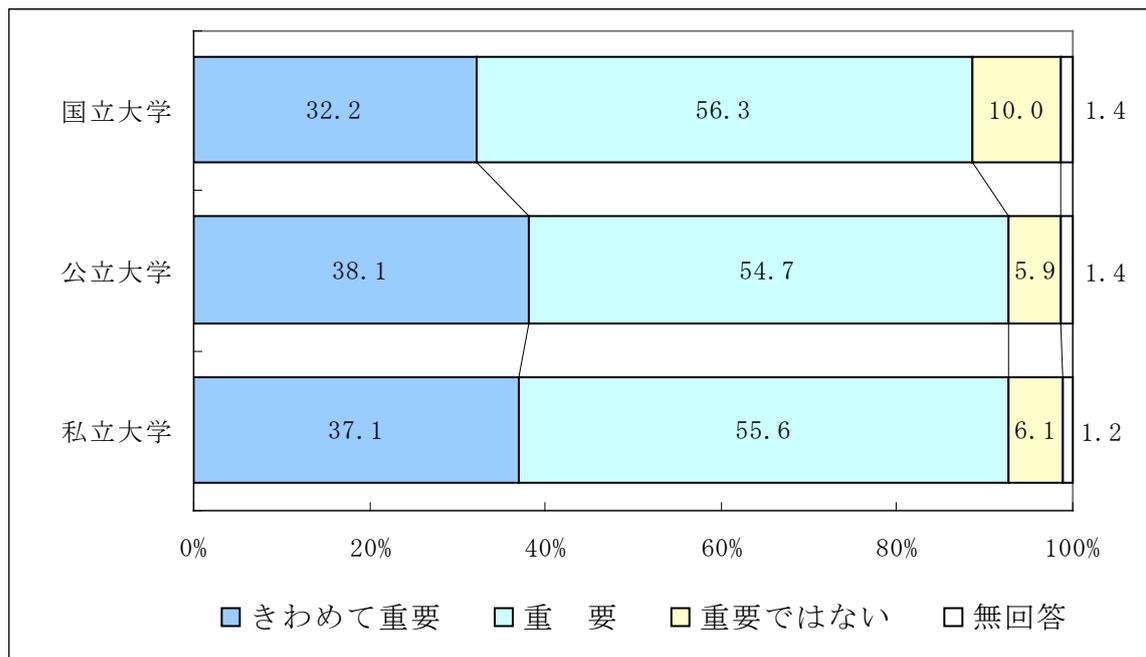
図表 13－3 より良い授業にするための条件（設置形態別）
【 I T機器や設備の改善】



(3) 図書館など学生が自主的に学習する環境

より良い授業にするための条件のうち、『図書館など学生が自主的に学習する環境』について設置形態別にみると、「きわめて重要」と「重要」とを合わせた率では、国立大学(88.5%)に比べて公立大学(92.8%)、私立大学(92.7%)で重要度が高くなっている。(図表13-4)

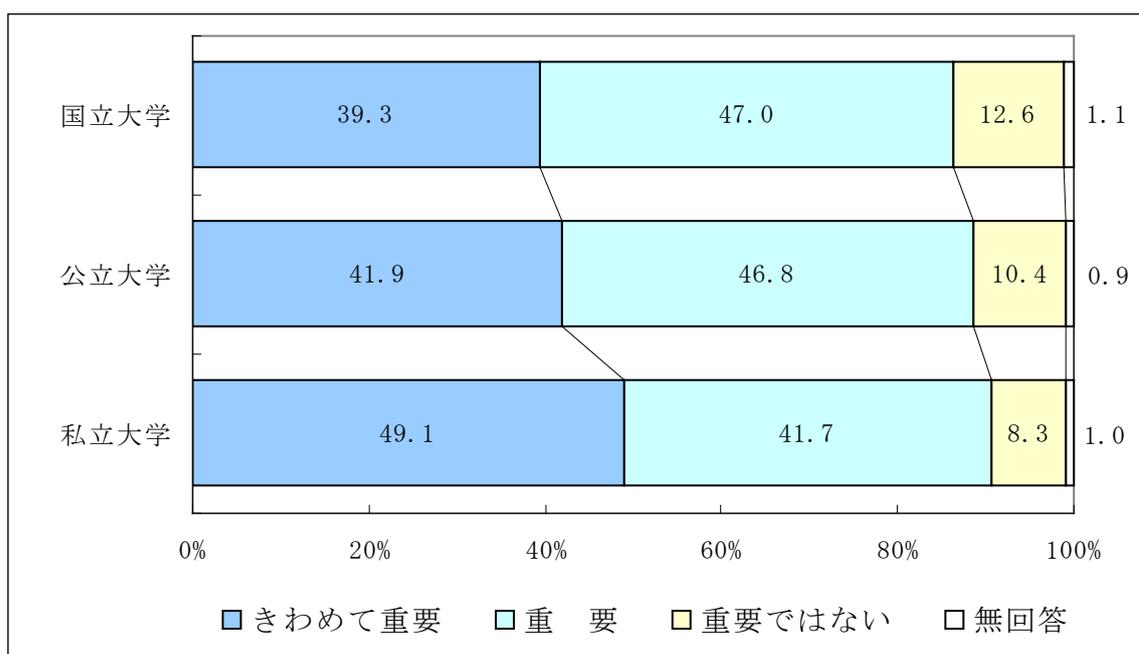
図表13-4 より良い授業にするための条件（設置形態別）
【図書館など学生が自主的に学習する環境】



(4) 小規模のクラスにする

より良い授業にするための条件のうち、『小規模のクラスにする』について設置形態別にみると、「きわめて重要」と「重要」とを合わせた率では、国立大学（86.3%）に比べて公立大学（88.7%）、私立大学（90.8%）で重要度がやや高くなっている。（図表 13-5）

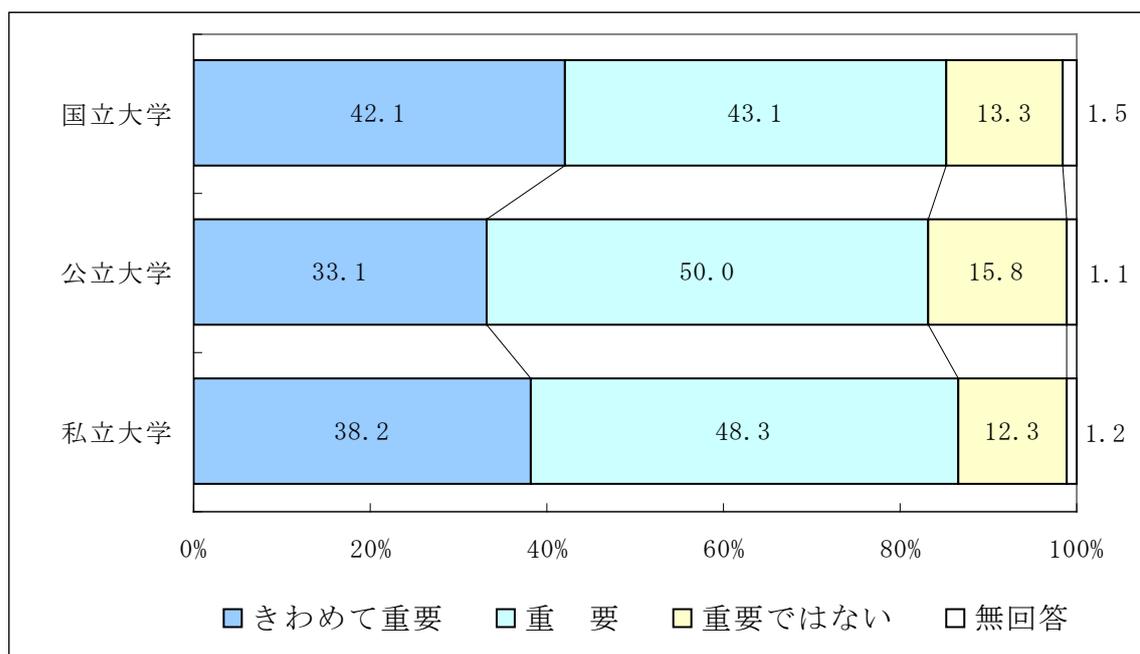
図表 13-5 より良い授業にするための条件（設置形態別）
【小規模のクラスにする】



(5) 担当授業数を少なくして、時間をかける

より良い授業にするための条件のうち、『担当授業数を少なくして、時間をかける』について設置形態別にみると、「きわめて重要」と「重要」とを合わせた重要度について、国立大学（85.2%）、公立大学（83.1%）、私立大学（86.5%）の間にほとんど差はみられない。（図表 13-6）

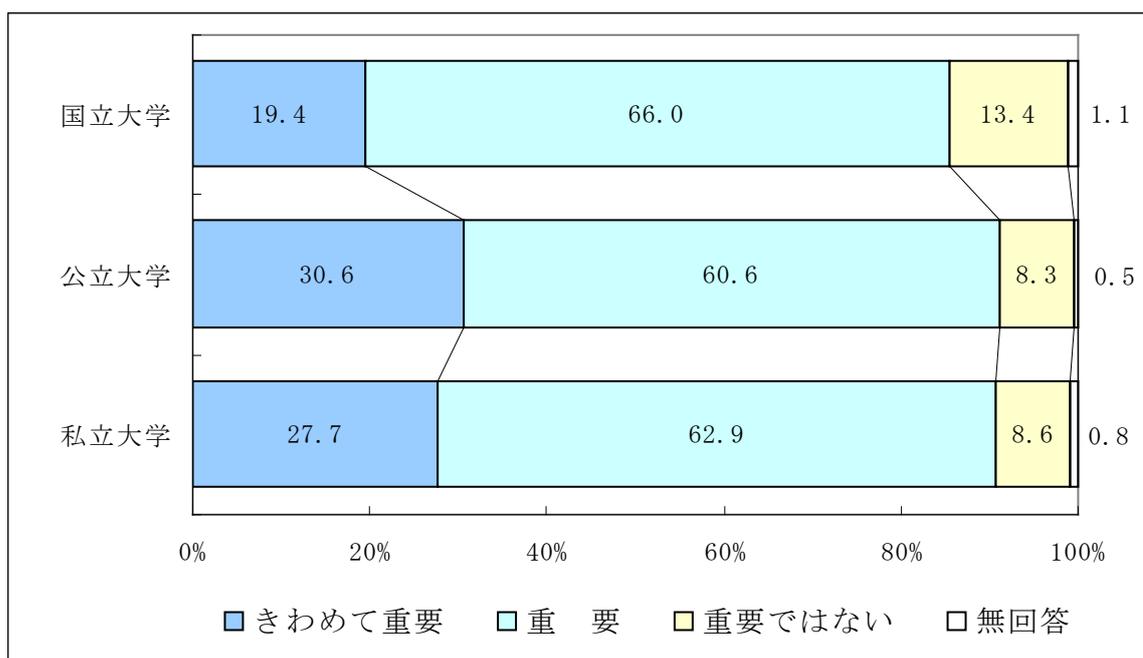
図表 13-6 より良い授業にするための条件（設置形態別）
【担当授業数を少なくして、時間をかける】



(6) 授業についての教員間の情報・意見交換

より良い授業にするための条件のうち、『授業についての教員間の情報・意見交換』について設置形態別にみると、「きわめて重要」と「重要」とを合わせた重要度は、国立大学（85.4%）に比べて公立大学（91.2%）、私立大学（90.6%）に高くなっている。（図表 13－7）

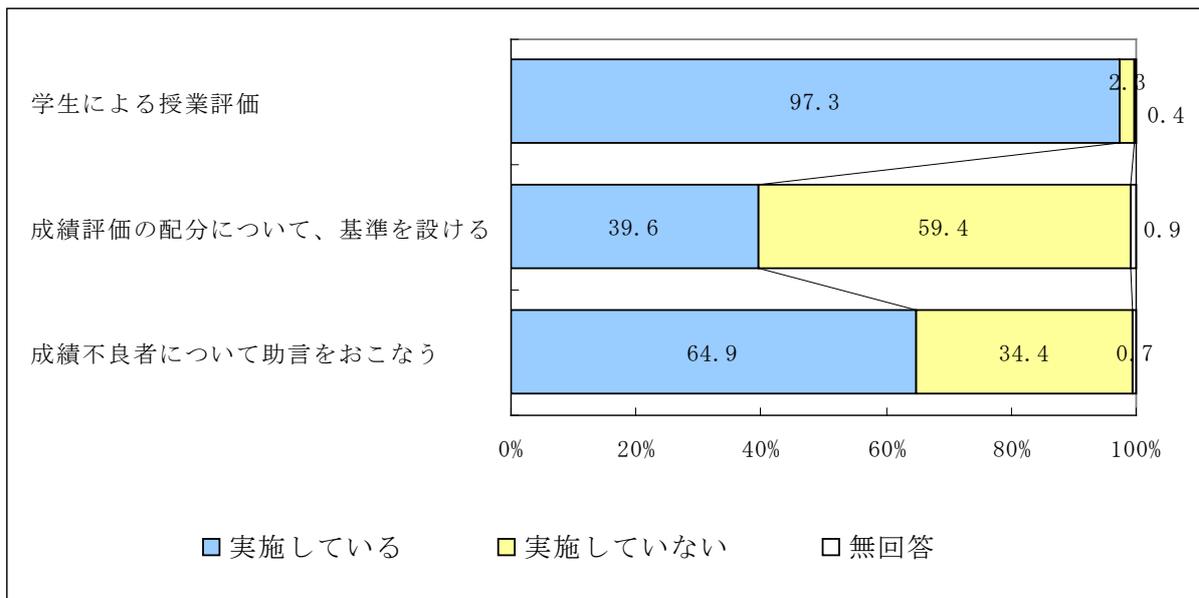
図表 13－7 より良い授業にするための条件（設置形態別）
【授業についての教員間の情報・意見交換】



14. 学部・学科として実施していること

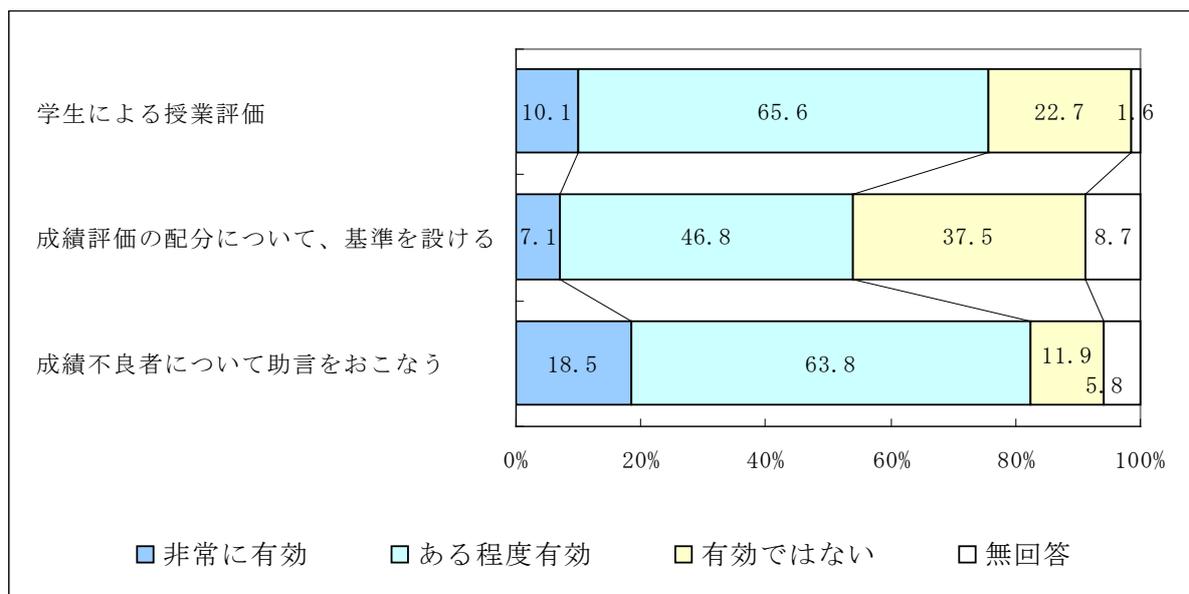
学部・学科として実施していることについてみると、『学生による授業評価』については「実施している」が97.3%とほぼ全員である。『成績不良者について助言をおこなう』の実施率は64.9%で全体のほぼ3分の2を占めている。一方、『成績評価の配分について、基準を設ける』の実施率は39.6%と4割程度である。(図表14-1)

図表14-1 学部・学科として実施していること



次に、学部・学科での実施効果を見ると、『成績不良者について助言をおこなう』については、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせて82.3%と8割強が効果的であると評価している。一方、実施率（前頁参照）が高かった『学生による授業評価』については75.7%にとどまっている。『成績評価の配分について、基準を設ける』については53.9%で、実施率（前頁参照）とともに、効果においても最も低い結果である。（図表14-2）

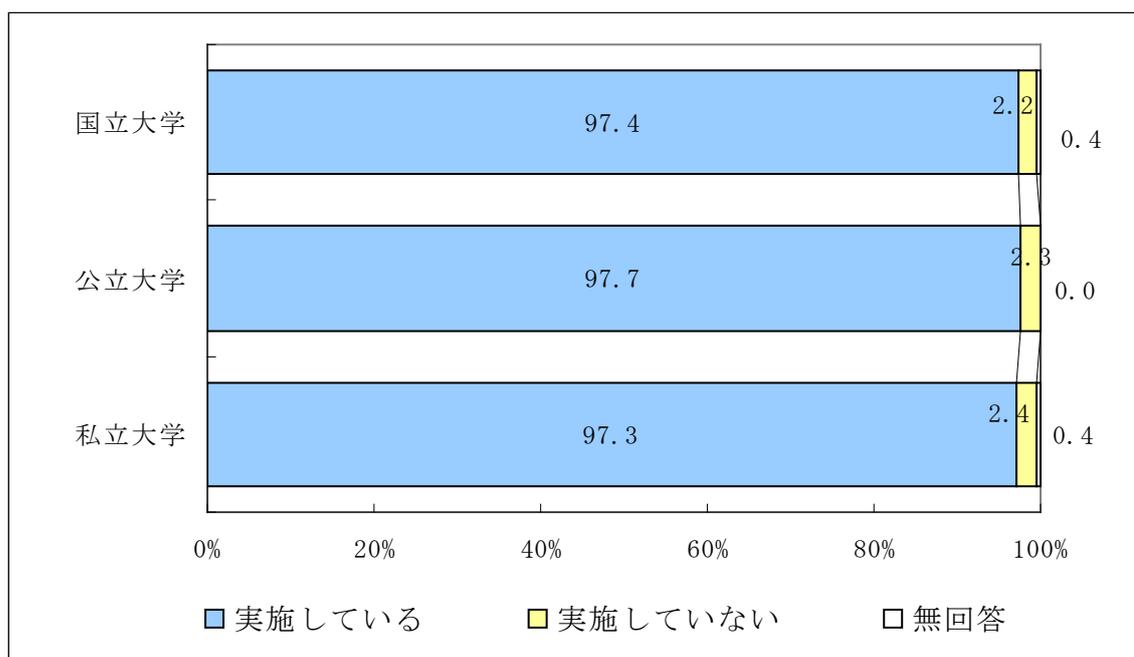
図表14-2 実施内容の効果



(1) 学生による授業評価

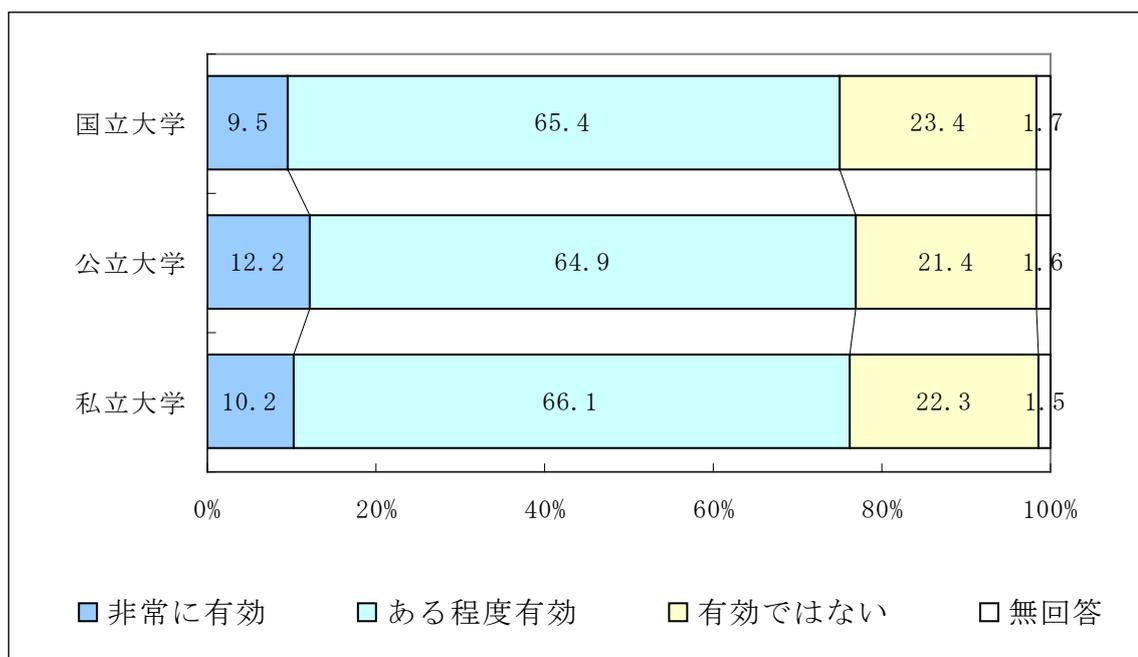
学部・学科として実施していることのうち、『学生による授業評価』について設置形態別にみると、実施率は、国立大学が97.4%、公立大学が97.7%、私立大学が97.3%となっており、設置形態による差はみられない。(図表14-3)

図表14-3 学部・学科として実施していること（設置形態別）
【学生による授業評価】



次に、学部・学科で、『学生による授業評価』の効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学が74.9%、公立大学が77.1%、私立大学が76.3%となっており、設置形態による差はほとんどみられない。(図表14-4)

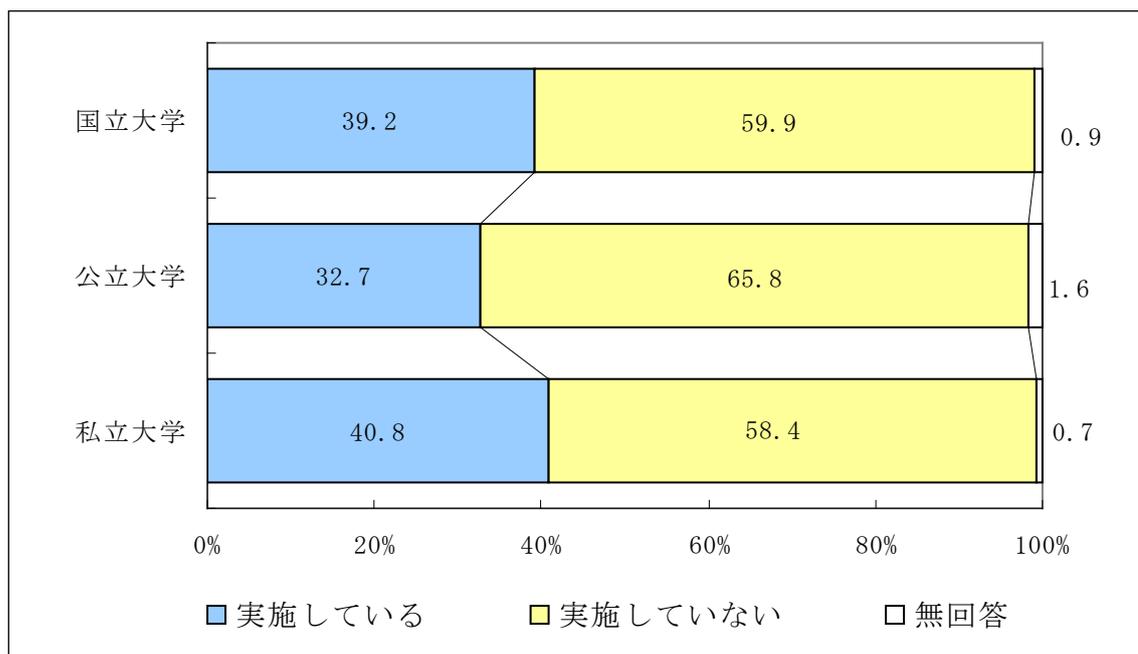
図表14-4 実施内容の効果（設置形態別）
【学生による授業評価】



(2) 成績評価の配分について、基準を設ける

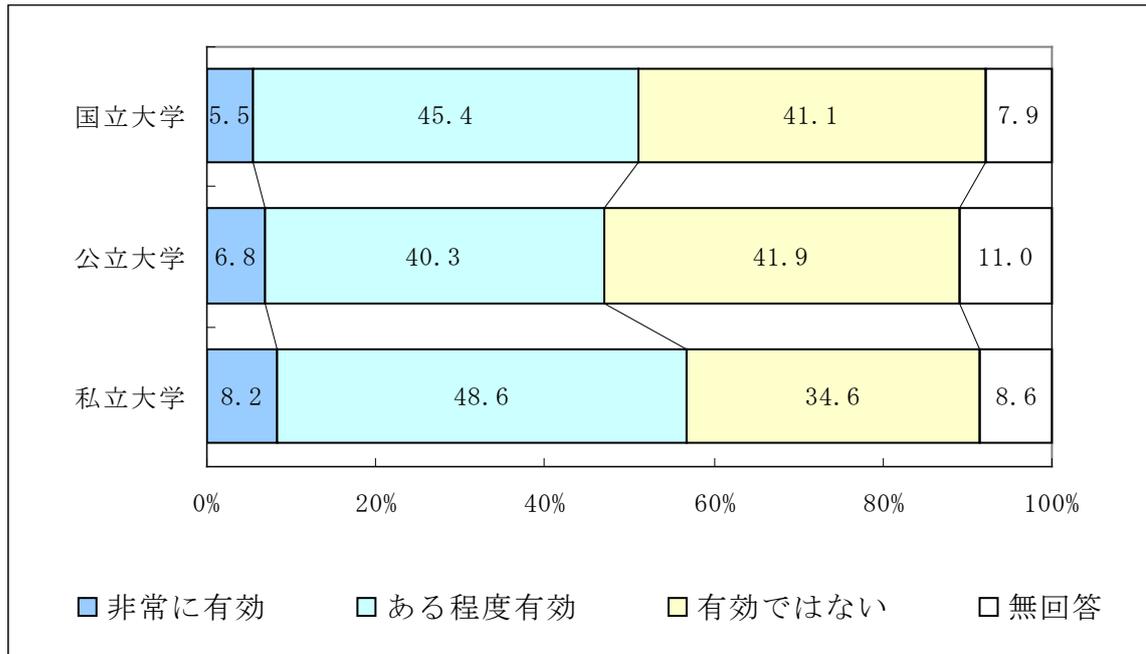
学部・学科として実施していることのうち、『成績評価の配分について、基準を設ける』について設置形態別にみると、実施率は、公立大学（32.7％）に比べて国立大学（39.2％）、私立大学（40.8％）に高くなっている。（図表 14－5）

図表 14－5 学部・学科として実施していること（設置形態別）
【成績評価の配分について、基準を設ける】



次に、学部・学科で、『成績評価の配分について、基準を設ける』の効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、公立大学（47.1％）に比べて国立大学（50.9％）、私立大学（56.8％）での評価が高くなっている。（図表 14－6）

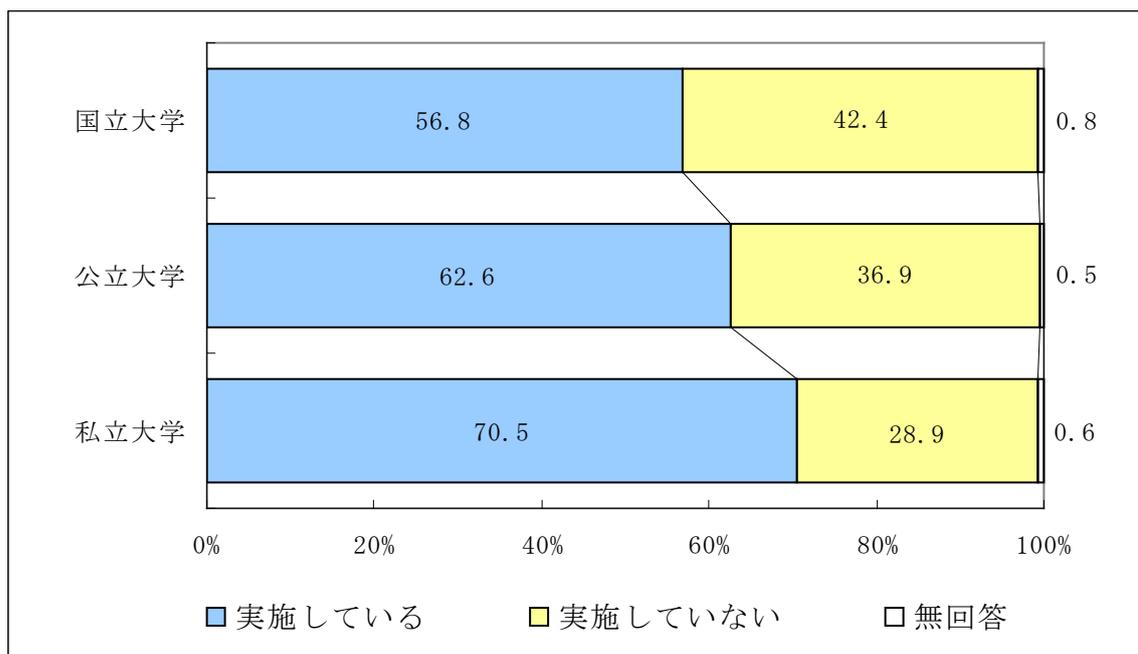
図表 14－6 実施内容の効果（設置形態別）
【成績評価の配分について、基準を設ける】



(3)成績不良者について助言をおこなう

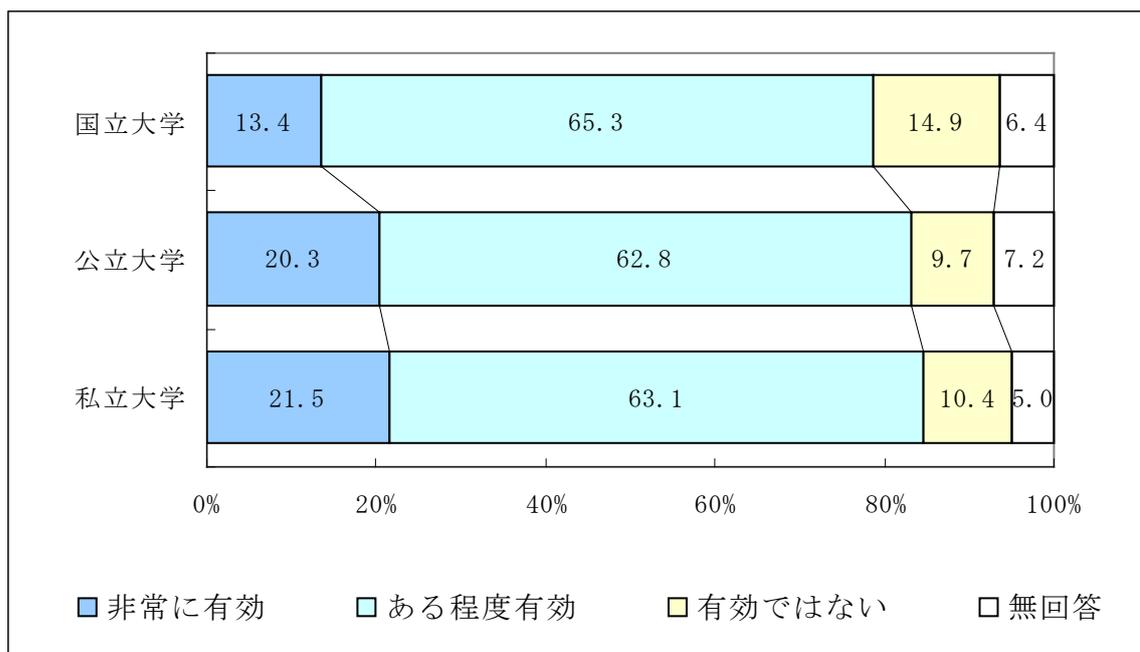
学部・学科として実施していることのうち、『成績不良者について助言をおこなう』について設置形態別にみると、実施率は私立大学(70.5%)で最も高く、次いで公立大学(62.6%)、国立大学(56.8%)順で高くなっている。(図表14-7)

図表14-7 学部・学科として実施していること(設置形態別)
【成績不良者について助言をおこなう】



次に、学部・学科で、『成績不良者について助言をおこなう』の効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学（78.7%）に比べて公立大学（83.1%）、私立大学（84.6%）での評価が高くなっている。（図表 14-8）

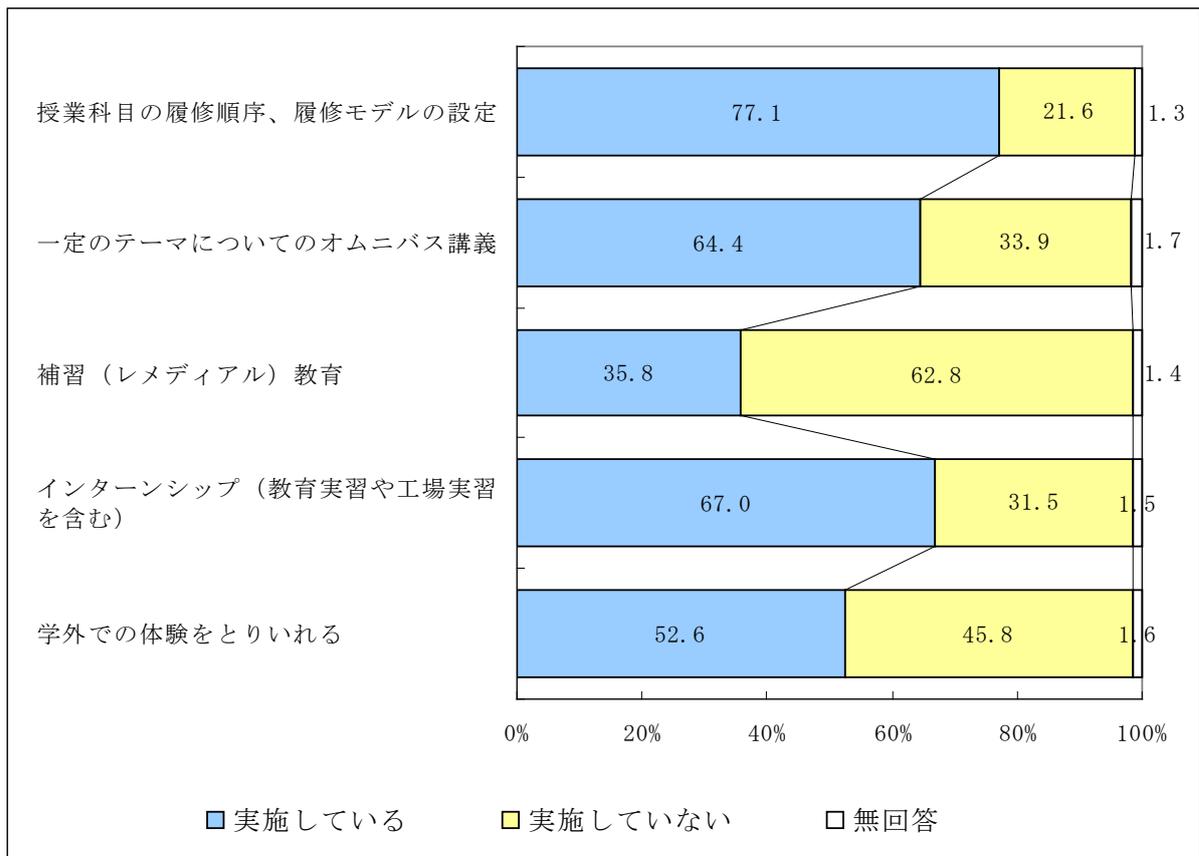
図表 14-8 実施内容の効果（設置形態別）
【成績不良者について助言をおこなう】



15. カリキュラム上で実施していること

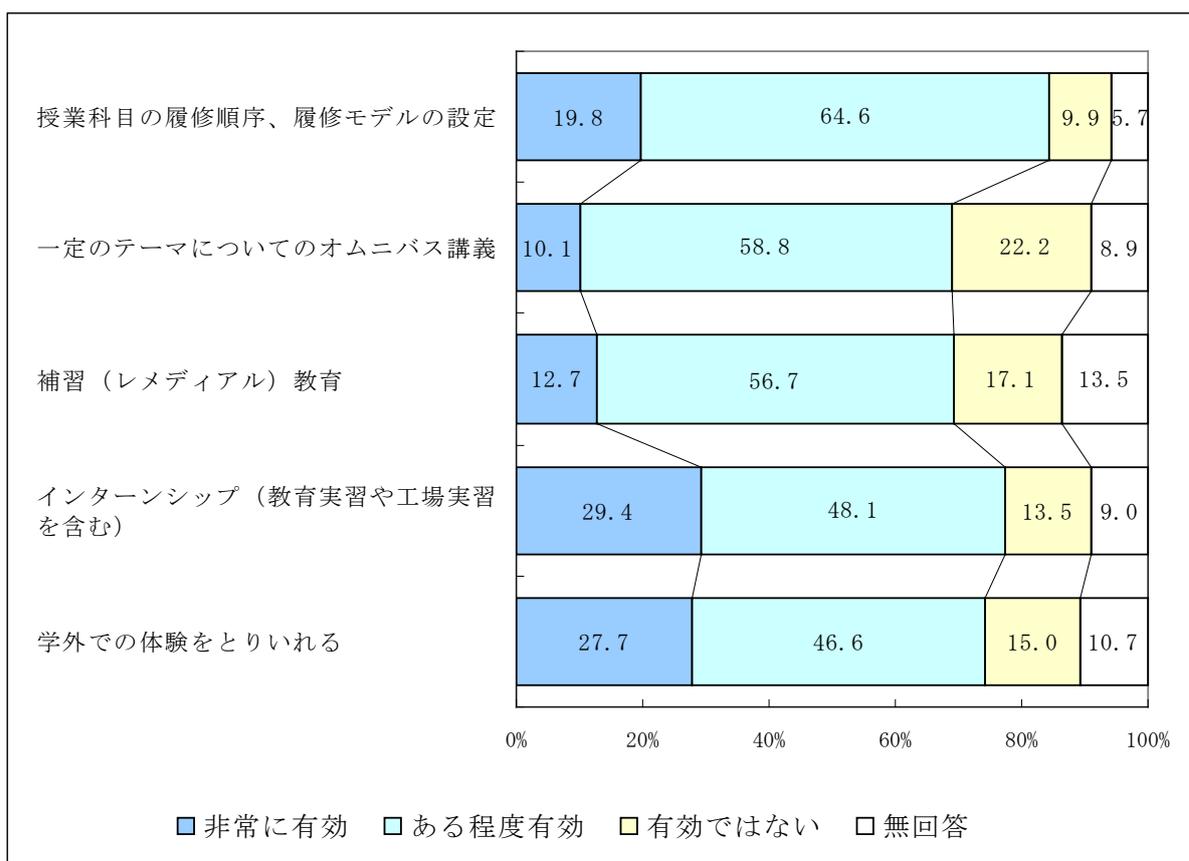
カリキュラムの上で実施していることについてみると、『授業科目の履修順序、履修モデルの設定』の実施率が77.1で最も高く、次いで『インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）』（67.0%）、『一定のテーマについてのオムニバス講義』（64.4%）、『学外での体験をとり入れる』（52.6%）の順で実施率が高くなっている。一方、『補習（レメディアル）教育』の実施率は35.8%と3分の1程度と実施率は低い。（図表15-1）

図表15-1 カリキュラム上で実施していること



次に、カリキュラムの上での実施効果についてみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、実施率が高かった（前頁参照）『授業科目の履修順序、履修モデルの設定』について効果的との評価が84.4%と高く、次いで『インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）』（77.5%）、『学外での体験をとりいれる』（74.3%）、『補習（レメディアル）教育』（69.4%）、『一定のテーマについてのオムニバス講義』（68.9%）の順である。（図表 15－2）

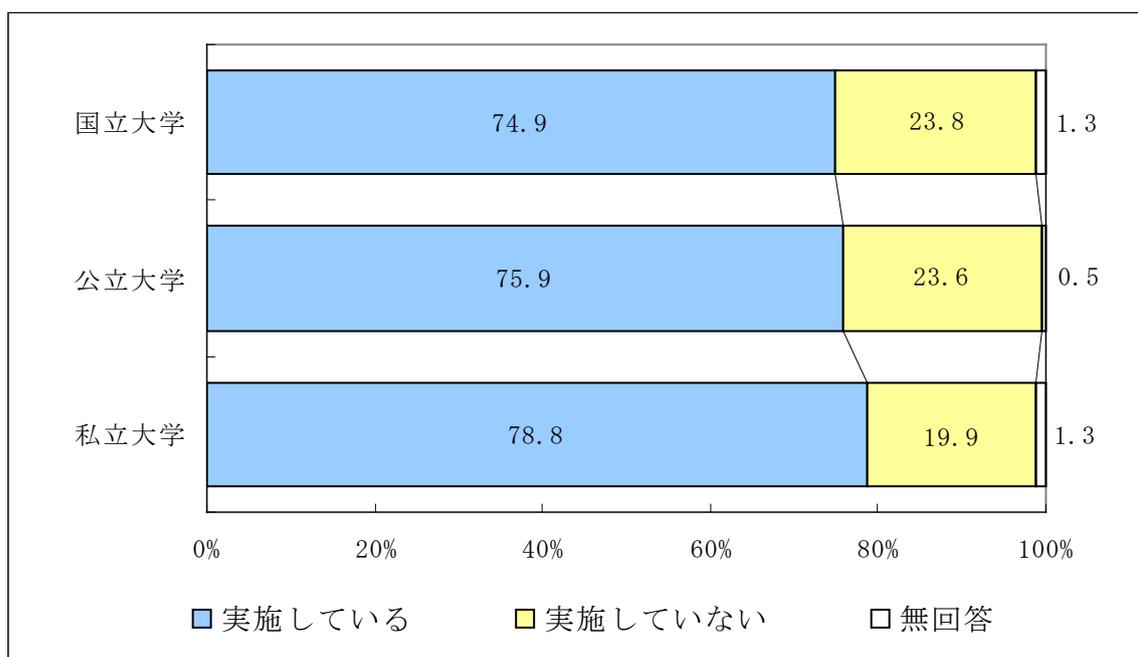
図表 15－2 実施内容の効果



(1) 授業科目の履修順序、履修モデルの設定

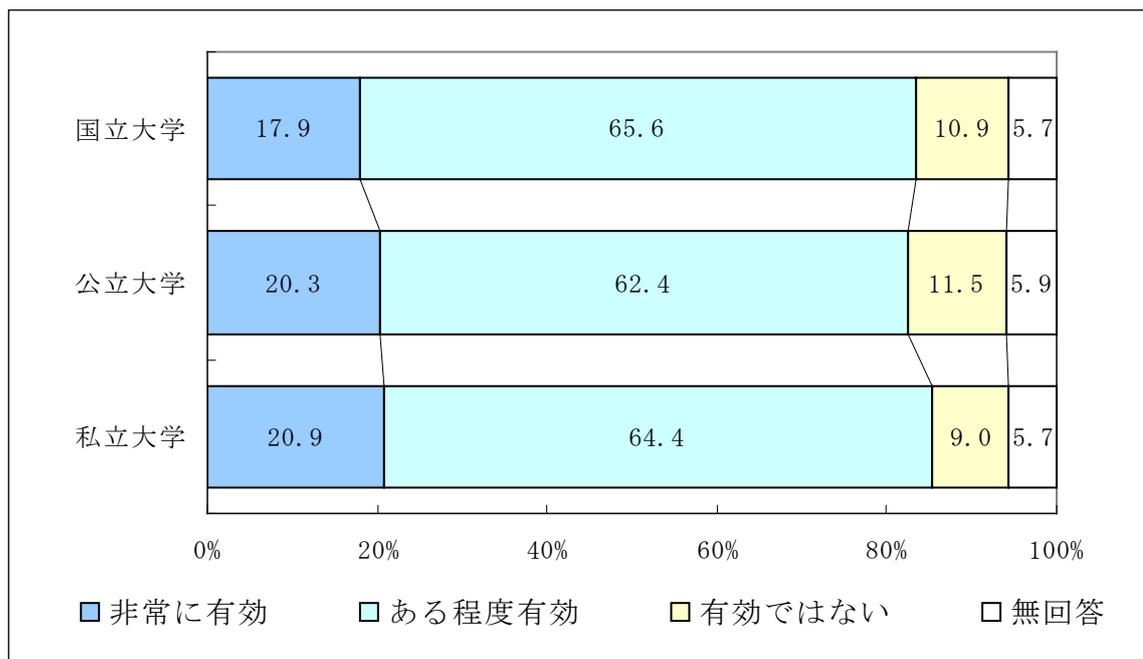
カリキュラム上で実施していることのうち、『授業科目の履修順序、履修モデルの設定』について設置形態別にみると、実施率は国立大学が74.9%、公立大学が75.9%、私立大学が78.8%で、設置形態による大きな差はみられない。(図表15-3)

図表15-3 カリキュラム上で実施していること(設置形態別)
【授業科目の履修順序、履修モデルの設定】



次に、カリキュラムの上で、『授業科目の履修順序、履修モデルの設定』についての効果を設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学（83.5%）、公立大学（82.7%）、私立大学（85.3%）の間にほとんど差はみられない。（図表 15-4）

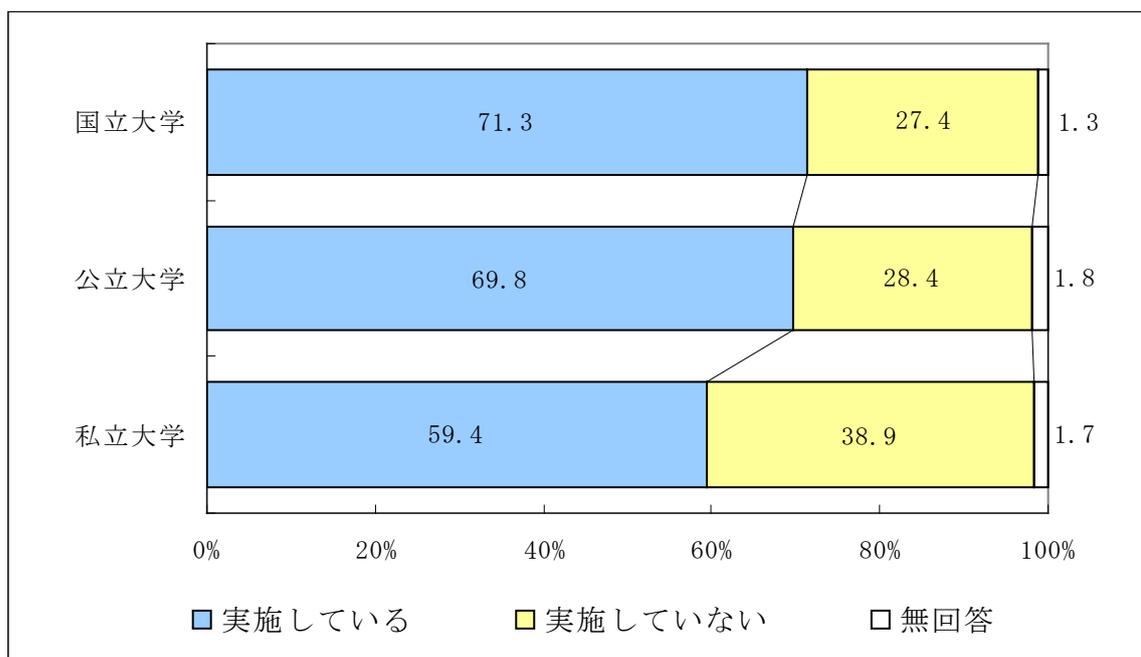
図表 15-4 実施内容の効果（設置形態別）
【授業科目の履修順序、履修モデルの設定】



(2)一定のテーマについてのオムニバス講義

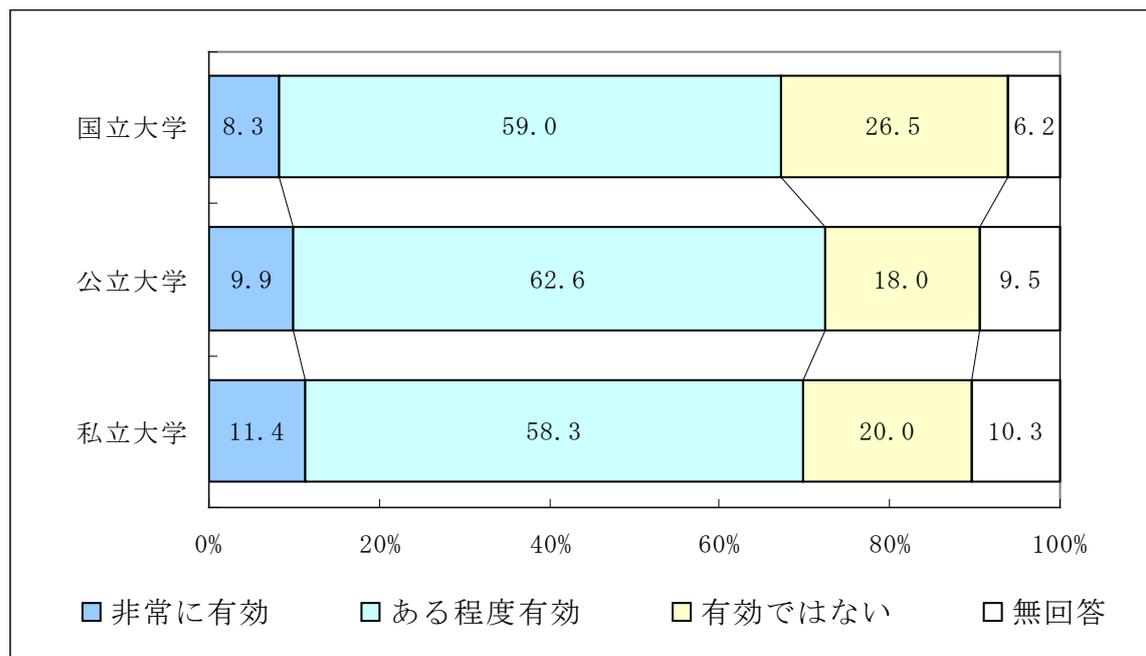
カリキュラム上で実施していることのうち、『一定のテーマについてのオムニバス講義』について設置形態別にみると、実施率は私立大学(59.4%)に比べて国立大学(71.3%)、公立大学(69.8%)に高くなっている。(図表 15-5)

図表 15-5 カリキュラム上で実施していること (設置形態別)
【一定のテーマについてのオムニバス講義】



次に、カリキュラムの上で、『一定のテーマについてのオムニバス講義』についての効果を設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学（67.3%）、私立大学（69.7%）よりも公立大学（72.5%）での評価がやや高い。（図表 15－6）

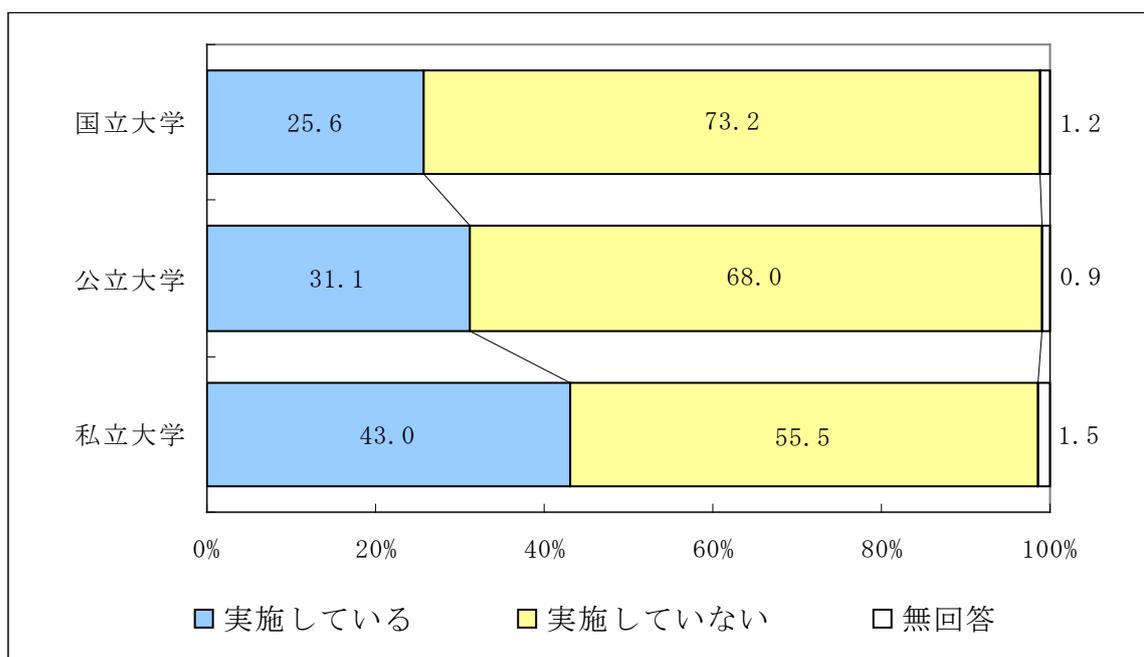
図表 15－6 実施内容の効果（設置形態別）
【一定のテーマについてのオムニバス講義】



(3) 補習（レメディアル）教育

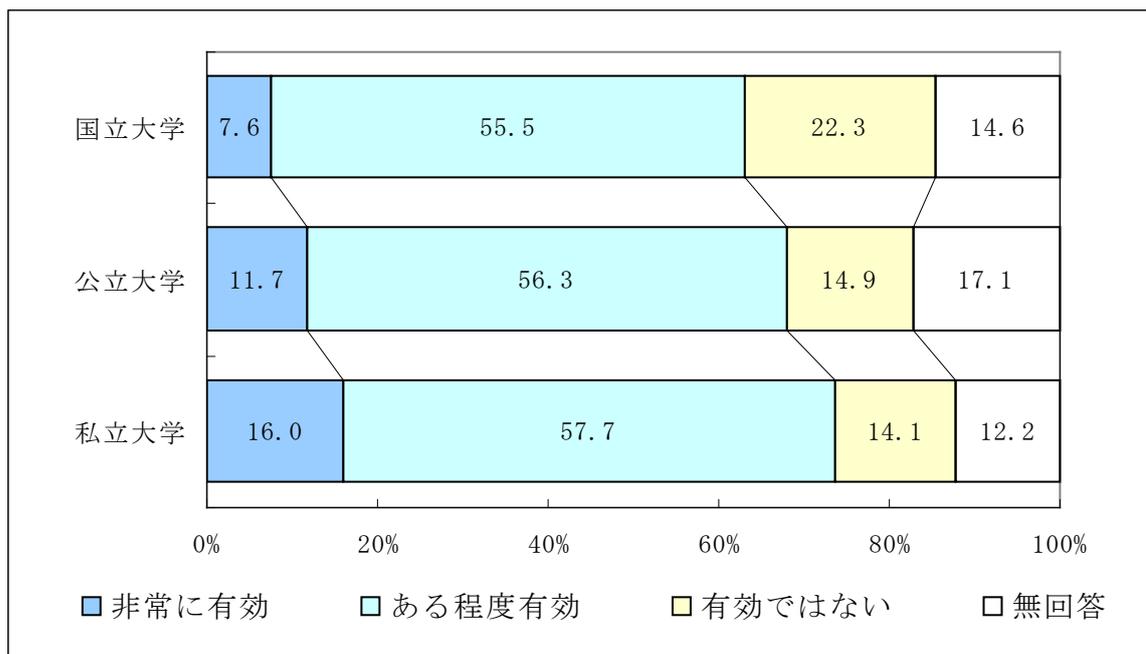
カリキュラム上で実施していることのうち、『補習（レメディアル）教育』について設置形態別にみると、実施率は国立大学（25.6%）、公立大学（31.1%）に比べて私立大学（43.0%）に高くなっている。（図表 15-7）

図表 15-7 カリキュラム上で実施していること（設置形態別）
【補習（レメディアル）教育】



次に、カリキュラムの上で、『補習（レメディアル）教育』についての効果を設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、私立大学（73.7%）での評価が最も高く、次いで公立大学（68.0%）、国立大学（63.1%）の順である。（図表 15－8）

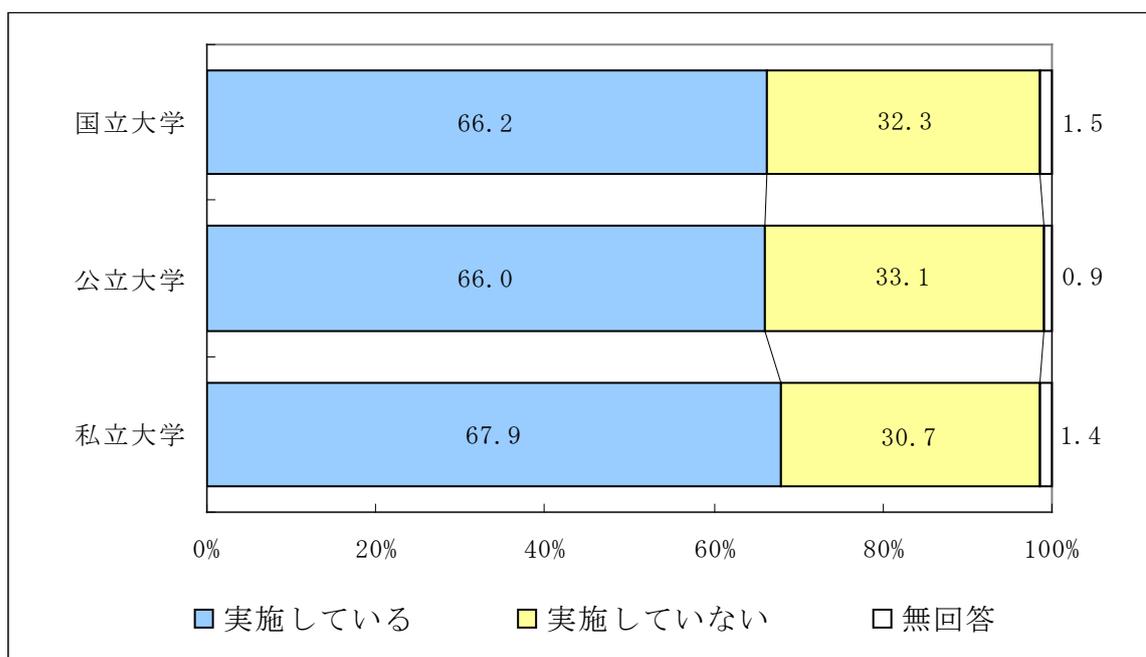
図表 15－8 実施内容の効果（設置形態別）
【補習（レメディアル）教育】



(4) インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）

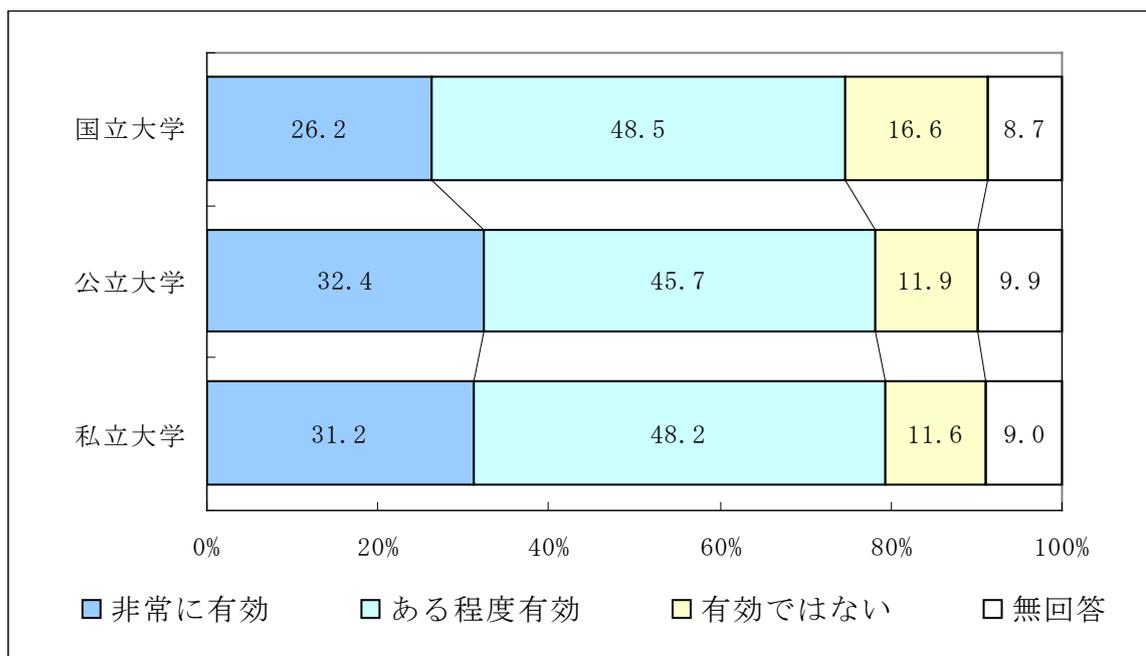
カリキュラム上で実施していることのうち、『インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）』について設置形態別にみると、実施率は国立大学が66.2%、公立大学が66.0%、私立大学が67.9%となっており、設置形態による差はほとんどみられない。（図表15-9）

図表15-9 カリキュラム上で実施していること（設置形態別）
【インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）】



次に、カリキュラムの上で、『インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）』についての効果を設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学（74.7%）に比べて公立大学（78.1%）、私立大学（79.4%）での評価がやや高くなっている。（図表 15-10）

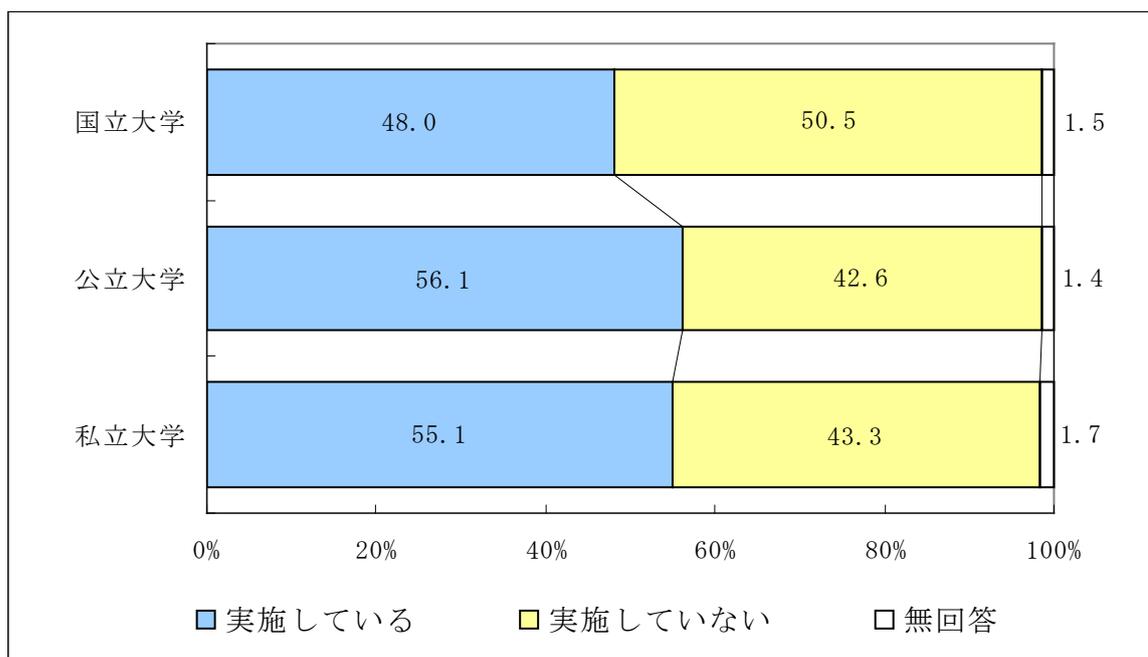
図表 15-10 実施内容の効果（設置形態別）
【インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）】



(5)学外での体験をとりいれる

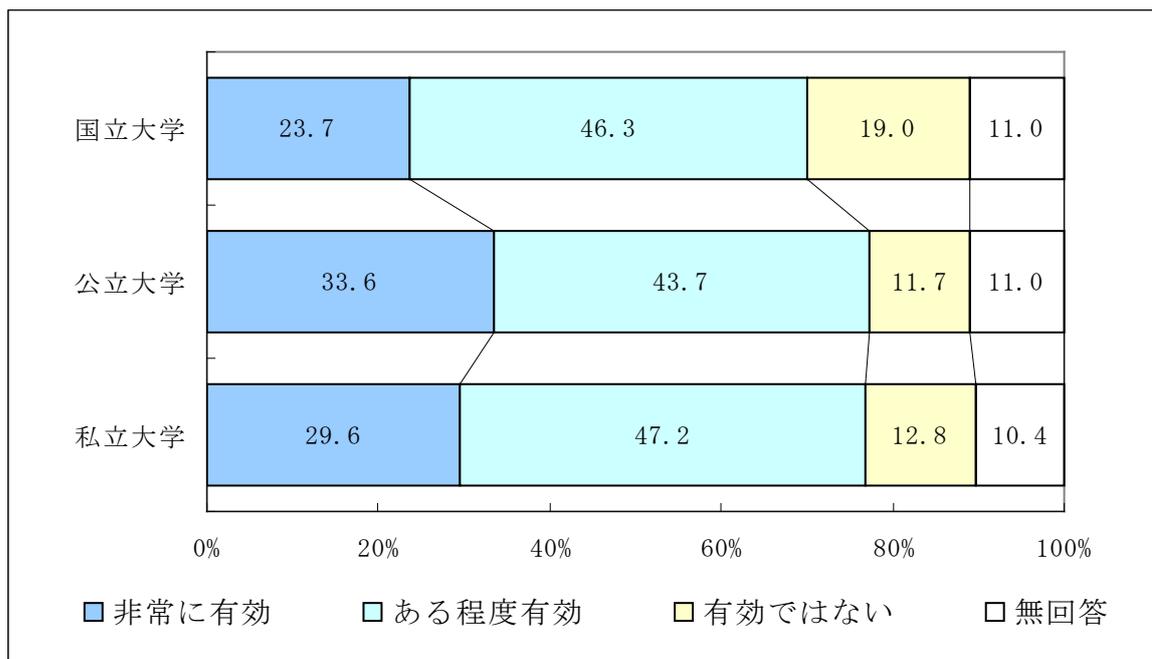
カリキュラム上で実施していることのうち、『学外での体験をとりいれる』について設置形態別にみると、国立大学（48.0％）に比べて公立大学（56.1％）、私立大学（55.1％）に実施率が高くなっている。（図表 15－11）

図表 15－11 カリキュラム上で実施していること（設置形態別）
【学外での体験をとりいれる】



次に、カリキュラムの上で、『学外での体験をとり入れる』についての効果を設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学（70.0%）に比べて公立大学（77.3%）、私立大学（76.8%）での評価が7ポイント程度高くなっている。（図表 15-12）

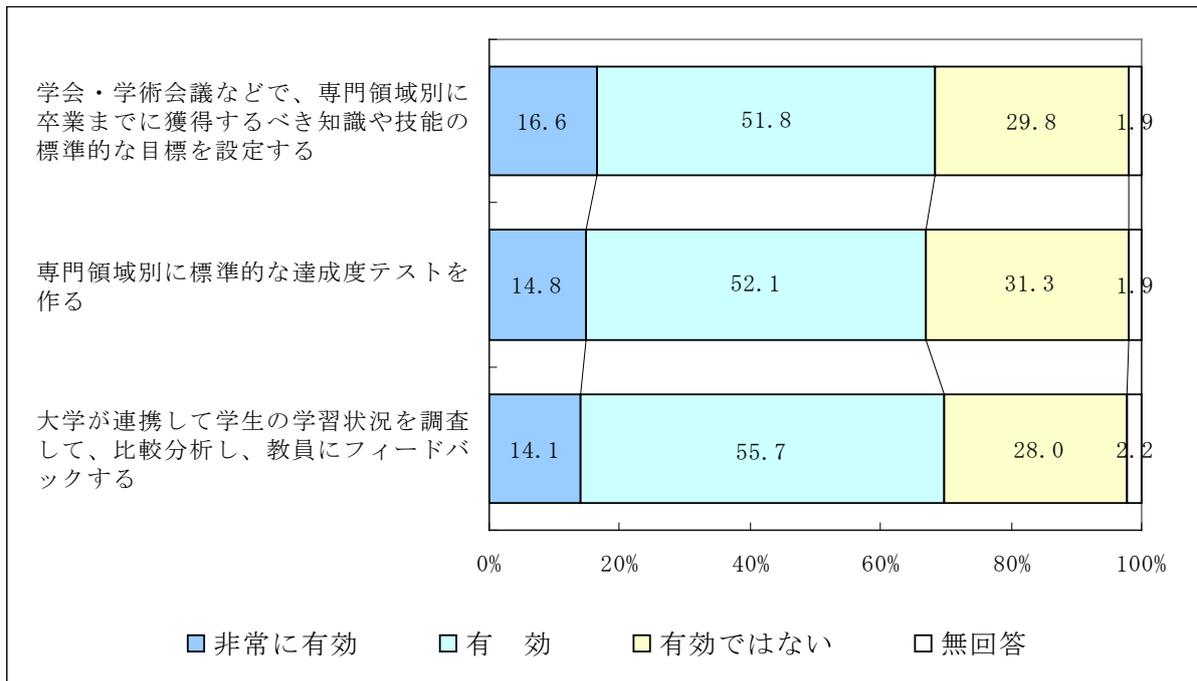
図表 15-12 実施内容の効果（設置形態別）
【学外での体験をとり入れる】



16. 大学教育改善をサポートするための方策

大学教育改善をサポートするための方策についてみると、「非常に有効」と「有効」とを合わせた率では、『学会・学術会議などで、専門領域別に卒業までに獲得すべき知識や技能の標準的な目標を設定する』が68.4%、『専門領域別に標準的な達成度テストを作る』が66.9%、『大学が連携して学生の学習状況を調査して、比較分析し、教員にフィードバックする』が69.8%となっており、いずれも7割近い評価を得ている。(図表16-1)

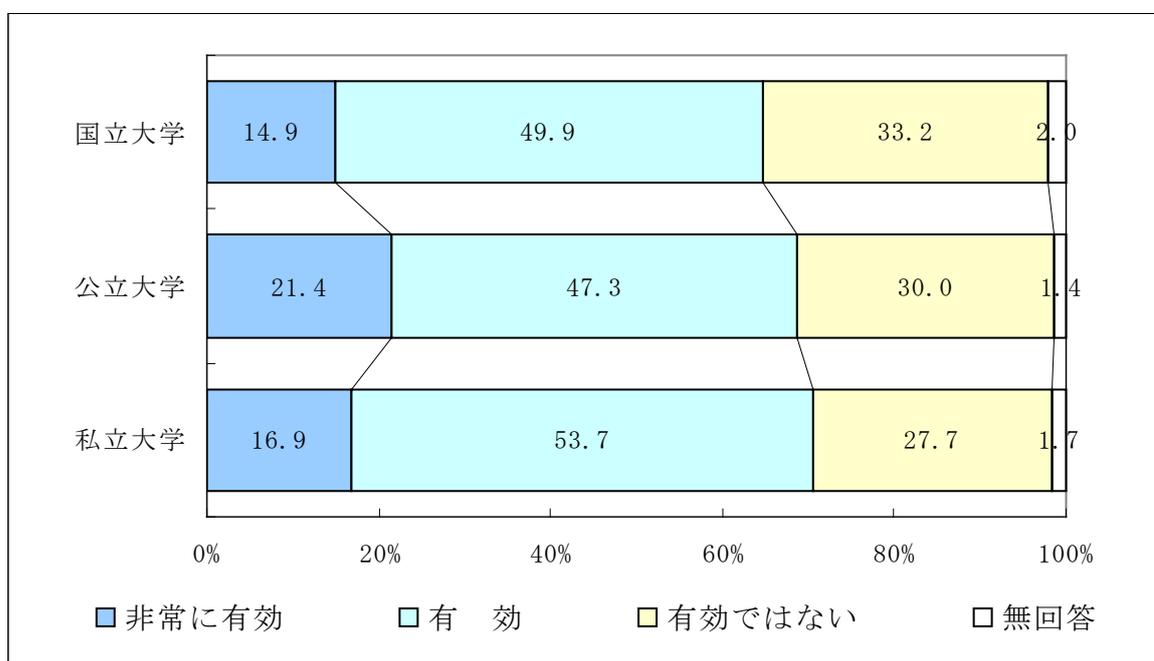
図表16-1 大学教育改善サポートの方策



(1) 学会・学術会議などで、専門領域別に、卒業までに獲得すべき知識や技能の標準的な目標を設定する

大学教育改善をサポートするための方策のうち、『学会・学術会議などで、専門領域別に、卒業までに獲得すべき知識や技能の標準的な目標を設定する』について設置形態別にみると、「非常に有効」と「有効」とを合わせた率では、国立大学（64.8％）に比べて公立大学（68.7％）私立大学（70.6％）で評価が高い。（図表 16－2）

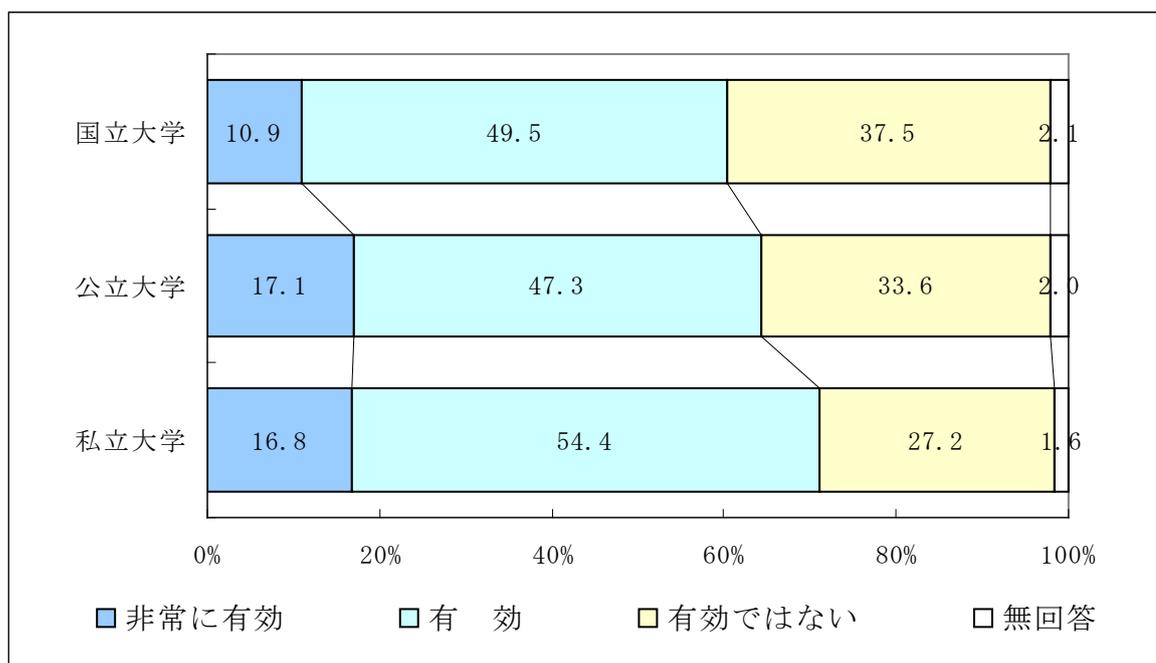
図表 16－2 大学教育改善サポートの方策（設置形態別）
【学会・学術会議などで、専門領域別に、卒業までに獲得すべき知識や技能の標準的な目標を設定する】



(2) 専門領域別に標準的な達成度テストを作る

大学教育改善をサポートするための方策のうち、『専門領域別に標準的な達成度テストを作る』について設置形態別にみると、「非常に有効」と「有効」とを合わせた率では、国立大学（60.4%）、公立大学（64.4%）に比べて私立大学（71.2%）で評価が高くなっている。（図表 16－3）

図表 16－3 大学教育改善サポートの方策（設置形態別）
【専門領域別に標準的な達成度テストを作る】

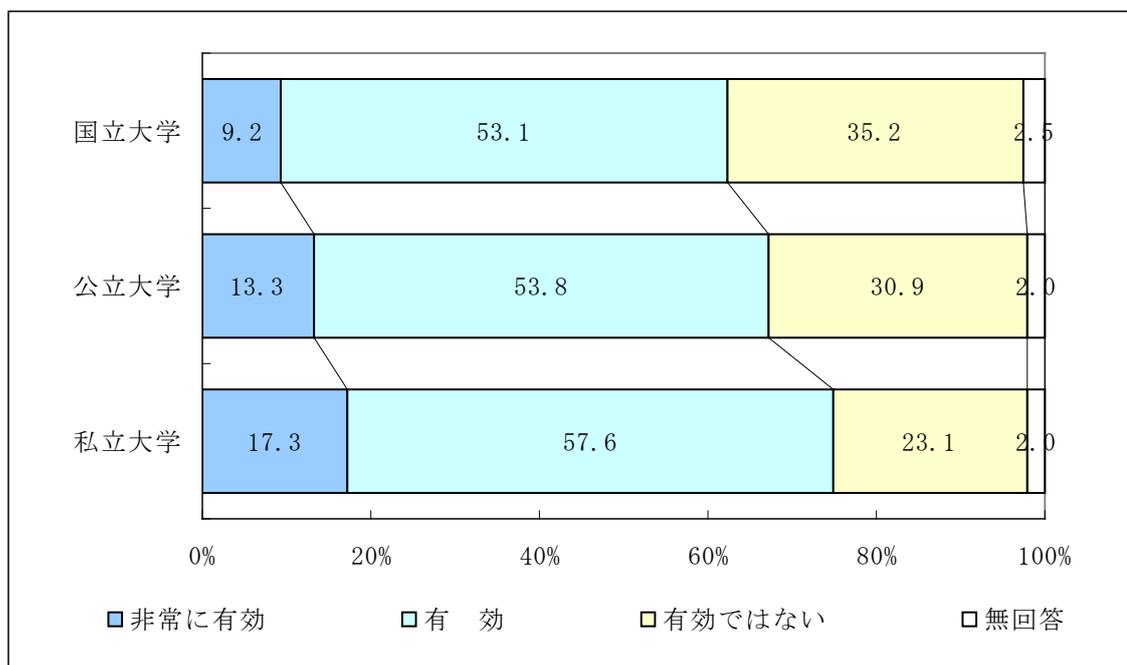


(3) 大学が連携して学生の学習状況を調査して比較分析し、教員にフィードバックする

大学教育改善をサポートするための方策のうち、『大学が連携して学生の学習状況を調査して比較分析し教員にフィードバックする』について設置形態別にみると、「非常に有効」と「有効」とを合わせた率では、私立大学（74.9％）で最も評価が高く、次いで公立大学（67.1％）、国立大学（62.3％）の順である。（図表 16－4）

図表 16－4 大学教育改善サポートの方策（設置形態別）

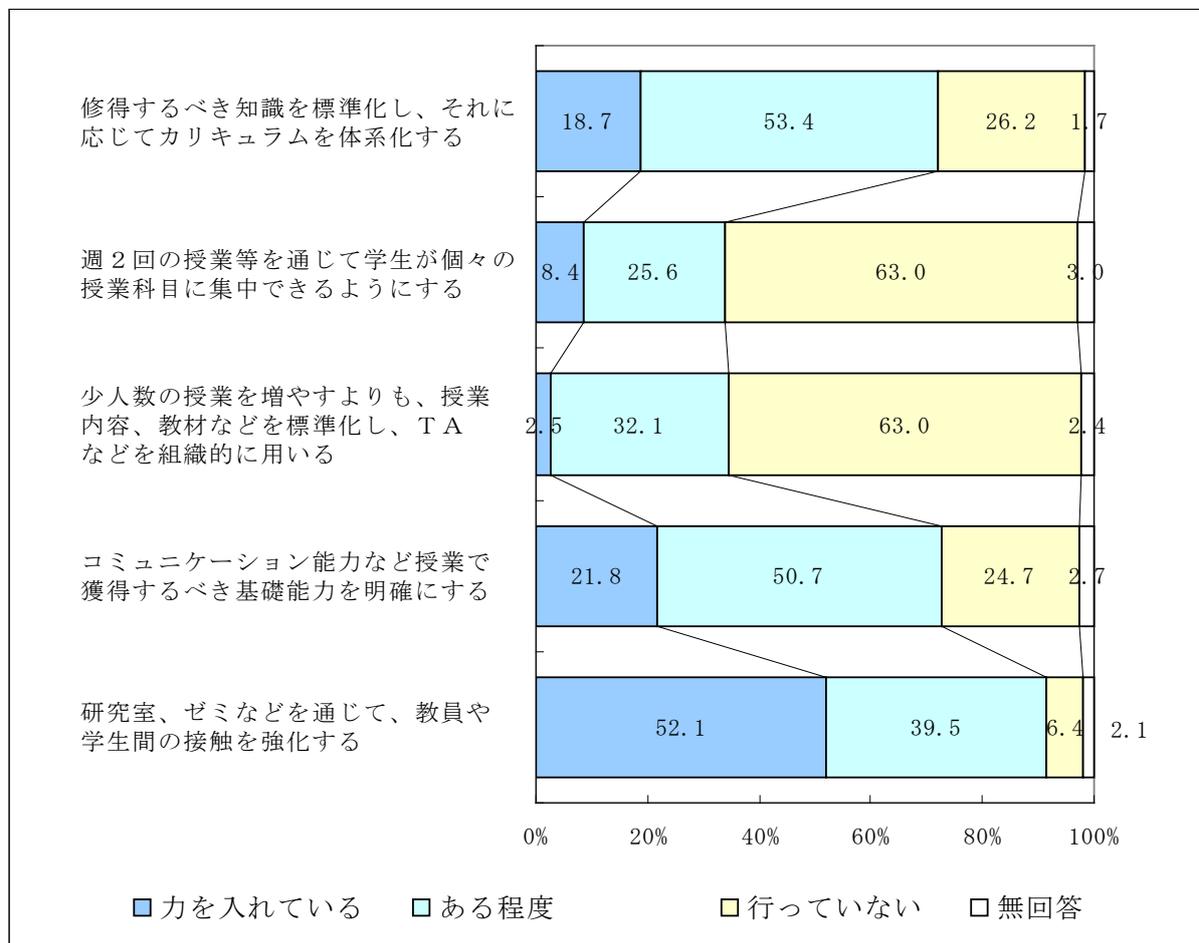
【大学が連携して学生の学習状況を調査して比較分析し教員にフィードバックする】



17. 大学教育改善の方向と将来の重要度

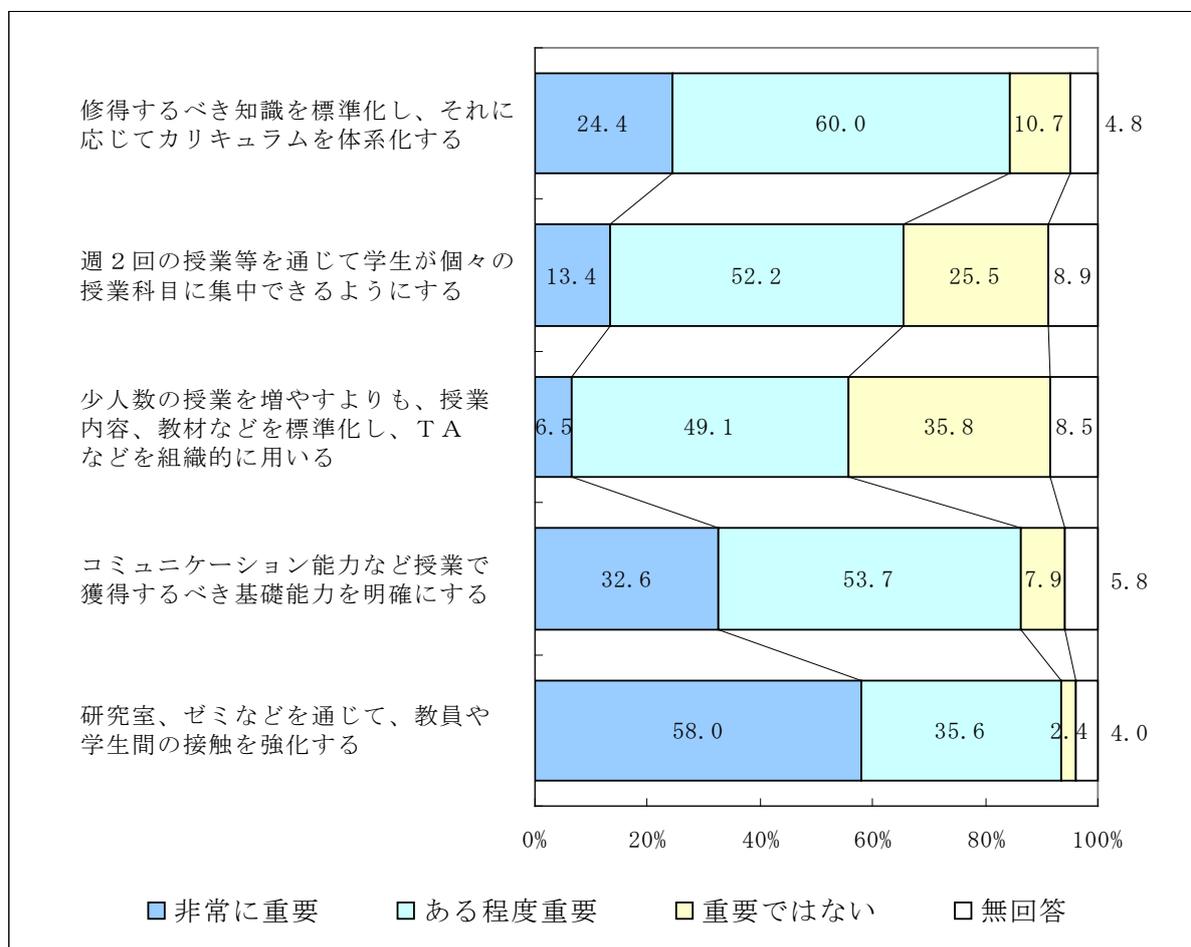
大学教育改善の方向として行っていることを尋ねたところ、『研究室、ゼミなどを通じて、教員や学生間の接触を強化する』については、「力を入れている」が 52.1%と半数強を占めて多く、これに「ある程度」(39.5%)を加えると、全体の9割以上がこの方向で実施している。次いで『コミュニケーション能力など授業で獲得すべき基礎能力を明確にする』(72.5%)、『修得すべき知識を標準化し、それに応じてカリキュラムを体系化する』(72.1%)で、いずれも7割強がこの方向で実施している。一方、実施率が低いのは『週2回の授業等を通じて学生が個々の授業科目に集中できるようにする』(34.0%)、『少人数の授業を増やすよりも、授業内容、教材などを標準化し、TAなどを組織的に用いる』(34.6%)で、全体の3分の1が実施している程度である。(図表 17-1)

図表 17-1 大学教育改善の方向



次に、大学教育改善の将来の方向としての重要度を尋ねたところ、実施率が高かった（前頁参照）『研究室、ゼミなどを通じて、教員や学生間の接触を強化する』については、「非常に重要」が58.0%とほぼ6割を占めて多く、これに「ある程度重要」を加えると9割以上が重要視している。次いで重要度が高いのは、『コミュニケーション能力など授業で獲得すべき基礎能力を明確にする』（86.3%）、『修得すべき知識を標準化し、それに応じてカリキュラムを体系化する』（84.4%）で8割以上が重要と考えている。一方で『週2回の授業等を通じて学生が個々の授業科目に集中できるようにする』（65.6%）、『少人数の授業を増やすよりも、授業内容、教材などを標準化し、TAなどを組織的に用いる』（55.6%）は、重要度が比較的低くなっている。（図表17-2）

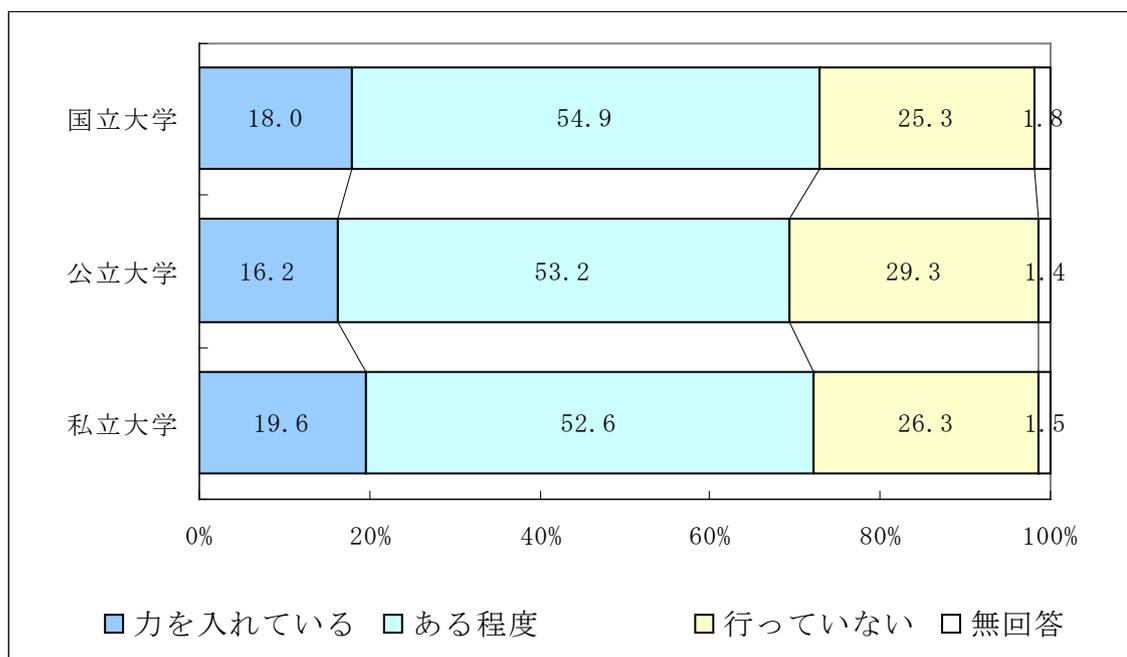
図表 17-2 大学教育改善の将来の重要度



(1) 修得すべき知識を標準化し、それに応じてカリキュラムを体系化する

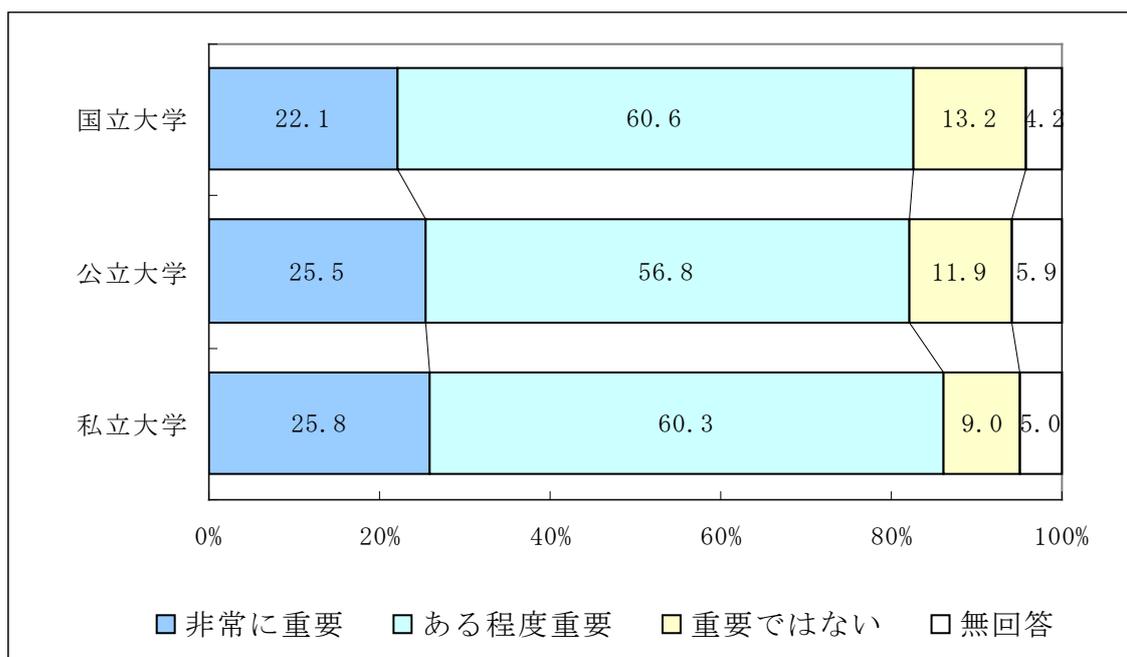
大学教育改善の方向のうち、『修得すべき知識を標準化し、それに応じてカリキュラムを体系化する』について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた率では、公立大学（69.4％）に比べて国立大学（72.9％）、私立大学（72.2％）での実施率が若干高い。（図表 17－3）

図表 17－3 大学教育改善の方向（設置形態別）
【修得すべき知識を標準化し、それに応じてカリキュラムを体系化する】



次に、『修得すべき知識を標準化し、それに応じてカリキュラムを体系化する』の将来の方向についての重要度を設置形態別にみると、「非常に重要」と「ある程度重要」とを合わせた率では、国立大学（82.7%）、公立大学（82.3%）に比べて私立大学（86.1%）にやや多くなっている。（図表 17-4）

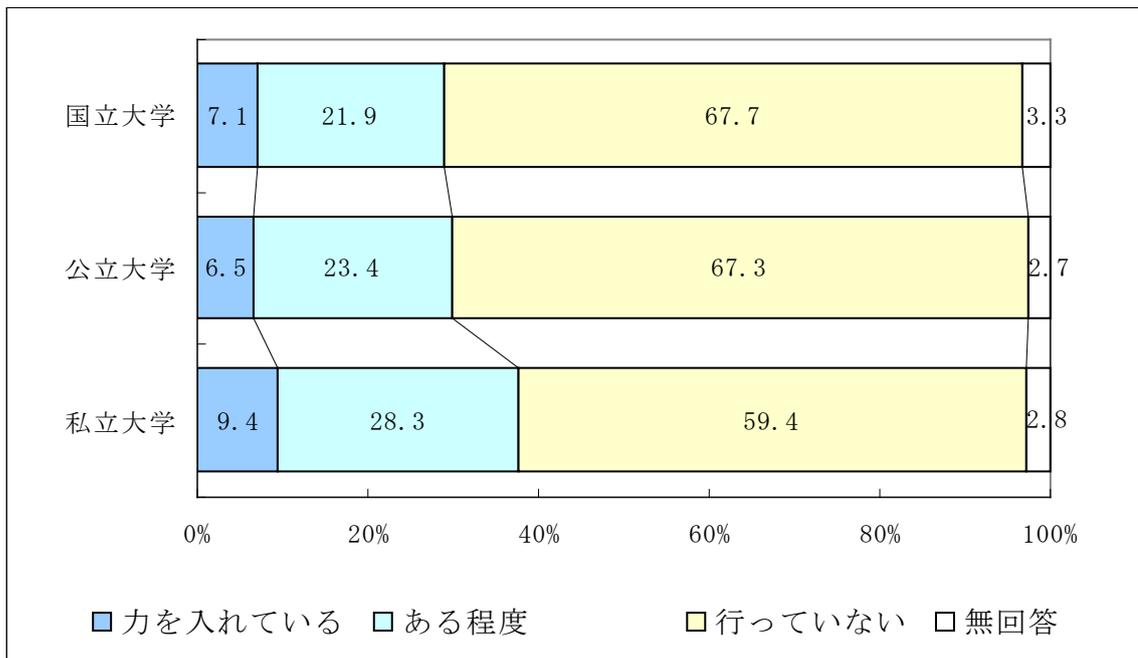
図表 17-4 大学教育改善の将来の重要度（設置形態別）
【修得すべき知識を標準化し、それに応じてカリキュラムを体系化する】



(2)週2回の授業等を通じて学生が個々の授業科目に集中できるようにする

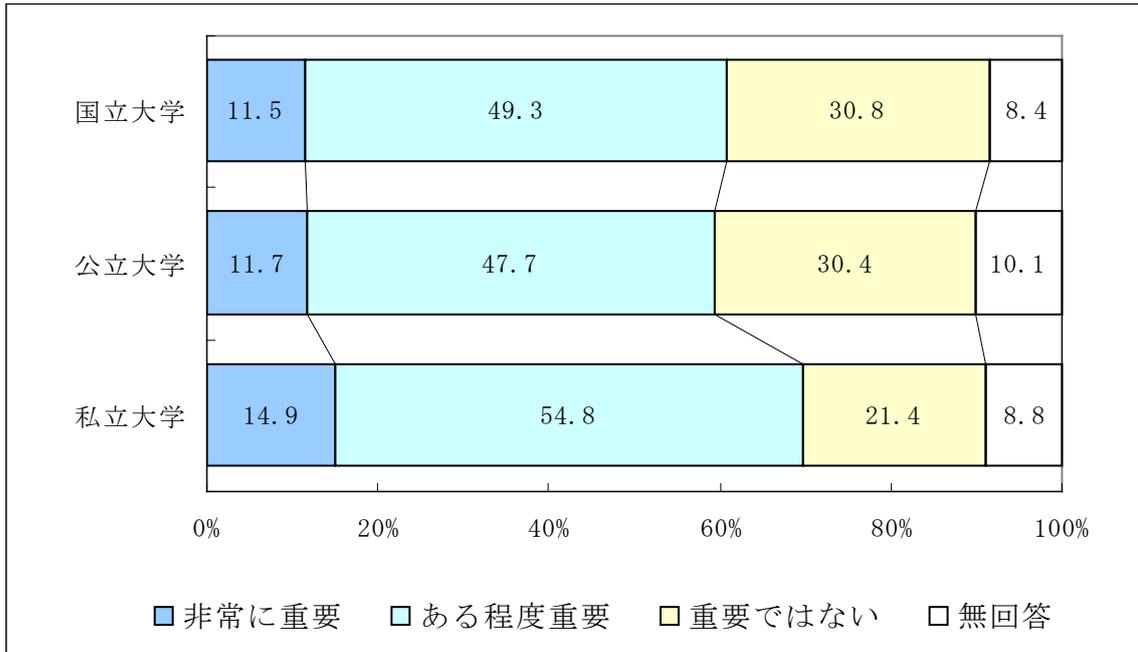
大学教育改善の方向のうち、『週2回の授業等を通じて学生が個々の授業科目に集中できるようにする』について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた率では、国立大学（29.0%）、公立大学（29.9%）に比べて私立大学（37.7%）での実施率が高くなっている。（図表17-5）

図表17-5 大学教育改善の方向（設置形態別）
【週2回の授業等を通じて学生が個々の授業科目に集中できるようにする】



次に、『週2回の授業等を通じて学生が個々の授業科目に集中できるようにする』の将来の方向についての重要度を設置形態別にみると、「非常に重要」と「ある程度重要」とを合わせた率では、国立大学（60.8%）、公立大学（59.4%）に比べて私立大学（69.7%）に多くなっている。（図表17-6）

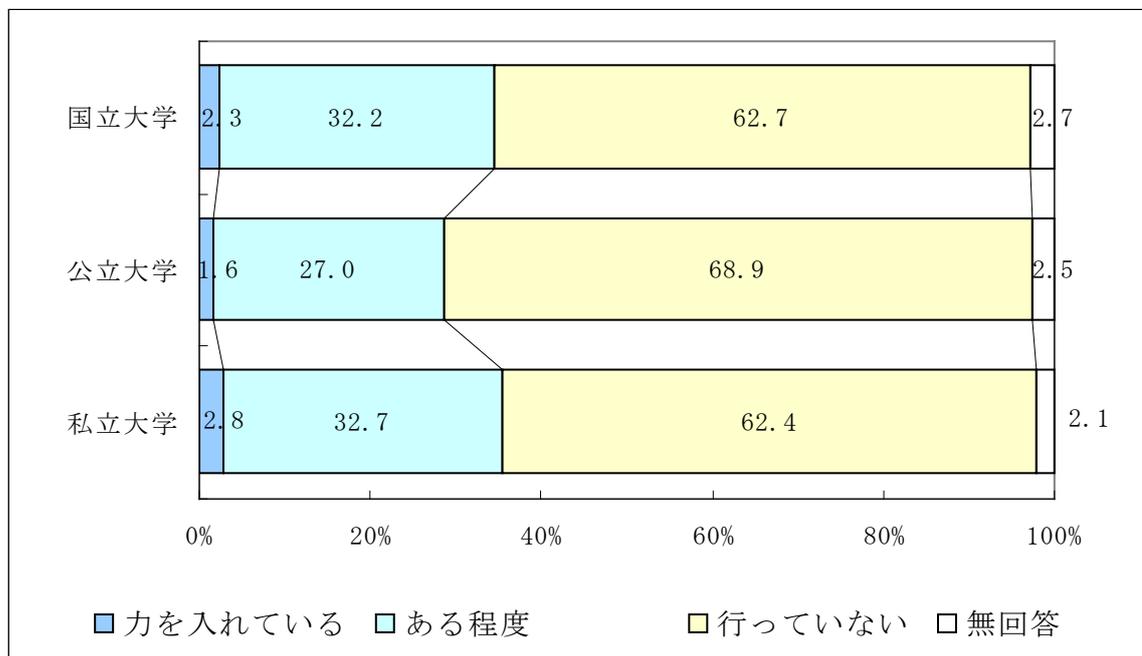
図表17-6 大学教育改善の将来の重要度（設置形態別）
【週2回の授業等を通じて学生が個々の授業科目に集中できるようにする】



(3) 少人数の授業を増やすよりも、授業内容、教材などを標準化し、T Aなどを組織的に用いる

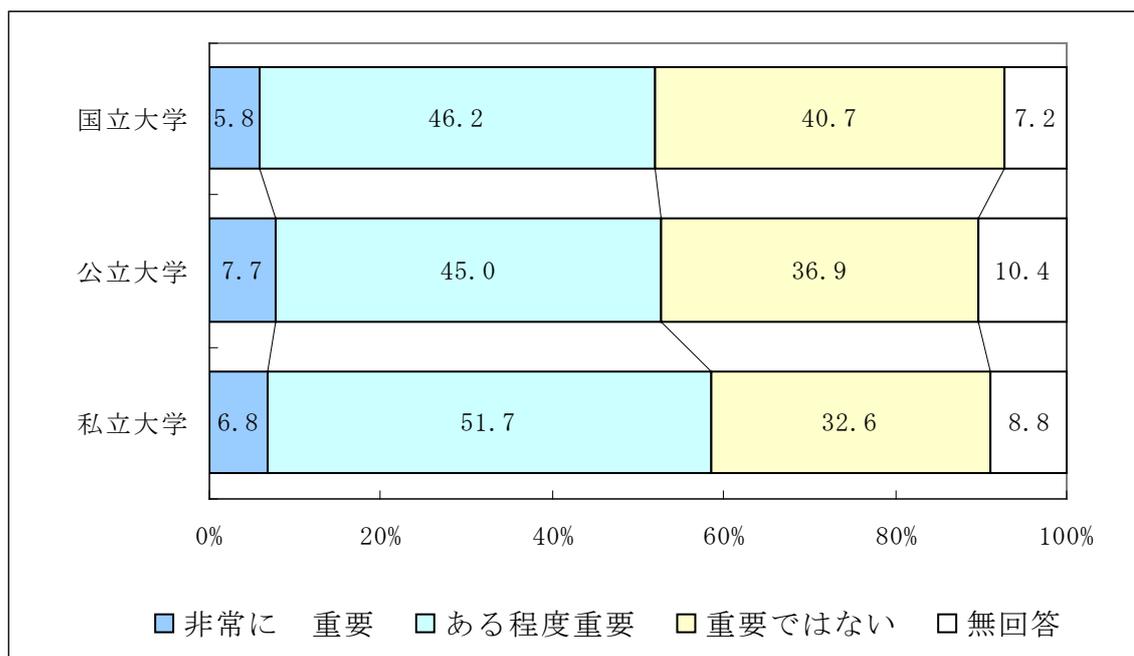
大学教育改善の方向のうち、『少人数の授業を増やすよりも、授業内容、教材などを標準化し、T Aなどを組織的に用いる』について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた率では、公立大学（28.6％）に比べて国立大学（34.5％）、私立大学（35.5％）での実施率がやや高くなっている。（図表 17－7）

図表 17－7 大学教育改善の方向（設置形態別）
【少人数の授業を増やすよりも、授業内容、教材などを標準化し、T Aなどを組織的に用いる】



次に、『少人数の授業を増やすよりも、授業内容、教材などを標準化し、T Aなどを組織的に用いる』の将来の方向についての重要度を設置形態別にみると、「非常に重要」と「ある程度重要」とを合わせた率では、国立大学（52.0%）、公立大学（52.7%）に比べて私立大学（58.5%）にやや多くなっている。（図表 17－8）

図表 17－8 大学教育改善の将来の重要度（設置形態別）
 【少人数の授業を増やすよりも、授業内容、教材などを標準化し、
 T Aなどを組織的に用いる】

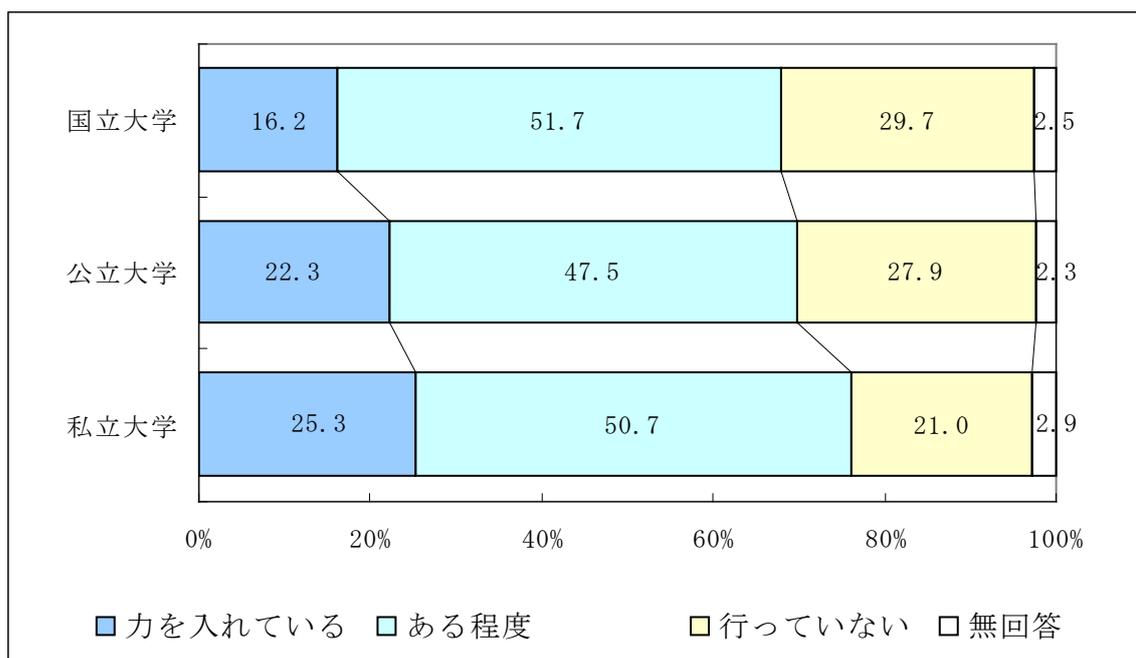


(4) コミュニケーション能力など、授業で獲得すべき基礎能力を明確にする

大学教育改善の方向のうち、『コミュニケーション能力など、授業で獲得すべき基礎能力を明確にする』について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた率では、国立大学（67.9%）、公立大学（69.8%）に比べて私立大学（76.0%）での実施率が高くなっている。（図表 17－9）

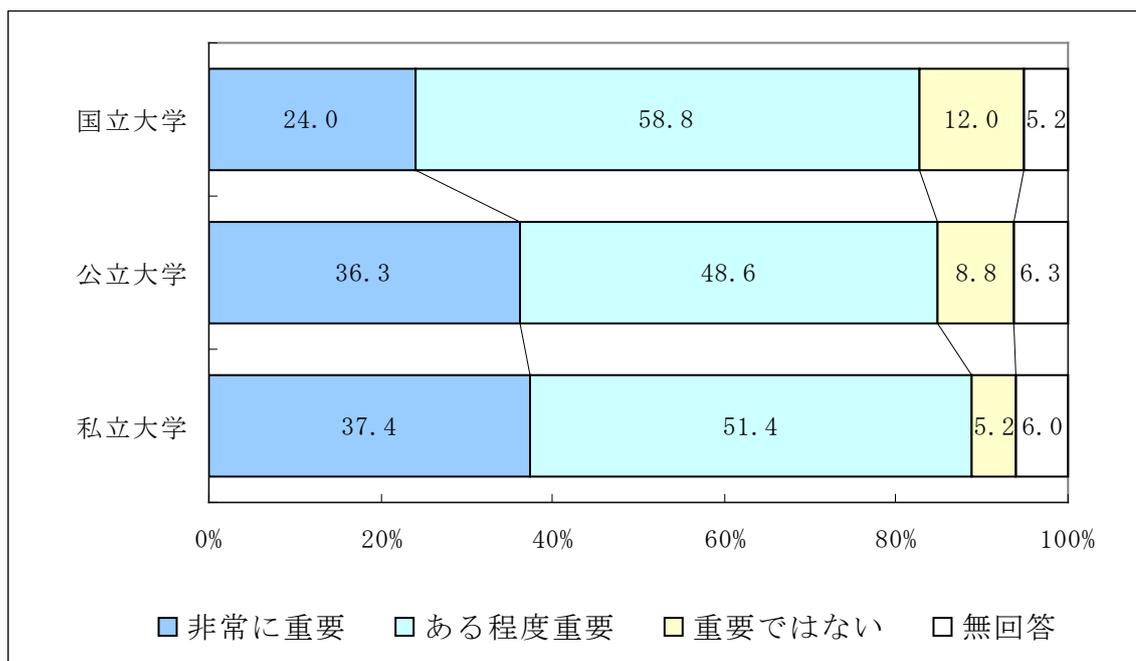
図表 17－9 大学教育改善の方向（設置形態別）

【コミュニケーション能力など、授業で獲得すべき基礎能力を明確にする】



次に、『コミュニケーション能力など、授業で獲得すべき基礎能力を明確にする』の将来の方向についての重要度を設置形態別にみると、「非常に重要」と「ある程度重要」とを合わせた率では、国立大学（82.8%）、公立大学（84.9%）に比べて私立大学（88.8%）にやや多くなっている。（図表 17-10）

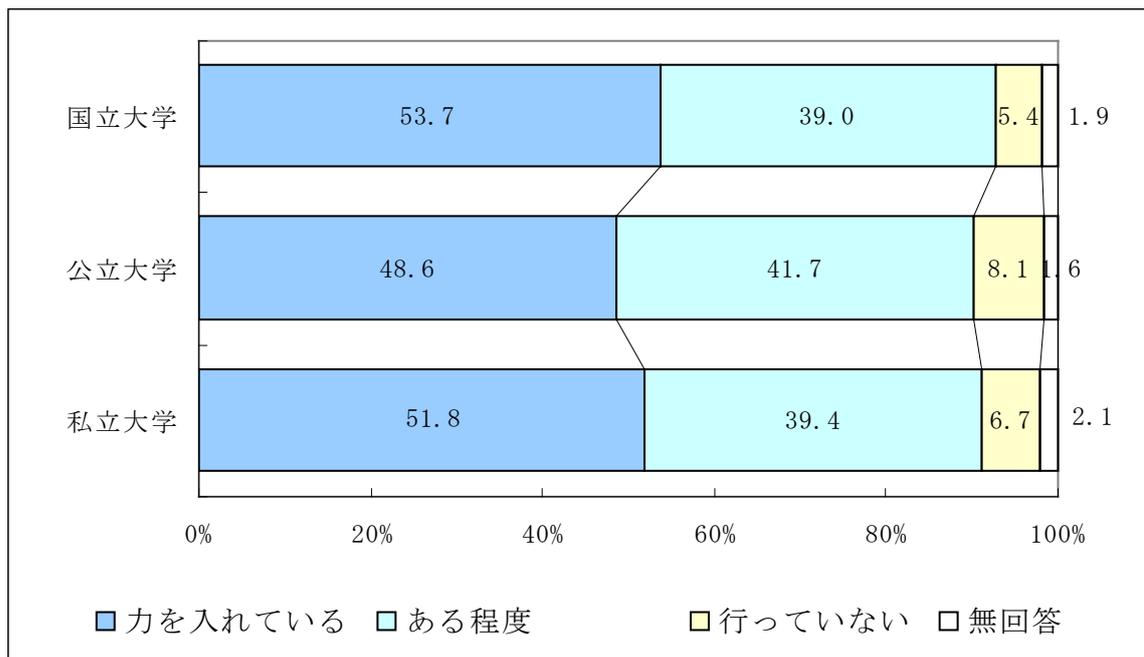
図表 17-10 大学教育改善の将来の重要度（設置形態別）
【コミュニケーション能力など、授業で獲得すべき基礎能力を明確にする】



(5) 研究室、ゼミなどを通じて、教員や学生間の接触を強化する

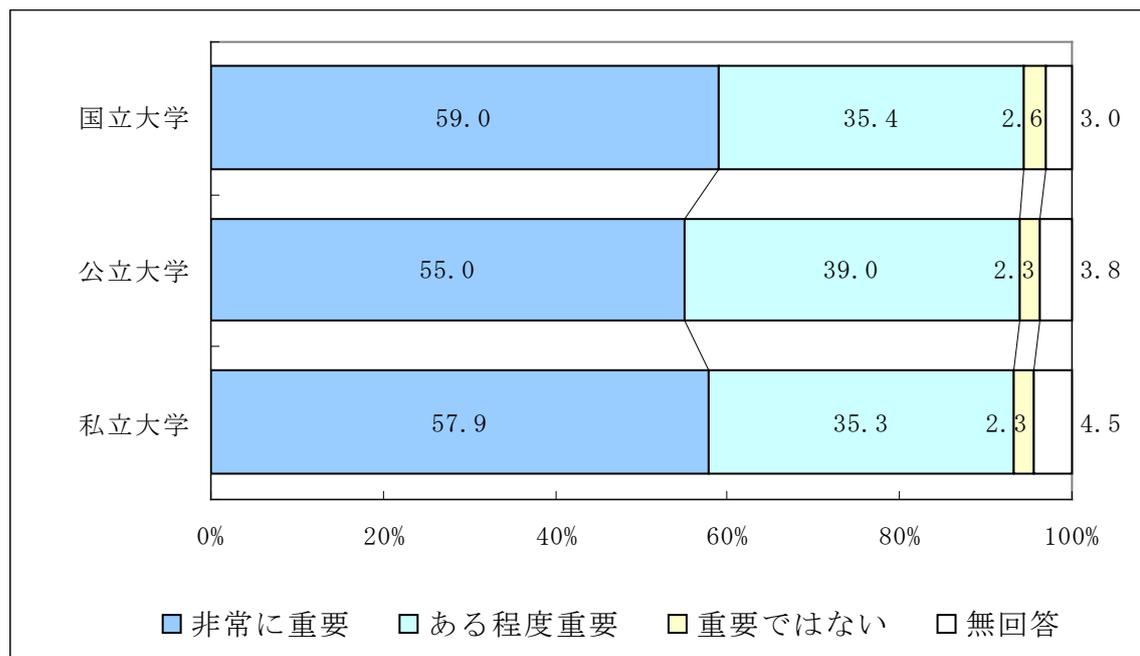
大学教育改善の方向のうち、『研究室、ゼミなどを通じて、教員や学生間の接触を強化する』について設置形態別にみると、「力を入れている」と「ある程度」とを合わせた率では、国立大学が92.7%、公立大学が90.3%、私立大学が91.2%で、設置形態による差はみられず、いずれも9割以上の高い実施率を示している。(図表 17-11)

図表 17-11 大学教育改善の方向（設置形態別）
【研究室、ゼミなどを通じて、教員や学生間の接触を強化する】



次に、『研究室、ゼミなどを通じて、教員や学生間の接触を強化する』の将来の方向についての重要度を設置形態別にみると、「非常に重要」と「ある程度重要」とを合わせた率では、国立大学が94.4%、公立大学が94.0%、私立大学が93.2%で、設置形態による差はみられず、いずれの大学でも9割以上の高い重要度となっている。(図表17-12)

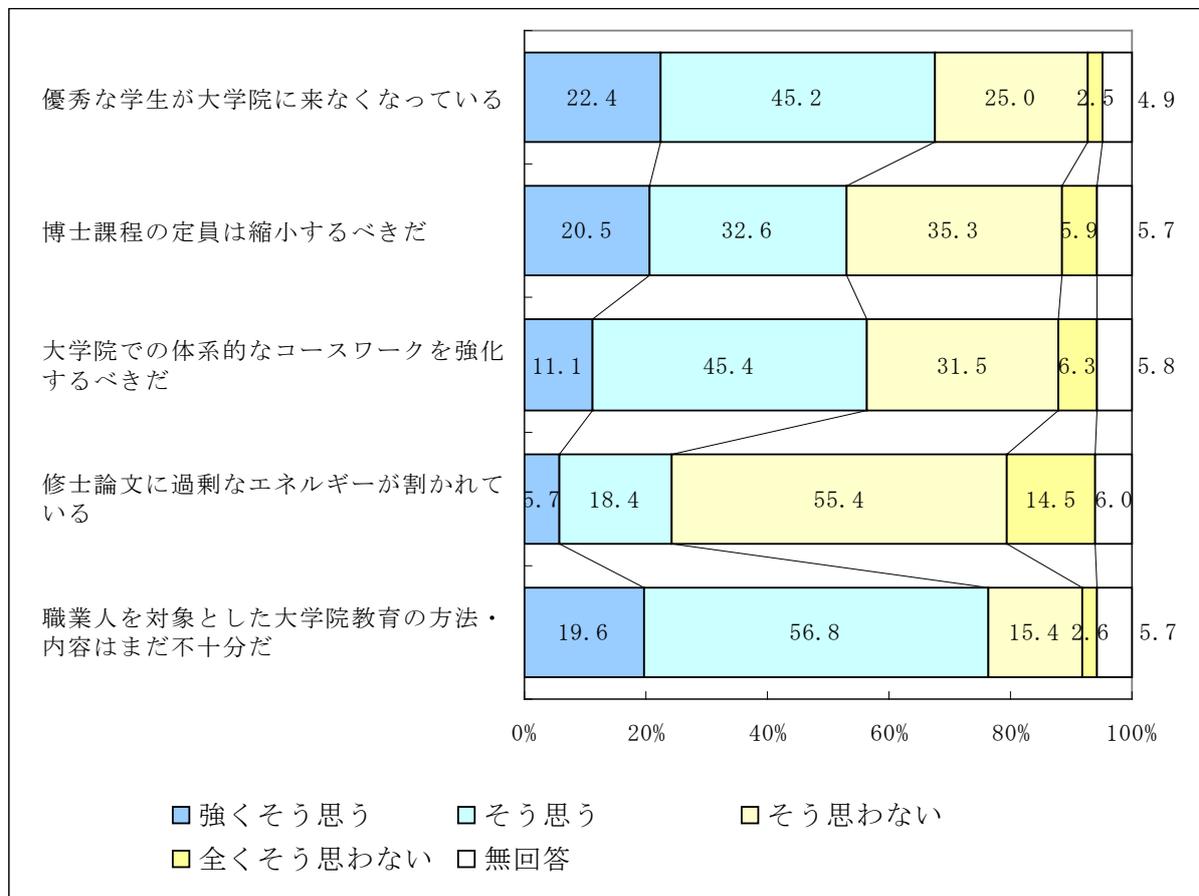
図表17-12 大学教育改善の将来の重要度（設置形態別）
【研究室、ゼミなどを通じて、教員や学生間の接触を強化する】



18. 大学院の教育に対する考え

大学院の教育に対する考えについて尋ねたところ、『職業人を対象とした大学院教育の方法・内容はまだ不十分だ』という考えに対しては、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた賛成意見が76.4%と全体の4分の3を占めて多くなっている。次いで『優秀な学生が大学院に来なくなっている』(67.6%)が約7割、『博士課程の定員は縮小するべきだ』(53.1%)、『大学院での体系的なコースワークを強化するべきだ』(56.5%)が5割強の賛成意見となっている。一方、『修士論文に過剰なエネルギーが割かれている』についての賛成意見は24.1%と僅か全体の4分の1を占める程度である。(図表18-1)

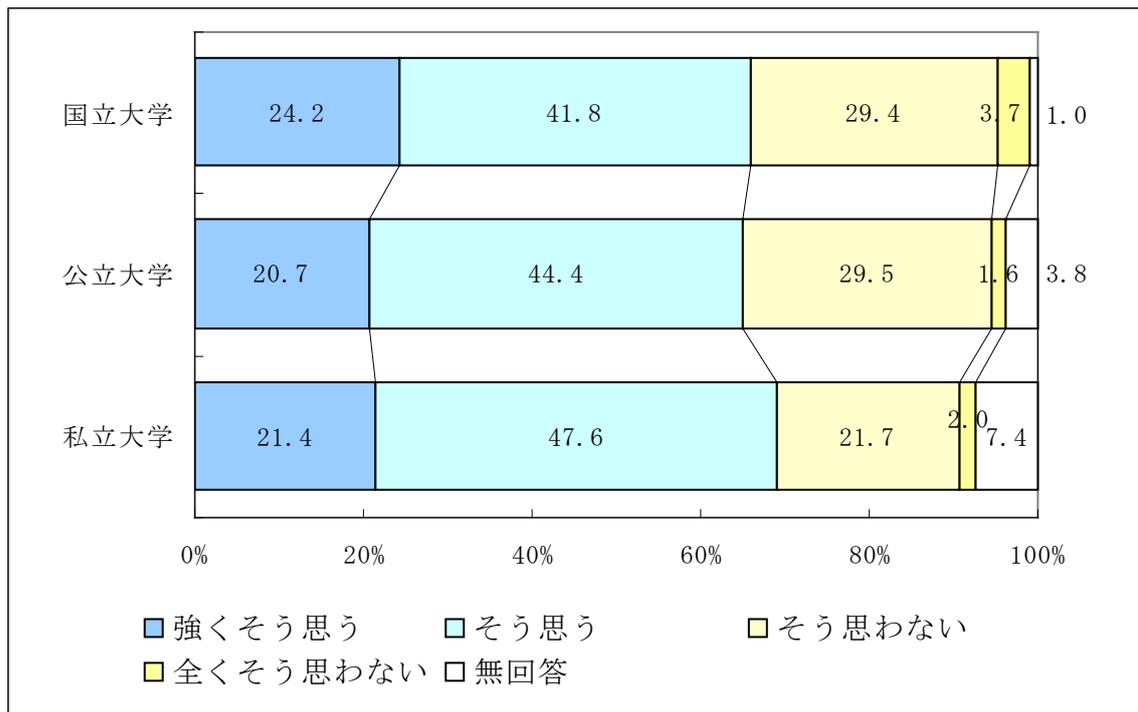
図表 18-1 大学院の教育に対する考え



(1) 優秀な学生が大学院に来なくなっている

大学院の教育に対する考えのうち、『優秀な学生が大学院に来なくなっている』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、国立大学(66.0%)、公立大学(65.1%)に比べて私立大学(69.0%)に賛成意見がやや多くなっている。(図表18-2)

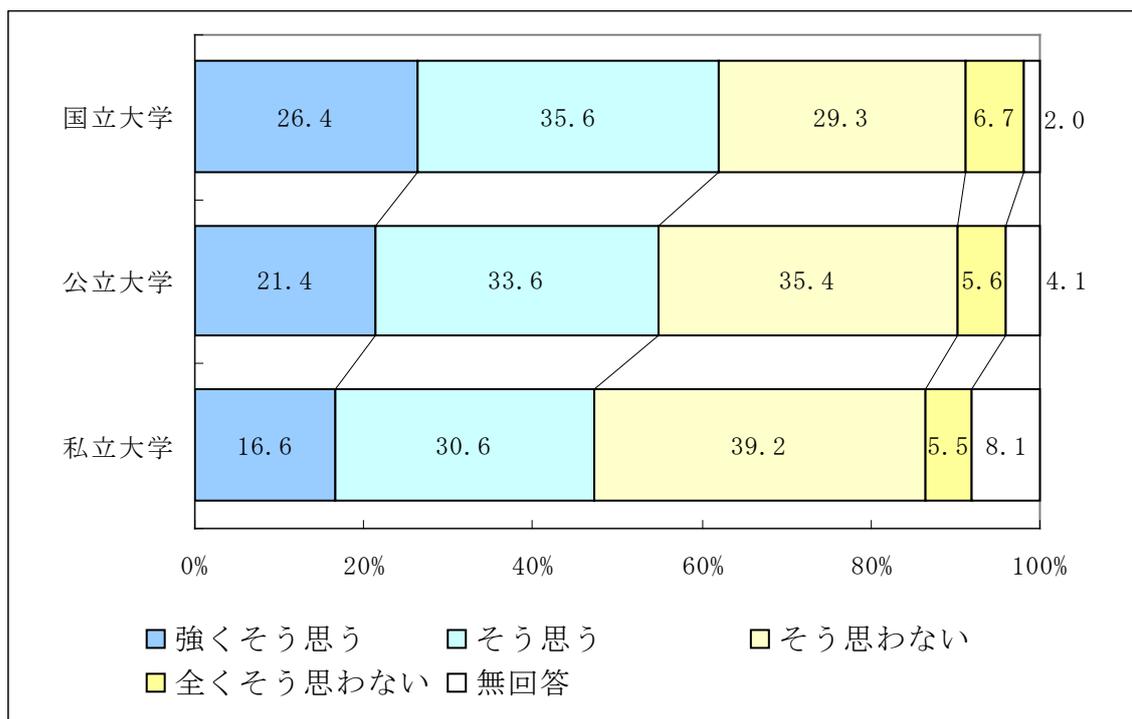
図表 18-2 大学院の教育に対する考え (設置形態別)
【優秀な学生が大学院に来なくなっている】



(2) 博士課程の定員は縮小するべきだ

大学院の教育に対する考えのうち、『博士課程の定員は縮小するべきだ』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、国立大学（62.0%）で賛成意見が最も多く、次いで公立大学（55.0%）、私立大学（47.2%）の順となっている。（図表 18－3）

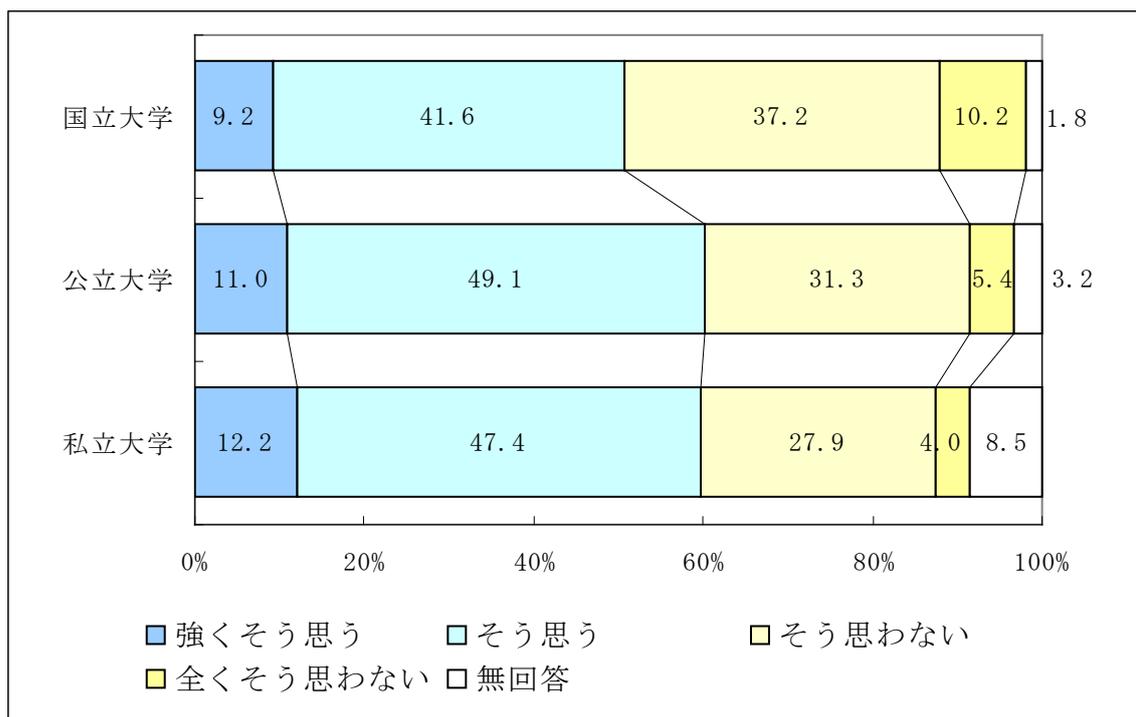
図表 18－3 大学院の教育に対する考え（設置形態別）
【博士課程の定員は縮小するべきだ】



(3) 大学院での体系的なコースワークを強化するべきだ

大学院の教育に対する考えのうち、『大学院での体系的なコースワークを強化するべきだ』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、国立大学（50.8％）に比べて公立大学（60.1％）、私立大学（59.6％）にこの考えへの賛成意見が多くなっている。（図表 18－4）

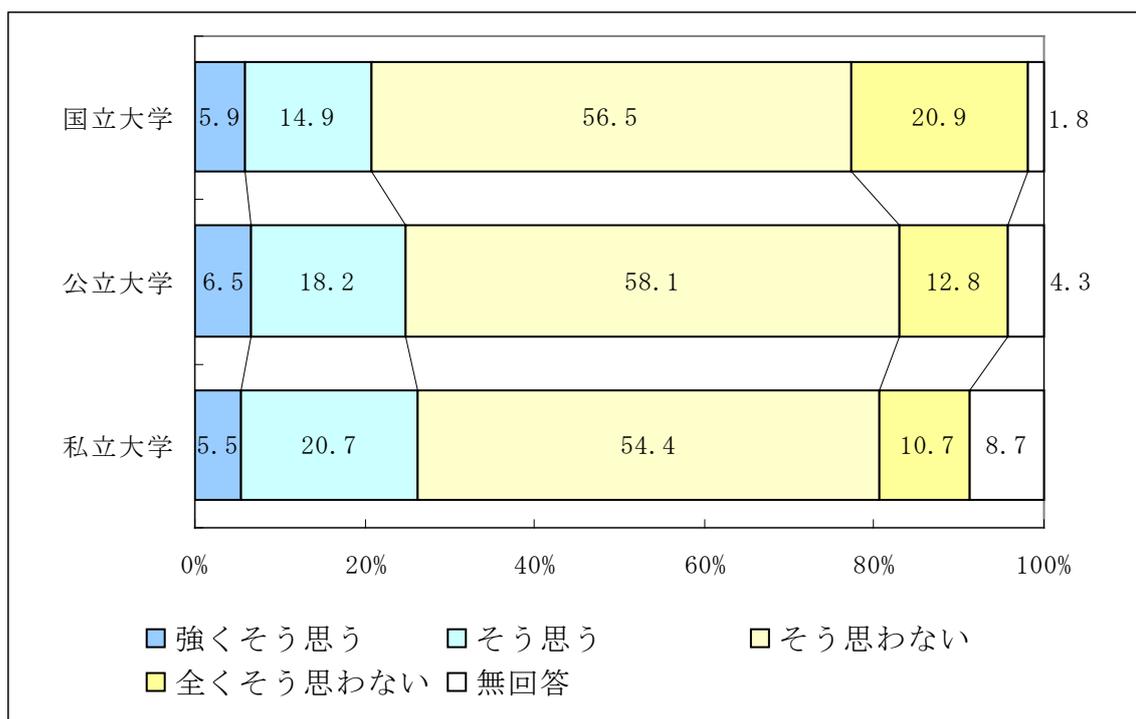
図表 18－4 大学院の教育に対する考え（設置形態別）
【大学院での体系的なコースワークを強化するべきだ】



(4) 修士論文に過剰なエネルギーが割かれている

大学院の教育に対する考えのうち、『修士論文に過剰なエネルギーが割かれている』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、国立大学（20.8%）よりも公立大学（24.7%）、私立大学（26.2%）に賛成意見がやや多くなっている。（図表 18－5）

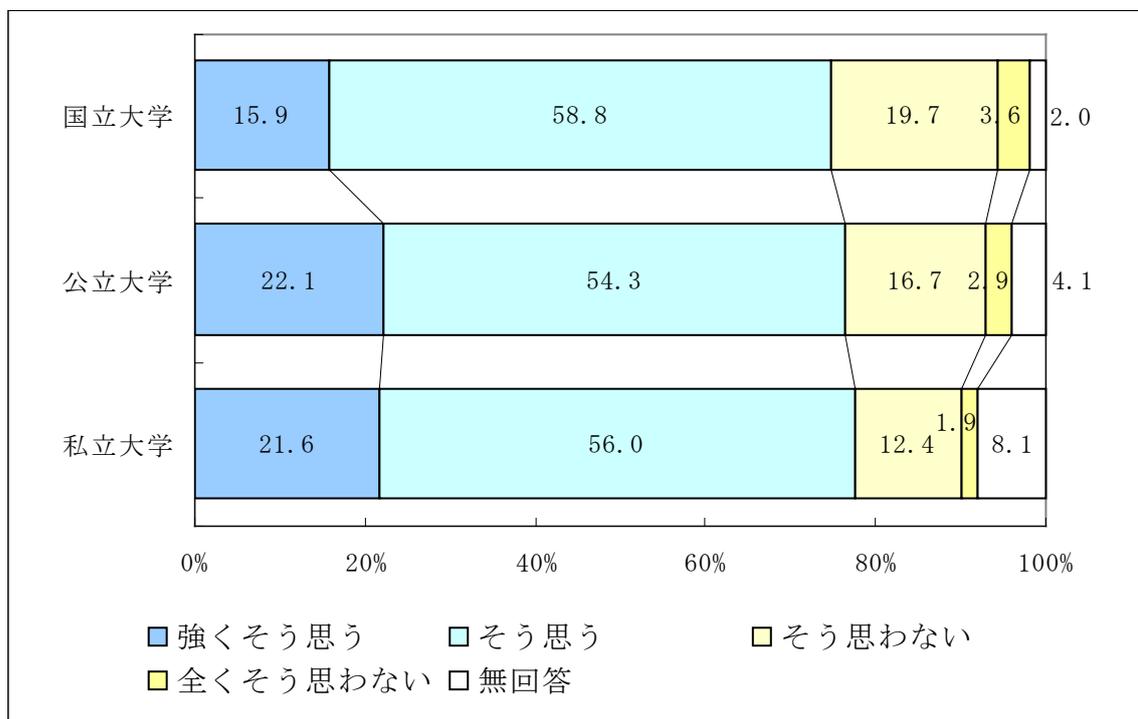
図表 18－5 大学院の教育に対する考え（設置形態別）
【修士論文に過剰なエネルギーが割かれている】



(5) 職業人を対象とした大学院教育の方法・内容はまだ不十分だ

大学院の教育に対する考えのうち、『職業人を対象とした大学院教育の方法・内容はまだ不十分だ』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、国立大学で74.7%、公立大学で76.4%、私立大学で77.6%となっており、賛成意見の設置形態による差はほとんどみられないが、「強くそう思う」は国立大学（15.9%）に比べて公立大学（22.1%）、私立大学（21.6%）に多くなっている。（図表 18-6）

図表 18-6 大学院の教育に対する考え（設置形態別）
【職業人を対象とした大学院教育の方法・内容はまだ不十分だ】

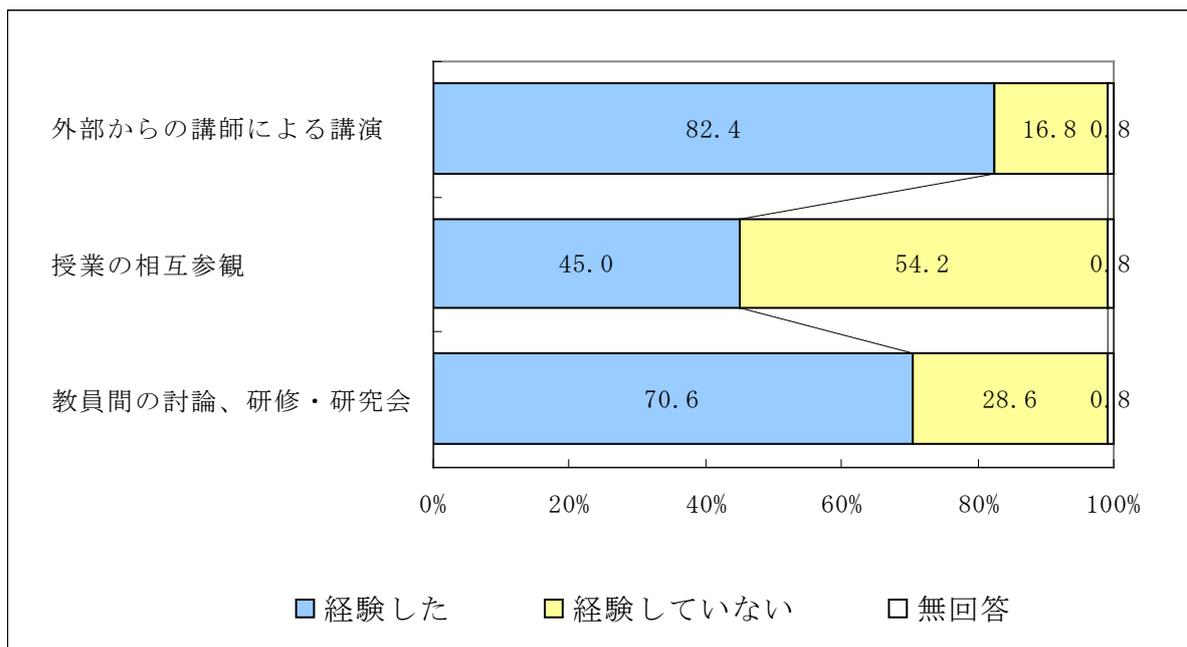


第IV章 所属大学と回答者自身について

19. FDとしての経験

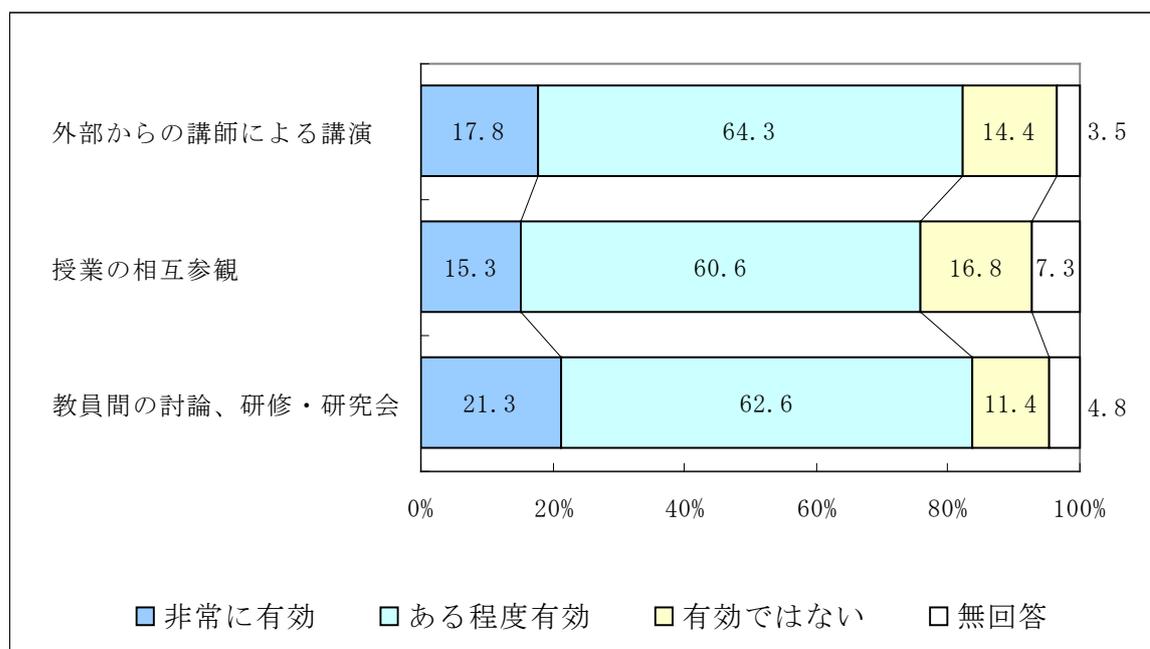
FDとして経験したものをみると、『外部からの講師による講演』(82.4%)については「経験した」が8割強、『教員間の討論、研修・研究会』(70.6%)については7割強が経験しているが、一方で『授業の相互参観』(45.0%)については半数足らずである。(図表19-1)

図表19-1 FDとしての経験



次に、FDとしての経験の効果を見ると、「非常に有効」と「ある程度有効」とをあわせた率では、『外部からの講師による講演』、『教員間の討論、研修・研究会』については、それぞれ82.1%、83.9%が有効であると評価しているが、『授業の相互参観』については75.9%にとどまっている。(図表 19-2)

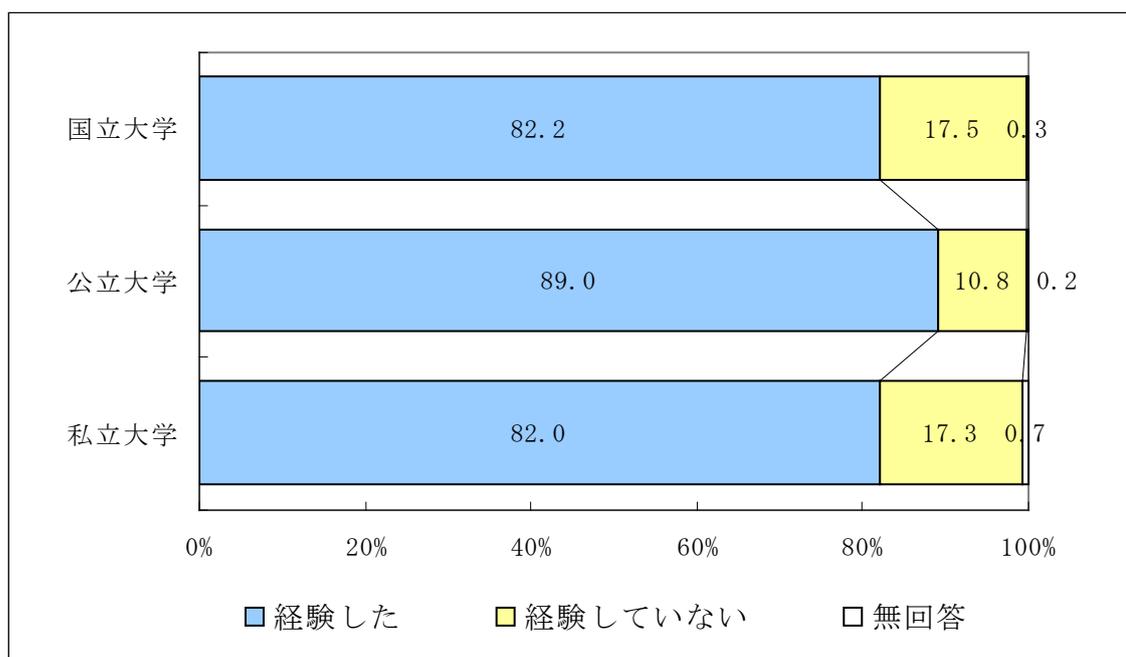
図表 19-2 FDとしての経験の効果



(1)外部からの講師による講演

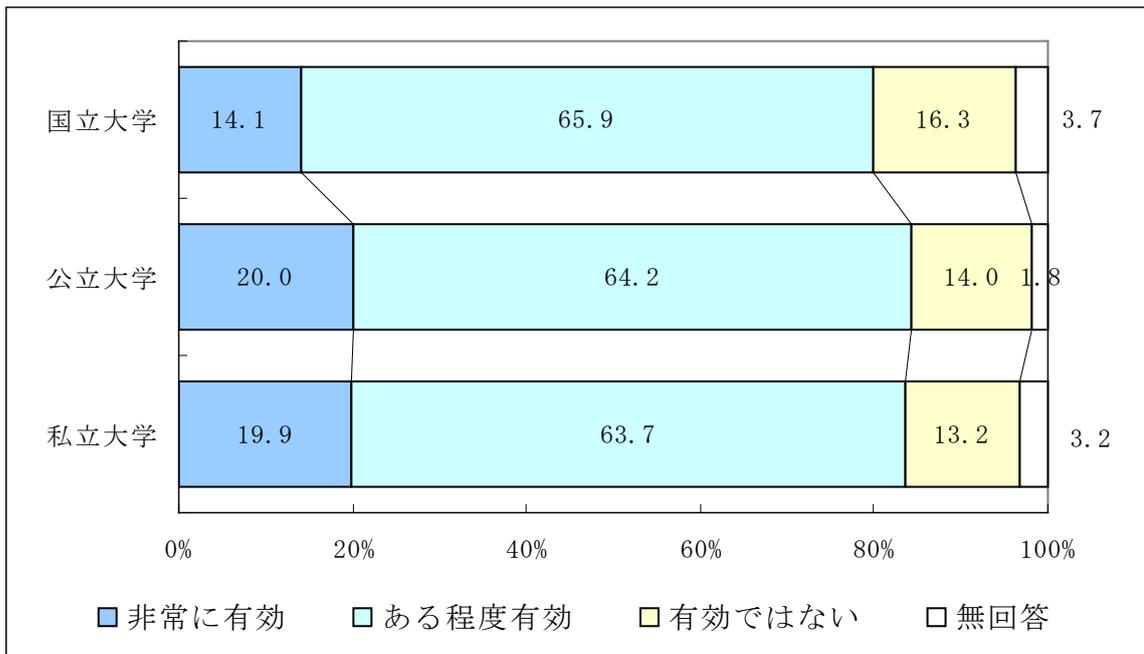
FDとして経験したものとして、『外部からの講師による講演』について設置形態別にみると、国立大学（82.2%）、私立大学（82.0%）に比べて公立大学（89.0%）に経験者が多くなっている。（図表 19－3）

図表 19－3 FDとしての経験（設置形態別）
【外部からの講師による講演】



次に、FDとしての経験の効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とをあわせた率では、国立大学（80.0%）に比べて公立大学（84.2%）私立大学（83.6%）での評価がやや高くなっている。（図表 19-4）

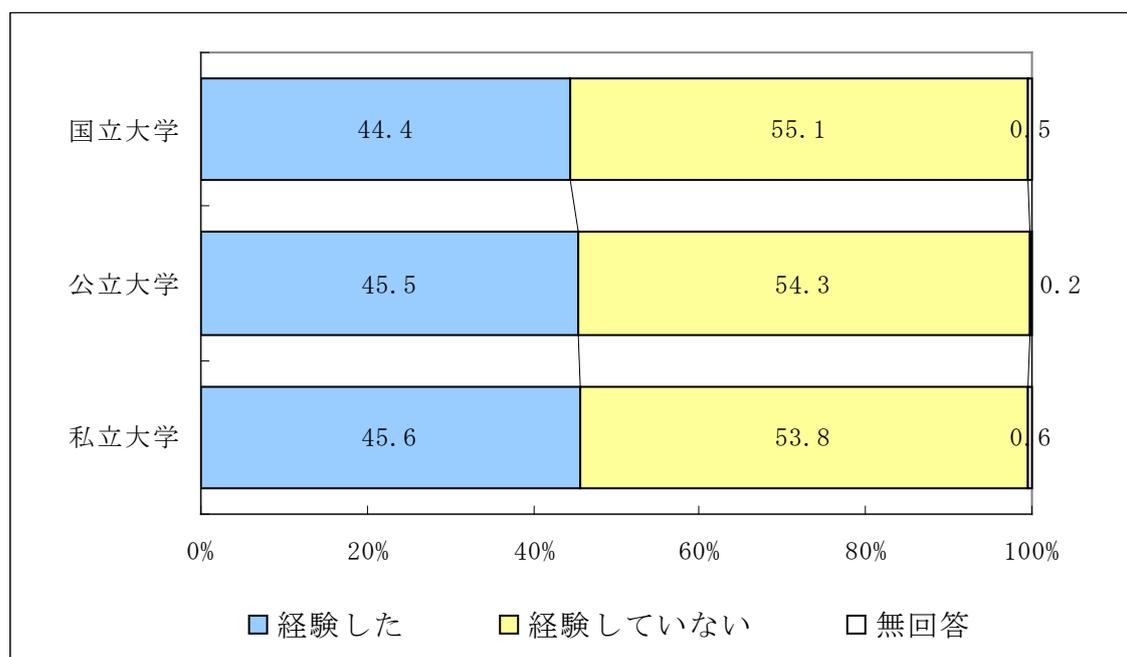
図表 19-4 FDとしての経験の効果（設置形態別）
【外部からの講師による講演】



(2) 授業の相互参観

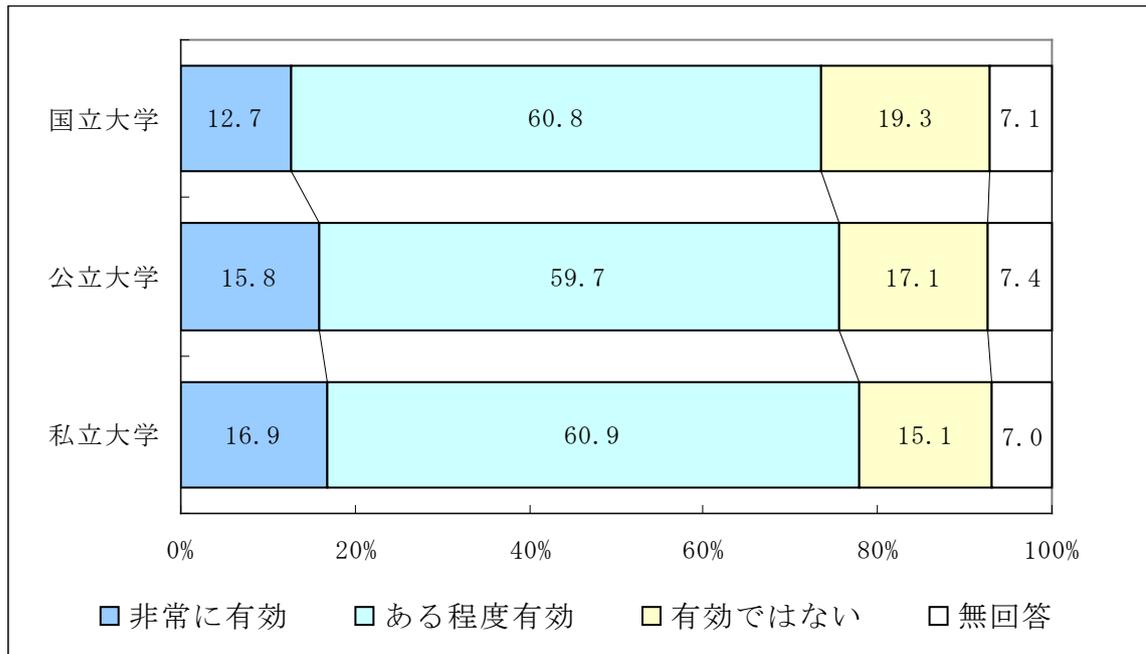
FDとして経験したものとして、『授業の相互参観』について設置形態別にみると、「経験した」は国立大学で44.4%、公立大学で45.5%、私立大学で45.6%となっており、設置形態による差はみられず、いずれの大学でも経験者は半数に満たない。(図表 19-5)

図表 19-5 FDとしての経験（設置形態別）
【授業の相互参観】



次に、FDとしての経験の効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学（73.5％）に比べて公立大学（75.5％）、私立大学（77.8％）での評価がやや高くなっているが、設置形態による差はあまりみられない。（図表 19－6）

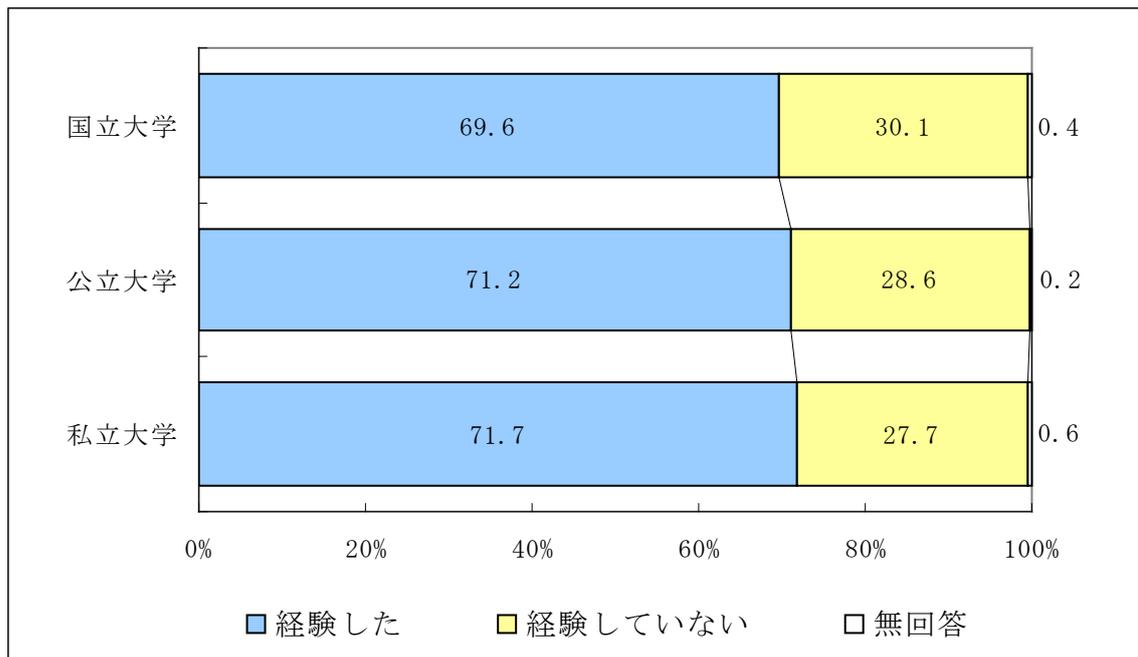
図表 19－6 FDとしての経験の効果（設置形態別）
【授業の相互参観】



(3) 教員間の討論、研修・研究会

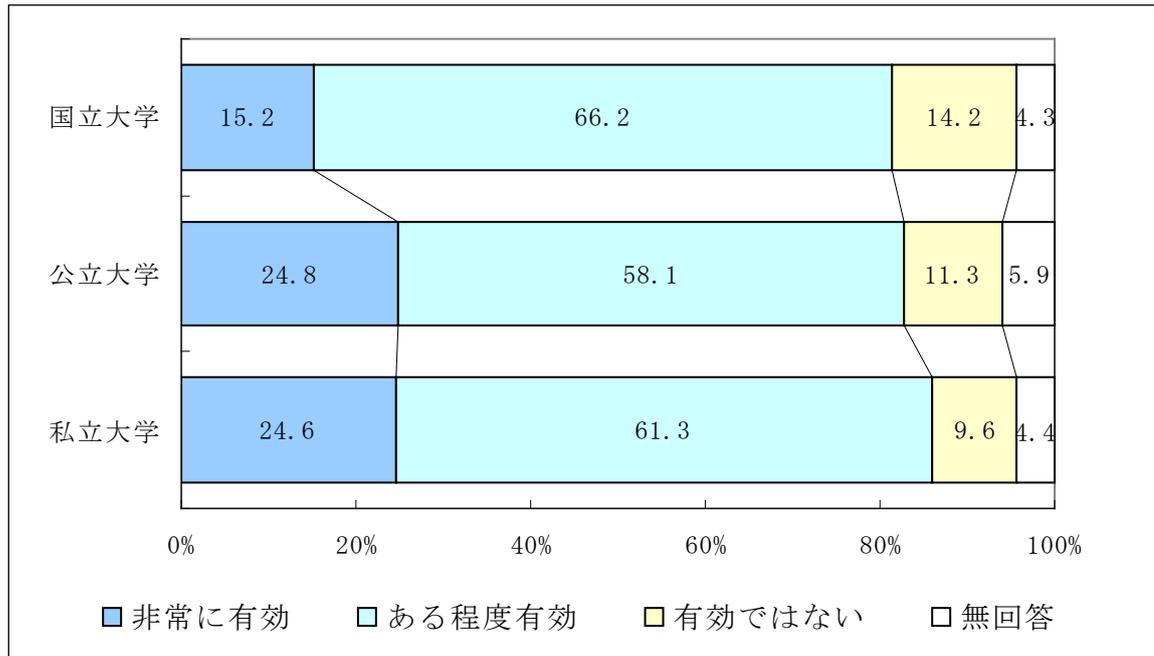
FDとして経験したものとして、『教員間の討論、研修・研究会』について設置形態別にみると、「経験した」は国立大学で69.6%、公立大学で71.2%、私立大学で71.7%となっており、設置形態による差はほとんどみられず、いずれの大学でも経験者が7割前後を占めている。(図表19-7)

図表19-7 FDとしての経験（設置形態別）
【教員間の討論、研修・研究会】



次に、FDとしての経験の効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とをあわせた率では、国立大学（81.4％）に比べて私立大学（85.9％）で評価がやや高くなっている。また「非常に有効」では国立大学（15.2％）に比べて公立大学（24.8％）、私立大学（24.6％）で多くなっている。（図表 19－8）

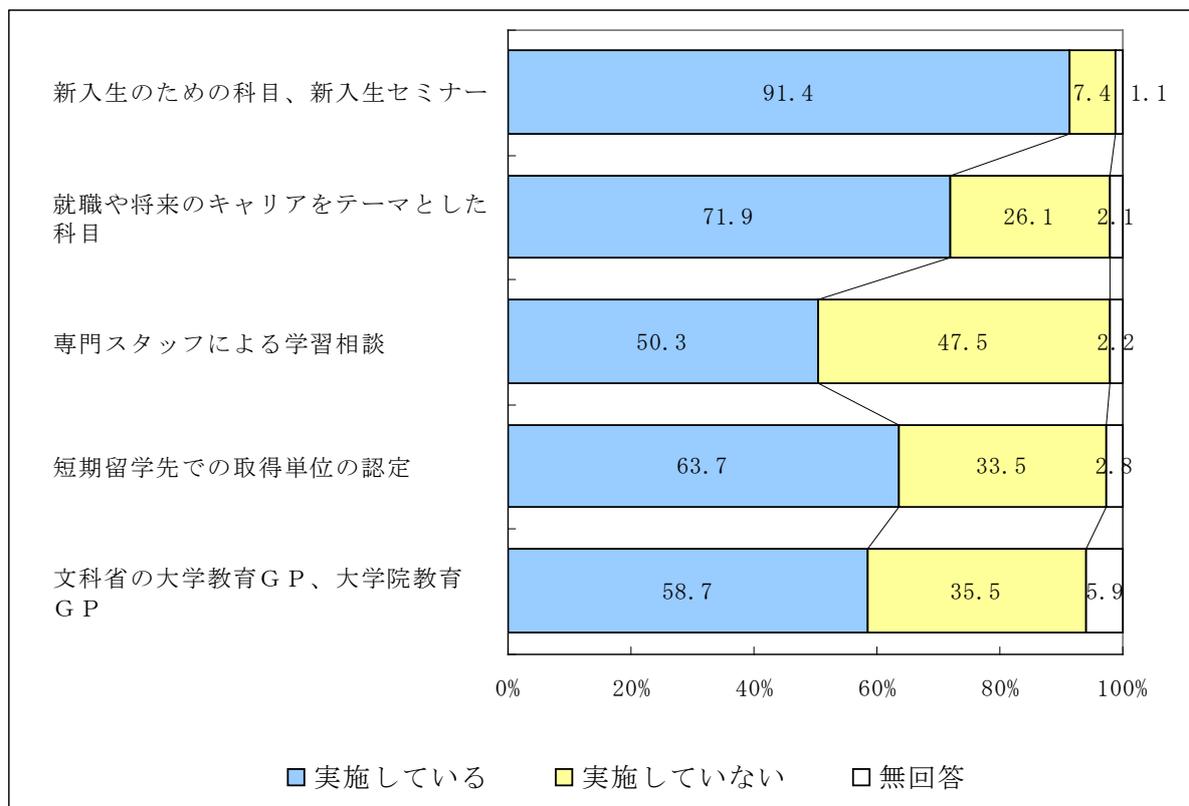
図表 19－8 FDとしての経験の効果（設置形態別）
【教員間の討論、研修・研究会】



20. 大学として実施していること

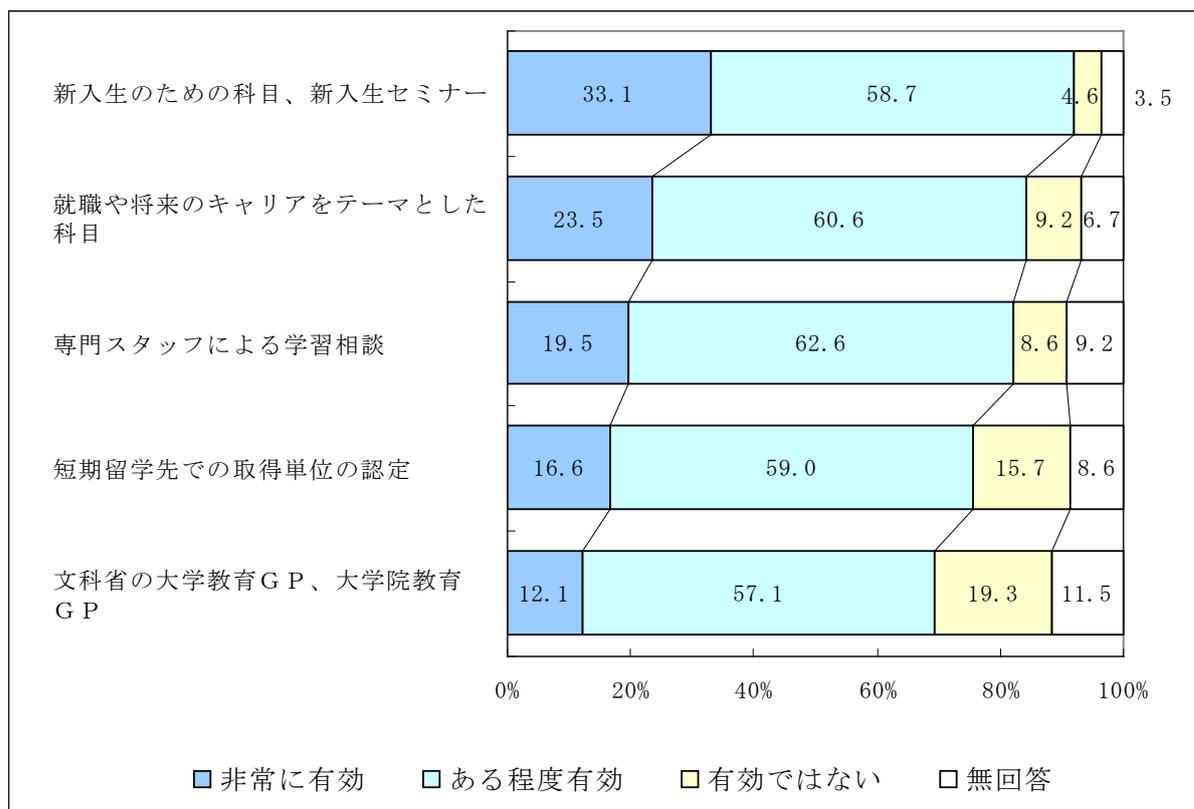
大学として行っていることとして、5つの項目について実施の有無を尋ねたところ、『新入生のための科目、新入生セミナー』については「実施している」が91.4%と最も多く、次いで『就職や将来のキャリアをテーマとした科目』(71.9%)、『短期留学先での取得単位の認定』(63.7%)、『文科省の大学教育G P、大学院教育G P』(58.7%)の順で実施率が高くなっている。一方、『専門スタッフによる学習相談』については、「実施している」が50.3%、「実施していない」が47.5%で、実施の有無で明確に分かれている。(図表20-1)

図表20-1 大学として実施していること



次に、大学として有用と思うかを尋ねたところ、実施率が最も高かった（前頁参照）『新入生のための科目、新入生セミナー』については、「非常に有効」が 33.1%と全体の3分の1を占めて多く、「ある程度有効」を合わせると、効果についても 91.8%と他の項目に比べ最も高く評価されている。次いで『就職や将来のキャリアをテーマとした科目』（84.1%）、『専門スタッフによる学習相談』（82.1%）、『短期留学先での取得単位の認定』（75.6%）、『文科省の大学教育G P、大学院教育G P』（69.2%）の順である。（図表 20-2）

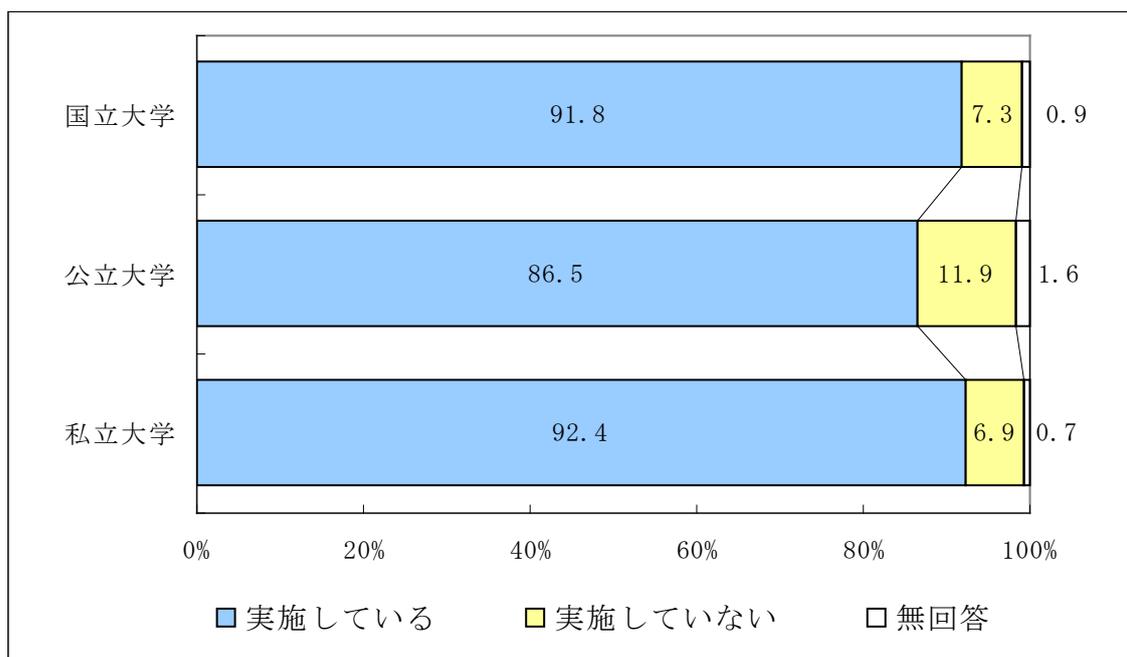
図表 20-2 実施内容の効果



(1) 新入生のための科目、新入生セミナー

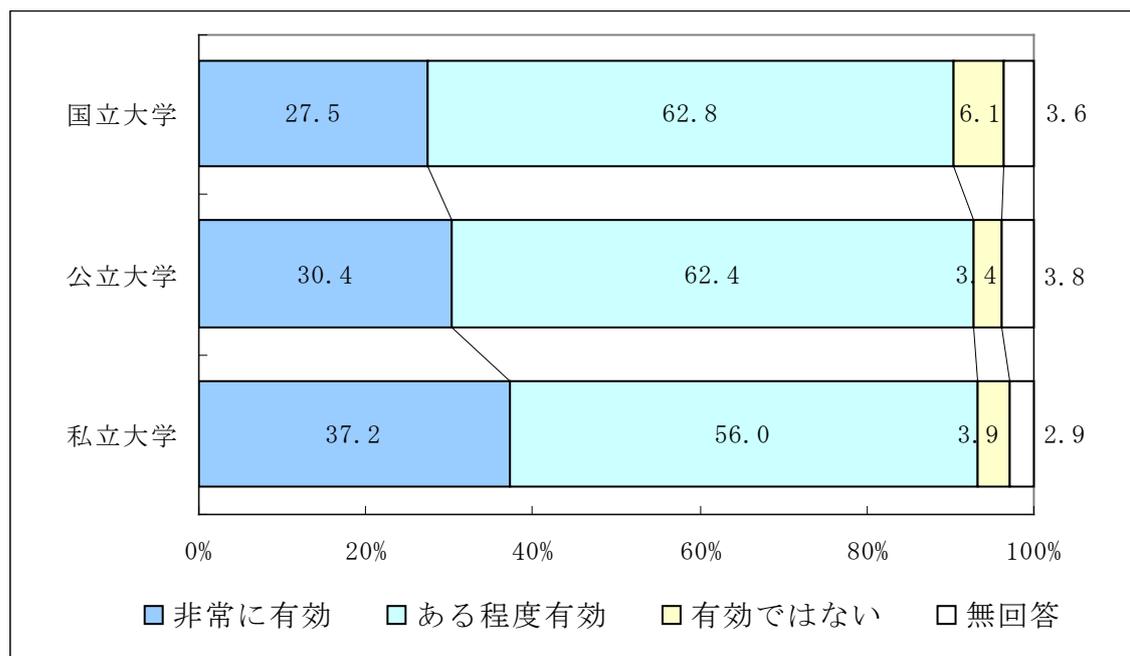
大学として行っていることの『新入生のための科目、新入生セミナー』について設置形態別にみると、公立大学（86.5%）に比べて国立大学（91.8%）、私立大学（92.4%）での実施率が高くなっている。（図表 20－3）

図表 20－3 大学として実施していること（設置形態別）
【新入生のための科目、新入生セミナー】



次に、『新入生のための科目、新入生セミナー』の効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学で90.3%、公立大学で92.8%、私立大学で93.2%と、いずれも9割以上でほとんど差はみられないが、「非常に有効」は私立大学（37.2%）に最も多くなっている。（図表20-4）

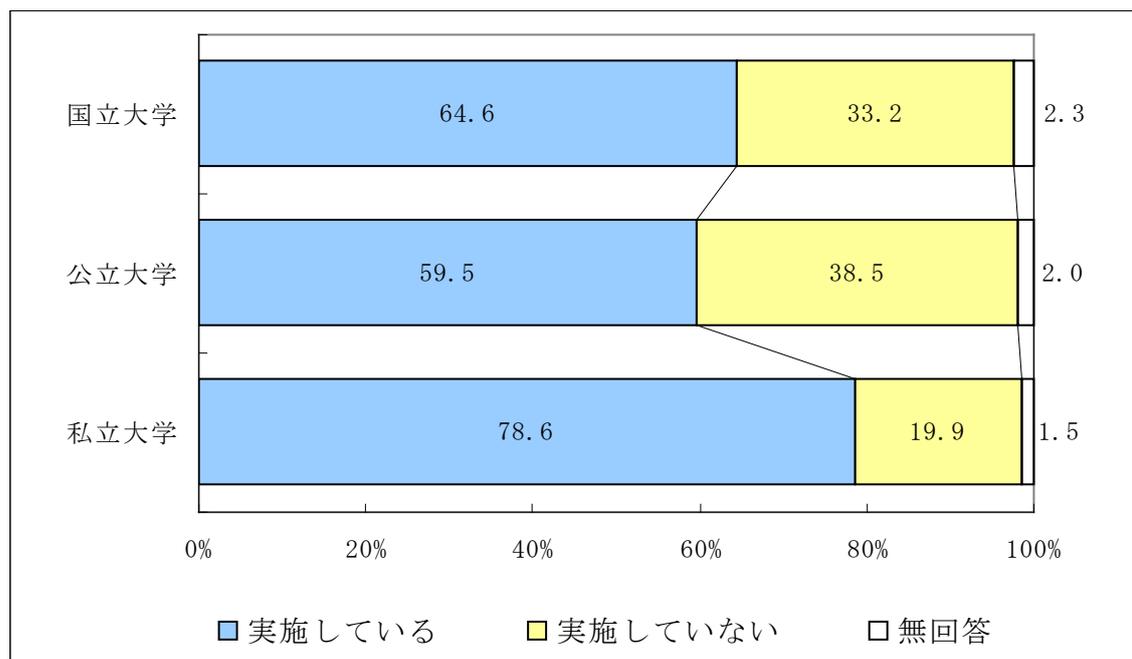
図表20-4 実施内容の効果（設置形態別）
【新入生のための科目、新入生セミナー】



(2) 就職や将来のキャリアをテーマとした科目

大学として行っていることの『就職や将来のキャリアをテーマとした科目』について設置形態別にみると、国立大学（64.6%）、公立大学（59.5%）に比べて私立大学（78.6%）での実施率が14ポイント以上高くなっている。（図表20-5）

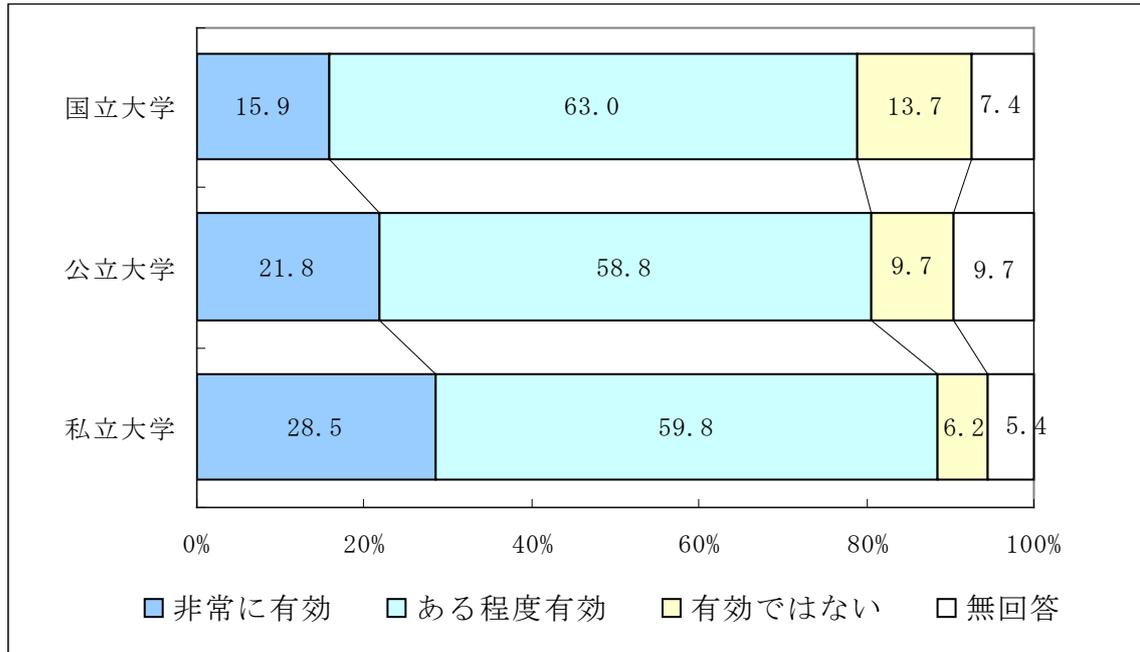
図表 20-5 大学として実施していること（設置形態別）
【就職や将来のキャリアをテーマとした科目】



次に、『就職や将来のキャリアをテーマとした科目』の効果について設置形態別にみると、「非常に有効」が私立大学に28.5%と多く、「ある程度有効」を合わせた率でも、国立大学（78.9%）、公立大学（80.6%）に比べて私立大学（88.3%）に多くなっている。（図表20-6）

図表 20-6 実施内容の効果（設置形態別）

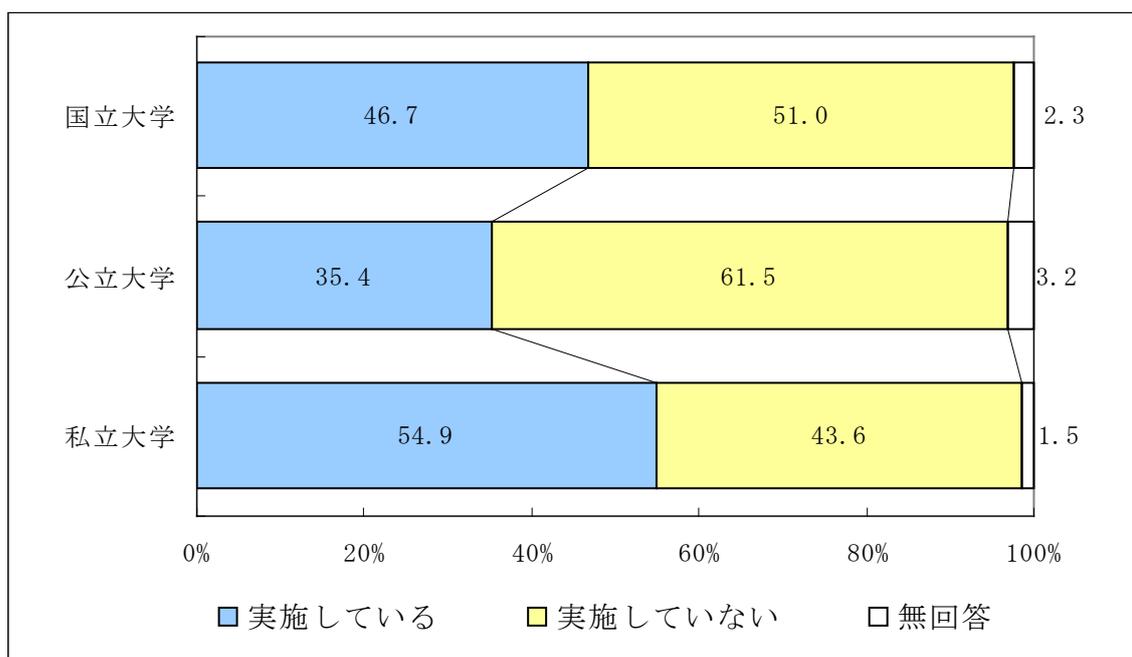
【就職や将来のキャリアをテーマとした科目】



(3) 専門スタッフによる学習相談

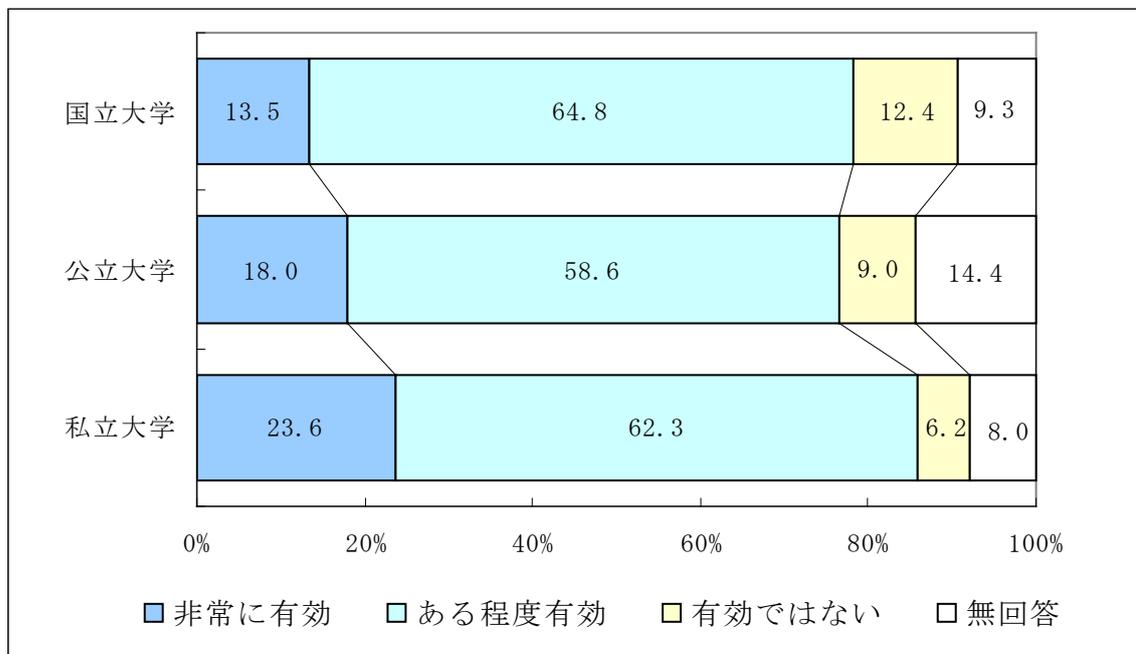
大学として行っていることの『専門スタッフによる学習相談』について設置形態別にみると、実施率は私立大学で54.9%と最も多く、次いで国立大学(46.7%)、公立大学(35.4%)となっている。(図表20-7)

図表20-7 大学として実施していること(設置形態別)
【専門スタッフによる学習相談】



次に、『専門スタッフによる学習相談』の効果について設置形態別にみると、「非常に有効」が私立大学に23.6%と最も多く、「ある程度有効」を合わせた率でも、国立大学(78.3%)、公立大学(76.6%)に比べて私立大学(85.9%)に多くなっている。(図表20-8)

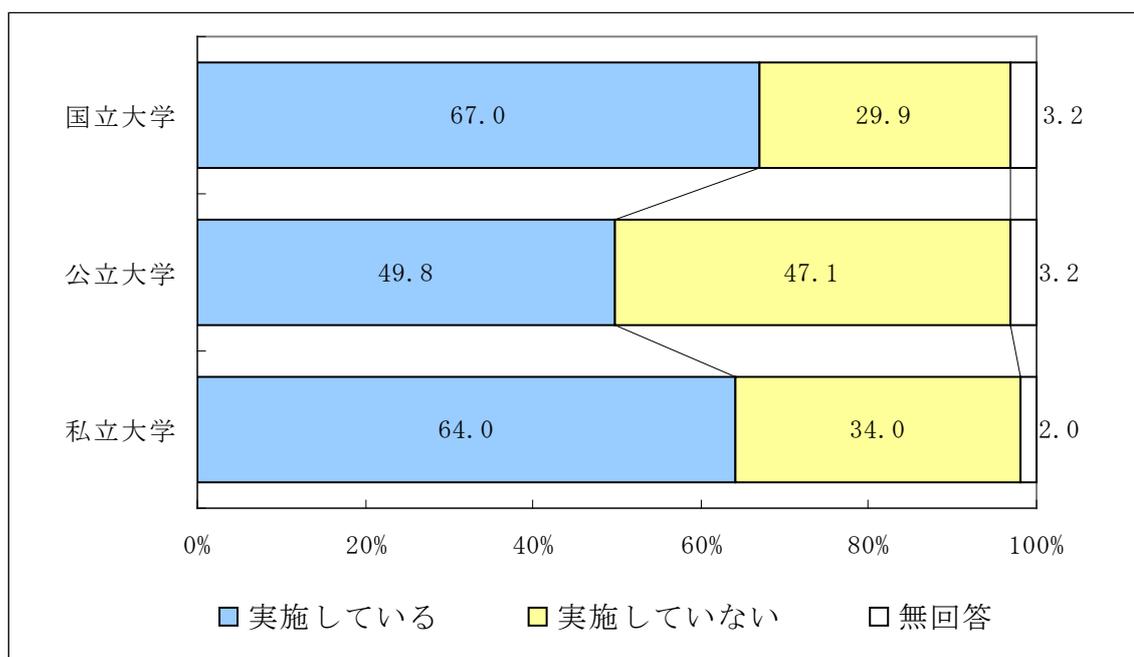
図表20-8 実施内容の効果(設置形態別)
【専門スタッフによる学習相談】



(4) 短期留学先での取得単位の認定

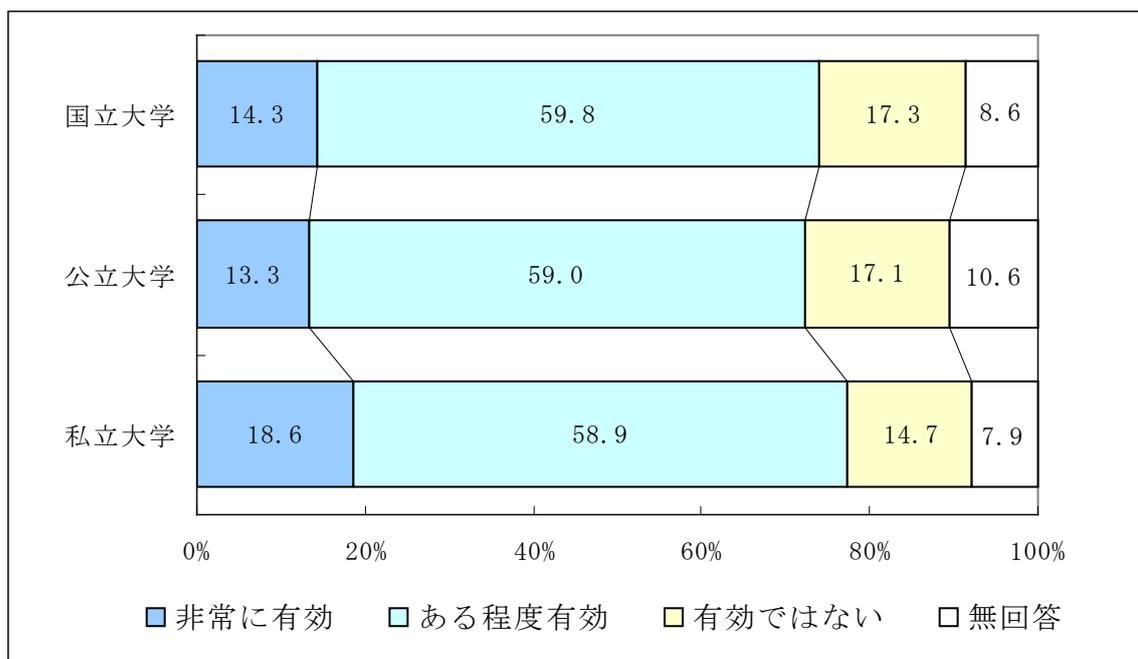
大学として行っていることの『短期留学先での取得単位の認定』について設置形態別にみると、公立大学（49.8％）に比べて国立大学（67.0％）、私立大学（64.0％）での実施率が高くなっている。（図表 20－9）

図表 20－9 大学として実施していること（設置形態別）
【短期留学先での取得単位の認定】



次に、『短期留学先での取得単位の認定』の効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学（74.1%）、公立大学（72.3%）に比べて私立大学（77.5%）にやや多くなっている。（図表 20-10）

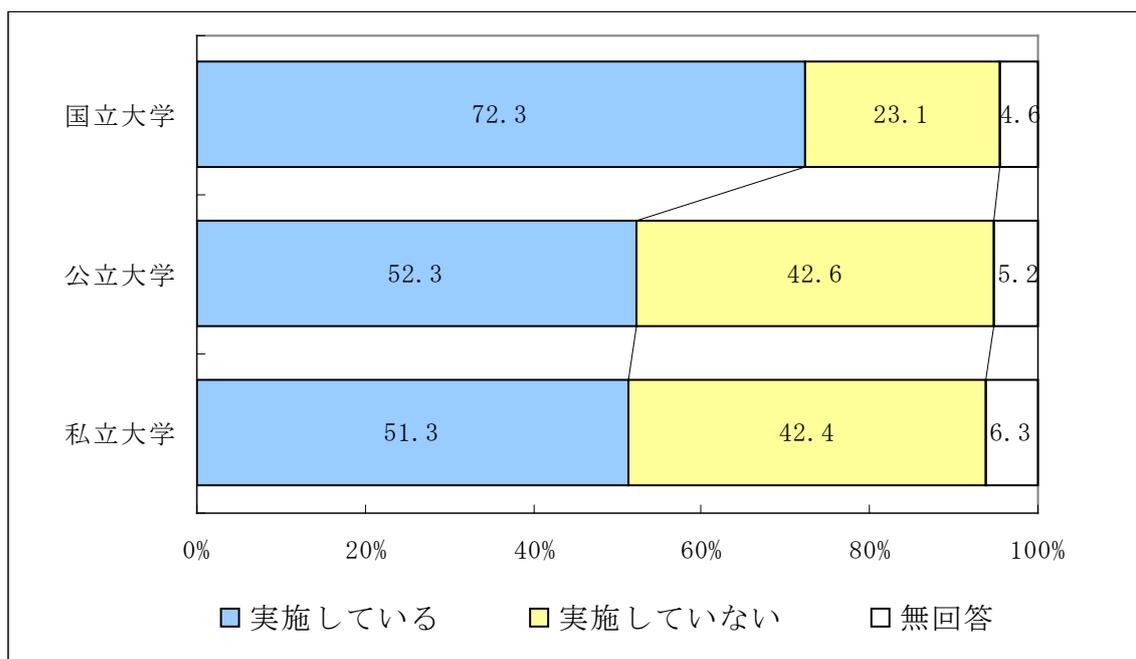
図表 20-10 実施内容の効果（設置形態別）
【短期留学先での取得単位の認定】



(5) 文科省の大学教育G P、大学院教育G P

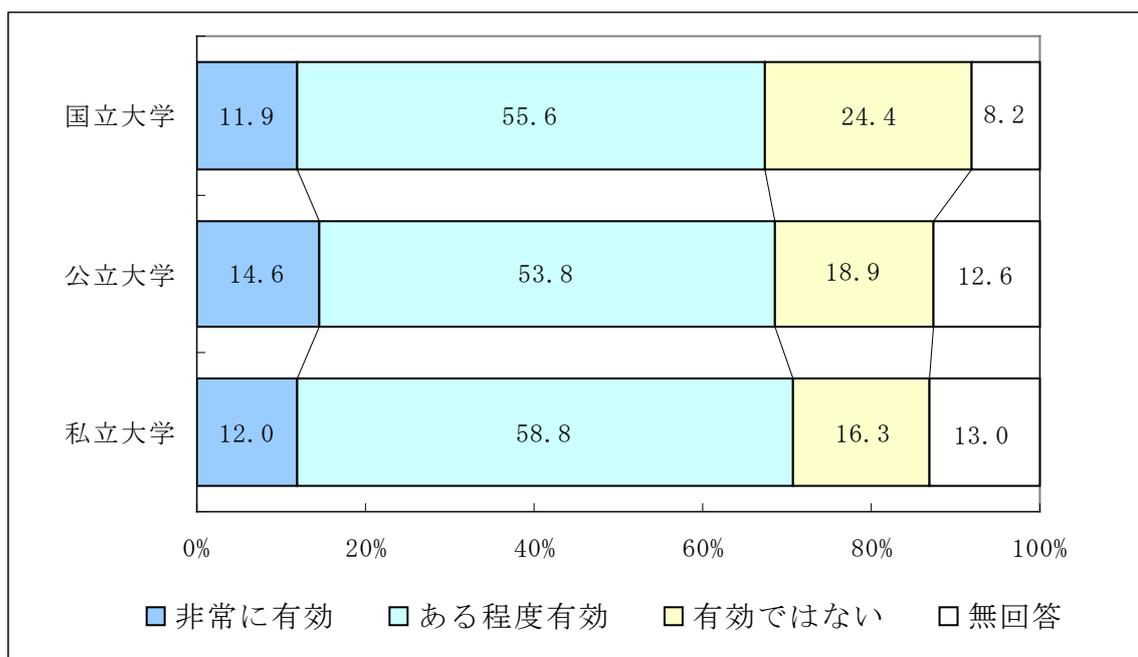
大学として行っていることの『文科省の大学教育G P、大学院教育G P』について設置形態別にみると、公立大学（52.3%）、私立大学（51.3%）に比べて国立大学（72.3%）での実施率が20ポイント以上高くなっている。（図表20-11）

図表20-11 大学として実施していること（設置形態別）
【文科省の大学教育G P、大学院教育G P】



次に、『文科省の大学教育G P、大学院教育G P』の効果について設置形態別にみると、「非常に有効」と「ある程度有効」とを合わせた率では、国立大学（67.5%）、公立大学（68.4%）、私立大学（70.8%）に大きな差はみられない。（図表 20-12）

図表 20-12 実施内容の効果（設置形態別）
【文科省の大学教育G P、大学院教育G P】

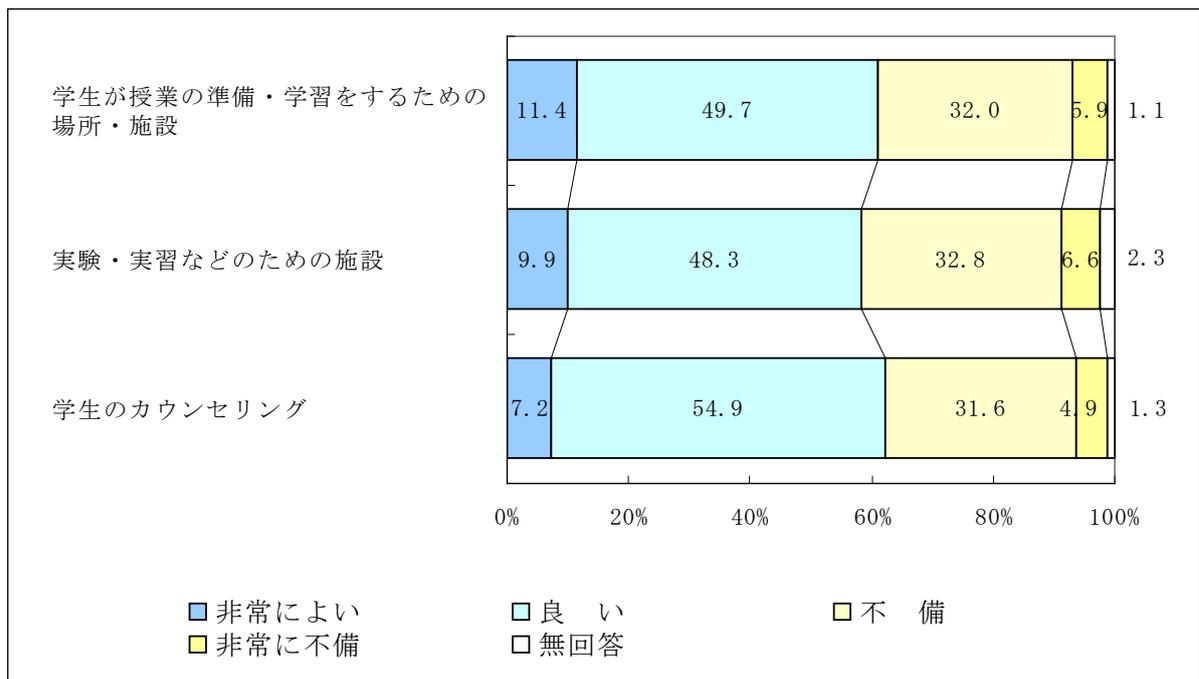


21. 所属大学に対する評価

所属大学に対する評価についてみると、「非常によい」と「良い」とを合わせた率では、『学生が授業の準備・学習をするための場所・施設』が61.1%、『実験・実習などのための施設』が58.2%、『学生のカウンセリング』が62.1%で、いずれも6割前後の評価となっている。

(図表 21-1)

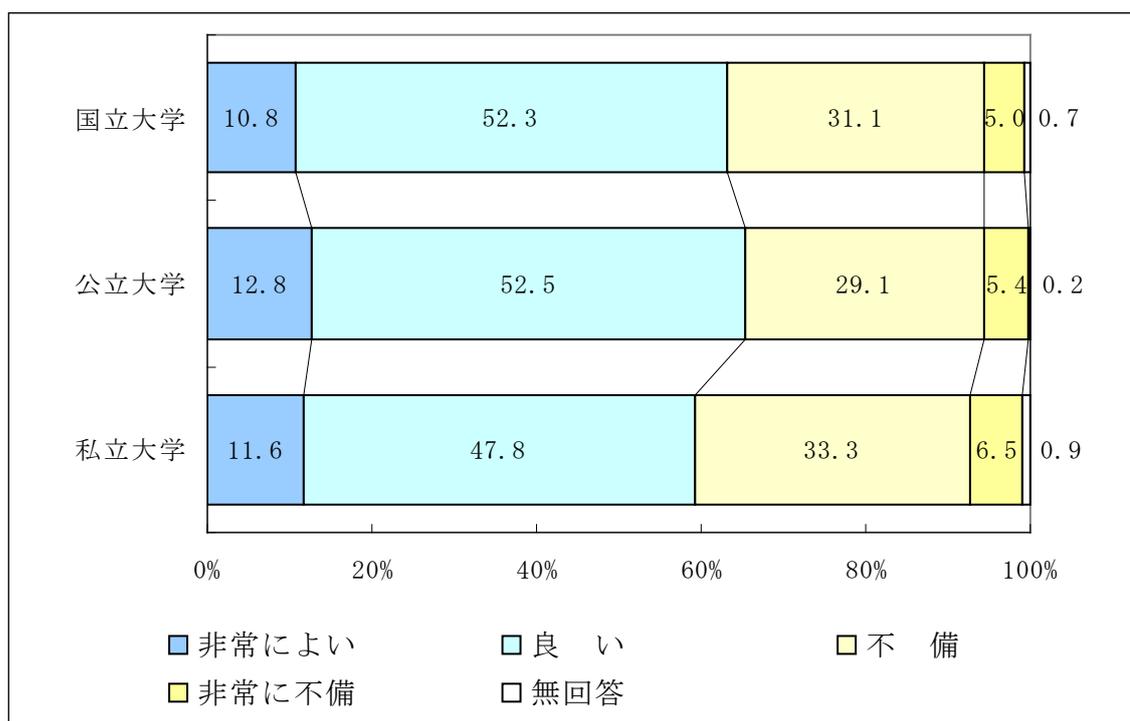
図表 21-1 所属大学に対する評価



(1) 学生が授業の準備・学習をするための場所・施設

所属大学に対する評価として、『学生が授業の準備・学習をするための場所・施設』について設置形態別にみると、「非常によい」と「良い」とを合わせた率では、私立大学（59.4%）に比べて国立大学（63.1%）、公立大学（65.3%）で評価がやや高くなっている。（図表 21－2）

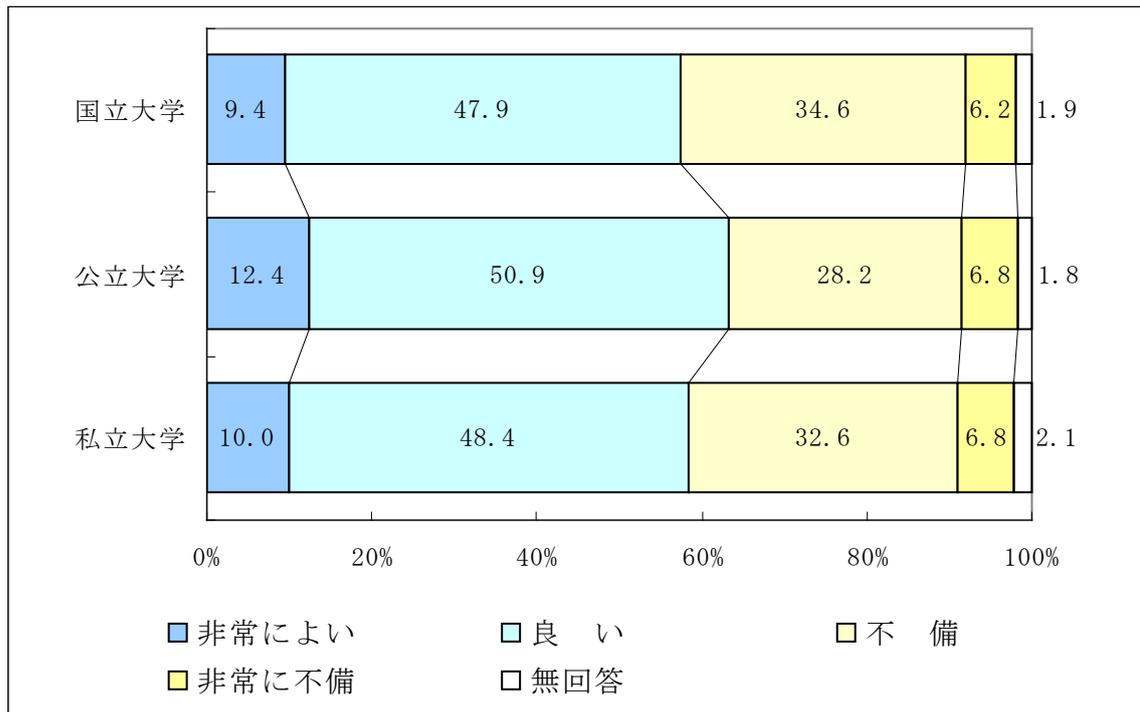
図表 21－2 所属大学に対する評価（設置形態別）
【学生が授業の準備・学習をするための場所・施設】



(2) 実験・実習などのための施設

所属大学に対する評価として、『実験・実習などのための施設』について設置形態別にみると、「非常によい」と「良い」とを合わせた率では、国立大学（57.3%）、私立大学（58.4%）に比べて公立大学（63.3%）で評価が高くなっている。（図表 21－3）

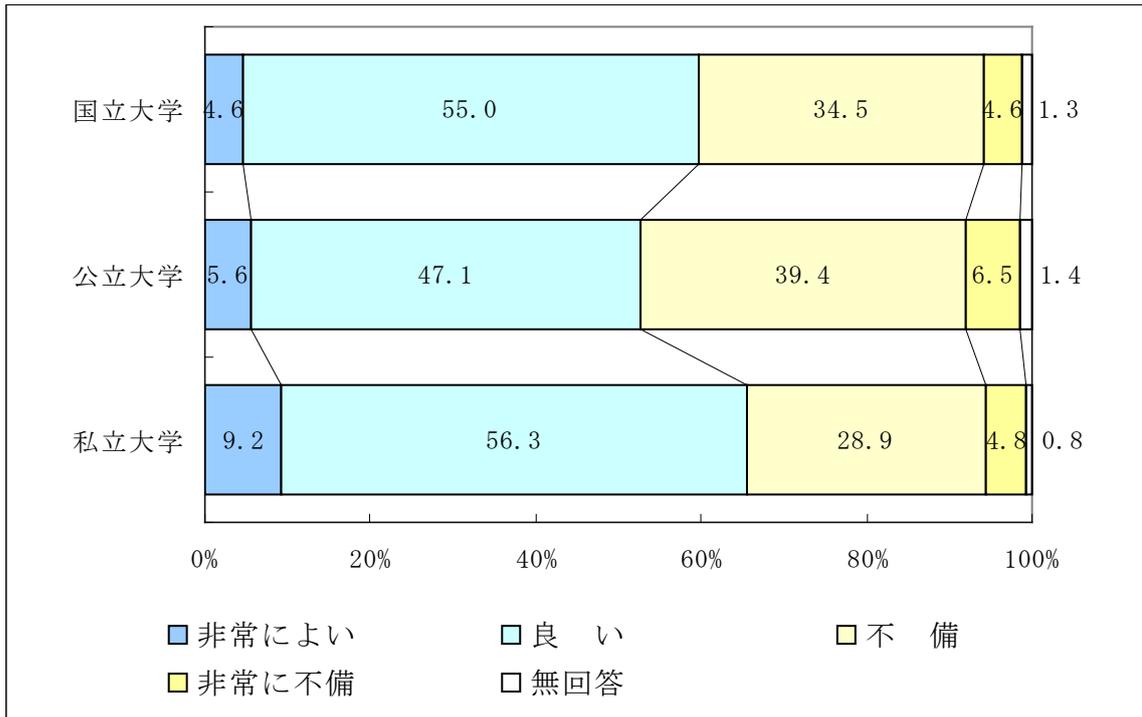
図表 21－3 所属大学に対する評価（設置形態別）
【実験・実習などのための施設】



(3) 学生のカウンセリング

所属大学に対する評価として、『学生のカウンセリング』について設置形態別にみると、「非常によい」と「良い」とを合わせた率では、私立大学で65.5%と最も評価が高く、次いで国立大学（59.6%）、公立大学（52.7%）の順である。（図表 21－4）

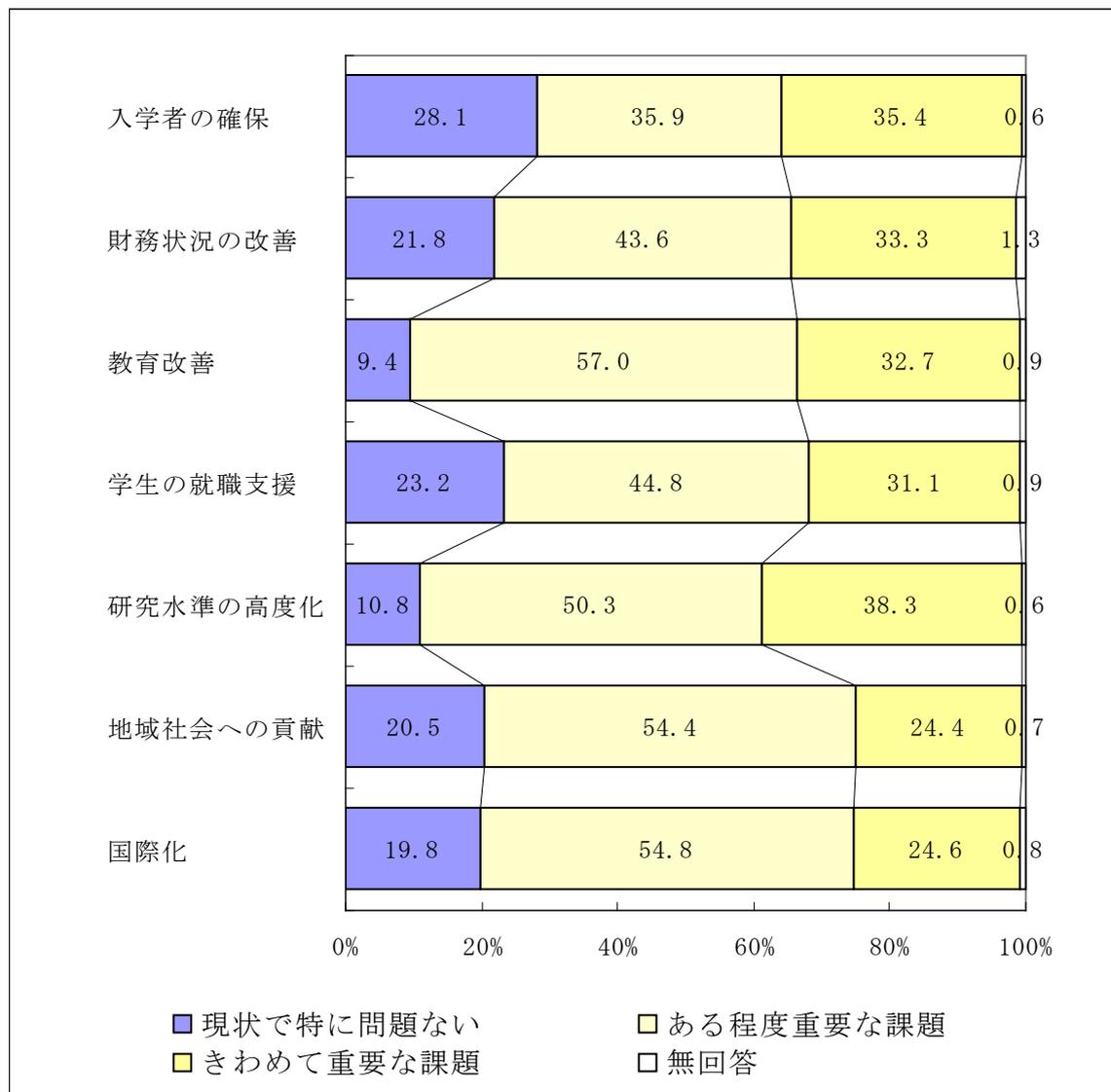
図表 21－4 所属大学に対する評価（設置形態別）
【学生のカウンセリング】



22. 所属大学の課題

所属する大学全体の課題を7つの項目について尋ねたところ、「ある程度重要な課題」と「きわめて重要な課題」とを合わせた率でみると、『教育改善』（89.7%）、『研究水準の高度化』（88.6%）については9割近くが課題であると考えている。次いで『国際化』（79.4%）、『地域社会への貢献』（78.8%）、『財務状況の改善』（76.9%）、『学生の就職支援』（75.9%）、『入学者の確保』（71.3%）の順である。（図表 22-1）

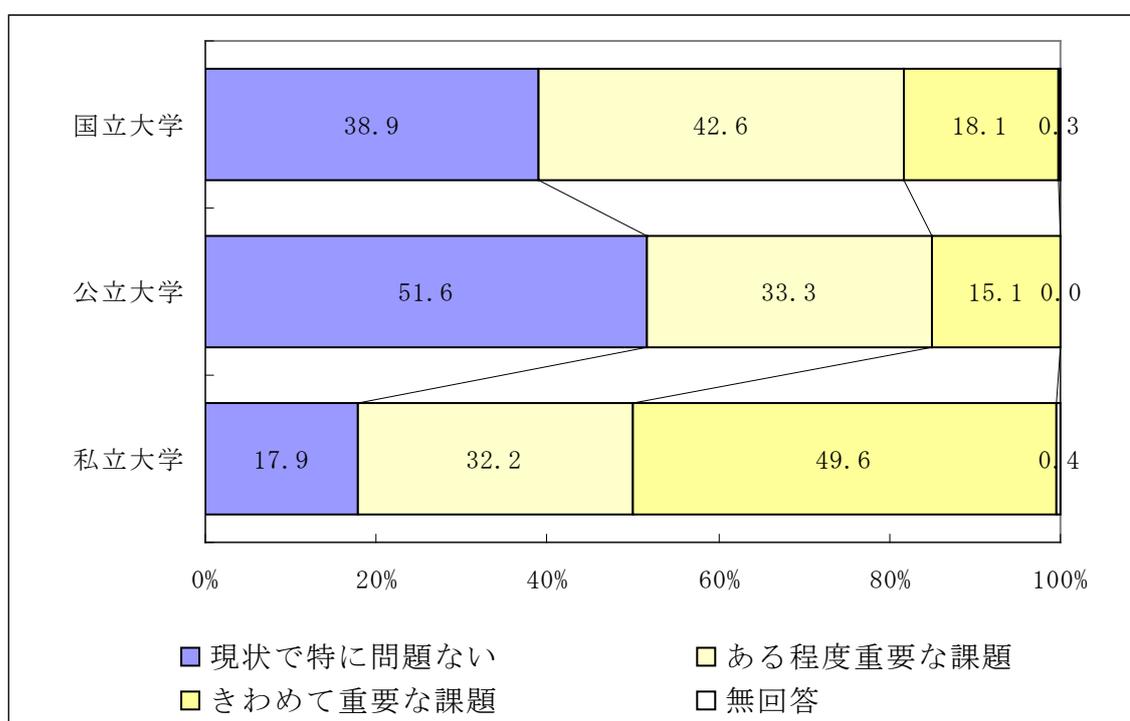
図表 22-1 所属大学の課題



(1) 入学者の確保

大学全体の課題と考えられる項目のうち、『入学者の確保』について設置形態別にみると、「ある程度重要な課題」と「きわめて重要な課題」とを合わせた率では、私立大学で81.8%と最も多く、その中で「きわめて重要な課題」が49.6%と最も多く、国立大学と公立大学を大きく上回っている。また国立大学（60.7%）では6割程度が課題と捉え、公立大学（48.4%）では、5割程度が課題と考えている一方、「現状では特に問題ない」（51.6%）も5割程度と最も多くを占めて意見が分かれている。（図表 22-2）

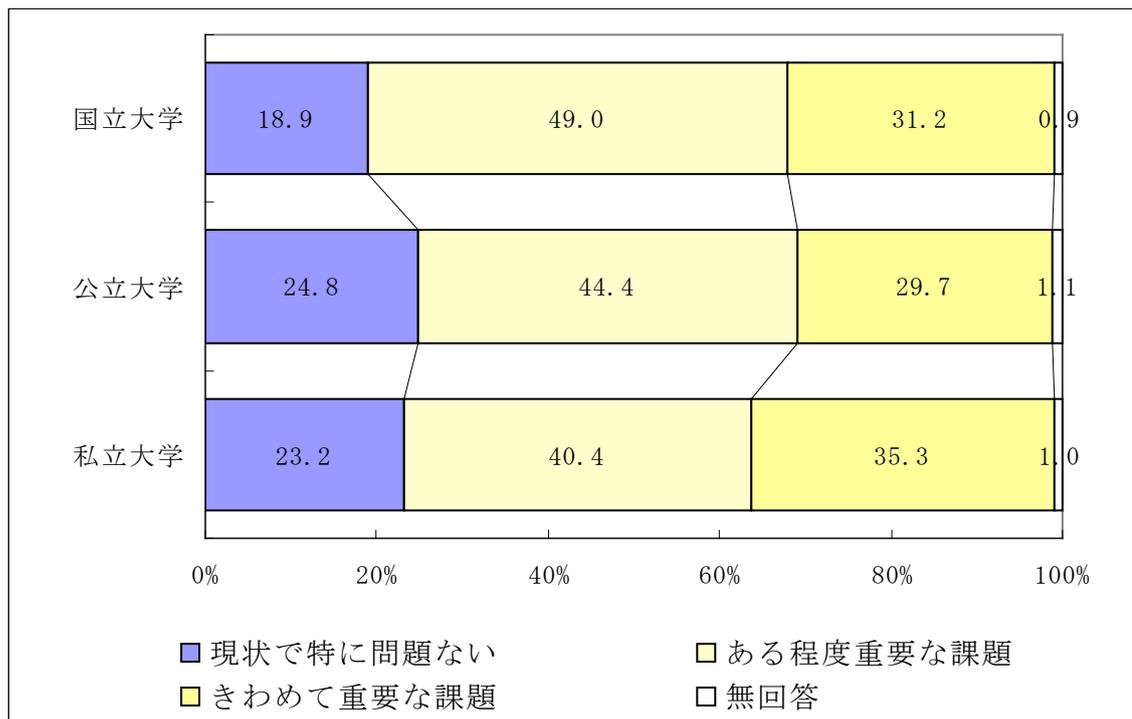
図表 22-2 所属大学の課題（設置形態別）
【入学者の確保】



(2) 財務状況の改善

大学全体の課題と考えられる項目のうち、『財務状況の改善』について設置形態別にみると、「ある程度重要な課題」と「きわめて重要な課題」とを合わせた率では、公立大学(74.1%)、私立大学(75.7%)に比べて国立大学(80.2%)に多くなっている。(図表 22-3)

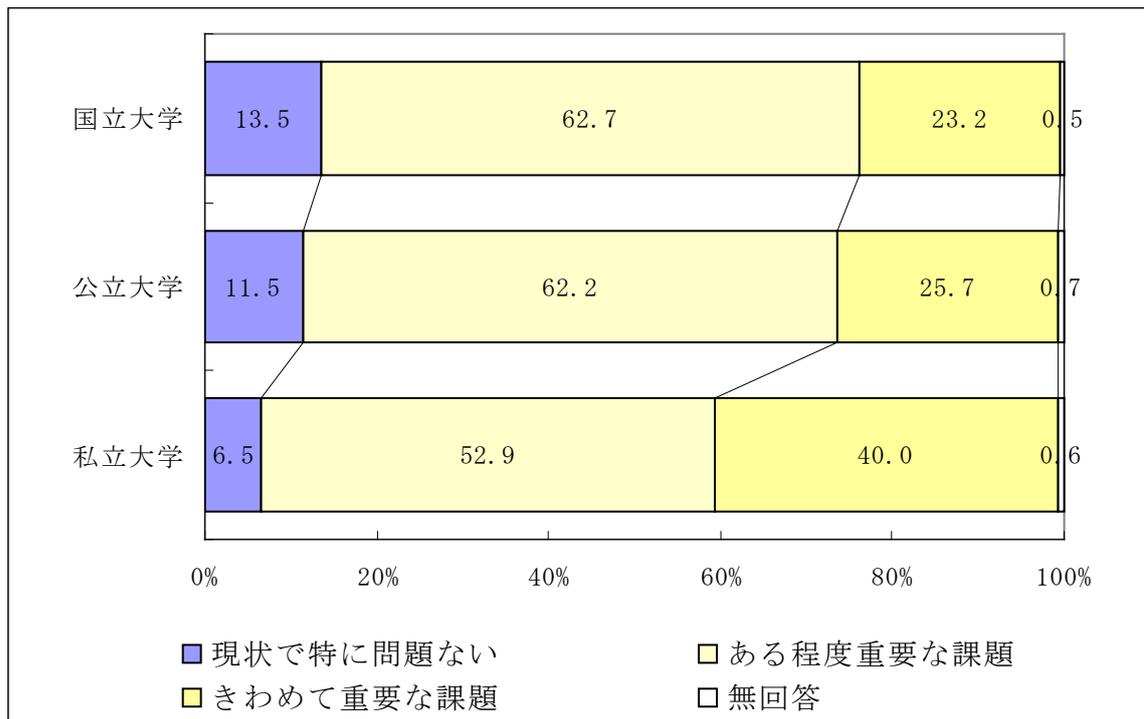
図表 22-3 所属大学の課題（設置形態別）
【財務状況の改善】



(3) 教育改善

大学全体の課題と考えられる項目のうち、『教育改善』について設置形態別にみると、「ある程度重要な課題」と「きわめて重要な課題」とを合わせた率では、国立大学（85.9%）、公立大学（87.9%）に比べて私立大学（92.9%）に多く、その中で「きわめて重要な課題」（40.0%）は、国立大学と公立大学を大きく上回っている。（図表 22－4）

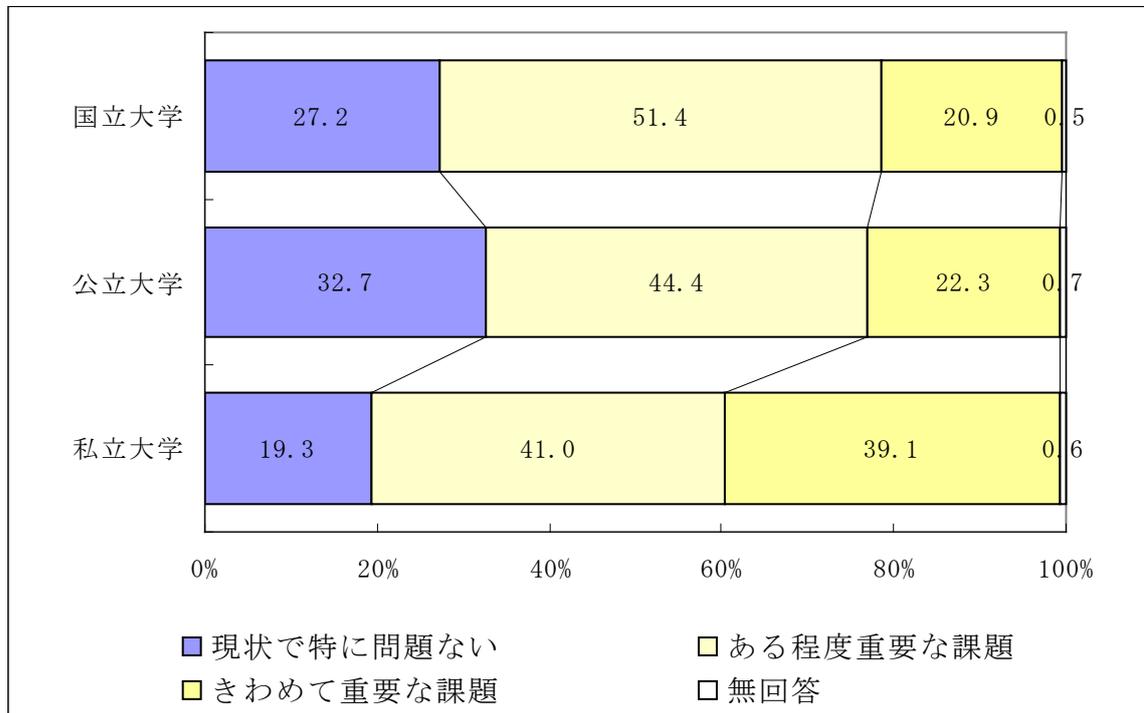
図表 22－4 所属大学の課題（設置形態別）
【教育改善】



(4) 学生の就職支援

大学全体の課題と考えられる項目のうち、『学生の就職支援』について設置形態別にみると、「ある程度重要な課題」と「きわめて重要な課題」とを合わせた率では、私立大学が80.1%で最も多く、次いで国立大学（72.3%）、公立大学（66.7%）の順である。私立大学は「きわめて重要な課題」（39.1%）が、国立大学と公立大学を大きく上回っている。（図表 22-5）

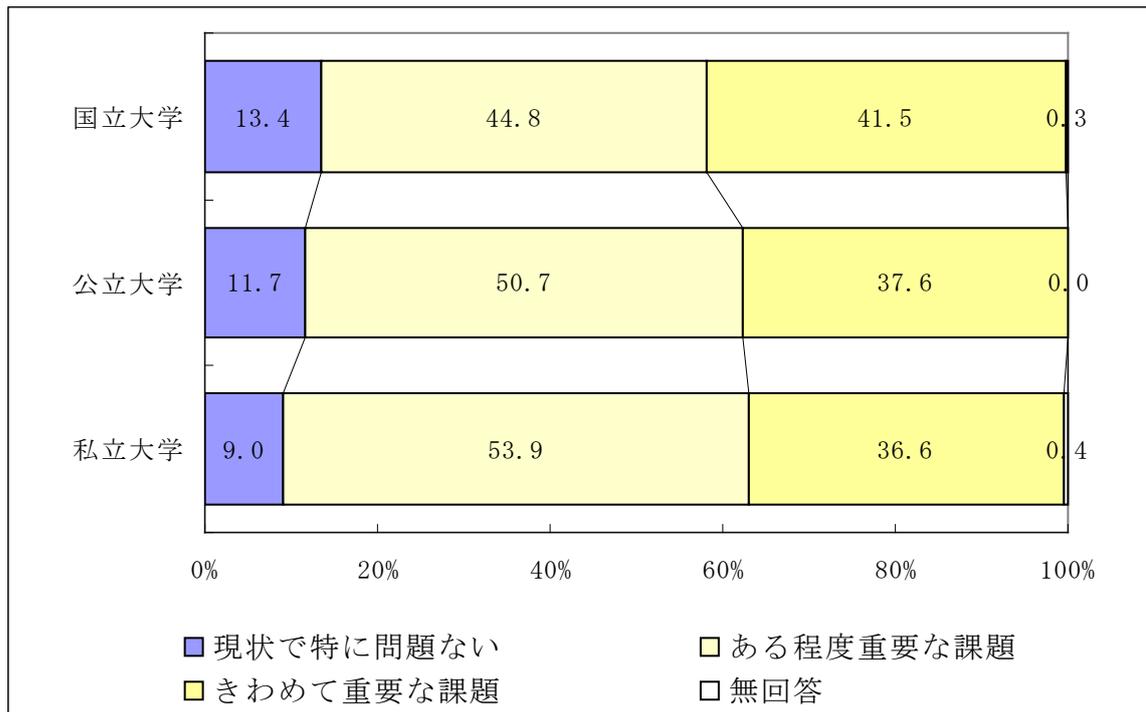
図表 22-5 所属大学の課題（設置形態別）
【学生の就職支援】



(5) 研究水準の高度化

大学全体の課題と考えられる項目のうち、『研究水準の高度化』について設置形態別にみると、「ある程度重要な課題」と「きわめて重要な課題」とを合わせた率では、私立大学が90.5%で最も多いものの、国立大学（86.3%）、公立大学（88.3%）と比べて大きな差はみられないが、9割前後がこの項目を課題と捉えている。（図表 22－6）

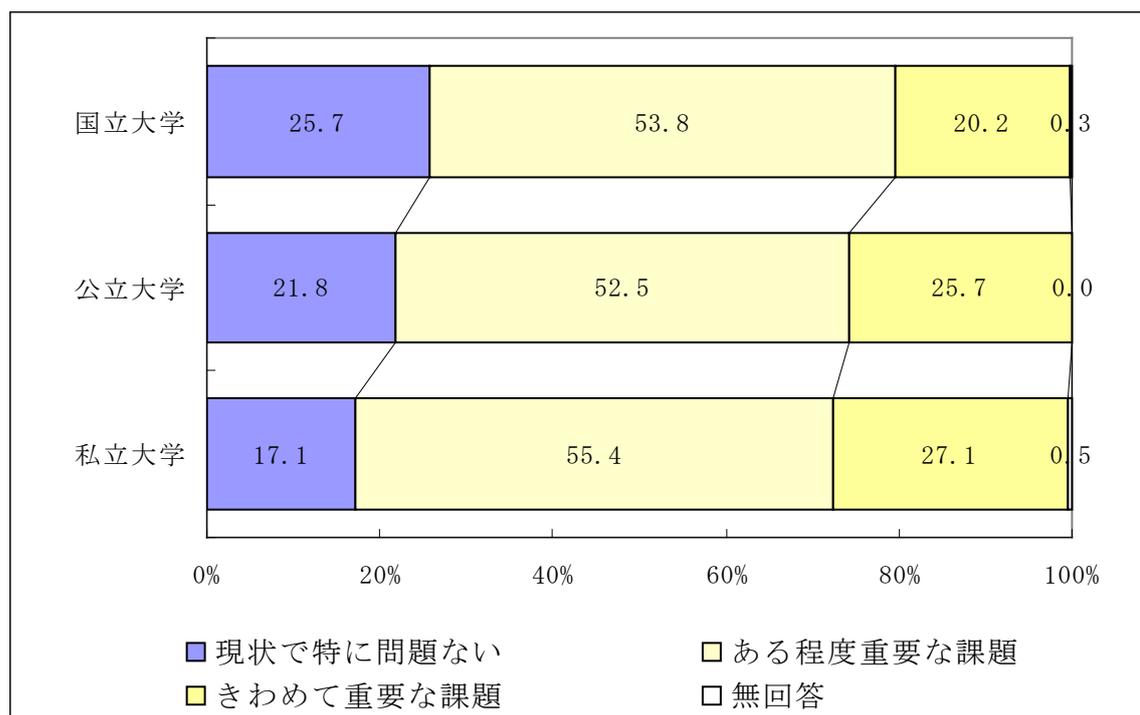
図表 22－6 所属大学の課題（設置形態別）
【研究水準の高度化】



(6) 地域社会への貢献

大学全体の課題と考えられる項目のうち、『地域社会への貢献』について設置形態別にみると、「ある程度重要な課題」と「きわめて重要な課題」とを合わせた率では、私立大学が82.5%で最も多く、次いで公立大学（78.2%）、国立大学（74.0%）の順である。（図表22-7）

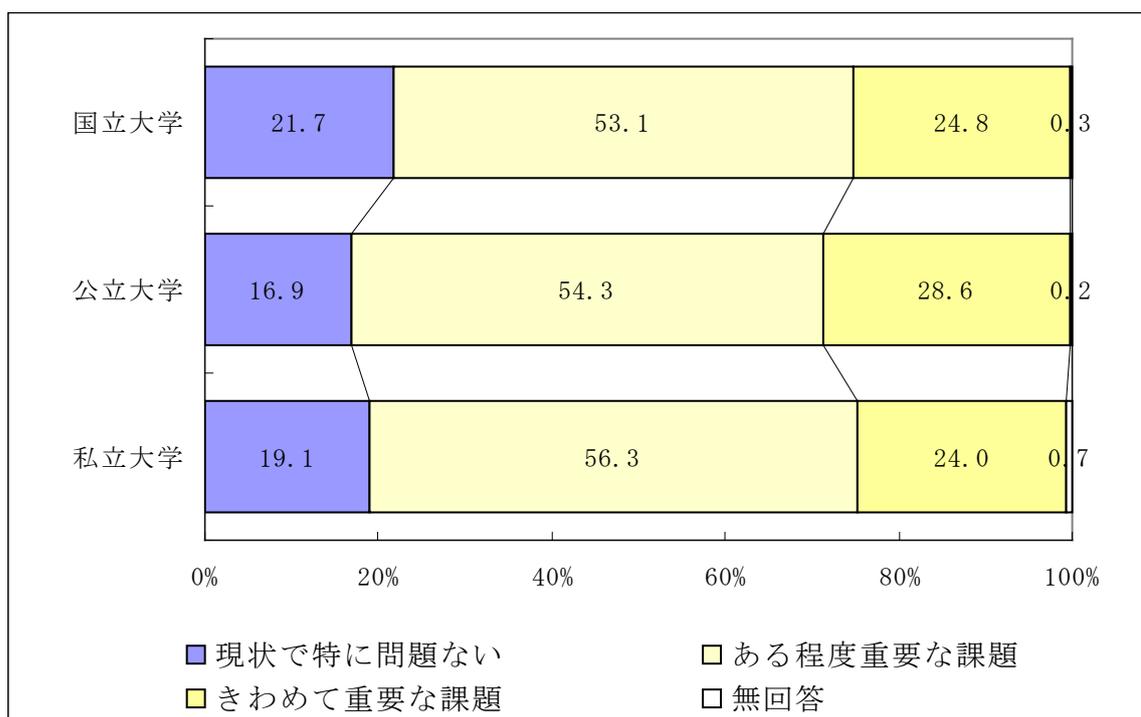
図表 22-7 所属大学の課題（設置形態別）
【地域社会への貢献】



(7)国際化

大学全体の課題と考えられる項目のうち、『国際化』について設置形態別にみると、「ある程度重要な課題」と「きわめて重要な課題」とを合わせた率では、国立大学が77.9%、公立大学が82.9%、私立大学が80.3%となっており、国公立の間で若干の差がみられる。
(図表 22-8)

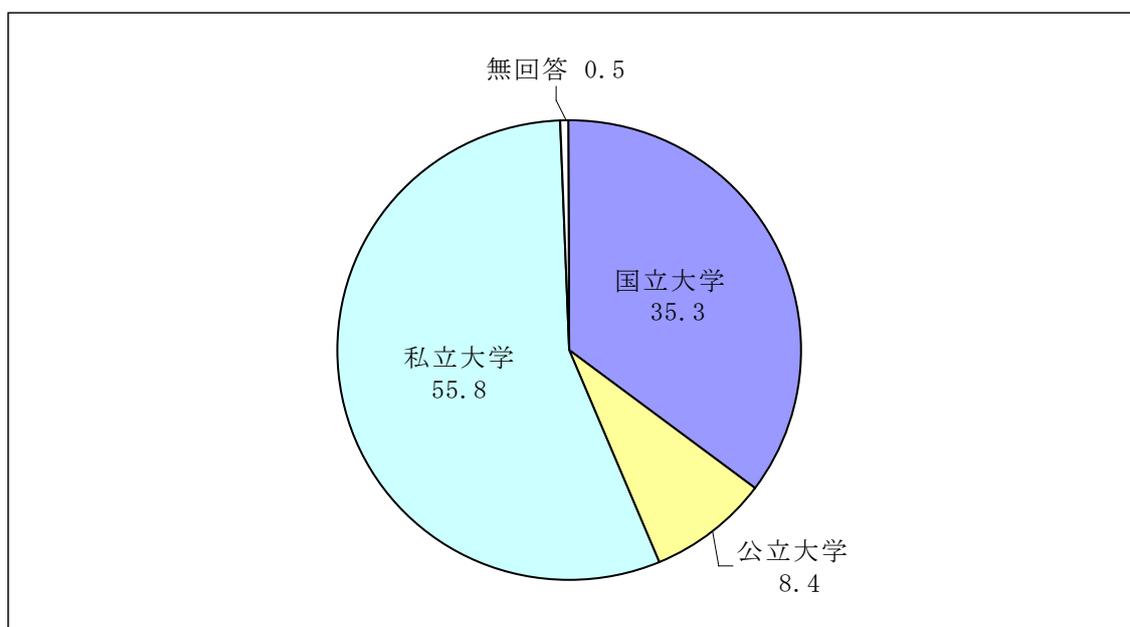
図表 22-8 所属大学の課題（設置形態別）
【国際化】



23. 所属大学の設置形態

回答者が所属する大学の設置形態についてみると、「国立大学」が35.3%、「公立大学」が8.4%、「私立大学」が55.8%となっている。(図表23-1)

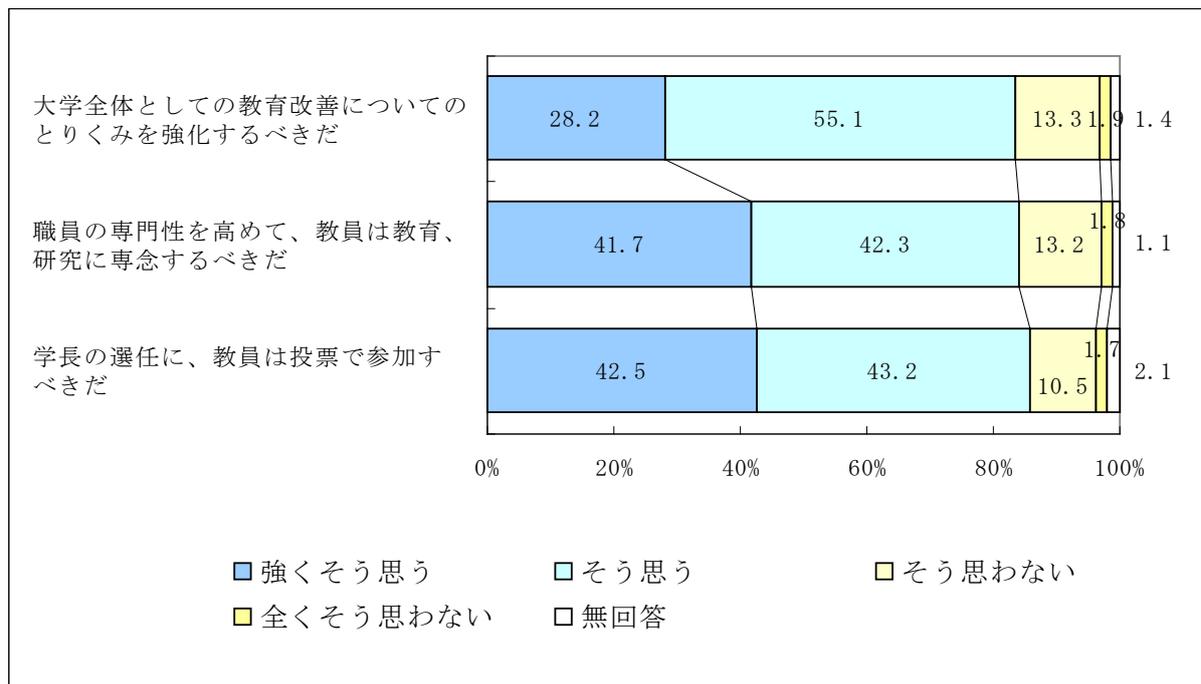
図表 23-1 所属大学の設置形態



24. 大学運営に対する考え

大学運営に対する3つの考えについて意見を尋ねたところ、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率でみると、『大学全体としての教育改善についてのとりくみを強化すべきだ』(83.3%)、『職員の専門性を高めて、教員は教育、研究に専念すべきだ』(84.0%)、『学長の選任に、教員は投票で参加すべきだ』(85.7%)で、いずれの考えにも8割以上が賛成意見を示している。(図表24-1)

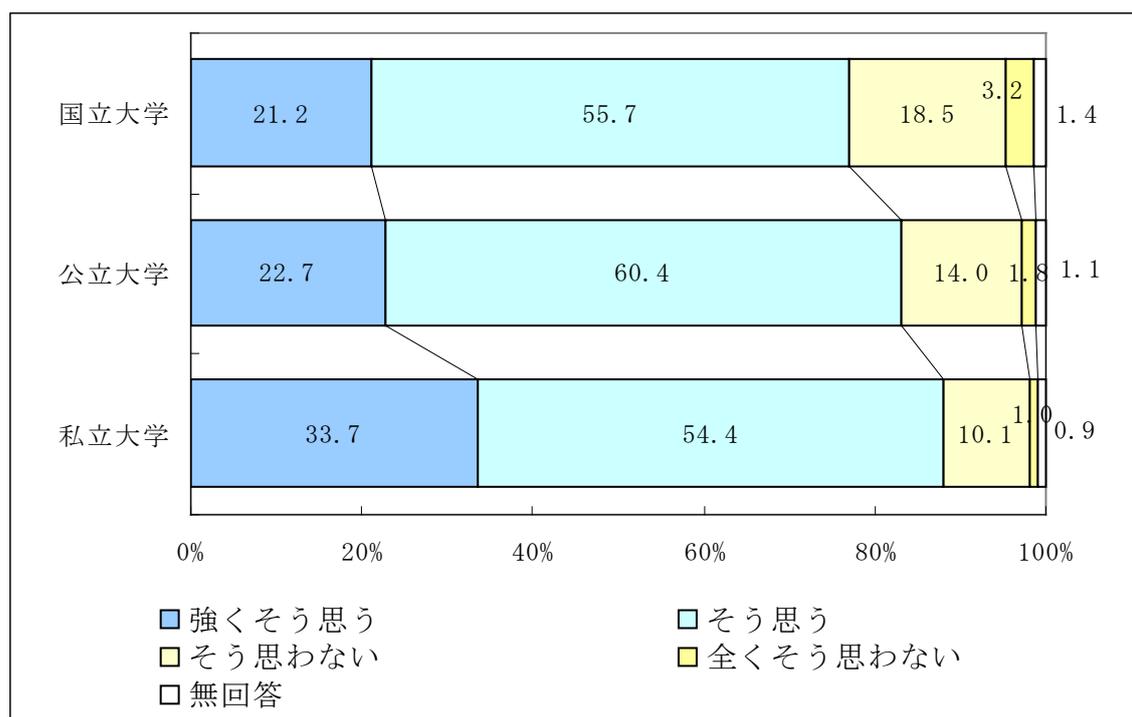
図表24-1 大学運営に対する考え



(1) 大学全体としての教育改善についてのとりくみを強化するべきだ

大学運営に対する考えの『大学全体としての教育改善についてのとりくみを強化するべきだ』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、国立大学（76.9％）に比べて公立大学（83.1％）、私立大学（88.1％）に賛成意見が多くなっている。（図表 24－2）

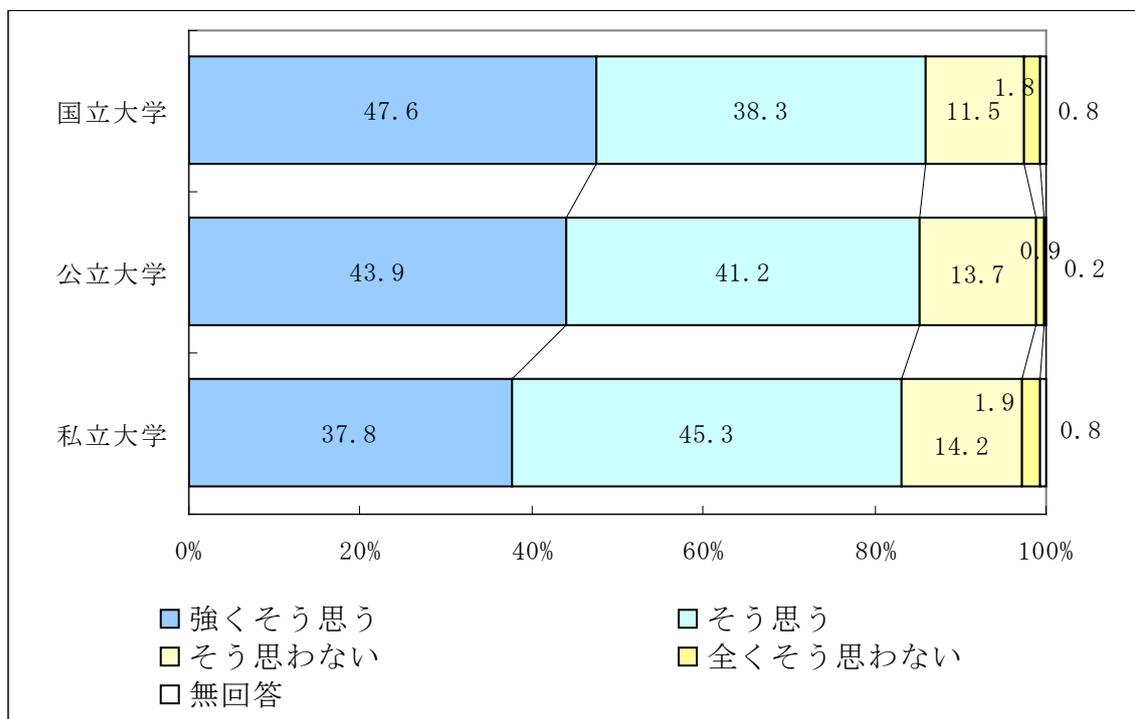
図表 24－2 大学運営に対する考え（設置形態別）
【大学全体としての教育改善についてのとりくみを強化するべきだ】



(2) 職員の専門性を高めて、教員は教育、研究に専念するべきだ

大学運営に対する考えの『職員の専門性を高めて、教員は教育、研究に専念するべきだ』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、国立大学が 85.9%、公立大学が 85.1%、私立大学が 83.1%となっており、設置形態による賛成意見の差はほとんどみられないが、国立大学では「強くそう思う」が 47.6%と、公立大学、私立大学より多くなっている。(図表 24-3)

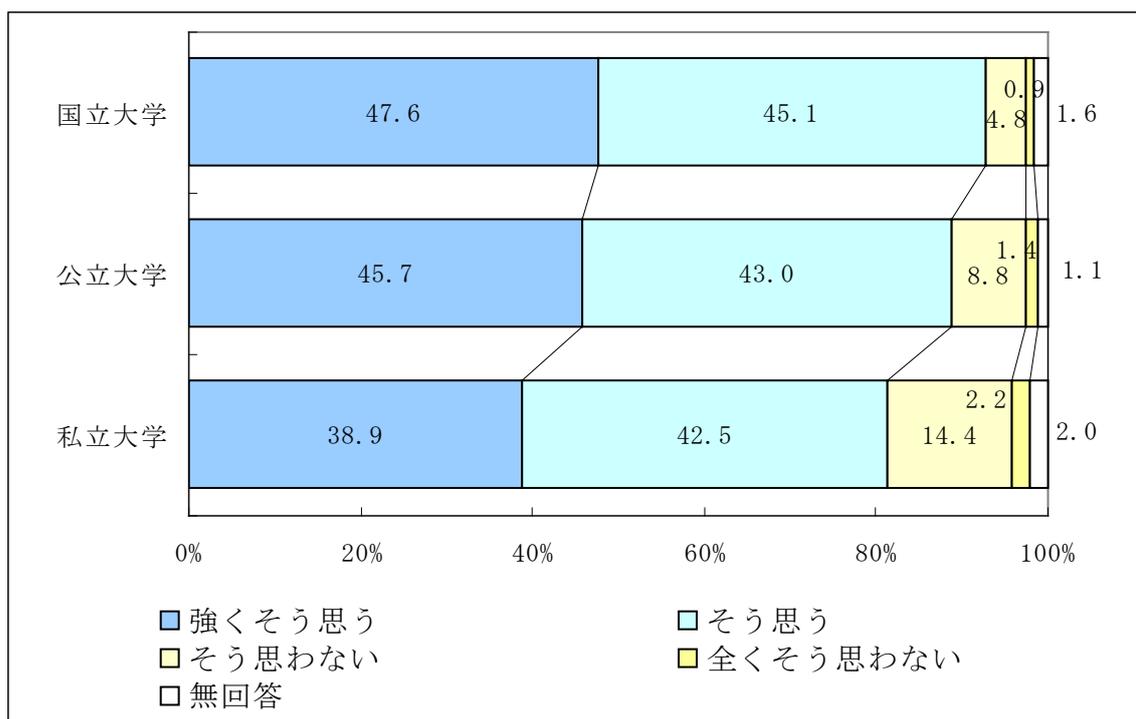
図表 24-3 大学運営に対する考え (設置形態別)
【職員の専門性を高めて、教員は教育、研究に専念するべきだ】



(3) 学長の選任に、教員は投票で参加すべきだ

大学運営に対する考えの『学長の選任に、教員は投票で参加すべきだ』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、私立大学（83.1%）に比べて国立大学（92.7%）、公立大学（88.7%）に賛成意見が9割前後と多くなっている。（図表 24-4）

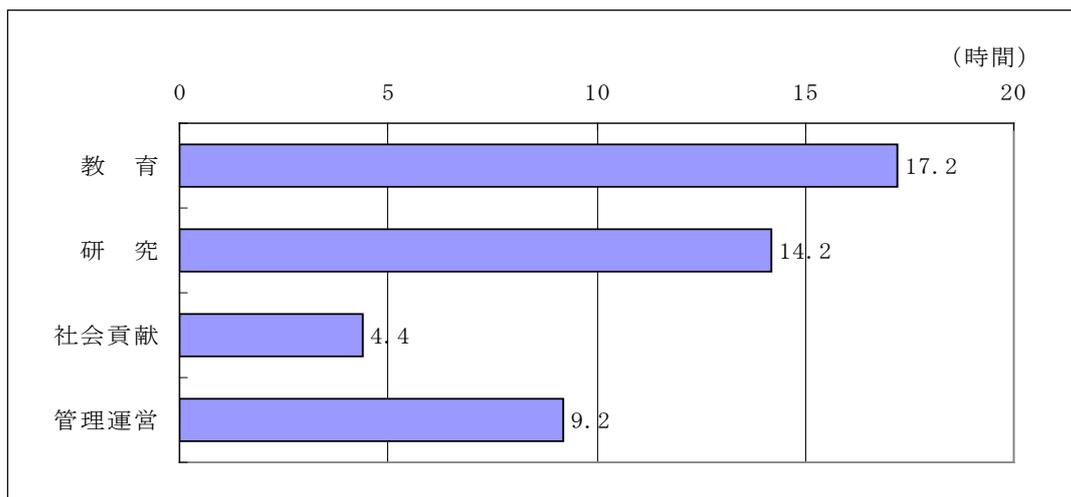
図表 24-4 大学運営に対する考え（設置形態別）
【学長の選任に、教員は投票で参加すべきだ】



25. 学期中の時間配分

学期中の時間の配分を平均時間でみると、「教育」に費やす時間が17.2時間で最も長く、次いで「研究」が14.2時間、「管理運営」が9.2時間、「社会貢献」が4.4時間である。(図表25-1)

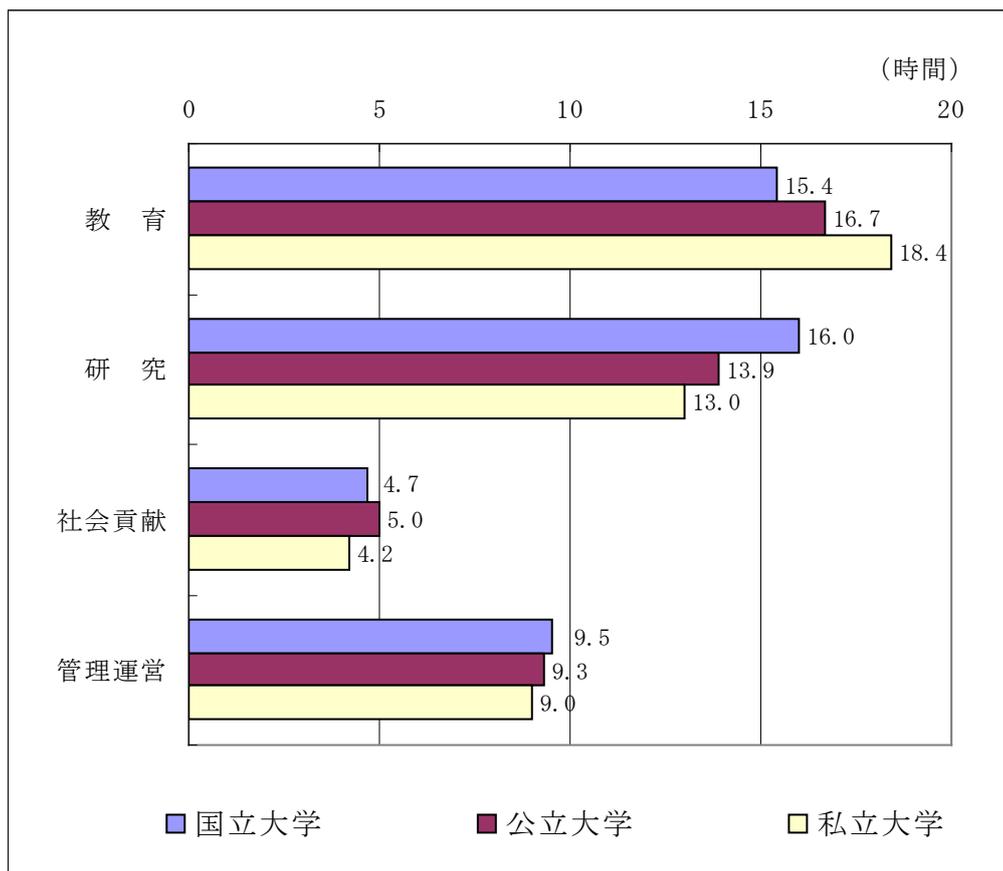
図表 25-1 学期中の時間配分 (平均)



	10時間未満	20時間未満	30時間未満	40時間未満	50時間未満	50時間以上	無回答	平均時間
教育	13.9	35.5	25.0	8.3	1.8	0.9	14.6	17.2
研究	26.7	33.5	15.9	5.8	2.3	1.0	14.9	14.2
社会貢献	68.4	8.7	1.4	0.5	0.3	0.3	20.4	4.4
管理運営	45.9	26.6	7.3	2.5	0.5	0.2	16.9	9.2

学期中の時間の配分の平均時間を設置形態別にみると、「教育」については、私立大学（18.4時間）、公立大学（16.7時間）、国立大学（15.4時間）の順で、「研究」については、逆に国立大学（16.0時間）、公立大学（13.9時間）、私立大学（13.0時間）の順である。（図表 25－2）

図表 25－2 学期中の時間配分（平均）（設置形態別）

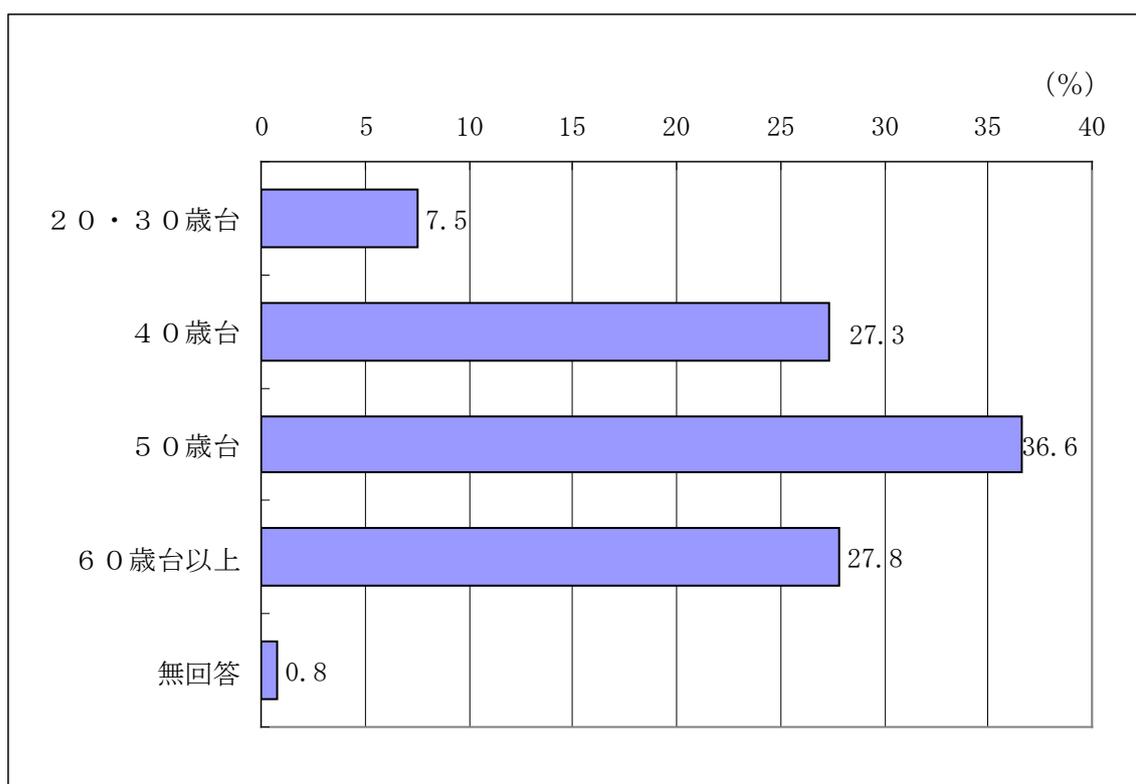


26. 回答者のプロフィール

(1) 年齢

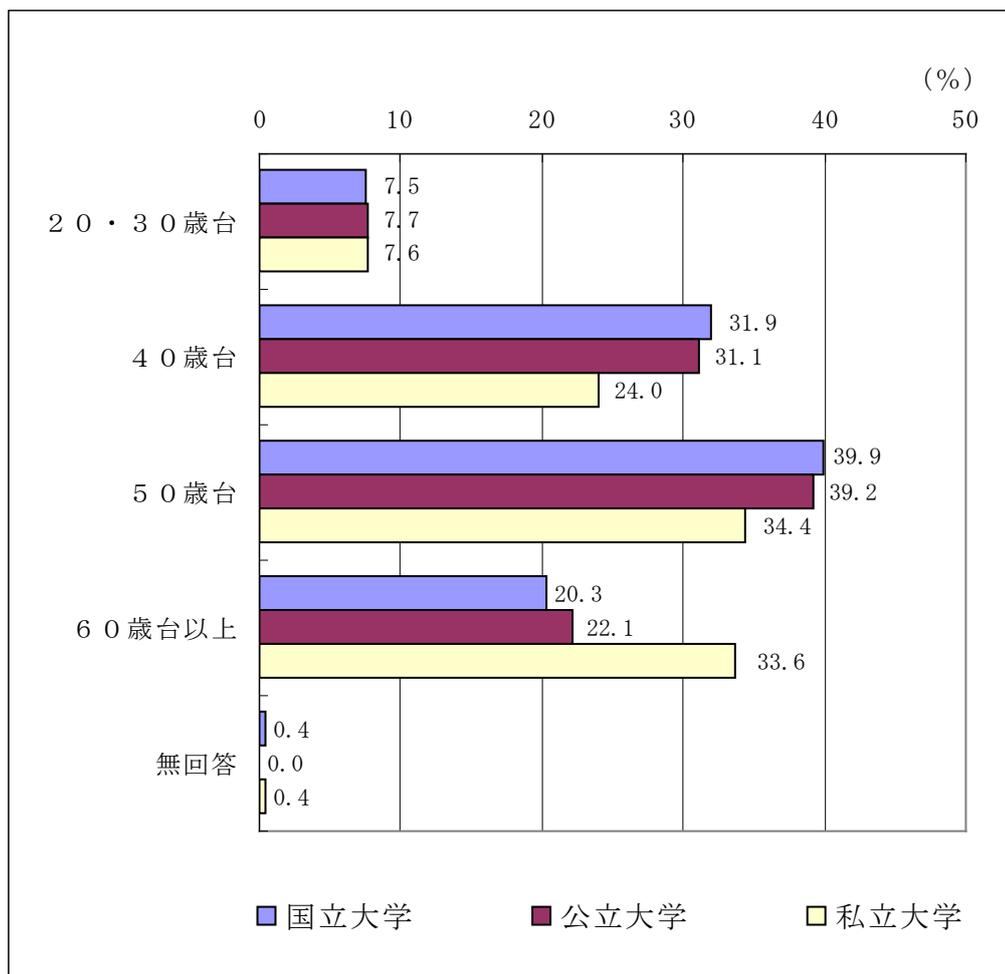
回答者の年齢についてみると、「50歳台」が36.6%で最も多く、次いで「60歳台以上」(27.8%)、「40歳台」(27.3%)、「20・30歳台」(7.5%)の順である。(図表26-1)

図表 26-1 回答者の年齢



回答者の年齢について設置形態別にみると、「50歳台」は国立大学（39.9%）、公立大学（39.2%）に、「60歳台以上」は私立大学（33.6%）に、「40歳台」は国立大学（31.9%）、公立大学（31.1%）にそれぞれ多くなっている。（図表 26-2）

図表 26-2 回答者の年齢（設置形態別）

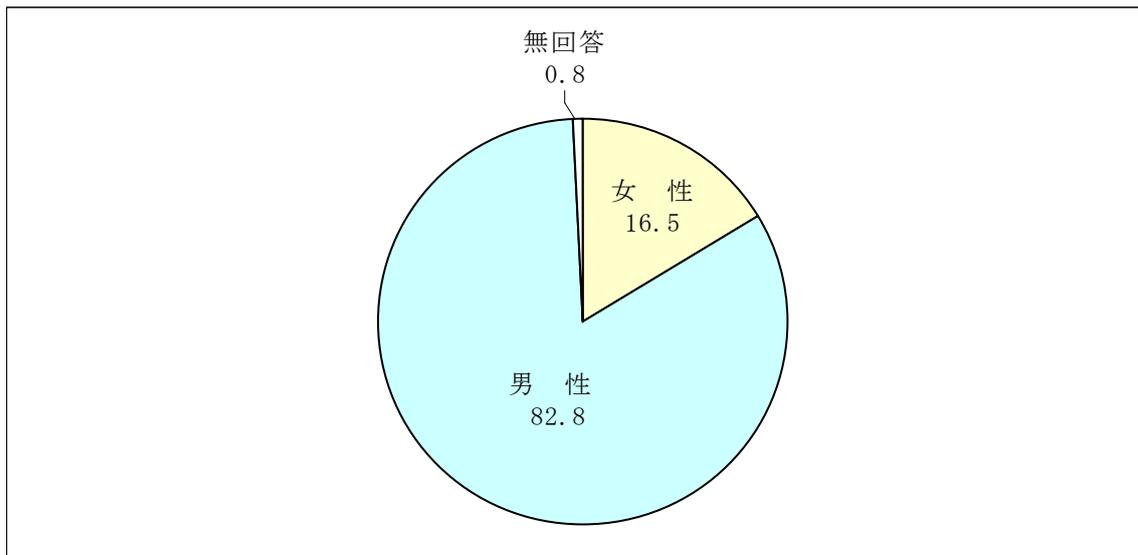


(2)性別

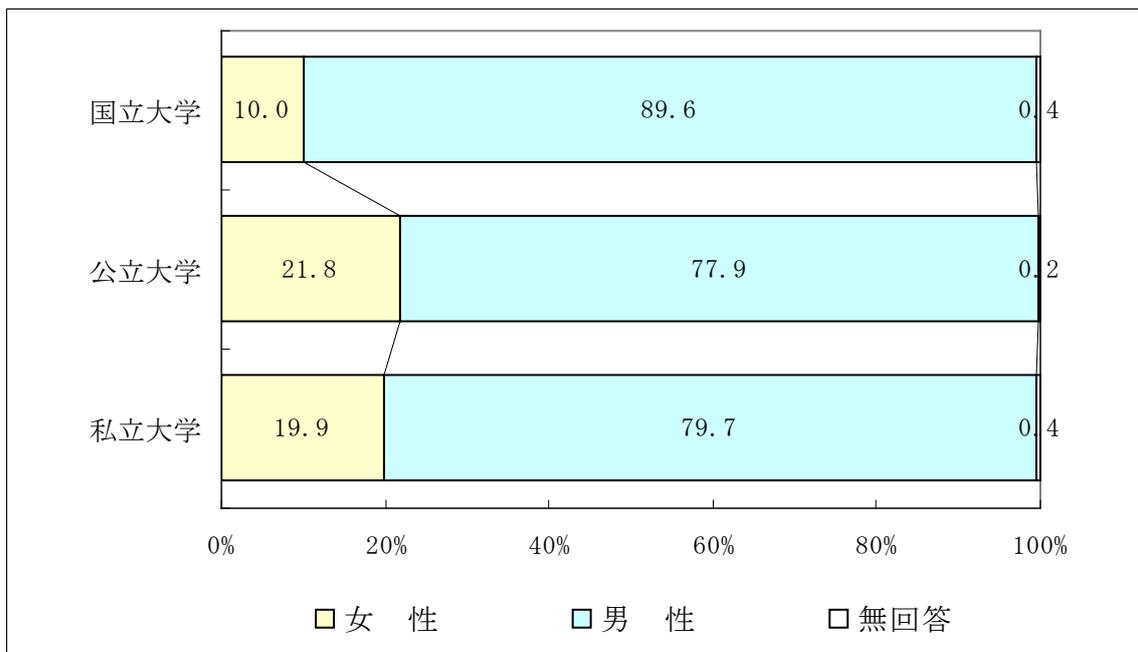
回答者の性別についてみると、「女性」が16.5%、「男性」が82.8%で「男性」の方が多く、男女比は5：1の割合である。(図表26-3)

これを設置形態別にみると、国立大学では「女性」の割合が、公立大学(21.8%)、私立大学(19.9%)が2割前後に比べて10.0%と半数程度であり、「男性」が9割近くを占めている。(図表26-4)

図表26-3 回答者の性別



図表26-4 回答者の性別 (設置形態別)

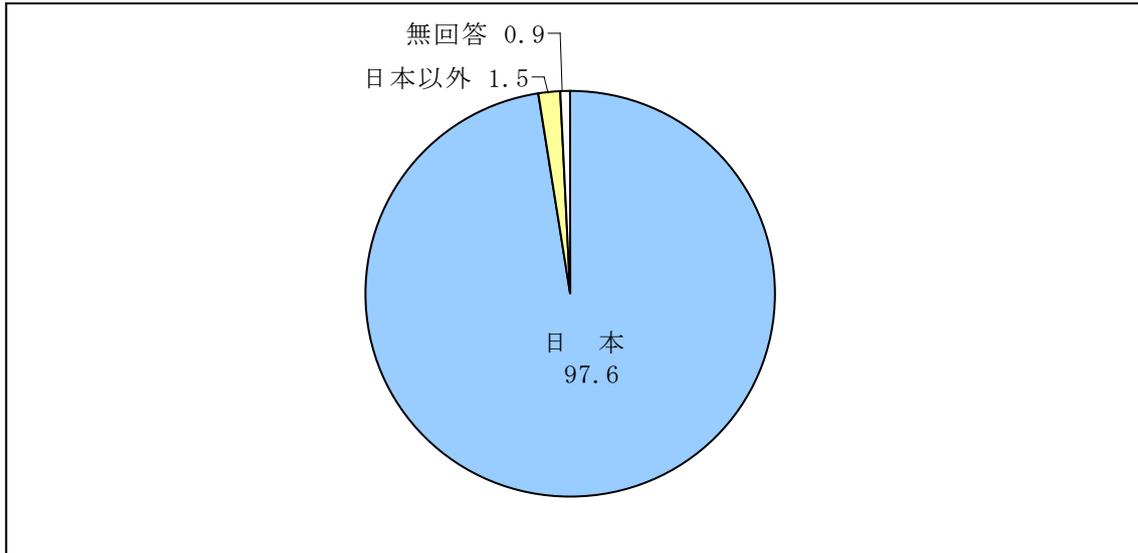


(3) 出身地

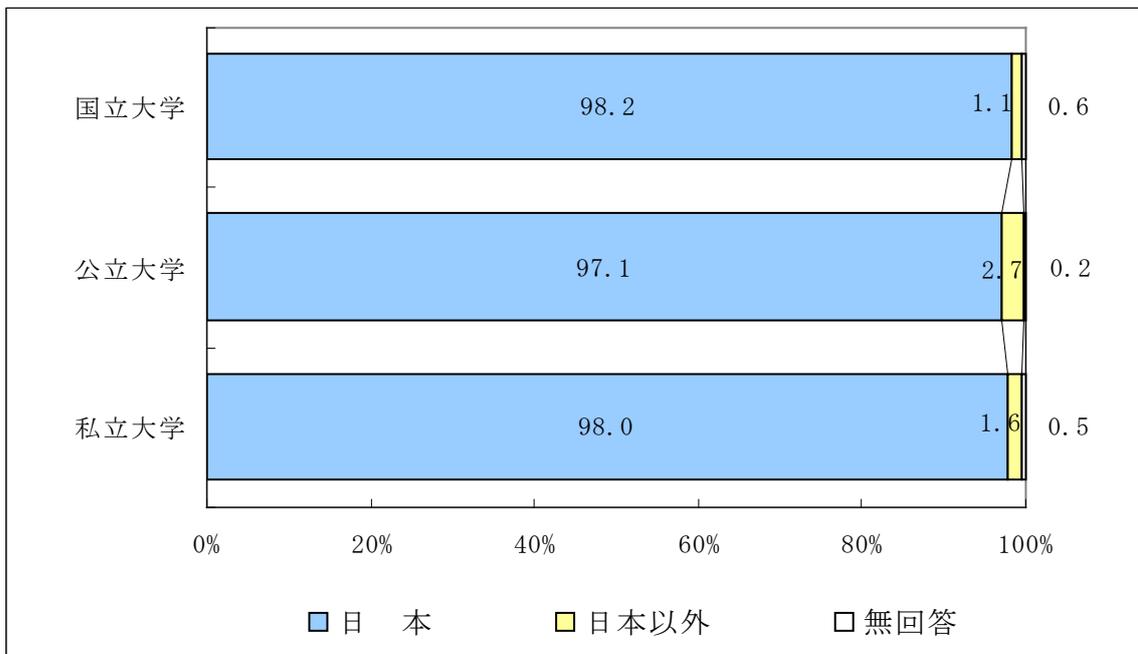
回答者の出身地についてみると、「日本」が97.6%であり、「日本以外」は僅か1.5%である。(図表 26-5)

これを設置形態別にみると、いずれの大学においても「日本」がほとんどであり、設置形態による差はみられない。(図表 26-6)

図表 26-5 回答者の出身地



図表 26-6 回答者の出身地 (設置形態別)

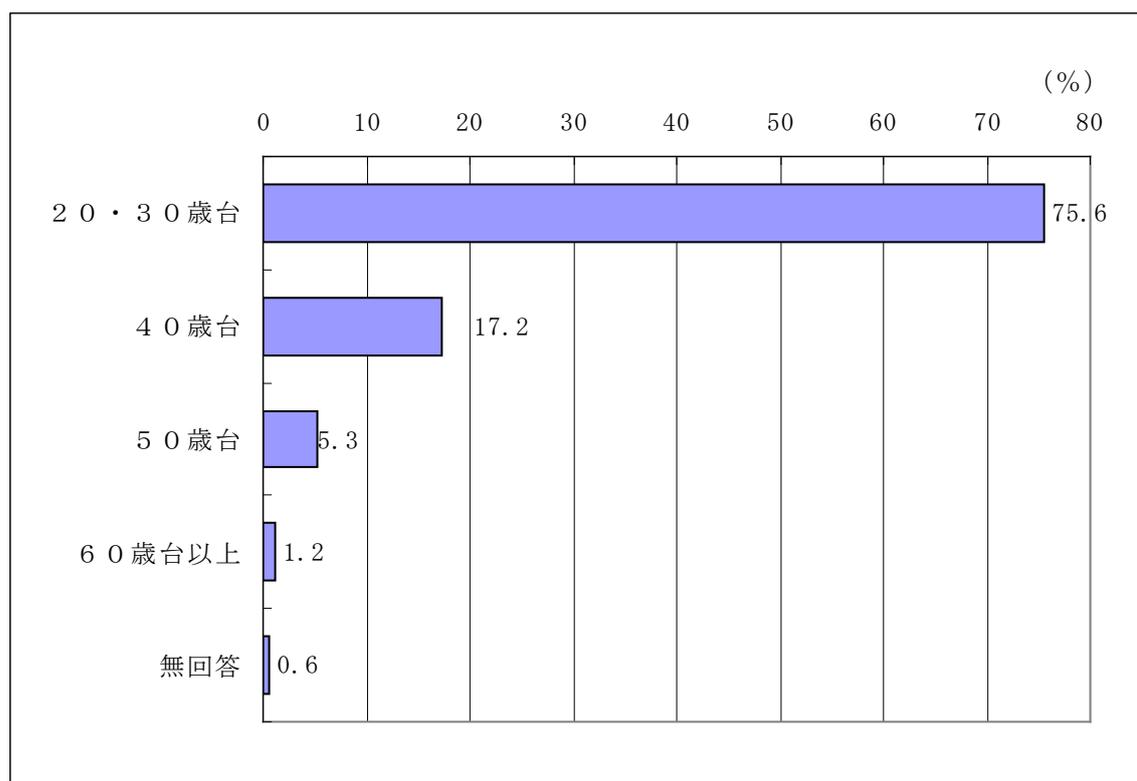


27. 大学教員になるまでの経緯

(1) 大学教員になった年齢

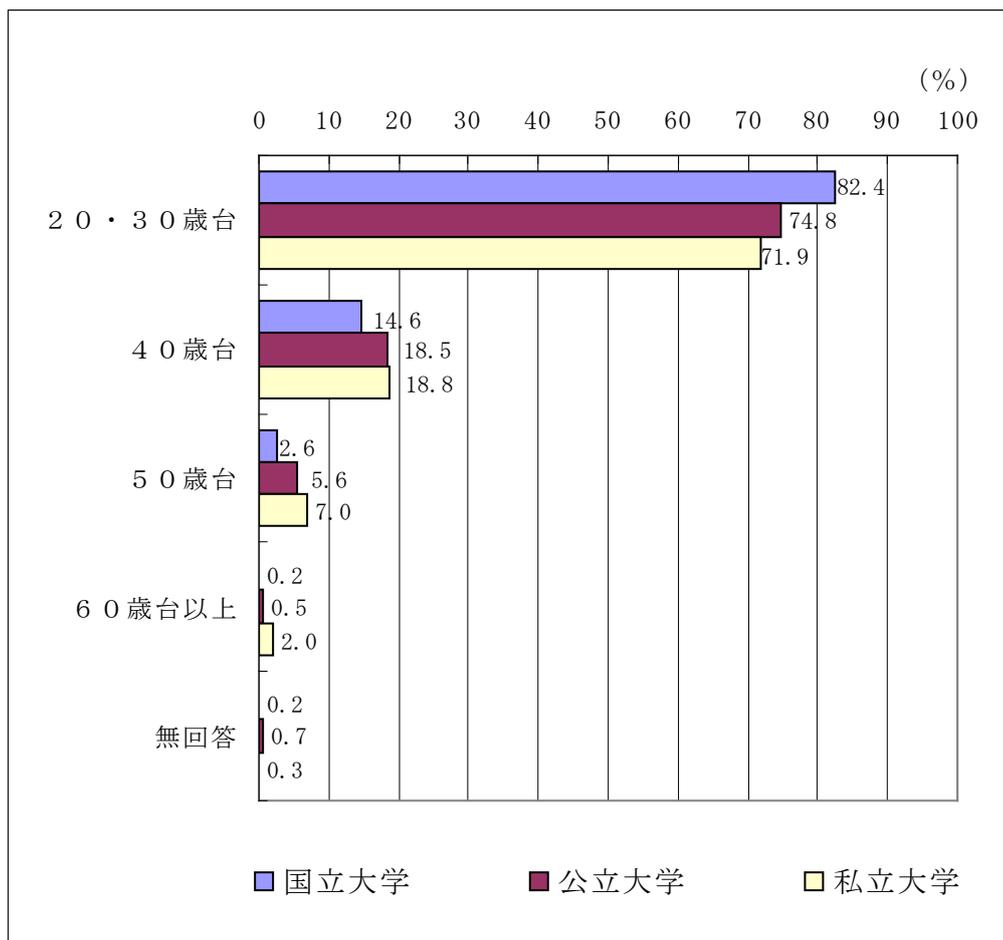
大学教員になった年齢についてみると、「20・30歳台」が75.6%と断然多く、全体の4分の3を占めている。次いで「40歳台」(17.2%)、「50歳台」(5.3%)、「60歳台以上」(1.2%)の順である。(図表27-1)

図表 27-1 大学教員になった年齢



大学教員になった年齢について設置形態別にみると、「20・30歳台」は、公立大学（74.8%）、私立大学（71.9%）に比べて国立大学（82.4%）に多く、「40歳台」は、国立大学（14.6%）に比べて公立大学（18.5%）、私立大学（18.8%）にやや多い。（図表27-2）

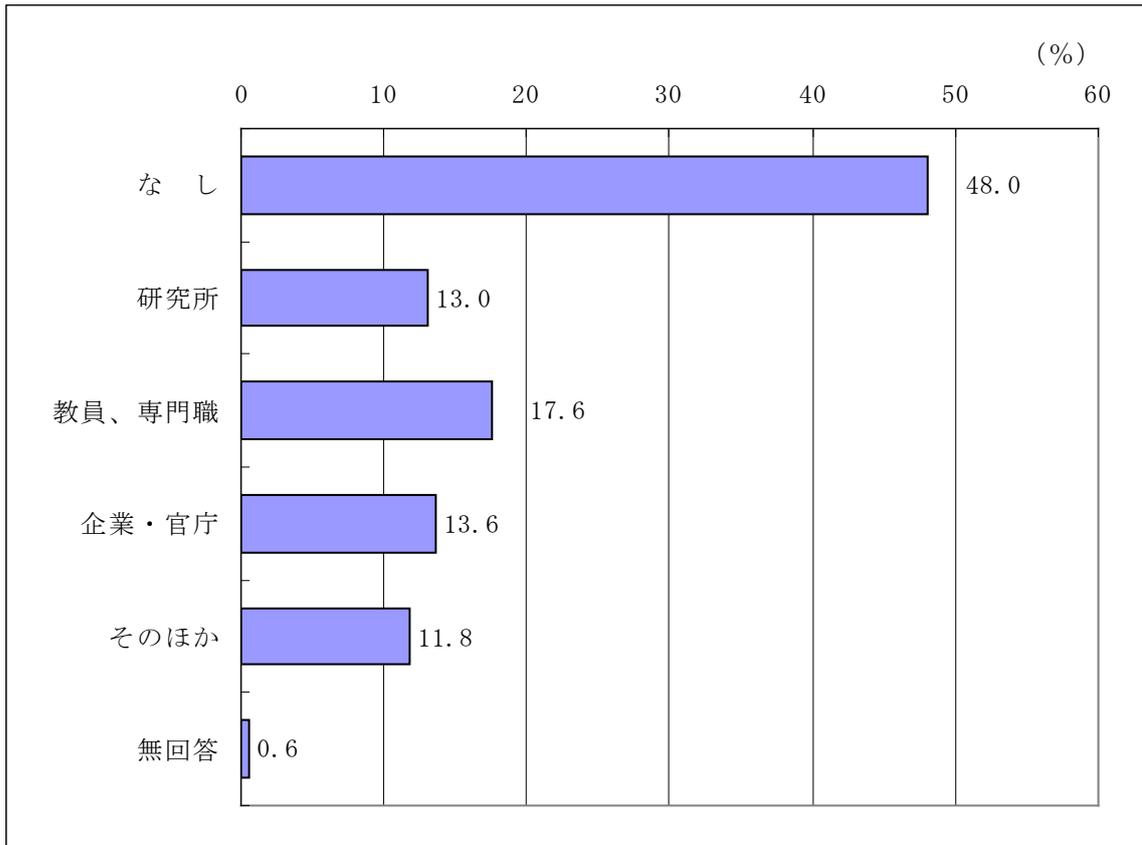
表 27-2 大学教員になった年齢（設置形態別）



(2) 大学以外での勤務経験

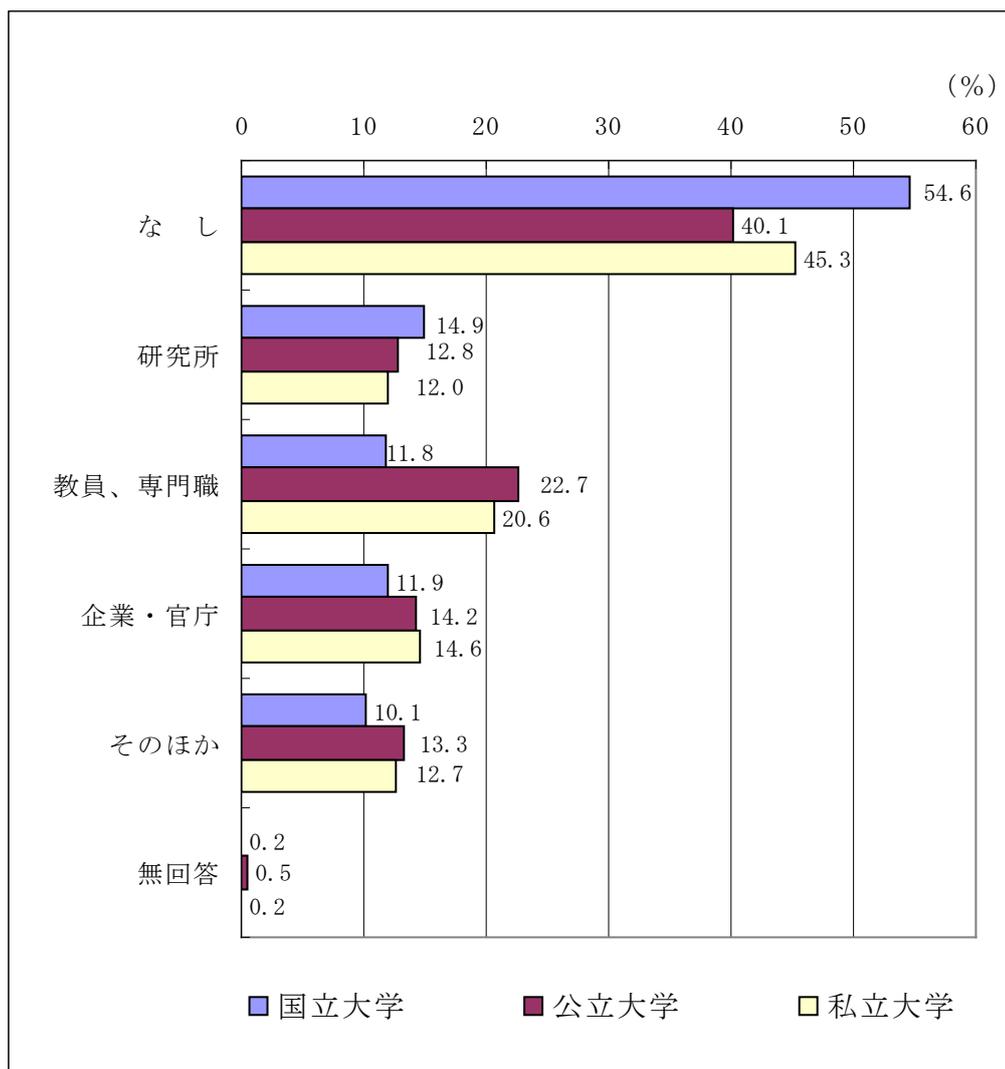
大学以外での勤務経験についてみると、「なし」が48.0%で、反対に大学以外での勤務経験のある教員は全体の半数強を占めている。具体的な勤務先としては、「教員、専門職」が17.6%で最も多く、次いで「企業・官庁」(13.6%)、「研究所」(13.0%)の順である。(図表 27-3)

図表 27-3 大学以外での勤務経験



大学以外での勤務経験について設置形態別にみると、「なし」は、国立大学が 54.6%、公立大学が 40.1%、私立大学が 45.3%で、反対に大学以外での勤務経験を持つ教員は国立大学に少なく、公立大学、私立大学に多くなっている。具体的な勤務先として、「教員、専門職」は国立大学（11.8%）に比べて公立大学（22.7%）、私立大学（20.6%）に多い。（図表 27-4）

図表 27-4 大学以外での勤務経験（設置形態別）

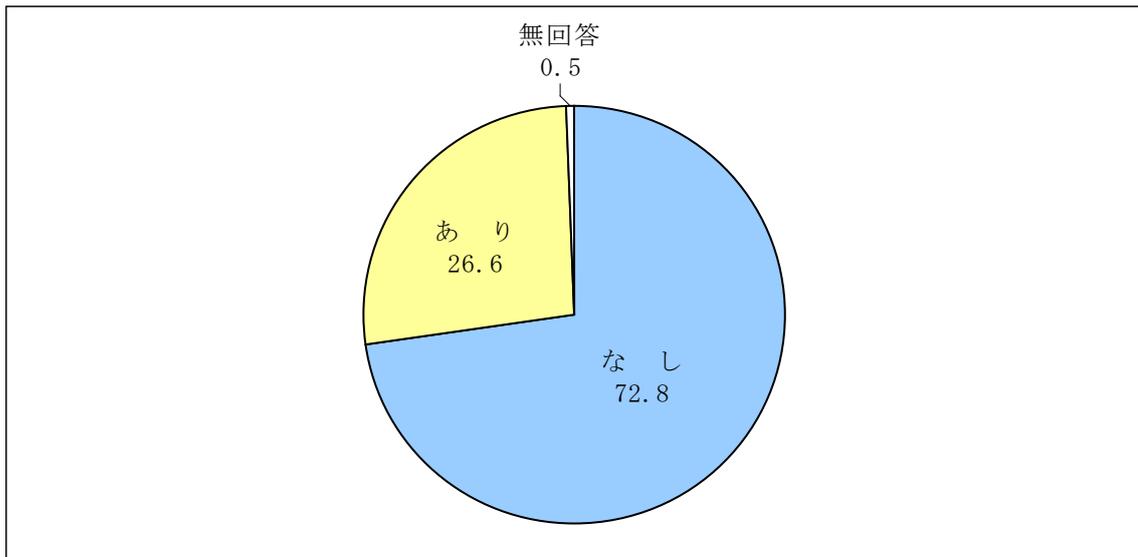


(3) 教員になる前の留学経験

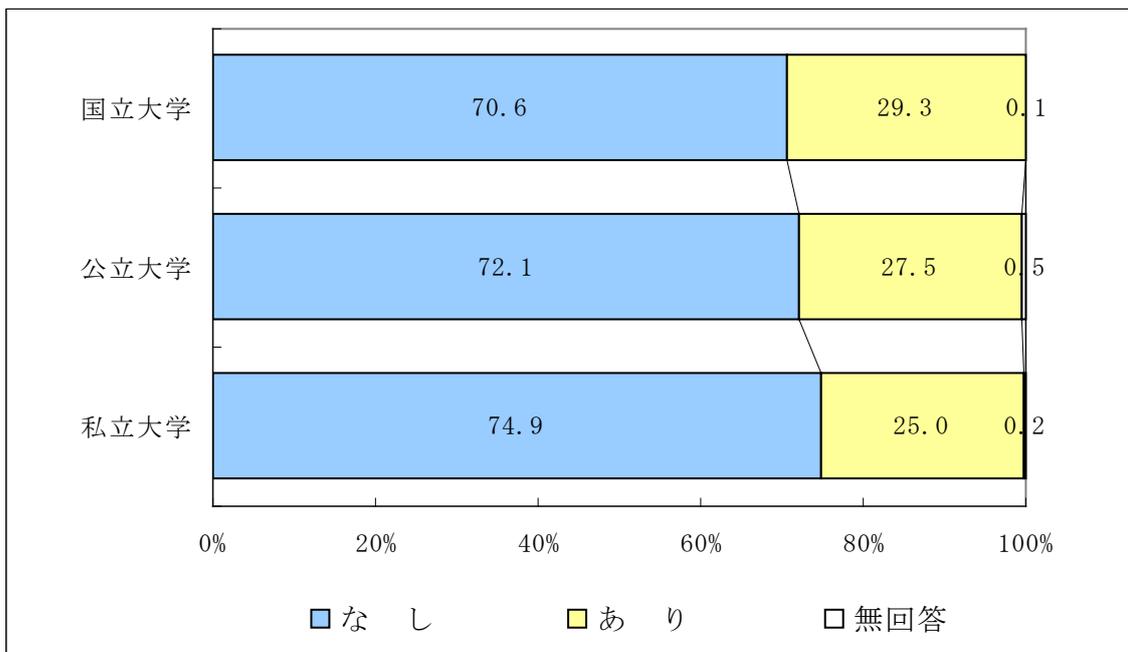
教員になる前の留学経験についてみると、「あり」は26.6%で全体の4分の1の教員が留学経験を持っている。(図表 27-5)

これを設置形態別にみると、「あり」は国立大学が29.3%、公立大学が27.5%、私立大学が25.0%となっており、国立大学にやや多いものの、設置形態による差はあまりない。(図表 27-6)

図表 27-5 教員になる前の留学経験



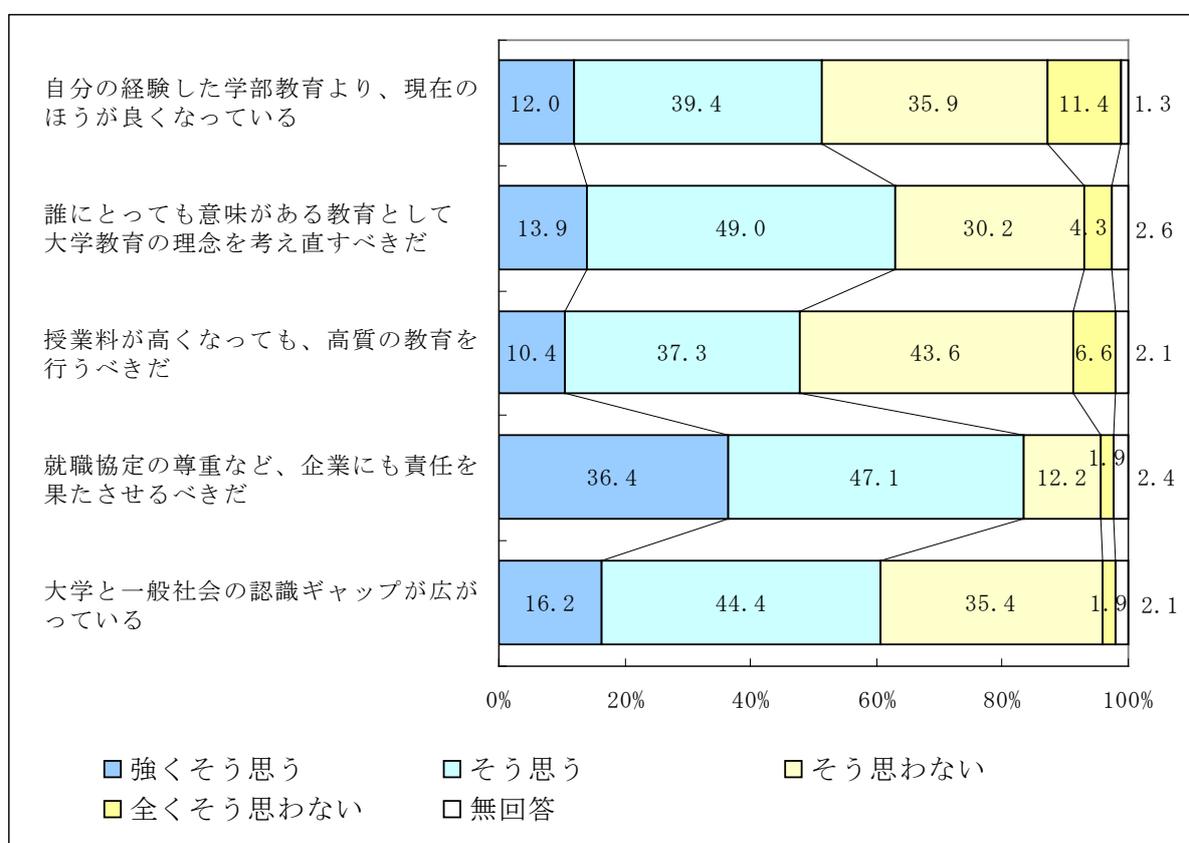
図表 27-6 教員になる前の留学経験 (設置形態別)



28. 大学教育に対する考え

大学教育に対する意見についての考えを尋ねたところ、『就職協定の尊重など、企業にも責任を果たさせるべきだ』という意見に対しては、「強くそう思う」が36.4%と最も多く、「そう思う」(47.1%)を合わせると8割強の教員がこの意見に賛成している。次いで、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率でみると、『誰にとっても意味がある教育として大学教育の理念を考え直すべきだ』(62.9%)、『大学と一般社会の認識ギャップが広がっている』(60.6%)の順である。また『自分の経験した学部教育より、現在のほうが良くなっている』(51.4%)、『授業料が高くなっても、高質の教育を行うべきだ』(47.7%)については、賛否の意見が分かれた結果となっている。(図表 28-1)

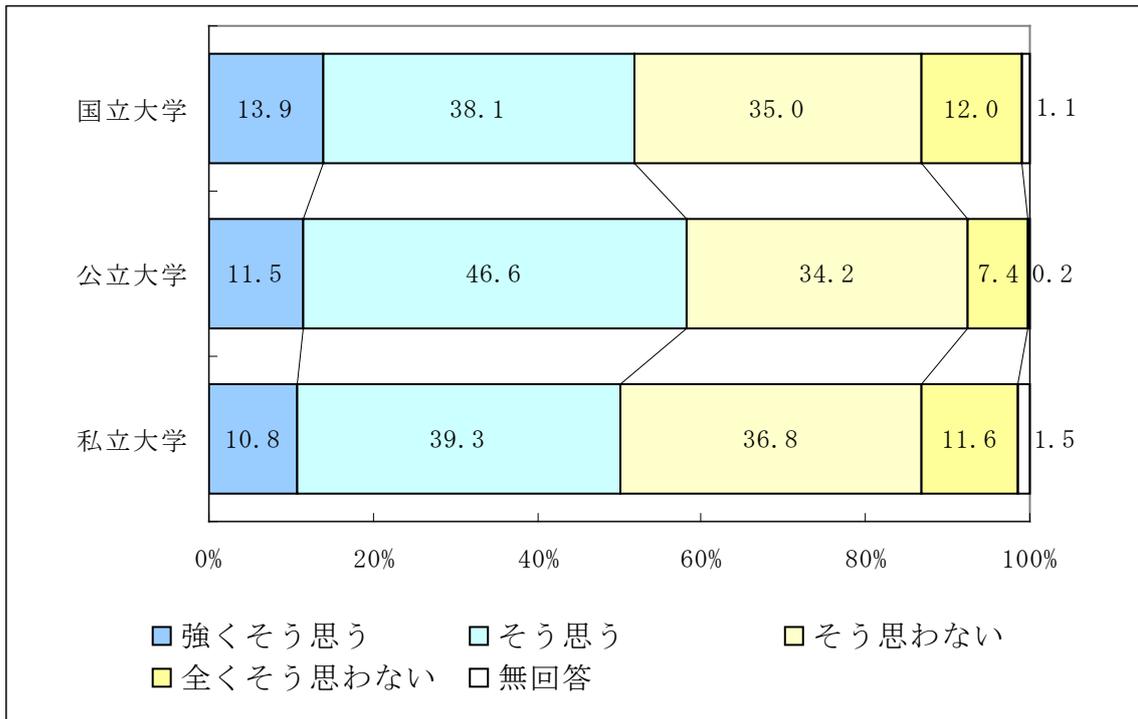
図表 28-1 大学教育に対する考え



(1) 自分の経験した学部教育より、現在のほうが良くなっている

大学教育に対する意見のうち、『自分の経験した学部教育より、現在のほうが良くなっている』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、国立大学（52.0%）、私立大学（50.1%）に比べて公立大学（58.1%）に賛成意見が多くなっている。（図表 28-2）

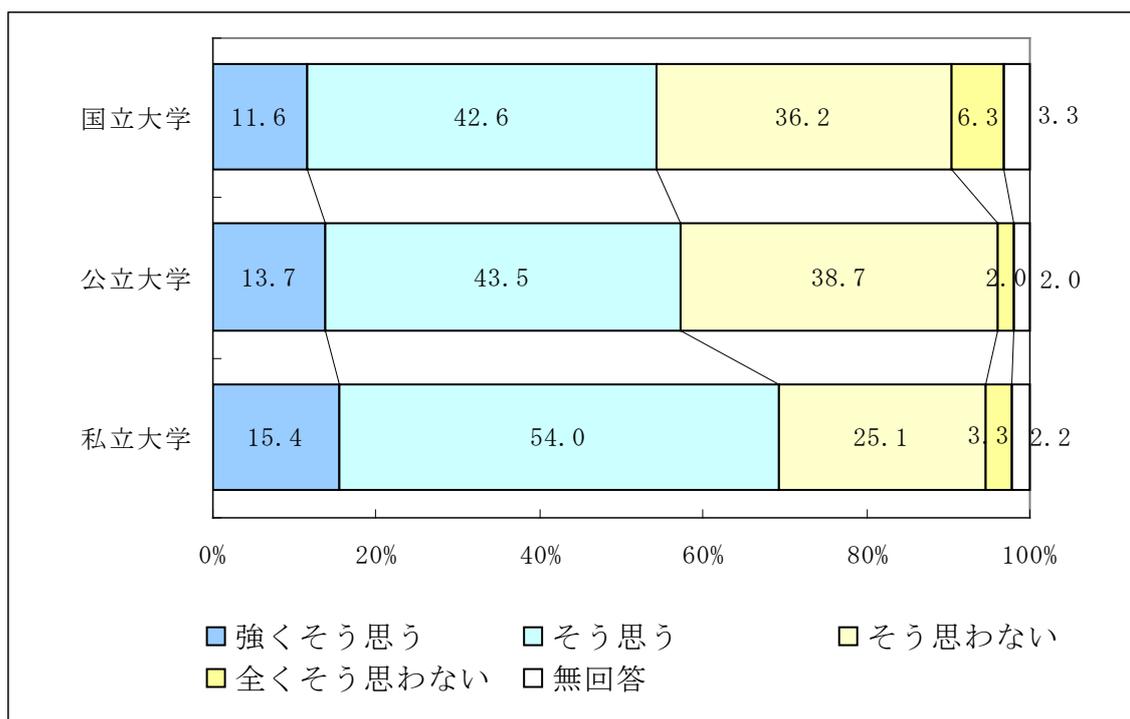
図表 28-2 大学教育に対する考え（設置形態別）
【自分の経験した学部教育より、現在のほうが良くなっている】



(2) 誰にとっても意味がある教育として大学教育の理念を考え直すべきだ

大学教育に対する意見のうち、『誰にとっても意味がある教育として大学教育の理念を考え直すべきだ』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、国立大学（54.2%）、公立大学（57.2%）に比べて私立大学（69.4%）に賛成意見が12ポイント以上多くなっている。（図表28-3）

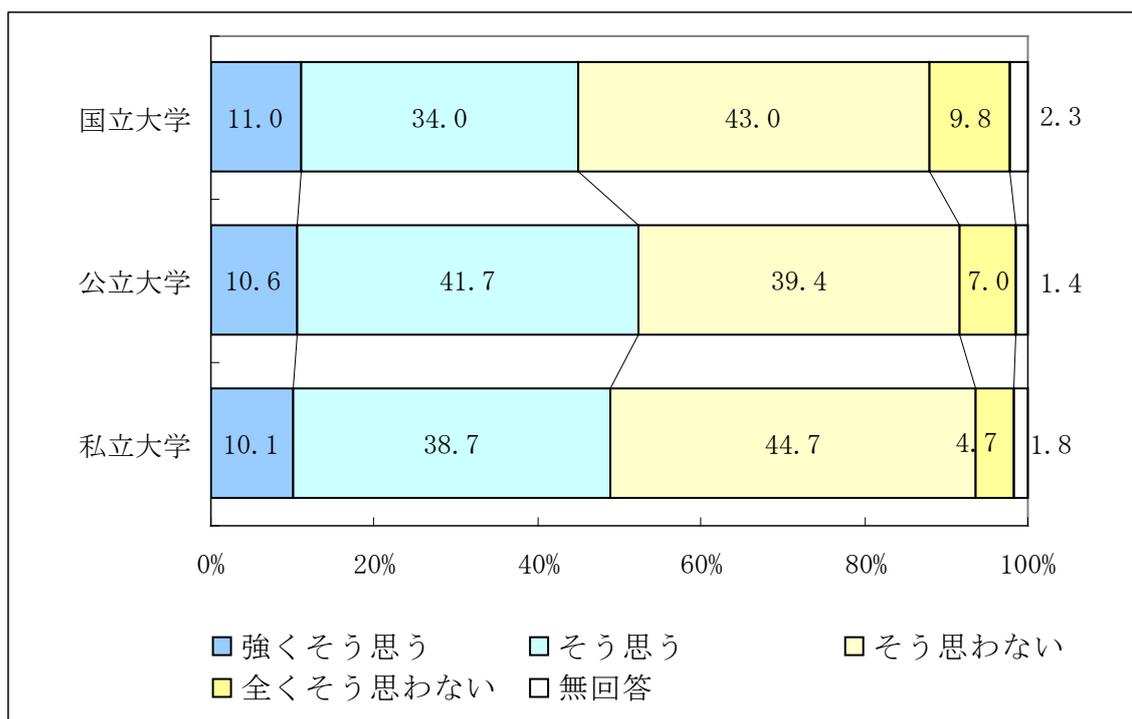
図表28-3 大学教育に対する考え（設置形態別）
【誰にとっても意味がある教育として大学教育の理念を考え直すべきだ】



(3) 授業料が高くなっても、高質の教育を行うべきだ

大学教育に対する意見のうち、『授業料が高くなっても、高質の教育を行うべきだ』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、公立大学に賛成意見が52.3%で最も多く、次いで私立大学（48.8%）、国立大学（45.0%）の順で多くなっている。（図表28-4）

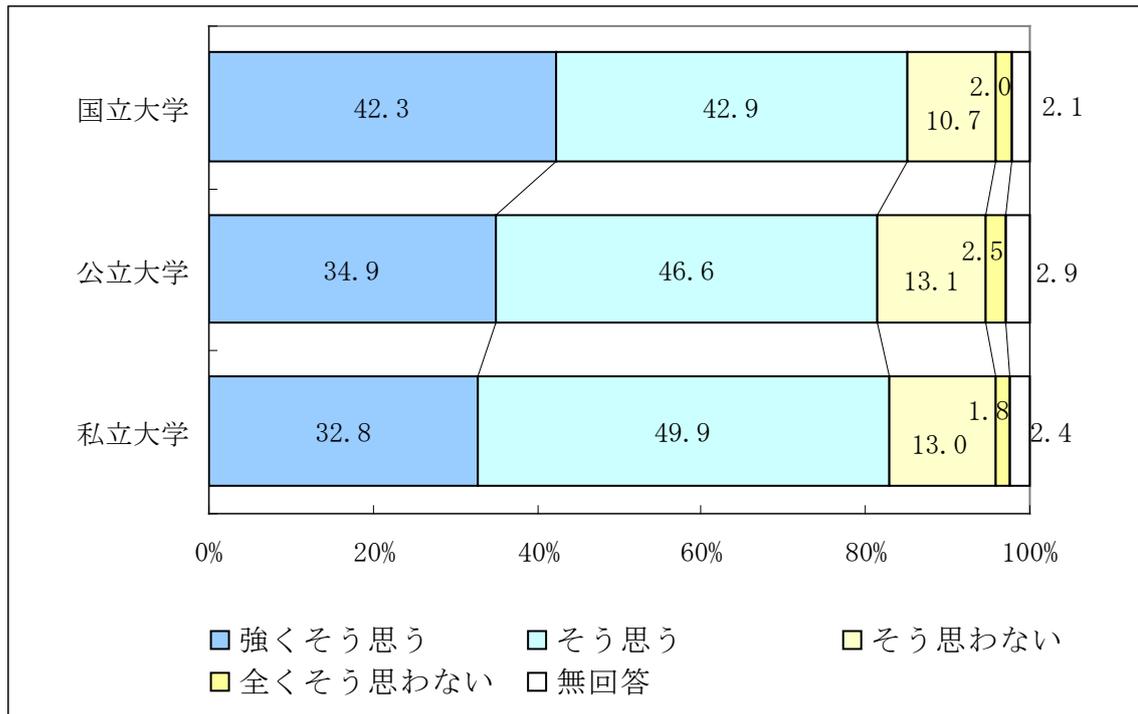
図表28-4 大学教育に対する考え（設置形態別）
【授業料が高くなっても、高質の教育を行うべきだ】



(4) 就職協定の尊重など、企業にも責任を果たさせるべきだ

大学教育に対する意見のうち、『就職協定の尊重など、企業にも責任を果たさせるべきだ』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、国立大学が85.2%、公立大学が81.5%、私立大学が82.7%となっており、設置形態による大きな差はみられず、いずれも賛成意見が8割以上を占めている。(図表28-5)

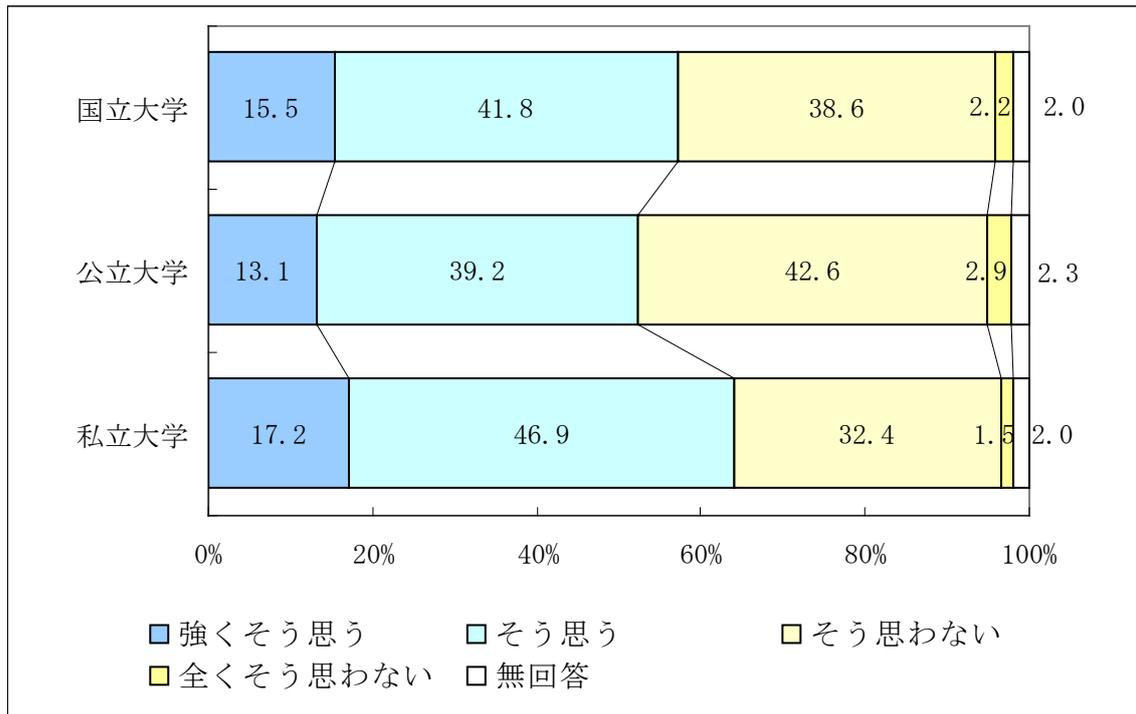
図表28-5 大学教育に対する考え（設置形態別）
【就職協定の尊重など、企業にも責任を果たさせるべきだ】



(5) 大学と一般社会の認識ギャップが広がっている

大学教育に対する意見のうち、『大学と一般社会の認識ギャップが広がっている』について設置形態別にみると、「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた率では、国立大学（57.3%）、公立大学（52.3%）に比べて私立大学（64.1%）に賛成意見が多く、ほぼ3分の2を占めている。（図表 28－6）

図表 28－6 大学教育に対する考え（設置形態別）
【大学と一般社会の認識ギャップが広がっている】



付 調査票



大学教育の現状と将来

—全国大学教員調査

大学経営・政策研究センター（東京大学 大学院教育学研究科）
<http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/>
 2010年2月

- この調査は、大学で教鞭をとっておられる先生方が、大学教育にどう関わり、どのようなお考えをもっておられるのかを明らかにし、日本の大学教育のあり方を考える基礎とすることを目的としています。
- 回答は2月26日までにご発送ください。いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることは決してありません。集計結果は2010年5月ごろに標記のウェブサイトに掲載する予定です。
- この調査は、大学経営・政策研究センター（東京大学大学院教育学研究科）が『文部科学省科学研究費補助金 学術創成研究』を得て行うものですが、調査の実施にあたっては、社団法人 輿論科学協会に委託しています。お問い合わせは下記までお願いします。

フリーダイヤル 0120-***-*** 担当 吉牟田、田ノ本（平日 10:00-18:00）

問1. 先生のご担当の専門分野は主に下のどれに区分されますか。（○は1つ）

16.0 人文科学	6.1 数物系科学	11.9 医・歯学	3.3 芸術・デザイン
4.1 法学・政治学	3.9 化学	6.1 薬学・看護学	3.5 情報
7.8 経済学・経営学	13.2 工学	4.1 健康関連	0.9 そのほか 下に記入してください
5.3 社会学・心理学	2.8 生物学	1.5 生活科学	
4.6 教育学	4.4 農学		

問2. 先生が一学期に担当するコマ（一回90分程度、15回）の数はどれくらいですか。

該当するところにご記入ください

	講義			演習・ゼミ	実験・実習	論文・研究指導
	(100人以上)	(50人以上 100人未満)	(50人未満)			
一般教育科目	1.9	1.8	2.5	2.3	3.6	1.9
専門科目	3.1	2.8	2.8	3.0	4.3	2.8

大学院	2.1	2.2	1.9	2.2	3.5	3.2
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----



先生が担当されている代表的な授業についてお聞きします

(ゼミ、論文指導、実験を除きます。なるべく学部についてお答えください。)

問3. その授業は下のどれにあてはまりますか。代表的な授業1つについてお答えください。
(○は1つずつ)

対象	49.3 学部1, 2年	44.6 学部3年以上	3.5 大学院	1.0 専門職大学院	
内容	4.3 語学	48.5 専門基礎	6.1 その他 一般教育科目	7.7 概論	31.9 その他専門科目
学生数	4.1 10人未満	33.5 10-49人	32.6 50-99人	18.5 100-149人	9.3 150人以上

問4. 授業の力点をどのような点においておられますか。(○は1つずつ)

	非常に重要	重要	重要ではない
最先端の研究成果にふれさせる	11.2	54.2	33.1
確実に学問の基礎を教える	73.9	23.6	1.6
特定の知識・技能を習得させる	27.5	49.9	21.0
自然、社会との関わりから学問の意義を教える	29.9	55.8	12.7
学生の成長にきっかけを与える	43.6	48.1	7.0

問5. 授業の方法として、以下のことを行っておられますか。またそれは有効・必要ですか。
(○は1つずつ)

	行っているか			有効・必要か		
	力を入れている	ある程度	行っていない	非常に有効	ある程度有効	有効ではない
達成目標を明確にする	41.1	54.3	3.5	25.1	66.1	5.5
授業内容に興味がわくような工夫	64.4	34.2	0.5	46.8	48.4	1.5
TAなどによる補助的な指導	5.4	19.8	73.3	9.7	41.6	30.6
出席をとる	50.6	31.8	16.6	25.3	51.7	17.1
最終試験の他に小テストやレポートなどの課題を出す	46.9	37.9	14.3	38.5	49.9	6.1
コメントをつけて課題などの提出物を返却する	21.9	36.8	40.2	26.1	51.3	12.8
授業中に学生の意見や考えを述べさせる	23.8	49.8	25.5	28.7	53.4	10.8
グループワークなど、学生が参加する機会をつくる	17.8	26.8	54.3	44.6	21.3	11.3

問 6. 出席している学生の意欲はどの程度ですか。(○は1つずつ)

	十分	不十分	きわめて不十分
学習時間	25.4	58.4	13.9
授業への積極的参加	40.9	51.8	5.6

問 7. 出席している学生の学力の面はどの程度ですか。(○は1つずつ)

	担当する授業からは評価できない	十分	不十分	きわめて不十分
国語の読み書き	18.9	28.8	45.3	5.1
英語	46.2	8.1	31.2	12.1
数学	45.0	9.2	31.4	10.7
高校程度の物理、化学、生物、地学の基礎理解	41.2	12.7	32.2	10.3
専門分野の基礎的理解	7.0	22.6	60.3	7.4

問8. 授業の阻害要因として、下のような点についてどのように考えられますか。(○は1つずつ)

	大きな障害	障害	障害ではない
授業中の携帯電話・私語	31.3	32.3	34.0
就職活動	18.8	33.9	44.4
アルバイト	14.2	38.5	44.7

問9. 授業の準備・復習として、学生が週に何時間程度を使うことを想定しておられますか。(○は1つ)

想定する学習時間	とくに必要ない	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間以上
	12.9	43.8	26.5	7.8	2.1	4.8

問 10. 通常の授業には、最終的に試験をうける学生の何割くらいが出席していますか。

出席
8.6 割

問 11. 授業にでている学生の何割くらいが内容を理解することを目標としておられますか。また実際にはどの程度が十分に理解していると考えられますか。

学生の理解 目標	実際
8.3 割	6.1 割

問12. 成績はどのような配分で与えておられますか。

5段階評価の場合(例えば秀、優、良、可、不可)は、上位2つを合わせて優(A)と考えてください。

優(A)	良(B)	可(C)	不可
2.8 割	3.7 割	2.6 割	1.3 割



大学教育の現在と改善の方向についてうかがいます

問 13. より良い授業にするためにどのような条件が必要ですか。(〇は1つずつ)

	きわめて重要	重要	重要ではない
TA、技術者など補助人員	14.3	41.6	42.2
IT 機器や設備の改善	19.7	53.2	25.6
図書館など学生が自主的に学習する環境	35.4	55.8	7.4
小規模のクラスにする	45.0	43.9	10.0
担当授業数を少なくして、時間をかける	39.1	46.6	12.9
授業についての教員間の情報・意見交換	25.0	63.8	10.3

他の点があればご記入ください

問 14. 学部・学科として以下のようなことをおこなっていますか。またそれは有効とされますか。(〇は1つずつ)

	実施しているか		有効か		
	している	実施していない	非常に有効	ある程度有効	有効ではない
学生による授業評価	97.3	2.3	10.1	65.6	22.7
成績評価の配分について、基準を設ける	39.6	59.4	7.1	46.8	37.5
成績不良者について助言をおこなう	64.9	34.4	18.5	63.8	11.9

問 15. カリキュラムの上で、以下のようなことを実施しておられますか。またそれは有効とされますか。(〇は1つずつ)

	実施しているか		有効か		
	している	実施していない	非常に有効	ある程度有効	有効ではない
授業科目の履修順序、履修モデルの設定	77.1	21.6	19.8	64.6	9.9
一定のテーマについてのオムニバス講義	64.4	33.9	10.1	58.8	22.2
補習（レメディアル）教育	35.8	62.8	12.7	56.7	17.1
インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）	67.0	31.5	29.4	48.1	13.5
学外での体験をとり入れる	52.6	45.8	27.7	46.6	15.0

問 16. 大学教育改善をサポートするのに、どのようなことが有効ですか。(○は1つずつ)

	非常に有効	有効	有効ではな い
学会・学術会議などで、専門領域別に、卒業までに獲得すべき知識や技能の標準的な目標を設定する	16.6	51.8	29.8
専門領域別に、標準的な達成度テストを作る	14.8	52.1	31.3
大学が連携して学生の学習状況を調査して、比較分析し、教員にフィードバックする	14.1	55.7	28.0

問 17. 大学教育の改善の方向として、次のようなことを行っておられますか、また将来の方向として重要ですか。(○は1つずつ)

	行っているか			将来の方向		
	力を入れて いる	ある 程度	行っ て い ない	非常に 重要	ある程度 重要	重要で はない
修得すべき知識を標準化し、それに応じてカリキュラムを体系化する	18.7	53.4	26.2	24.4	60.0	10.7
週2回の授業などを通じて、学生が個々の授業科目に集中できるようにする	8.4	25.6	63.0	13.4	52.2	25.5
少人数の授業を増やすよりも、授業内容、教材などを標準化し、TAなどを組織的に用いる	2.5	32.1	63.0	6.5	49.1	35.8
コミュニケーション能力など、授業で獲得すべき基礎能力を明確にする	21.8	50.7	24.7	32.6	53.7	7.9
研究室、ゼミなどを通じて、教員や学生間の接触を強化する	52.1	39.5	6.4	58.0	35.6	2.4

問 18. 大学院の教育についてどのようにお考えですか。(○は1つずつ)

	強く そう思う	そう 思う	そう思わ ない	全く そう思わない
● 優秀な学生が大学院に来なくなっている	22.4	45.2	25.0	2.5
● 博士課程の定員は縮小すべきだ	20.5	32.6	35.3	5.9
● 大学院での体系的なコースワークを強化すべきだ	11.1	45.4	31.5	6.3
● 修士論文に過剰なエネルギーが割かれている	5.7	18.4	55.4	14.5
● 職業人を対象とした大学院教育の方法・内容はまだ不十分だ	19.6	56.8	15.4	2.6



ご所属の大学と先生ご自身について

問 19. FDとして下のようなものを経験されていますか。またそれは有効と思われますか。(○は1つずつ)

	経験したか		有効か		
	経験した	経験していない	非常に有効	ある程度有効	有効ではない
外部からの講師による講演	82.4	16.8	17.8	64.3	14.4
授業の相互参観	45.0	54.2	15.3	60.6	16.8
教員間の討論、研修・研究会	70.6	28.6	21.3	62.6	11.4

問 20. 大学として下のようなことを行っていますか。またそれは有用と思われますか。(○は1つずつ)

	実施しているか		有効か		
	している	実施していない	非常に有効	ある程度有効	有効ではない
新入生のための科目、新入生セミナー	91.4	7.4	33.1	58.7	4.6
就職や将来のキャリアをテーマとした科目	71.9	26.1	23.5	60.6	9.2
専門スタッフによる学習相談	50.3	47.5	19.5	62.6	8.6
短期留学先での取得単位の認定	63.7	33.5	16.6	59.0	15.7
文科省の大学教育 GP、大学院教育 GP	58.7	35.5	12.1	57.1	19.3

問 21. ご所属の大学を以下の点で、どのように評価されますか。(○は1つずつ)

	非常によい	良い	不備	非常に不備
学生が授業の準備・学習をするための場所・施設	11.4	49.7	32.0	5.9
実験・実習などのための施設	9.9	48.3	32.8	6.6
学生のカウンセリング	7.2	54.9	31.6	4.9

問 22. ご所属の大学全体の課題についてどのようにかんがえられますか。(○は1つずつ)

	現状で特に問題ない	ある程度重要な課題	きわめて重要な課題
入学者の確保	28.1	35.9	35.4
財務状況の改善	21.8	43.6	33.3
教育改善	9.4	57.0	32.7
学生の就職支援	23.2	44.8	31.1
研究水準の高度化	10.8	50.3	38.3
地域社会への貢献	20.5	54.4	24.4
国際化	19.8	54.8	24.6

問 23. ご所属の大学についてお聞きします。(○は1つ)

設置別	35.3 国立	8.4 公立	55.8 私立
-----	------------	-----------	------------

差し支えなければ、大学名をご記入ください。

大学特性別の比較をするために用います。先生の個人情報につながることは全くありません。
また個別大学の名前を付して分析結果を発表することはありません。

大学

問 24. 大学の運営についてどう考えられますか。(○は1つずつ)

	強く そう思う	そう思 う	そう思 わない	全く そう思わな い
● 大学全体としての教育改善についてのとりく みを強化するべきだ	28.2	55.1	13.3	1.9
● 職員の専門性を高めて、教員は教育、研究に専 念するべきだ	41.7	42.3	13.2	1.8
● 学長の選任に、教員は投票で参加すべきだ	42.5	43.2	10.5	1.7

問 25. 学期中の時間をどのように配分しておられますか。週あたりの時間数でお答えください。

教育	研究	社会貢献	管理運営
17.2 時間	14.2 時間	4.4 時間	9.2 時間

問 26. 先生の年齢、性別、出身地についてご記入ください。

年齢	7.5 20・30歳台	27.3 40歳台	36.6 50歳台	27.8 60歳台以上
性別	16.5 女性	82.8 男性		
出身地	97.6 日本	1.5 日本以外		

問 27. 大学教員になるまでの経緯についてお聞きします。

大学教員(講師以 上)になった年齢	75.6 20・30歳台	17.2 40歳台	5.3 50歳台	1.2 60歳台以 上	
大学以外での 勤務経験	48.0 なし	13.0 研究所	17.6 教員、専門職	13.6 企業・官庁	11.8 その他
教員になる前の 留学経験	72.8 なし	26.6 あり			



大学教育全般についてお聞きします

問 28. 大学教育について、以下のような意見についてどう考えられますか。(○は1つずつ)

	強く そう思う	そう思う	そう思 わない	全く 思わない
● 自分の経験した学部教育より、現在のほうが良くなっている	12.0	39.4	35.9	11.4
● 誰にとっても意味がある教育として大学教育の理念を考え直すべきだ	13.9	49.0	30.2	4.3
● 授業料が高くなっても、高質の教育を行うべきだ	10.4	37.3	43.6	6.6
● 就職協定の尊重など、企業にも責任を果たさせるべきだ	36.4	47.1	12.2	1.9
● 大学と一般社会の認識ギャップが広がっている	16.2	44.4	35.4	1.9

大学教育のありかた、大学教育についての政策、この調査などについて、ご意見を自由にご記入ください。

別紙に印字して、同封していただいても結構です。

調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。